

令和7年度 中部地方ダム等管理フォローアップ委員会

中部地方ダム年次報告書（令和6年次）



長島ダム



美和ダム



小渋ダム



新豊根ダム



寒狭川堰



矢作ダム



小里川ダム



丸山ダム



横山ダム



徳山ダム



岩屋ダム



阿木川ダム



長良川河口堰



味噌川ダム



蓮ダム

令和7年12月

国土交通省 中部地方整備局

独立行政法人 水資源機構 中部支社

目次

はじめに	2	5. 堆砂	
令和6年中部地方ダムの概要	3	(1) 堆砂状況	85
1. 概要		(2) 堆砂対策	87
(1) ダム諸元	5	(3) 全国ダムの堆砂状況との比較	88
(2) 容量配分	8	(4) 堰堤改良事業	89
(3) 令和6年中部地方の気象概要	12	6. 水質	
(4) 令和6年中部地方の月別降水量	13	(1) 水質の現況	92
2. 貯水池運用	14	(2) 水質変化現象	94
3. 防災操作		(3) 水質保全対策の実施状況	95
(1) 洪水調節図・流量配分図	29	(4) ボーレンバイダーモデルによる比較	96
(2) 各ダムの防災操作	42	7. 生物	
4. 利水		(1) 調査実施状況	100
(1) 各ダムの貯水容量	56	(2) 重要種・外来種の選定基準	103
(2) 各ダムの供給区域	60	(3) 調査結果の概要	104
(3) 各ダムの回転率	70	(4) 環境保全対策の実施状況	110
(4) 各ダムの発生電力量	74	8. 水源地域動態	
(5) ダムの運用高度化	79	(1) ダム湖利用状況	115
		(2) 水源地域ビジョン	118

はじめに

- ダムフォローアップの対象は、中部地方整備局が管理する長島ダム、美和ダム、小渋ダム、新豊根ダム、寒狭川堰、矢作ダム、丸山ダム、横山ダム、小里川ダム、蓮ダム及び水資源機構が管理する徳山ダム、岩屋ダム、阿木川ダム、長良川河口堰、味噌川ダムの15ダムです。
- とりまとめは、「ダム等管理フォローアップ年次報告書作成の手引き（平成15年度版）」をもとに、これまでのフォローアップ委員会での意見等を踏まえ、令和6年次のフォローアップ年次報告書概要版として整理しました。

令和6年 中部地方ダムの概要

■ 貯水池運用 (p12~p28)

年間降水量および年平均気温は、令和6年は全ての水系で過去10ヶ年平均を上回りました。洪水期の月別降水量は過去10ヶ年平均と比較して、8月は台風などの影響により全ての水系で多く、一方で7月は全ての水系で少ない結果となりました。貯水池運用については、前線や台風第10号などの影響により一時的に貯水位が大きく変動する事象がみられたダムはありますが、全体としては概ね計画通りの運用を行いました。

■ 防災操作 (p29~p55)

小里川ダム(2回)、横山ダム(2回)、徳山ダム(6回)、岩屋ダム(4回)、阿木川ダム(1回)、味噌川ダム(1回)で計16回実施しました。矢作川水系以東の水系のダム及び例年防災操作回数の少ない蓮ダムにおいては、令和6年は防災操作の実施に至りませんでした。

■ 利水 (p56~p84)

各ダムともに適切に発電及び利水補給を実施しました。回転率(総流入量/非洪水期利水容量)においては、多くのダムで近年の平均に近い回数でしたが、小渋ダム、寒狭川堰では多く、蓮ダムは少ないといった結果もみられました。また発生電力量では、美和ダム、横山ダム、岩屋ダムでは近年の平均を下回りましたが、他の10ダムでは平均より多い発生電力量となっています。

■ 堆砂 (p85~p91)

令和5年~令和6年にかけての堆砂量は、大きく増加したダムはなく、測量した全てのダムで年間の計画堆砂量以下という結果になりました。なお総堆砂量では、美和ダム、小渋ダム、矢作ダム、丸山ダムで計画堆砂量を上回っています。

令和6年 中部地方ダムの概要

■ 水質 (p92～p99)

環境基準が設定されている項目は、令和6年において概ね基準値を満足していましたが、表層SS、BOD、表層大腸菌数は基準値を超過するダムがみられました。全てのダムにおいて、管理上問題となる水質障害は発生しませんでした。

■ 生物 (p100～p114)

河川水辺の国勢調査、フォローアップ調査*等については、下記のように実施しました。

魚類：長島ダム、阿木川ダム、味噌川ダム、丸山ダム、岩屋ダム、徳山ダム、横山ダム、
長良川河口堰、寒狭川堰

底生動物：長島ダム、寒狭川堰

動植物プランクトン：寒狭川堰、丸山ダム

植物：矢作ダム

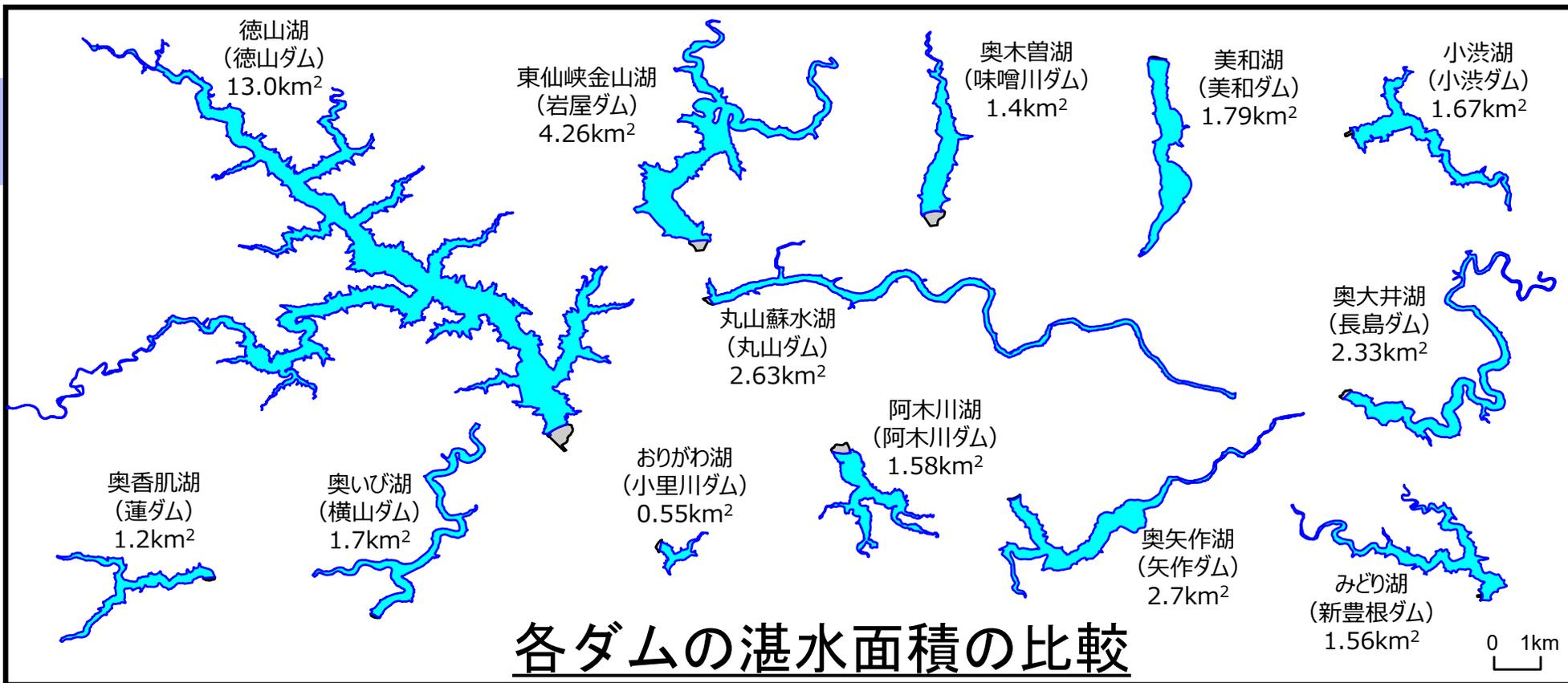
環境基図：矢作ダム、蓮ダム

■ 水源地域動態 (p115～p126)

各ダムにおいて、ダム見学やインターネットを用いた動画配信、ダム酒フェスタをはじめとするイベント開催等の広報啓発を行いました。

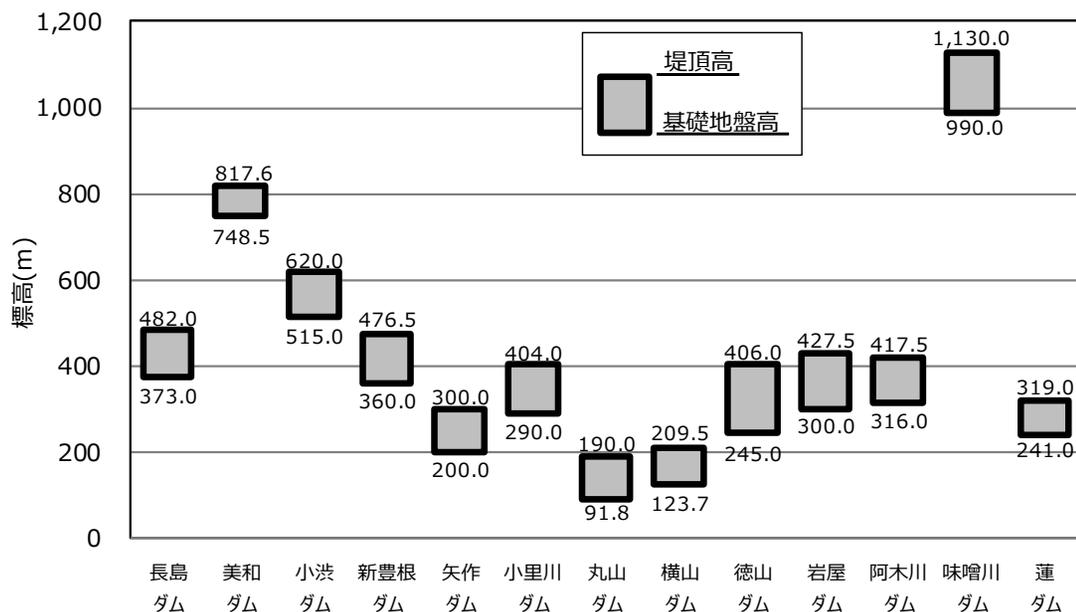
また、ダム湖利用実態調査（概ね5年に1回）を実施するとともに、ダムの役割について一般の方々への理解を深める取り組みの一環として「ダム印」の配布を開始しました。

* フォローアップ調査はダム等の管理に係るフォローアップ制度の一環で実施する調査である。



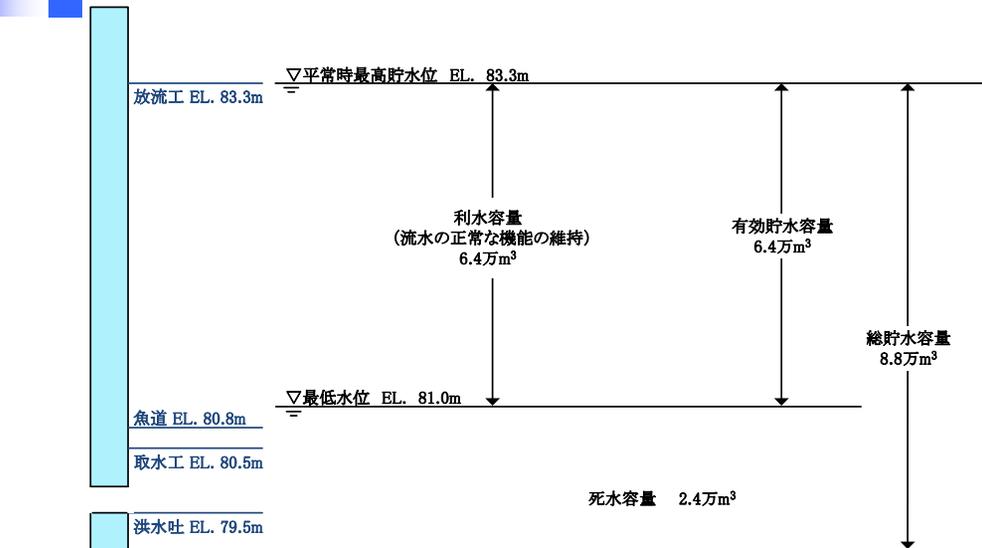
各ダムの標高

(堤頂高と基礎地盤高)

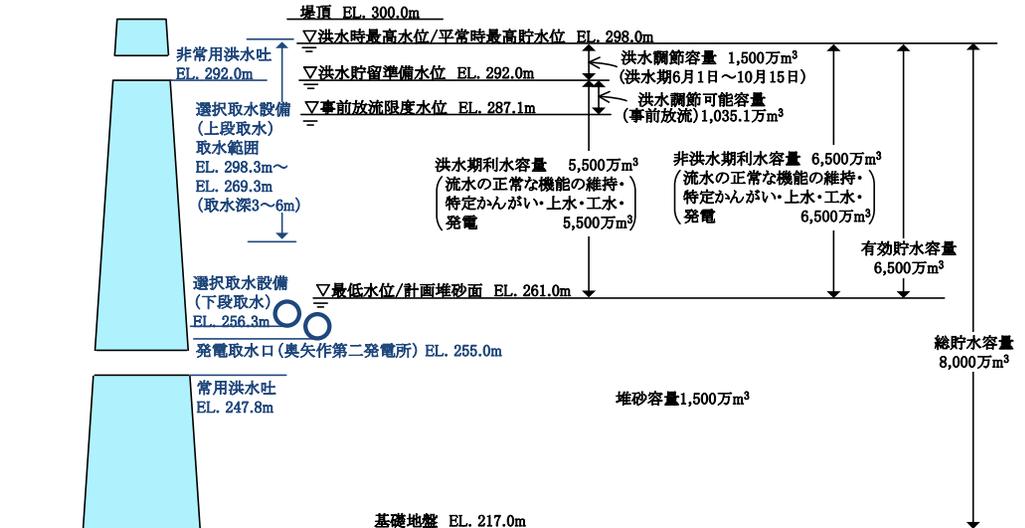


1. 概要

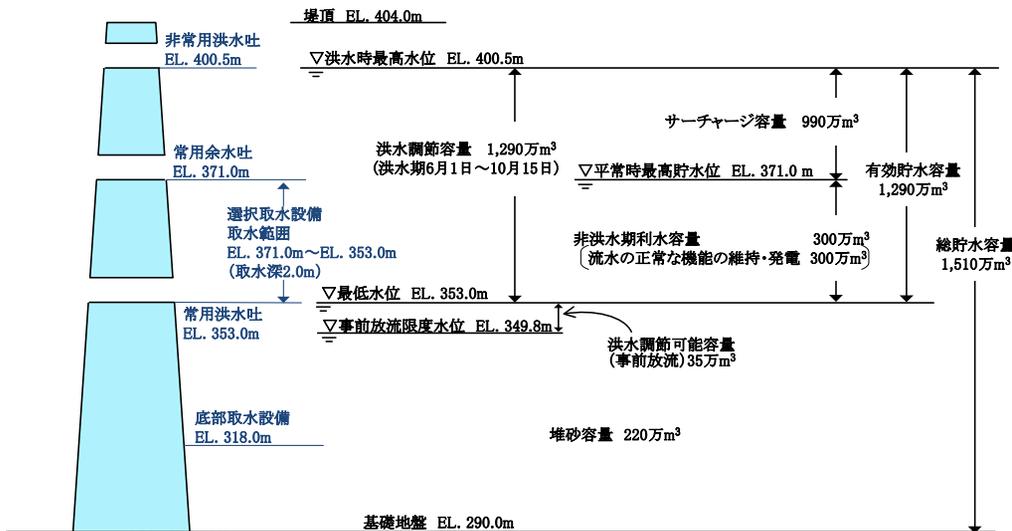
(2) 容量配分



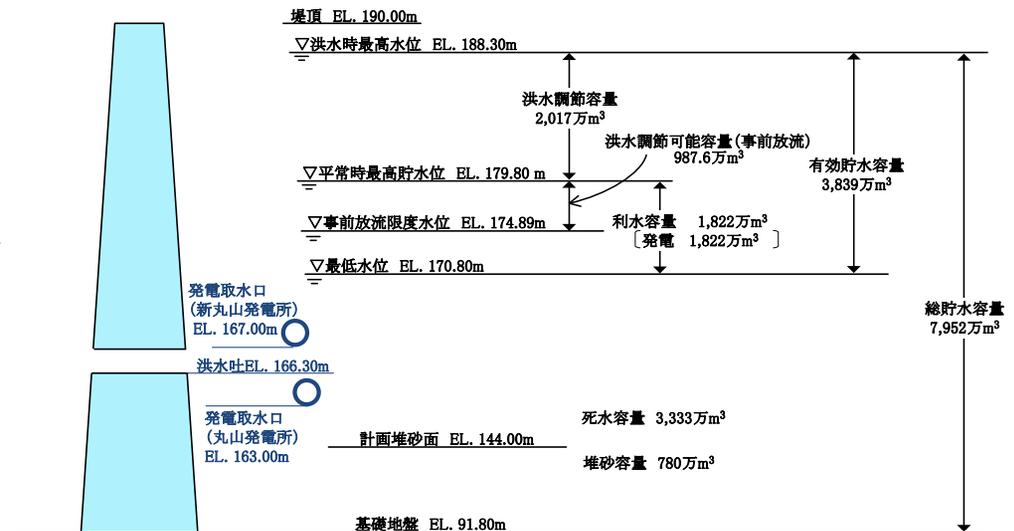
寒狭川堰容量配分図



矢作ダム容量配分図



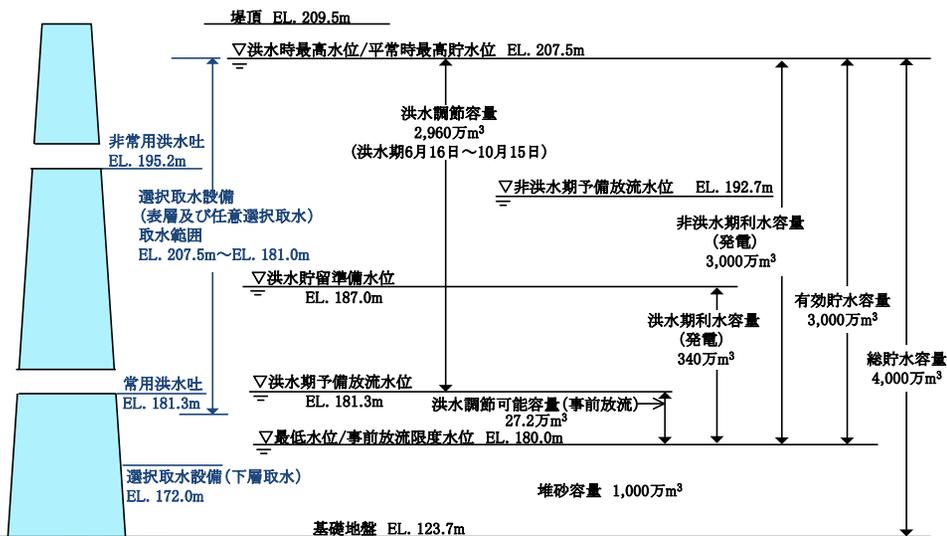
小里川ダム容量配分図



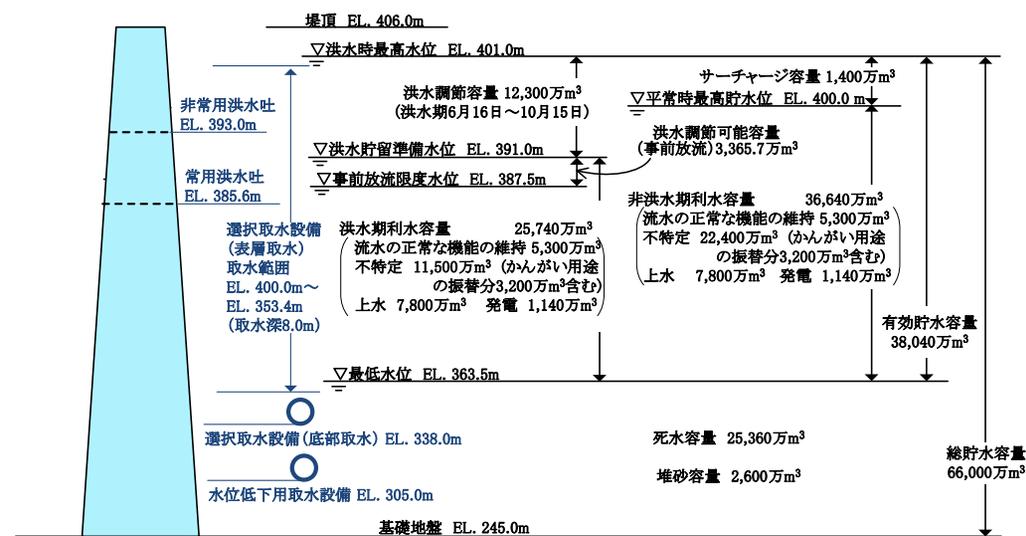
丸山ダム容量配分図

1. 概要

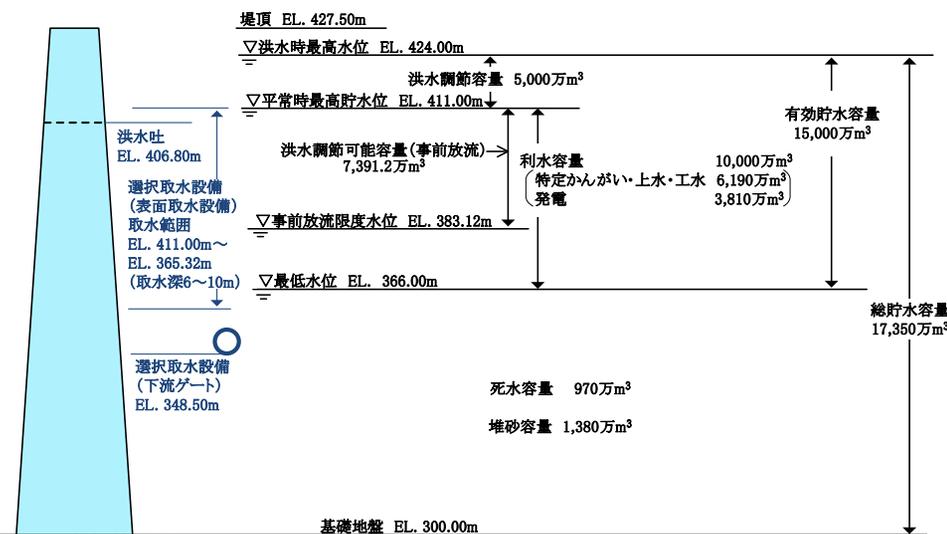
(2) 容量配分



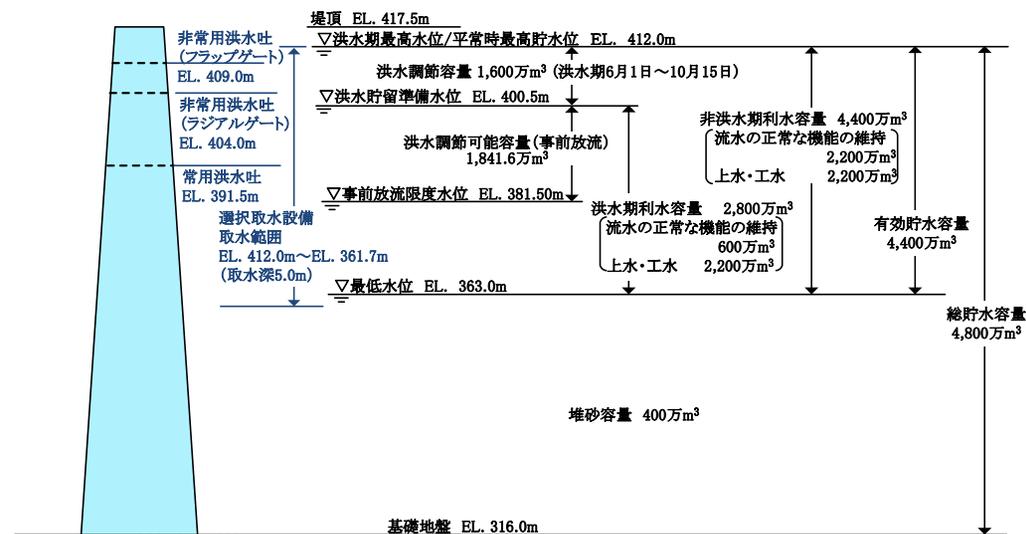
横山ダム容量配分図



徳山ダム容量配分図



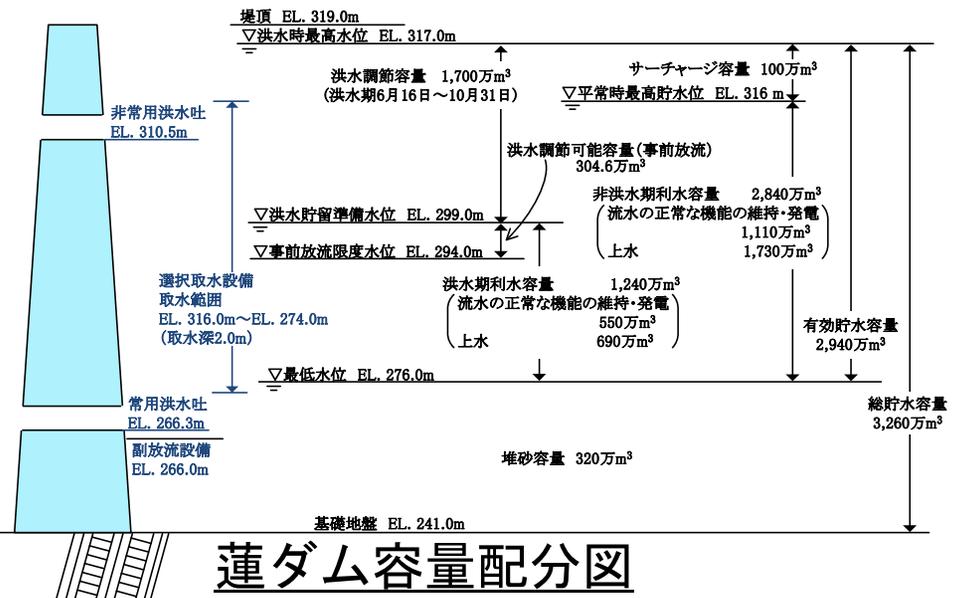
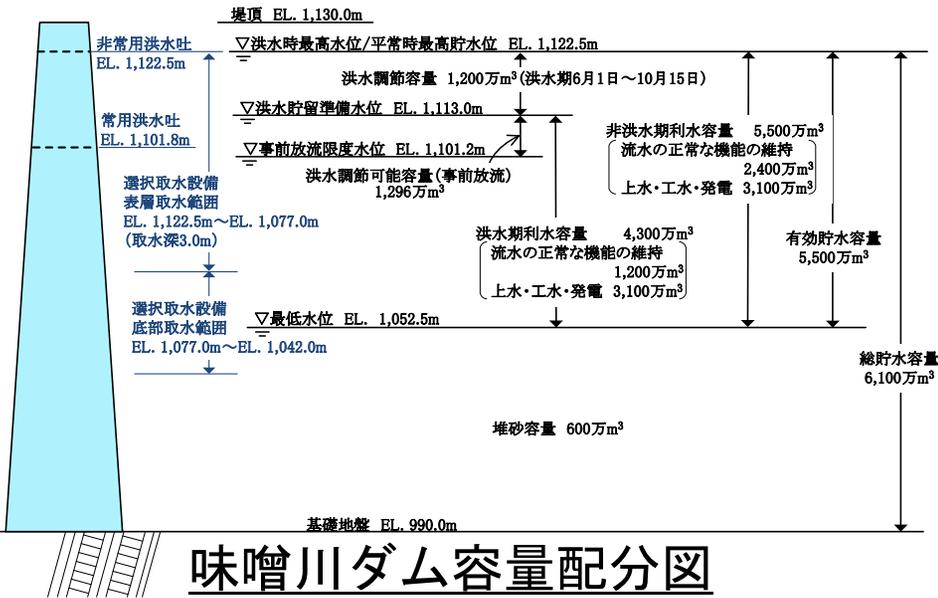
岩屋ダム容量配分図



阿木川ダム容量配分図

1. 概要

(2) 容量配分



- ※ 容量配分については、各ダムの計画容量配分図に取放流設備の高さを追加したほか、令和2年の治水協定締結に際して貯水池の現況H Vを基に設定された洪水調節可能容量を加筆している。
- ※ 取放流設備の高さについては（中心高等ではなく）敷高の値を表示している。
- ※ 洪水吐の記載は、堤体にある場合はダム堤体に放流管を模した空洞を表示し、堤体左右岸にある場合は破線で敷高を表示した。また利水の取水口が左右岸にある場合は○を記載している。
- ※ 選択取水設備がある場合は取水可能範囲を表示している。

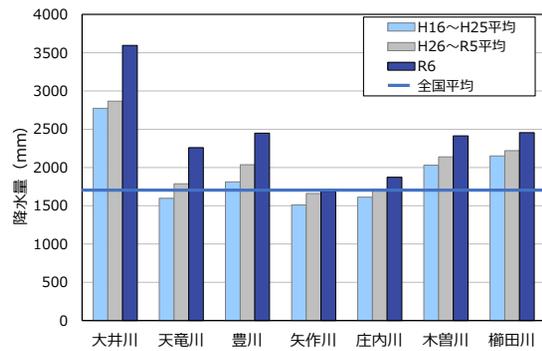
「洪水等に関する防災情報体系の見直し実施要領」（平成 18年10月1日河川局長通知）によりダム水位関係の用語が以下のように変更となっている。

(旧) 設計洪水位	→	(新) 設計最高水位 (参考)
(旧) サーチャージ水位	→	(新) 洪水時最高水位
(旧) 常時満水位	→	(新) 平常時最高貯水位
(旧) 洪水期制限水位	→	(新) 洪水貯留準備水位

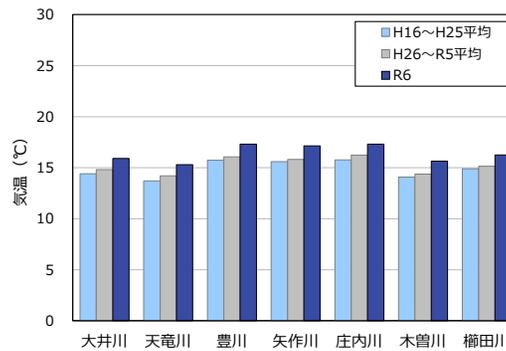
1. 概要

(3) 令和6年中部地方の気象概要

- ・ 令和6年は、全ての水系で降水量・気温ともに過去の平均（平成16年～平成25年の10ヶ年平均および平成26年～令和5年の10ヶ年平均）を上回った。
- ・ 台風発生は平年より少ない17個（平年値25.1個）であった。日本への接近数も平年よりやや少ない9個（平年値11.7個）であり、そのうちダム操作に影響を与えた台風は1個である。



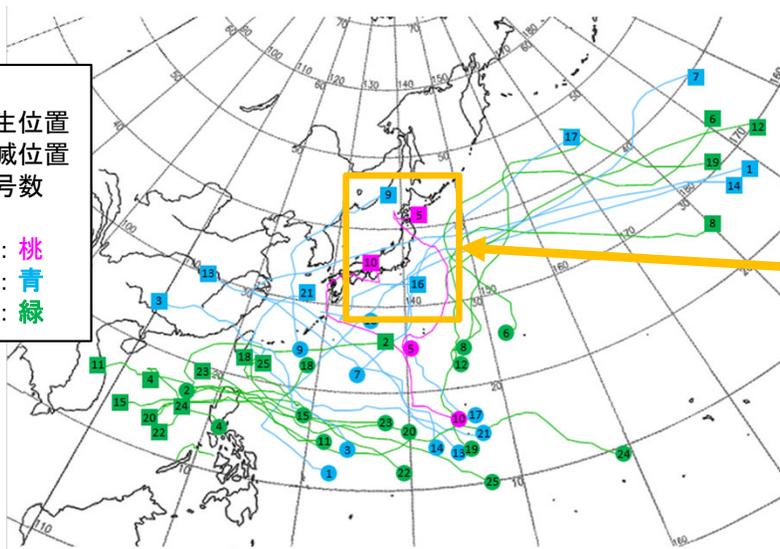
年平均降水量



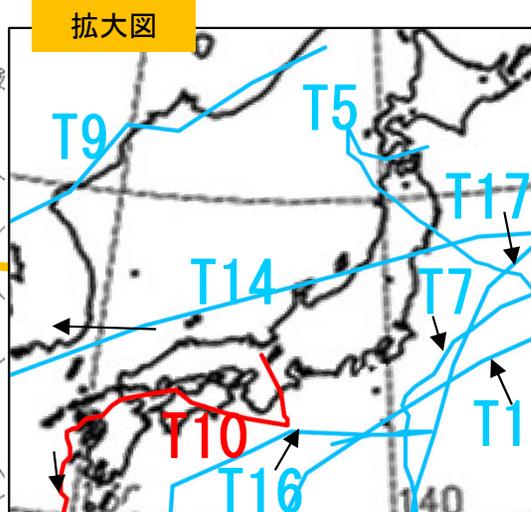
年平均気温

※ここで整理した降水量・気温は、各水系の河川整備基本方針・河川整備計画に記載のある観測所の平均をとったもの

- 凡例
- : 発生位置
 - : 消滅位置
 - 数字 : 号数
- 上陸 : 桃
 接近 : 青
 その他 : 緑



R6台風の発生と経路



- 拡大図凡例
- 赤 : ダム操作に影響を与えた台風
 - 青 : 日本へ上陸または接近した台風

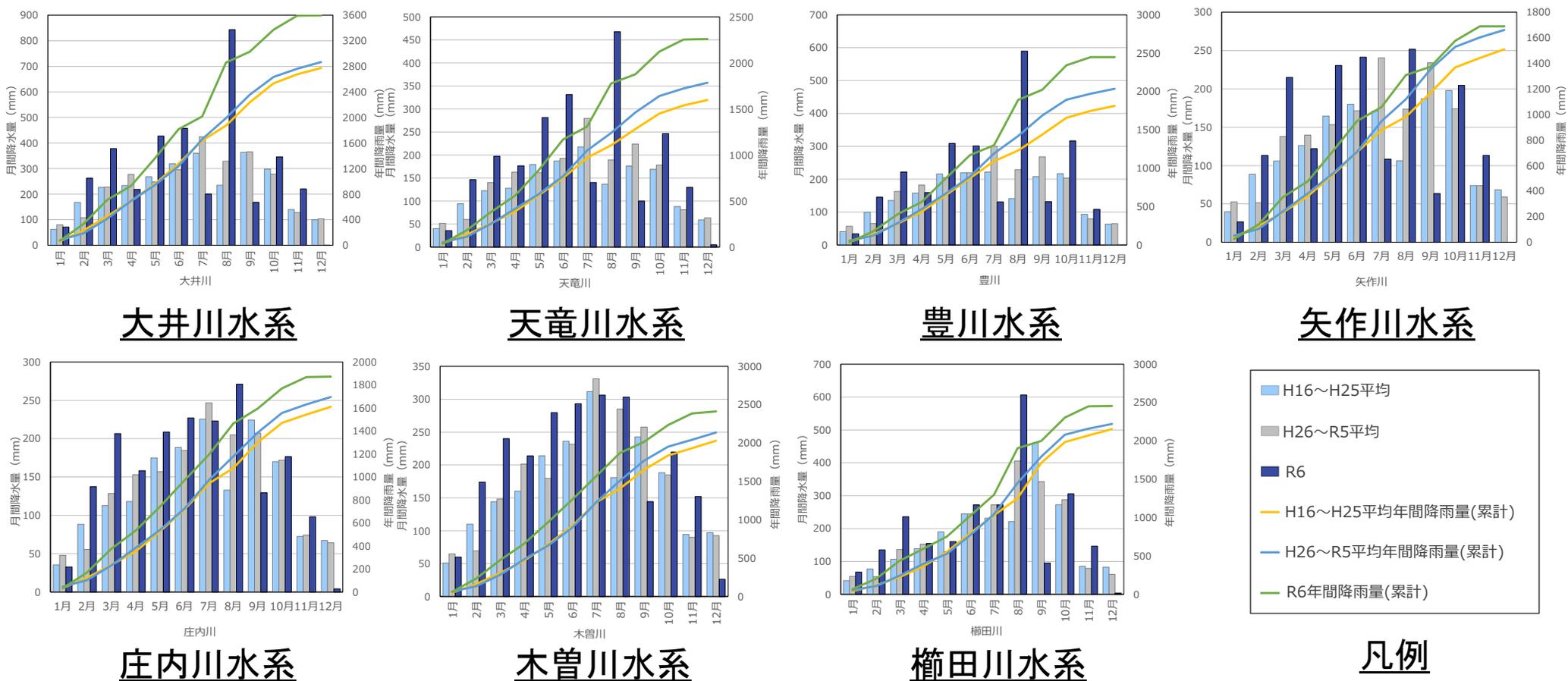
ダム操作に影響を与えたR6台風

台風番号	接近日	防災操作実施ダム
台風第10号	8月29日～9月1日	小里川ダム 横山ダム 徳山ダム

1. 概要

(4) 令和6年中部地方の月別降水量

- ・ 洪水期の月別降水量は、8月は主に台風の影響により全ての水系で多く、中でも大井川水系、天竜川水系、豊川水系、櫛田川水系では他の月と比べ特に多い結果となった。
- ・ 一方で7月の降水量は、全ての水系で過去10ヶ年（平成26年～令和5年）の平均を下回った。



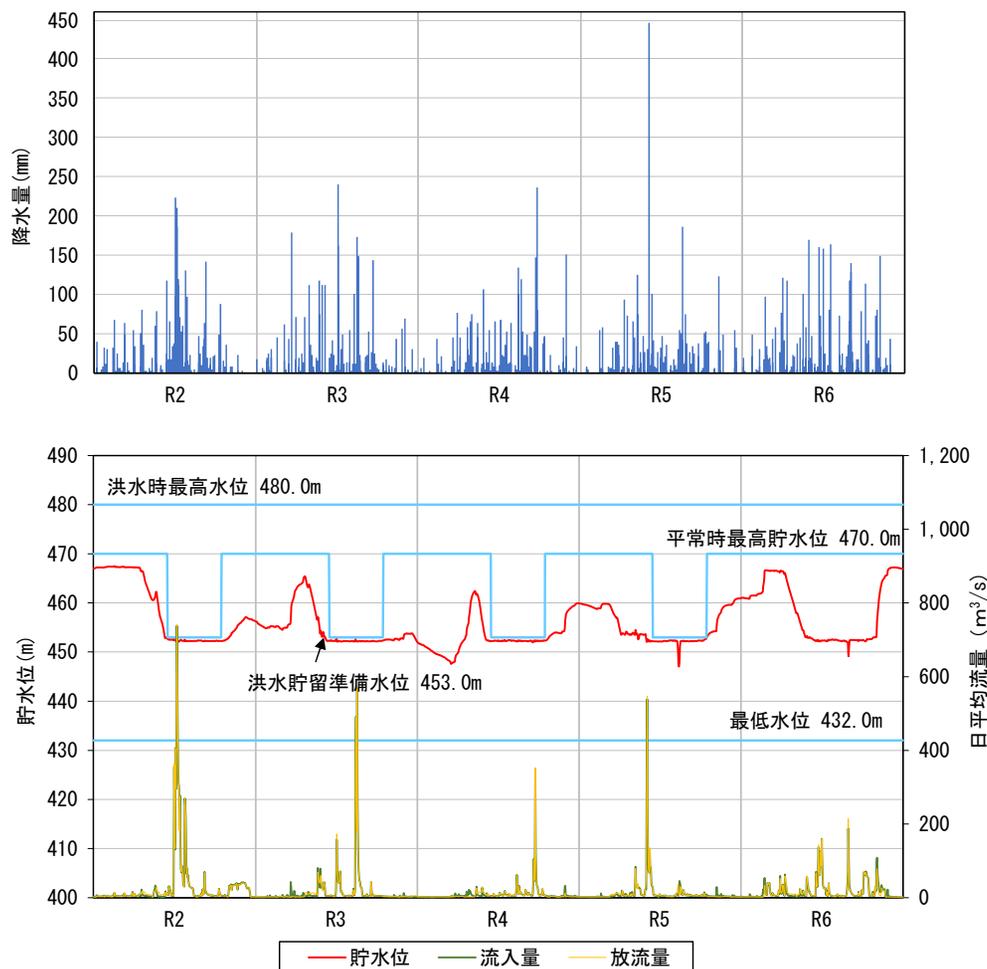
月別降水量の10ヶ年平均値との比較

※ここで整理した月別降水量は、各水系の河川整備基本方針・河川整備計画に記載のある観測所の平均をとったもの

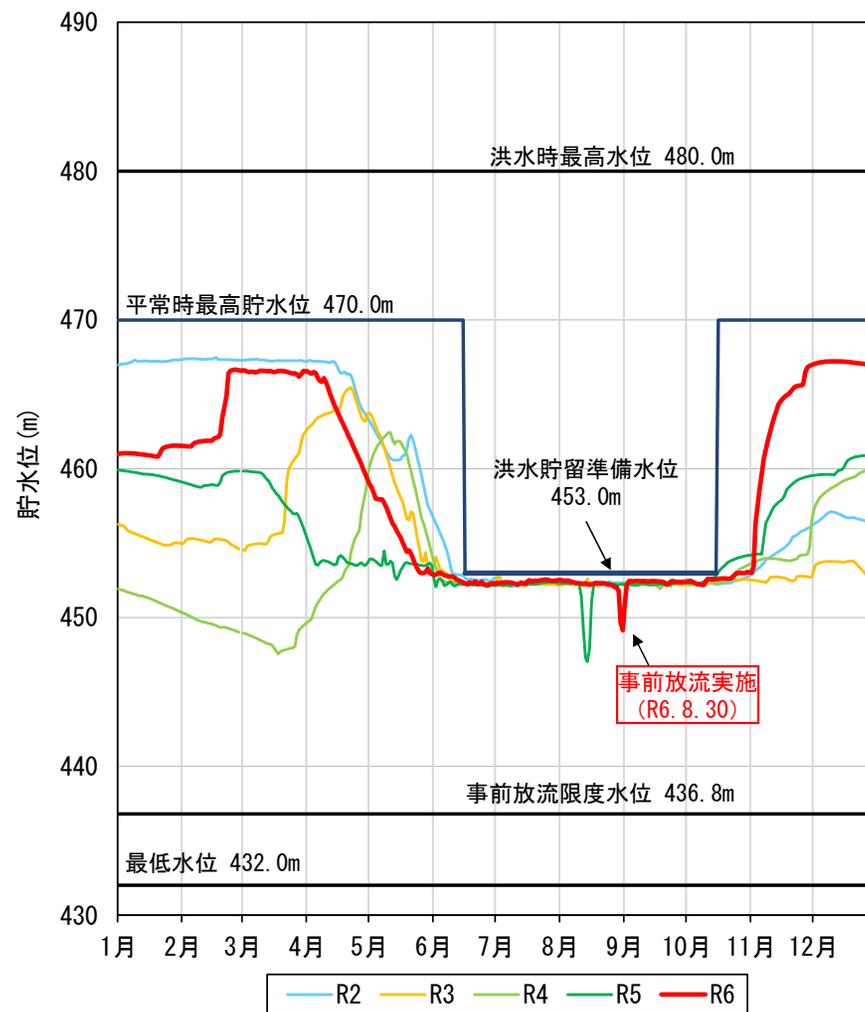
データ出典：気象庁ウェブサイト

2. 貯水池運用 長島ダム

- 洪水貯留準備水位及び平常時最高貯水位を考慮した運用が行われている。
- 令和6年の貯水位は、降水量が多かった影響などにより例年と比べ高く推移することが多かった。また、8月は台風第10号の接近に備えて事前放流を実施したことから貯水位は変動した。



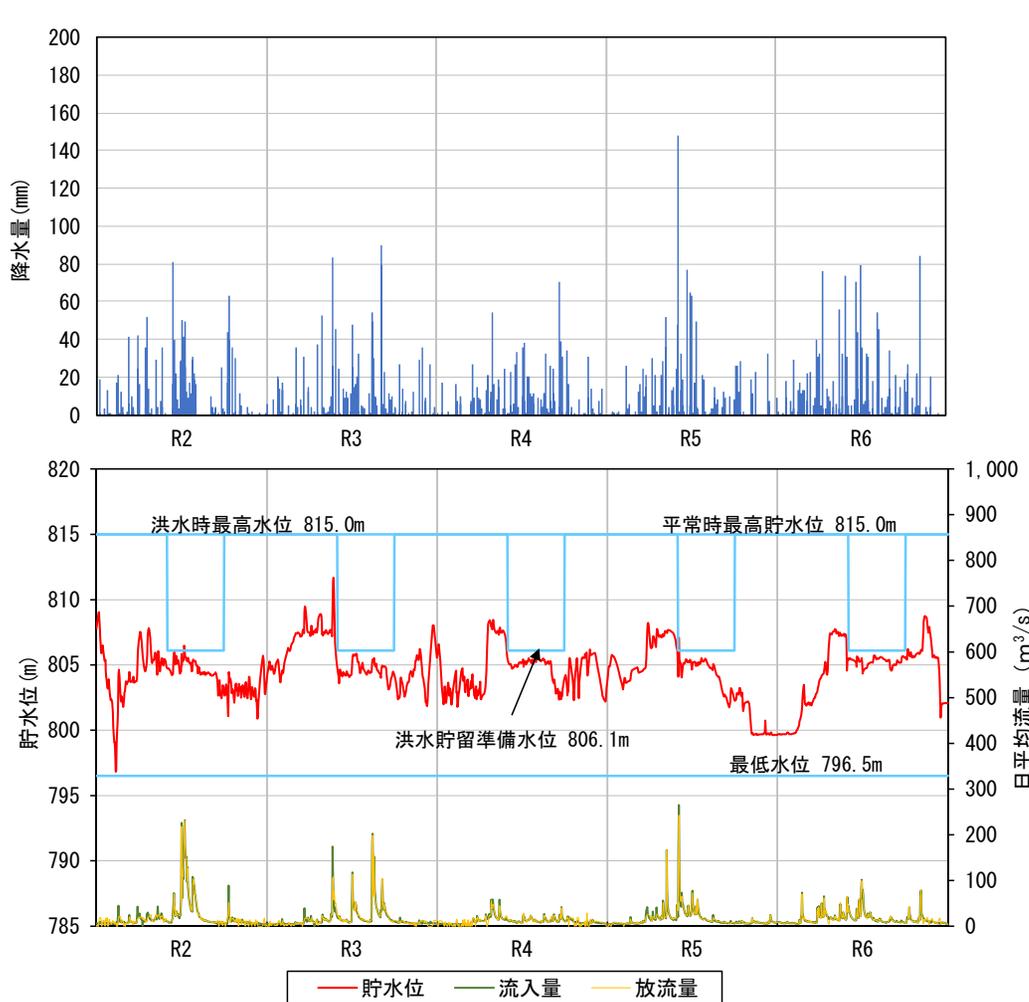
貯水池運用実績(令和2年～令和6年)



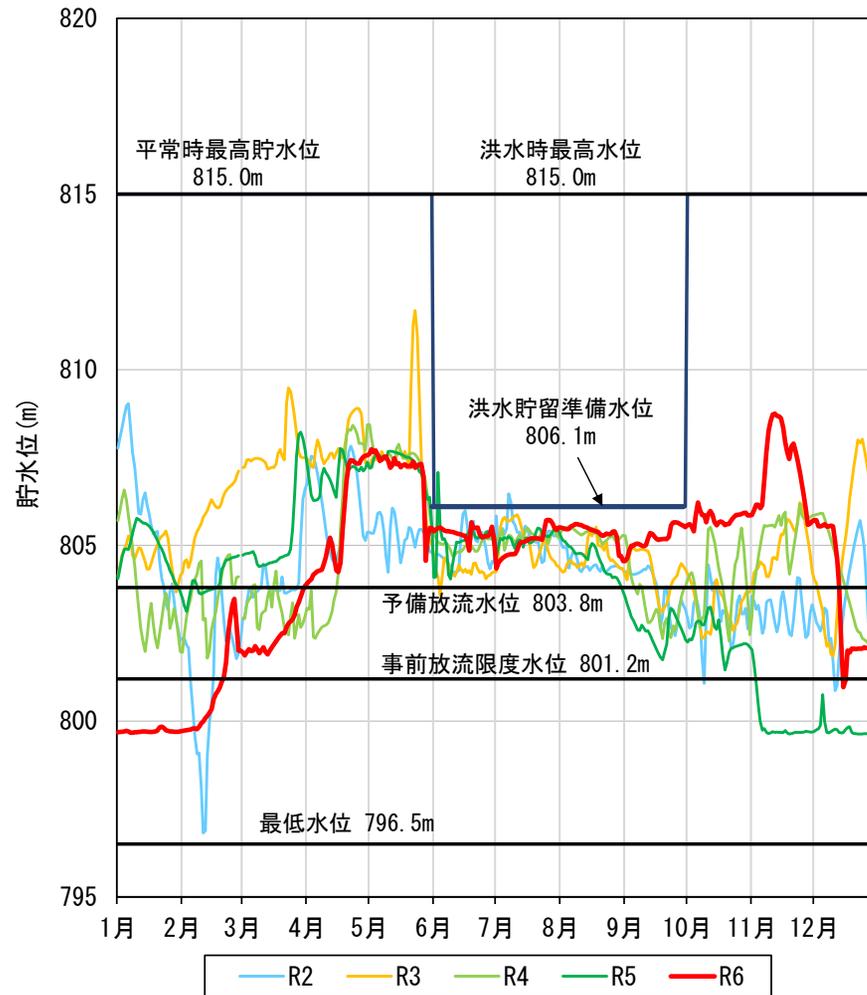
貯水位(令和2年～令和6年)

2. 貯水池運用 美和ダム

- 利水運用、洪水貯留準備水位及び平常時最高貯水位を考慮した運用が図られている。なお、治水機能強化のための再開発を行ったことに伴い、令和元年より洪水貯留準備水位をEL. 806. 1mに変更している。
- 令和6年は、1月～2月にかけては利水者の工事実施（発電）のため貯水位を低下して運用したほか、11月～12月は降雨の影響により貯水位は変動した。



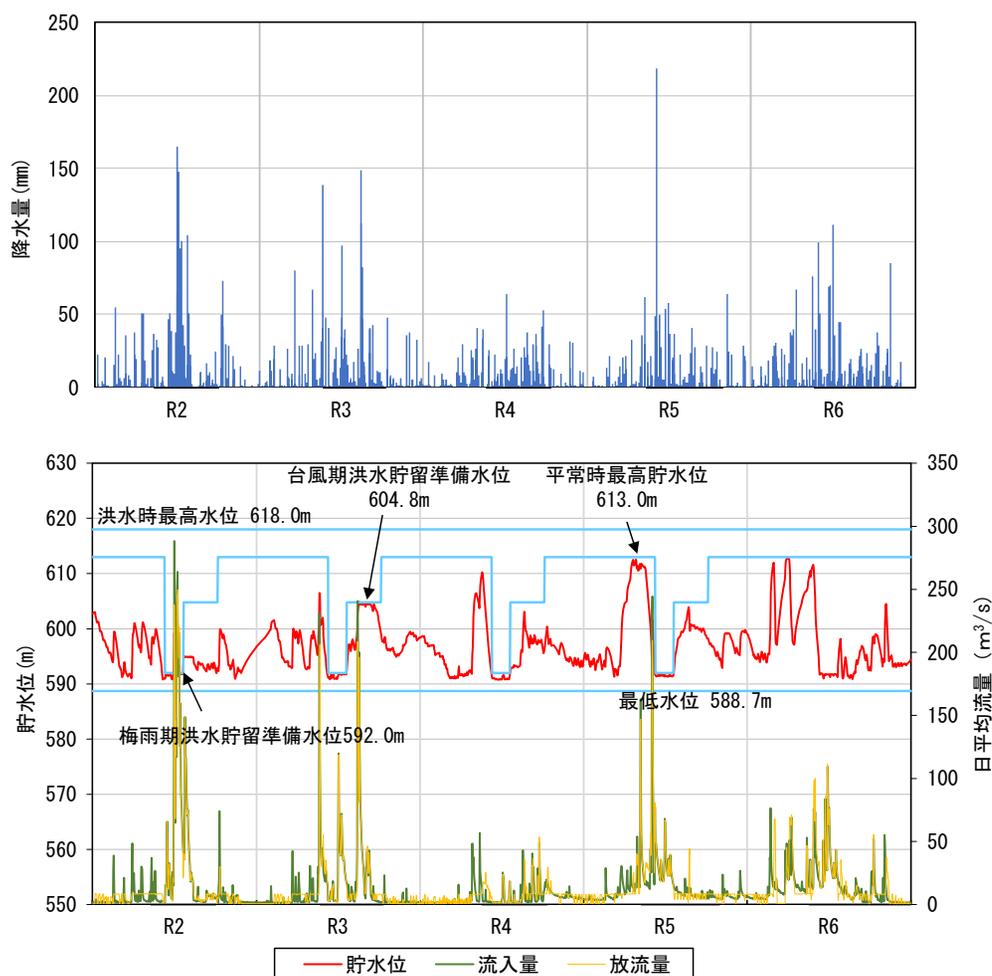
貯水池運用実績(令和2年～令和6年)



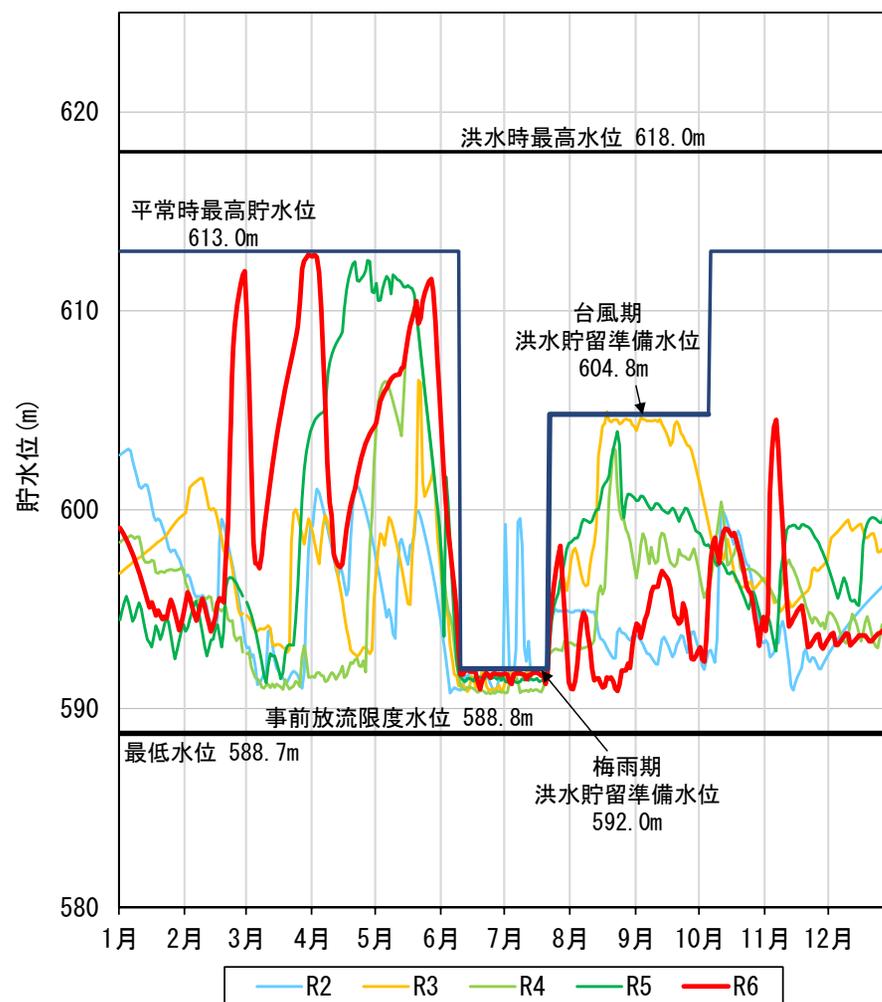
貯水位(令和2年～令和6年)

2. 貯水池運用 小渋ダム

- 利水運用、梅雨期洪水貯留準備水位、台風期洪水貯留準備水位及び平常時最高貯水位を考慮した運用が図られている。
- 令和6年は、降雨の影響により貯水位が大きく変動した時期があったが、防災操作の実施に至るような強い雨はなかった。



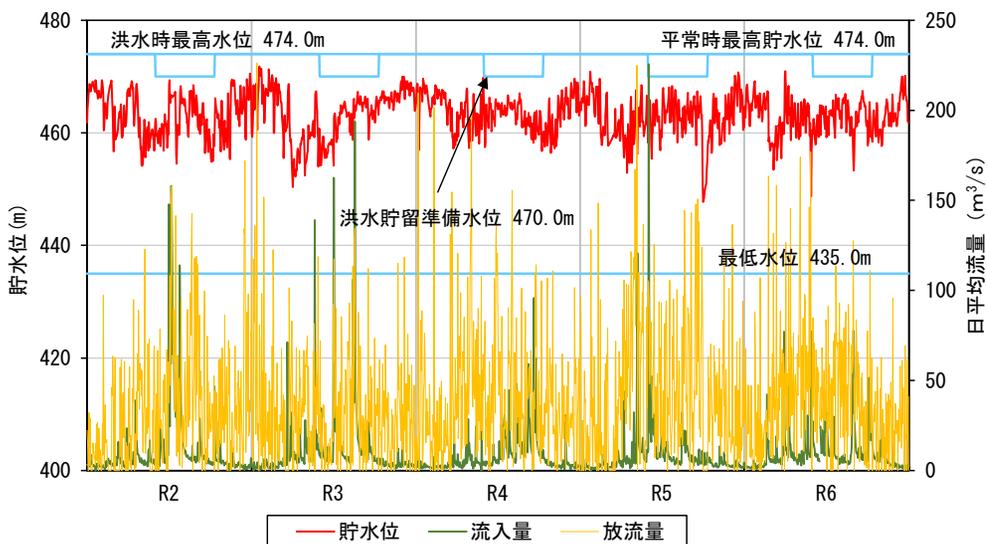
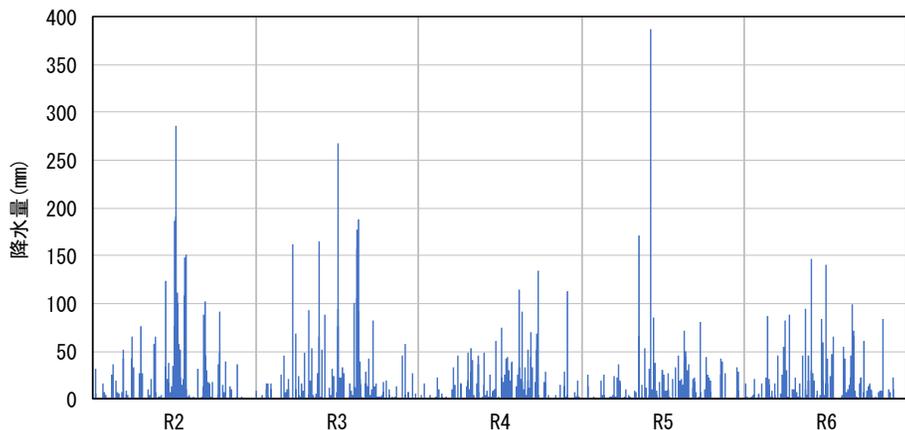
貯水池運用実績(令和2年～令和6年)



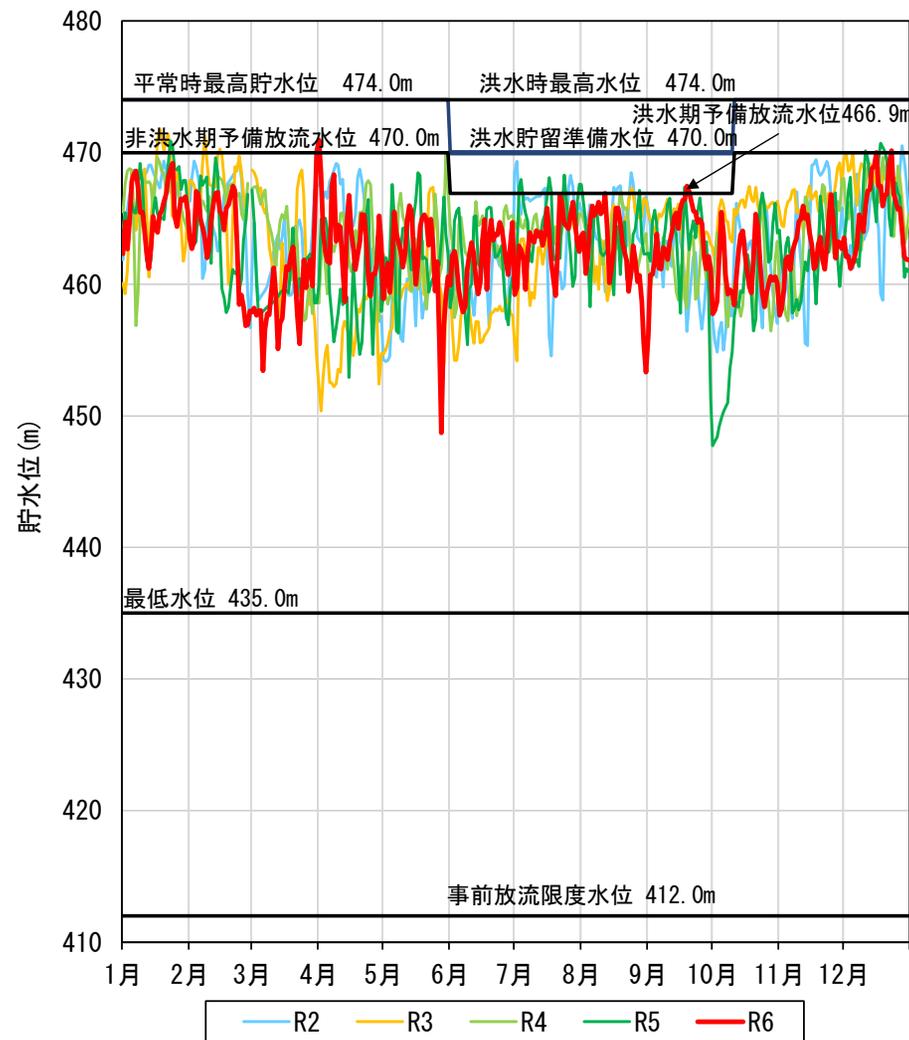
貯水位(令和2年～令和6年)

2. 貯水池運用 新豊根ダム

- 揚水発電運用、洪水貯留準備水位及び平常時最高貯水位を考慮した運用が図られている。
- 令和6年の貯水位は、年間を通じて例年と同様の状況で概ねEL. 450m～EL. 470mの範囲で推移した。



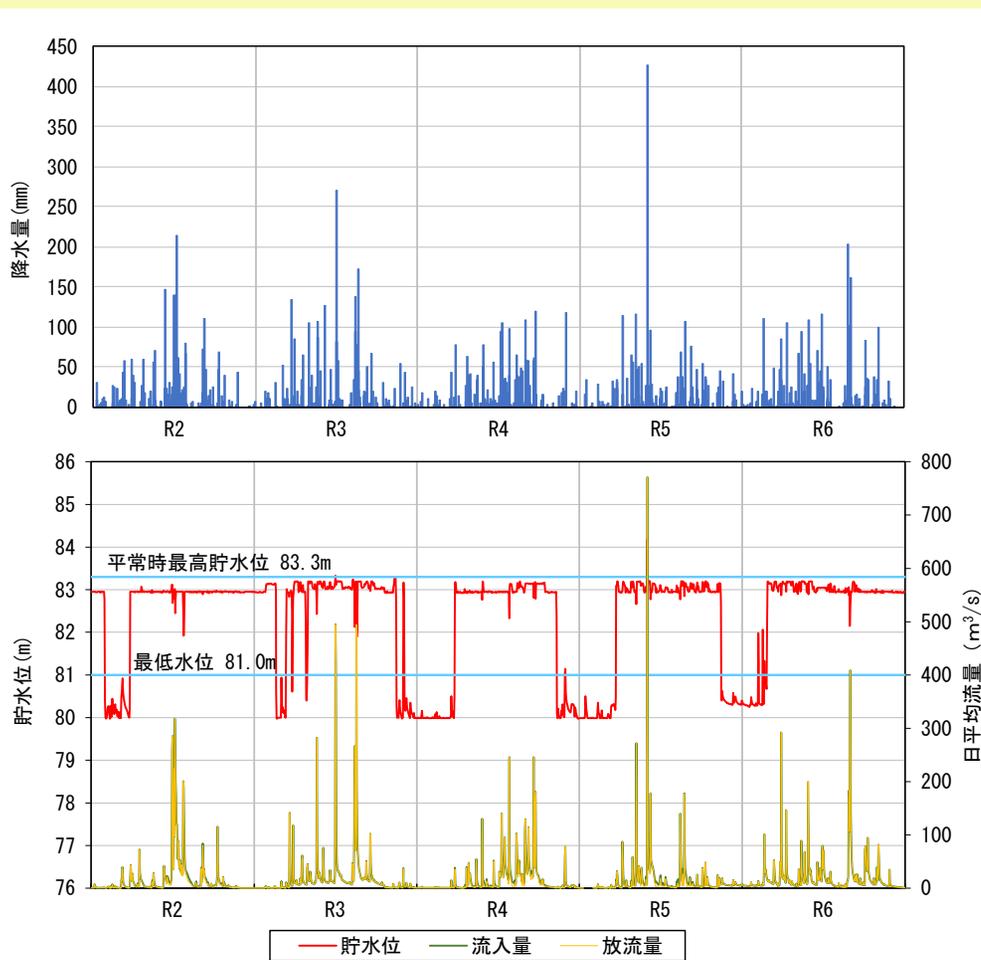
貯水池運用実績(令和2年～令和6年)



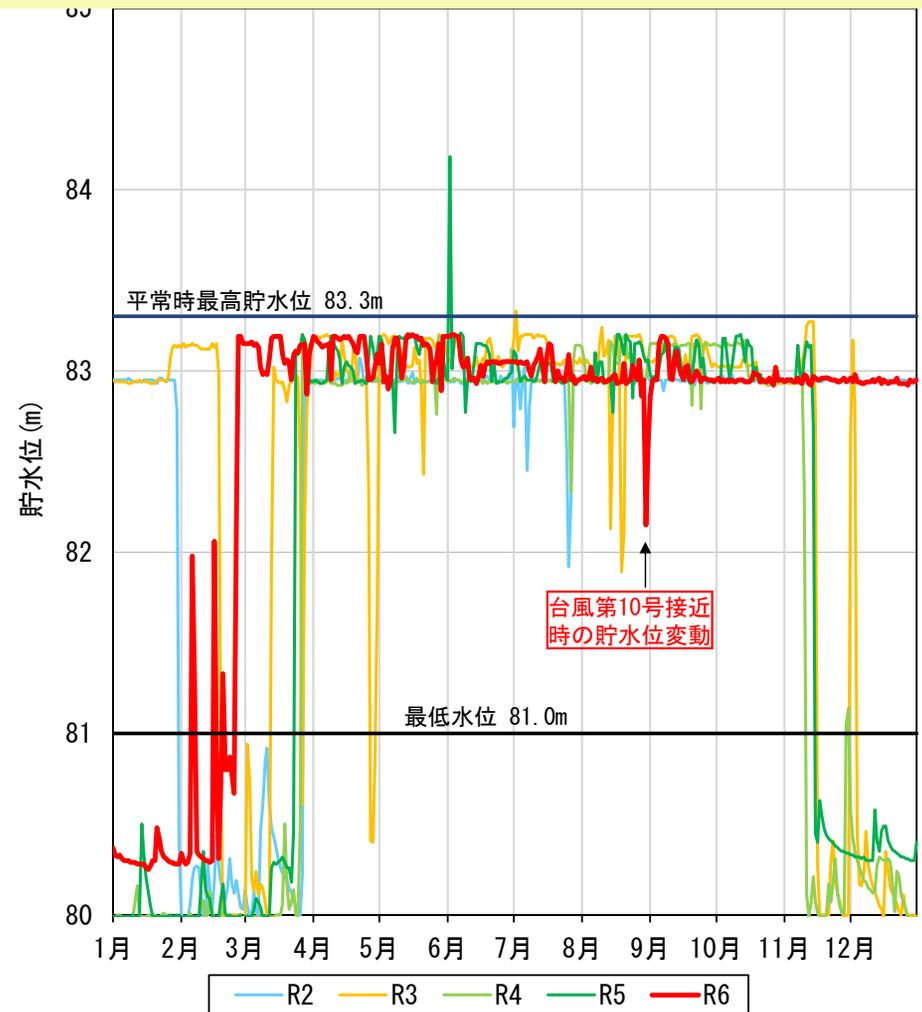
貯水位(令和2年～令和6年)

2. 貯水池運用 寒狭川堰

- 平常時最高貯水位を考慮した運用が図られている。なお、冬季期間は設備の定期点検や整備等のため、最低水位以下で運用する場合が多い。
- 令和6年は、8月に台風第10号の接近のため流入量及び放流量が増加した影響により、貯水位は一時的に大きく変動した。



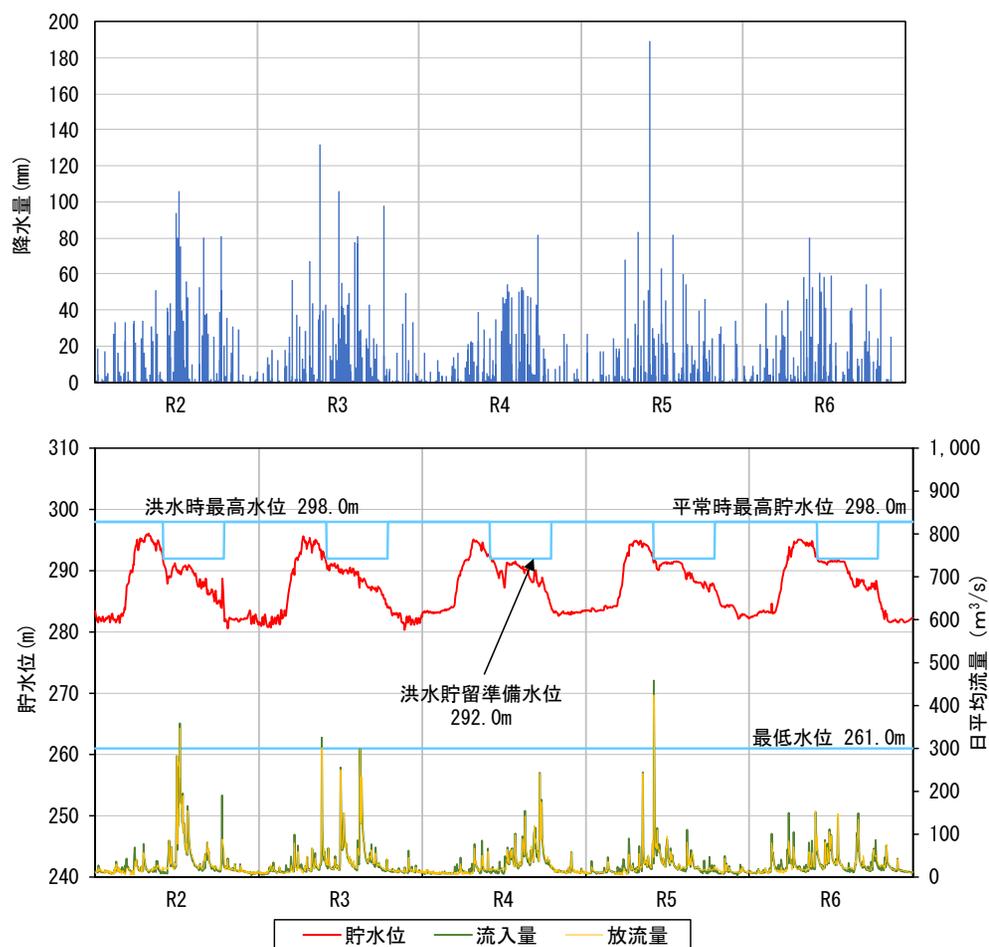
貯水池運用実績(令和2年～令和6年)



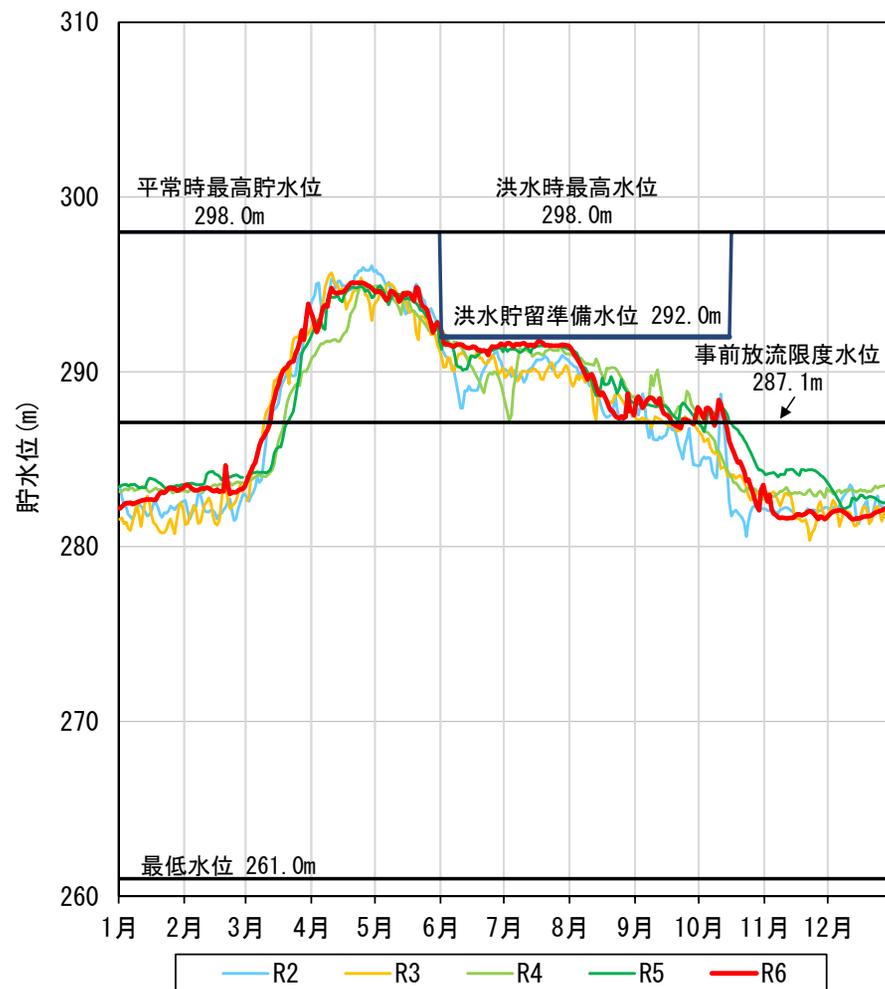
貯水位(令和2年～令和6年)

2. 貯水池運用 矢作ダム

- 利水運用、洪水貯留準備水位及び平常時最高貯水位を考慮した運用が図られている。なお非洪水期においては、貯水池掘削のため貯水位を低下させて運用している。
- 令和6年の貯水位は、年間を通じて例年と同様の状況で概ねEL. 280m～EL. 295mの範囲で推移した。



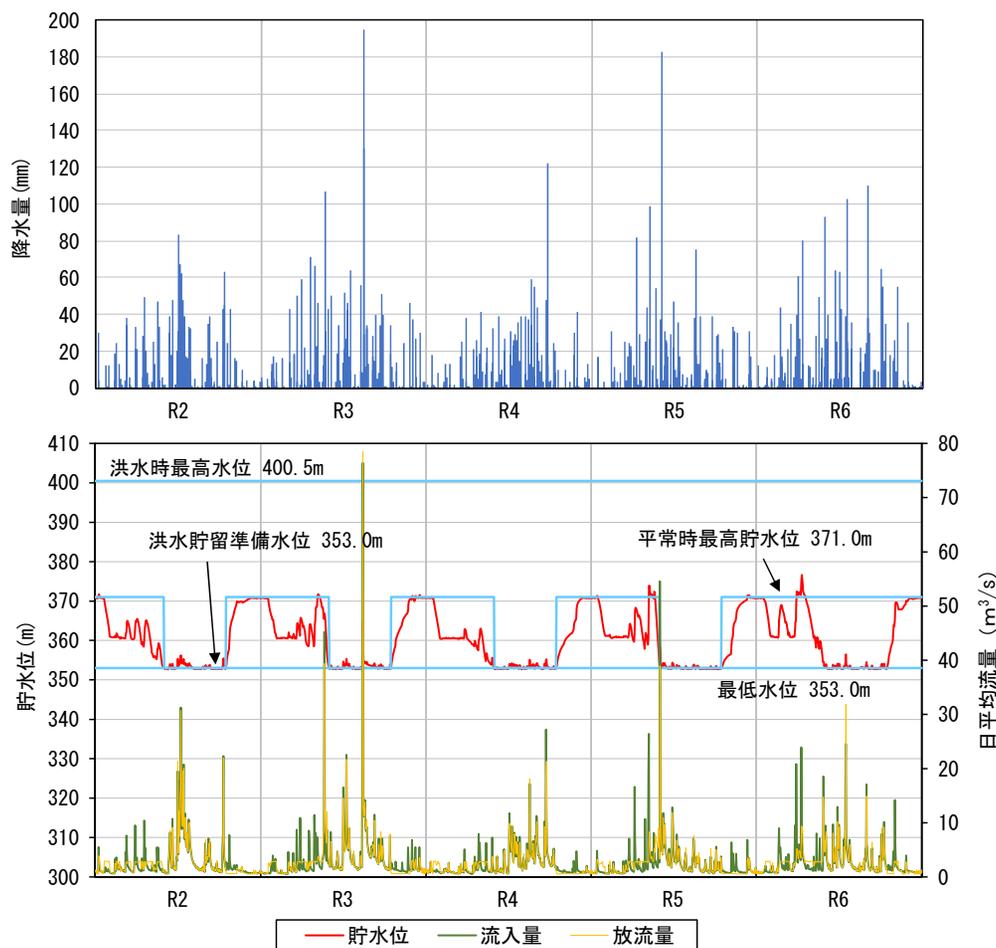
貯水池運用実績(令和2年～令和6年)



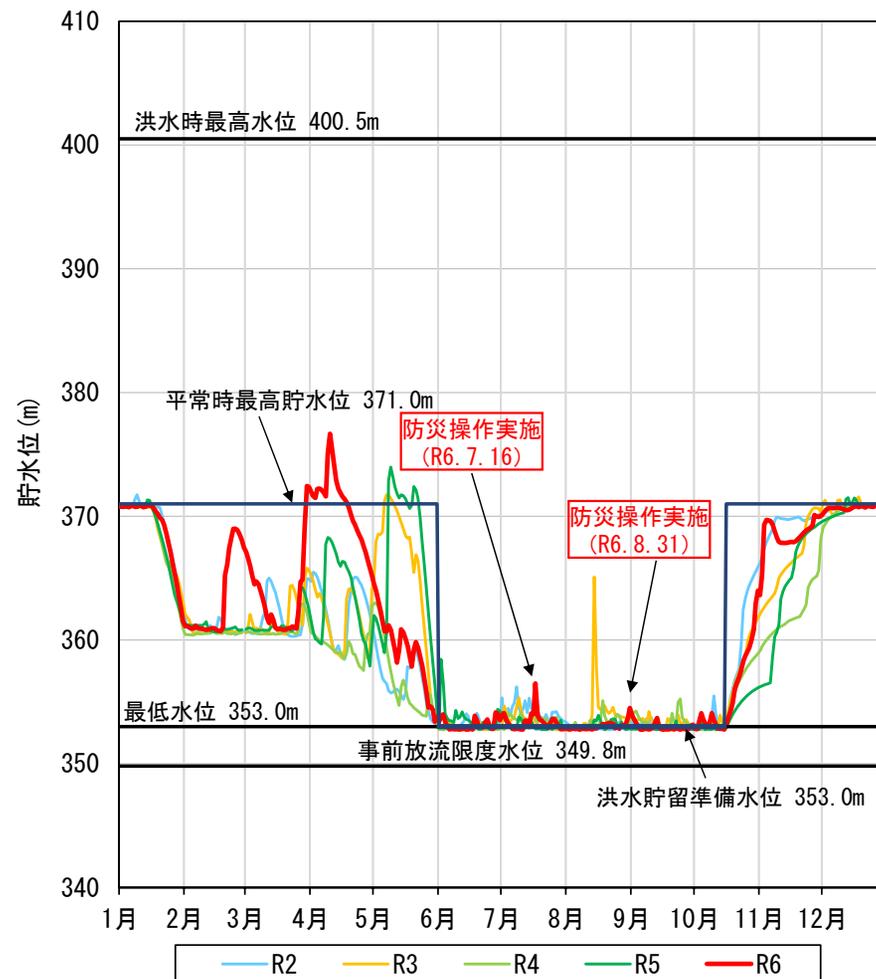
貯水位(令和2年～令和6年)

2. 貯水池運用 小里川ダム

- 利水運用、洪水貯留準備水位及び平常時最高貯水位を考慮した運用が図られている。なお、1月15日から2月1日にかけては、操作規則に基づき貯水位をE. L. 360. 0mに下げて運用されている。
- 令和6年は4月に前線等の影響により一時的に貯水位は高くなったものの洪水期（6/1～10/15）に向けてドローダウンが実施された。



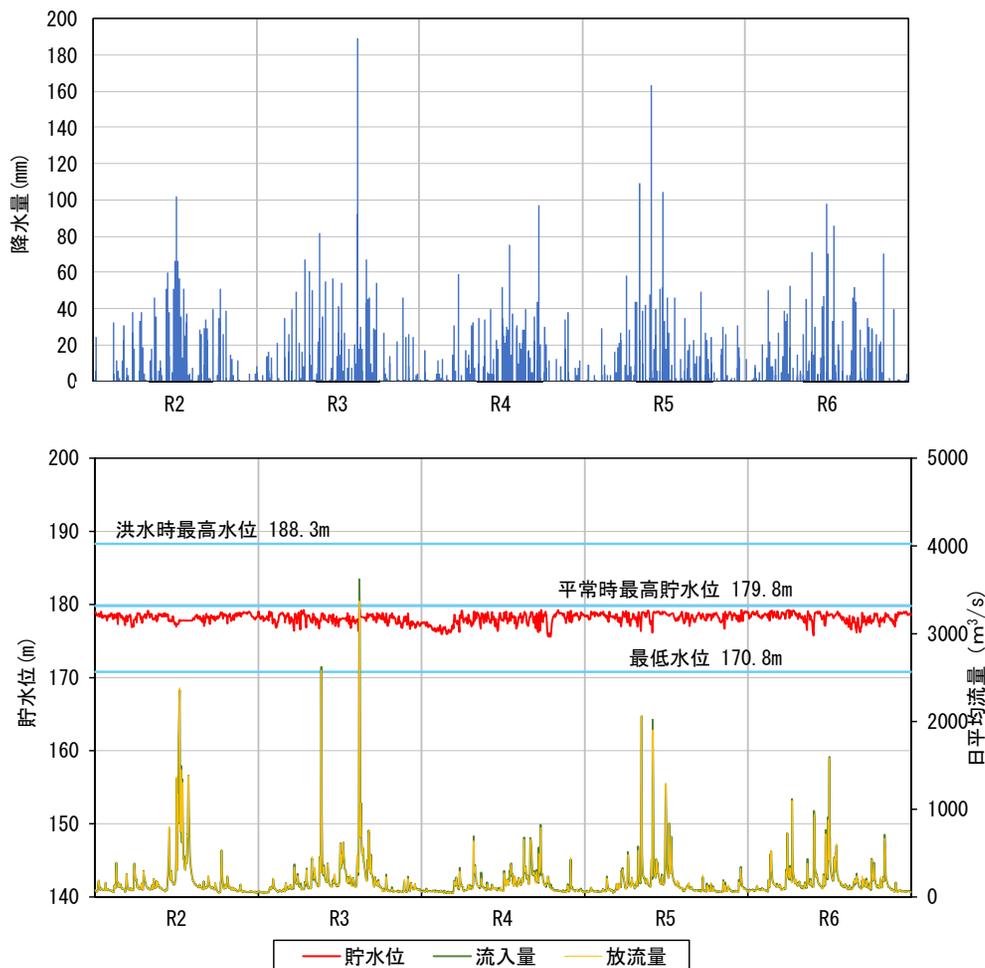
貯水池運用実績(令和2年～令和6年)



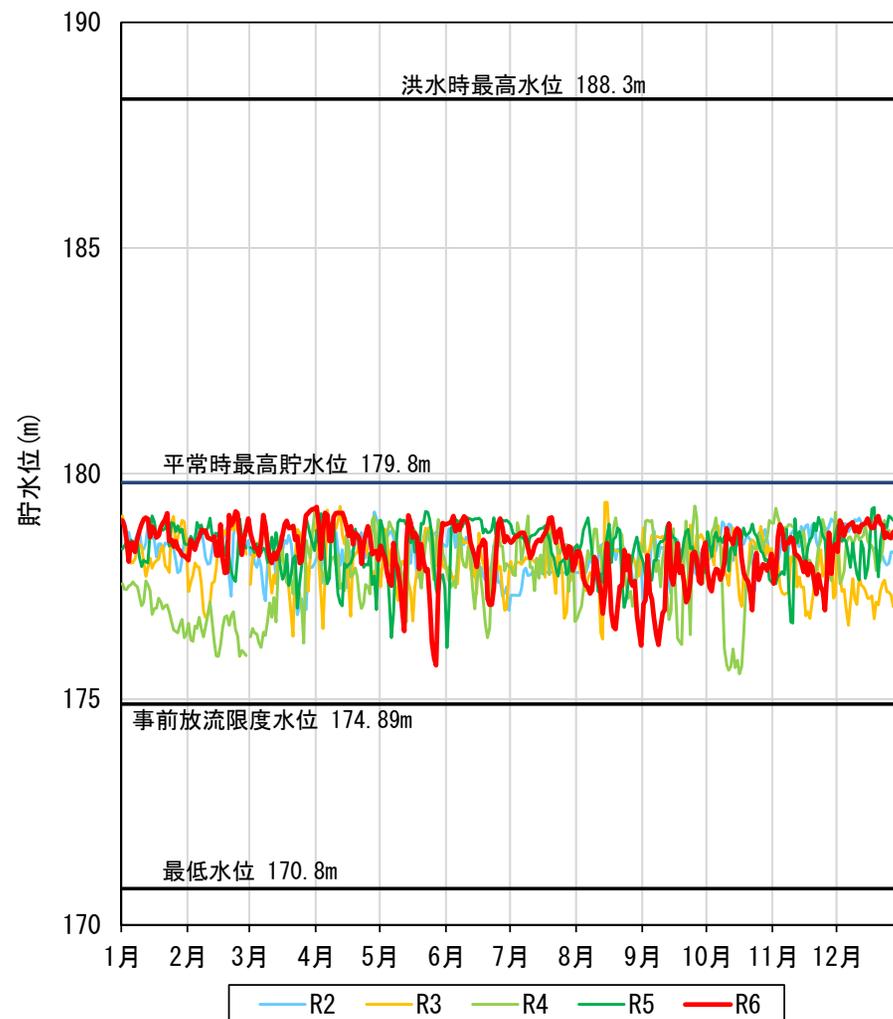
貯水位(令和2年～令和6年)

2. 貯水池運用 丸山ダム

- 発電運用及び平常時最高貯水位を考慮した運用が図られている。
- 令和6年の貯水位は、例年と同様の状況で概ねEL. 175. 5m~EL. 179. 5mの間で推移した。



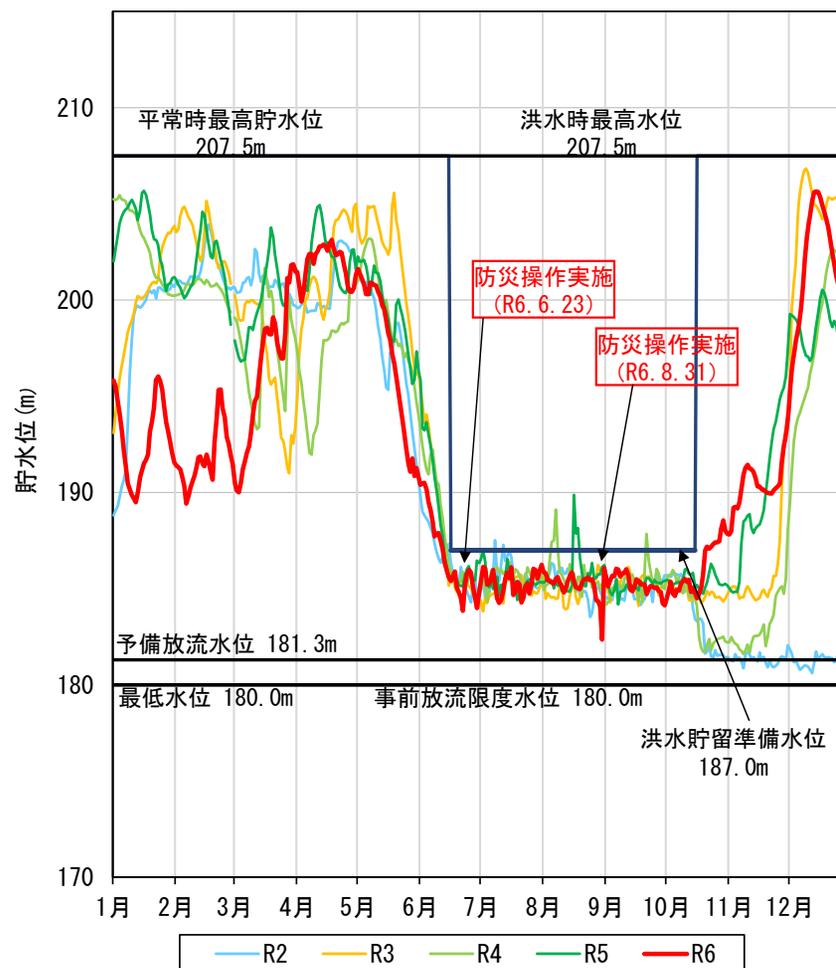
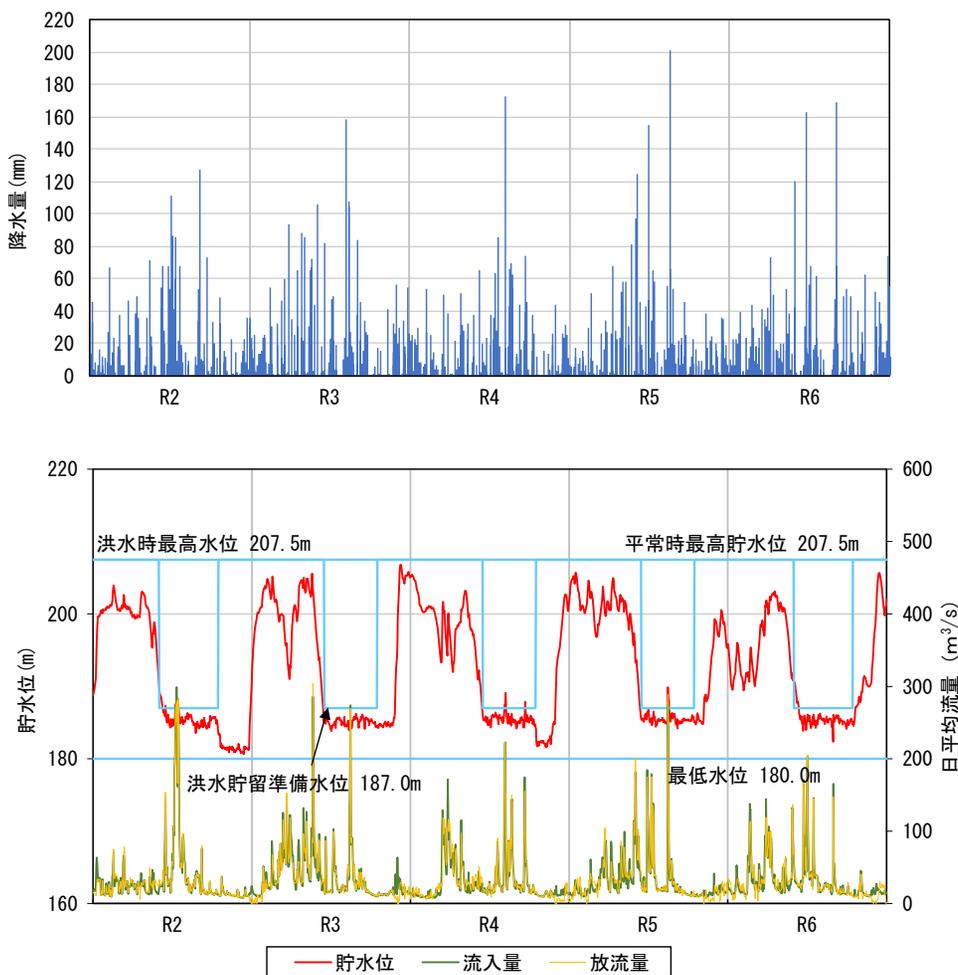
貯水池運用実績(令和2年~令和6年)



貯水位(令和2年~令和6年)

2. 貯水池運用 横山ダム

- 利水運用、洪水貯留準備水位及び平常時最高貯水位を考慮した運用が図られている。
- 直近の令和6年をはじめ非洪水期は発電利用や工事調整による貯水位の変動がみられる。また令和6年は2回の防災操作を実施した。

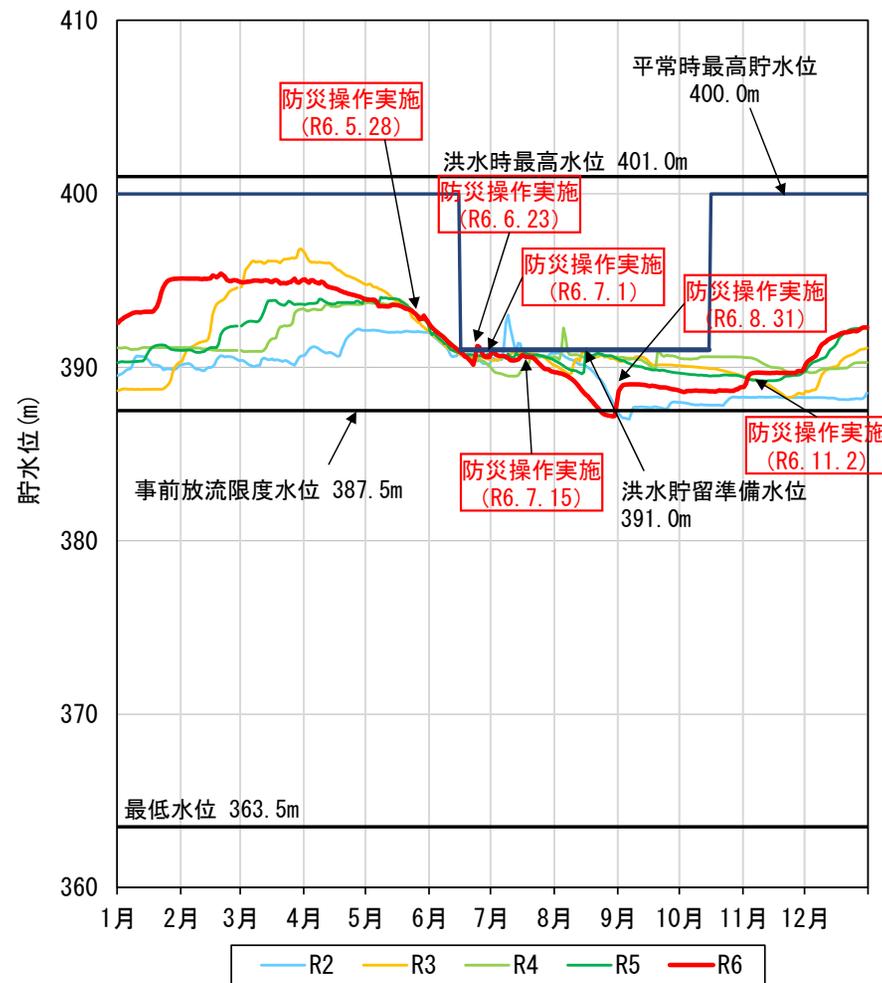
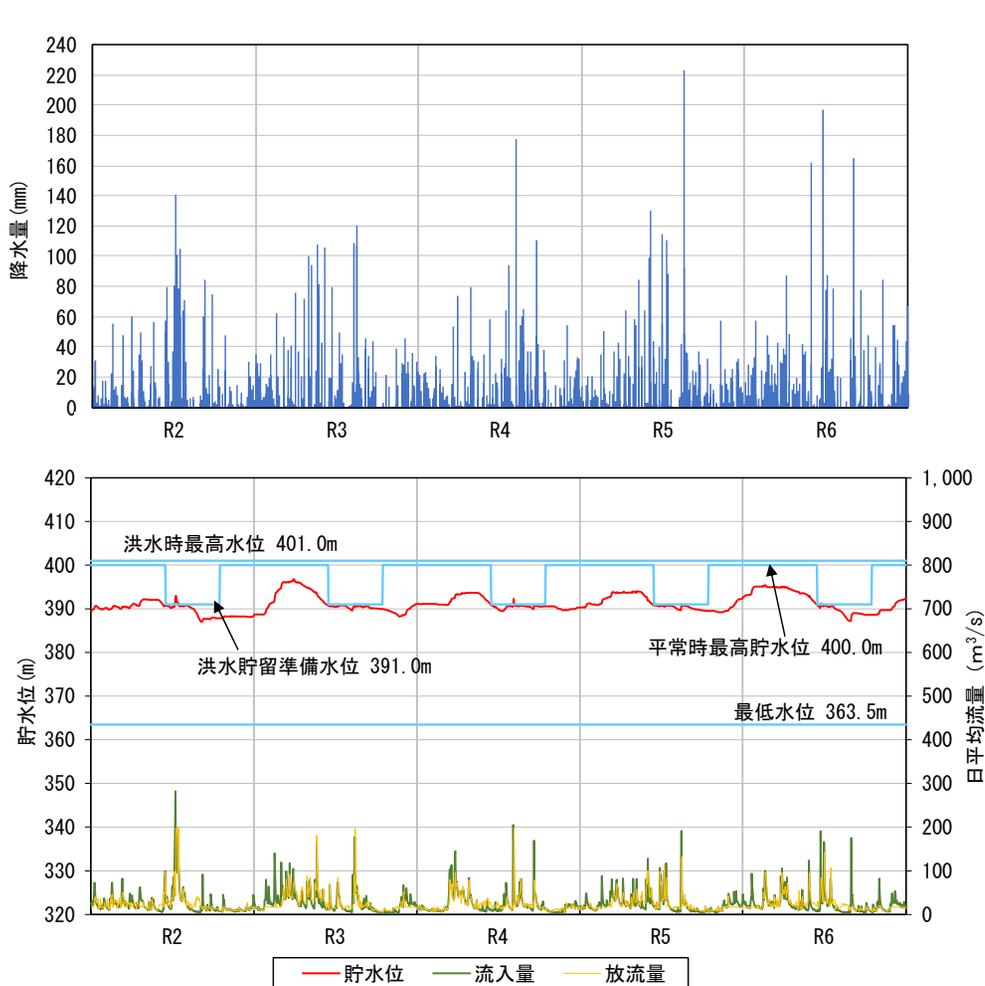


貯水池運用実績 (令和2年～令和6年)

貯水位 (令和2年～令和6年)

2. 貯水池運用 徳山ダム

- 利水運用、洪水貯留準備水位及び平常時最高貯水位を考慮した運用が図られている。
- 令和6年は、4月初旬から洪水期に向けたドローダウンを実施した。また、かんがい補給及び流水の正常な機能の維持のための放流（不特定補給）を、6月から11月にかけて断続的に行った。

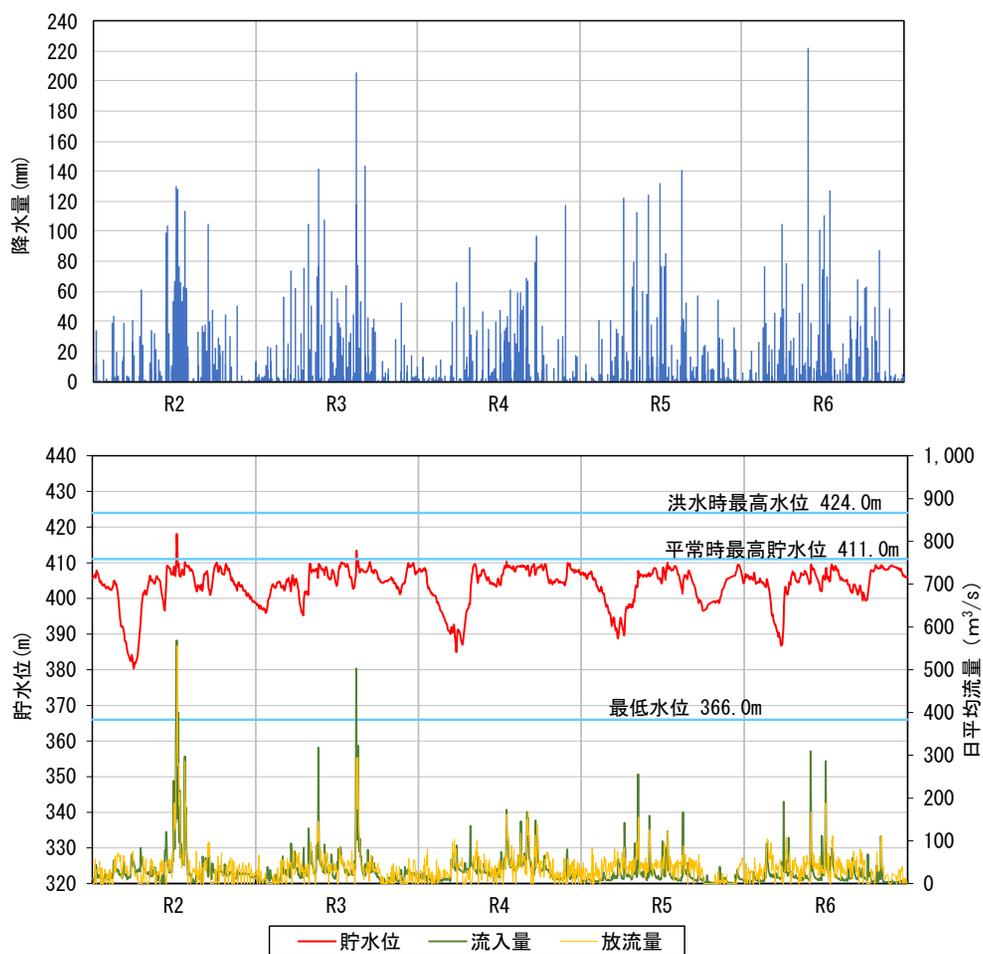


貯水池運用実績 (令和2年～令和6年)

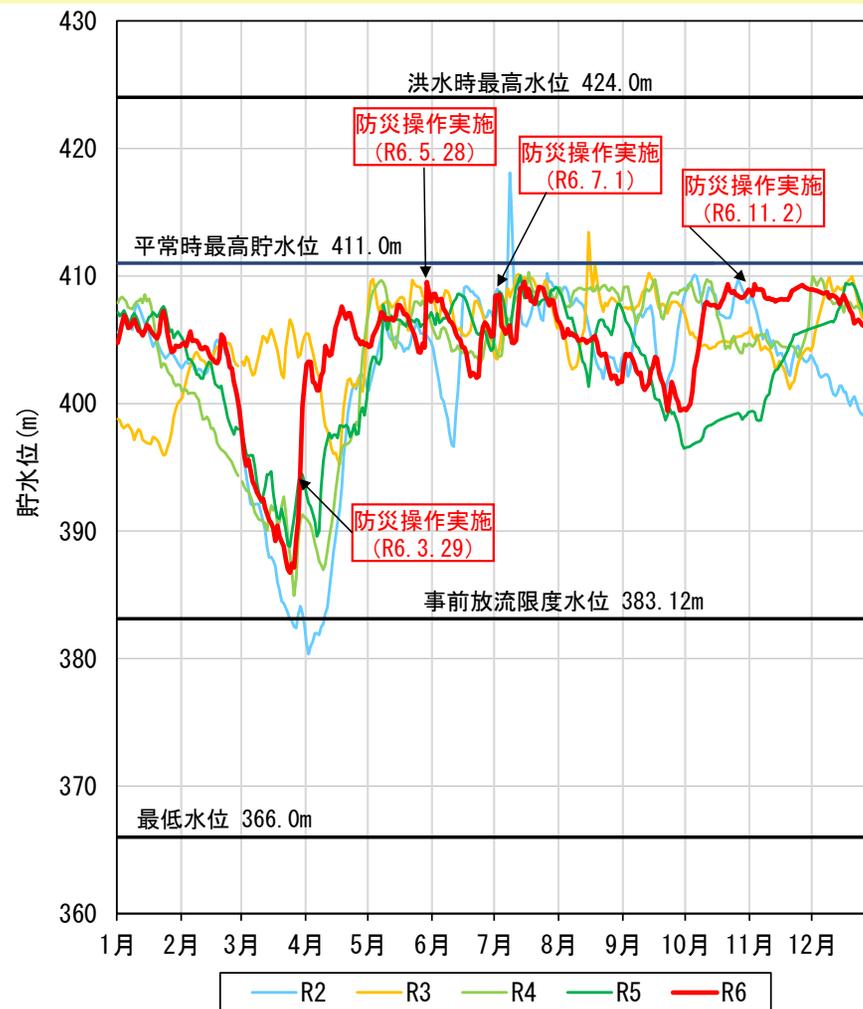
貯水位 (令和2年～令和6年)

2. 貯水池運用 岩屋ダム

- 1月から3月にかけては発電利用のため貯水位は低下する傾向にあるが、利水運用及び平常時最高貯水位を考慮した運用が図られている。
- 令和6年8月～9月は比較的少雨となった時期もあり貯水位は低下したが10月始めの降雨により回復した。なお、令和6年は4回の防災操作を実施している。



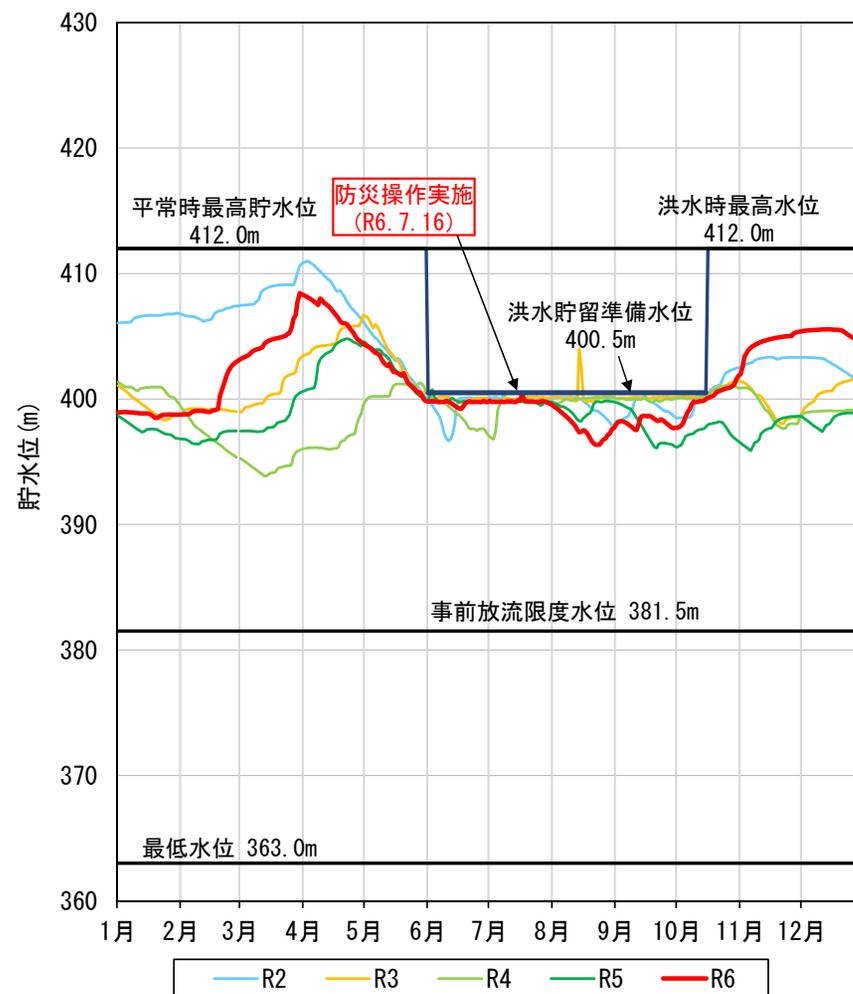
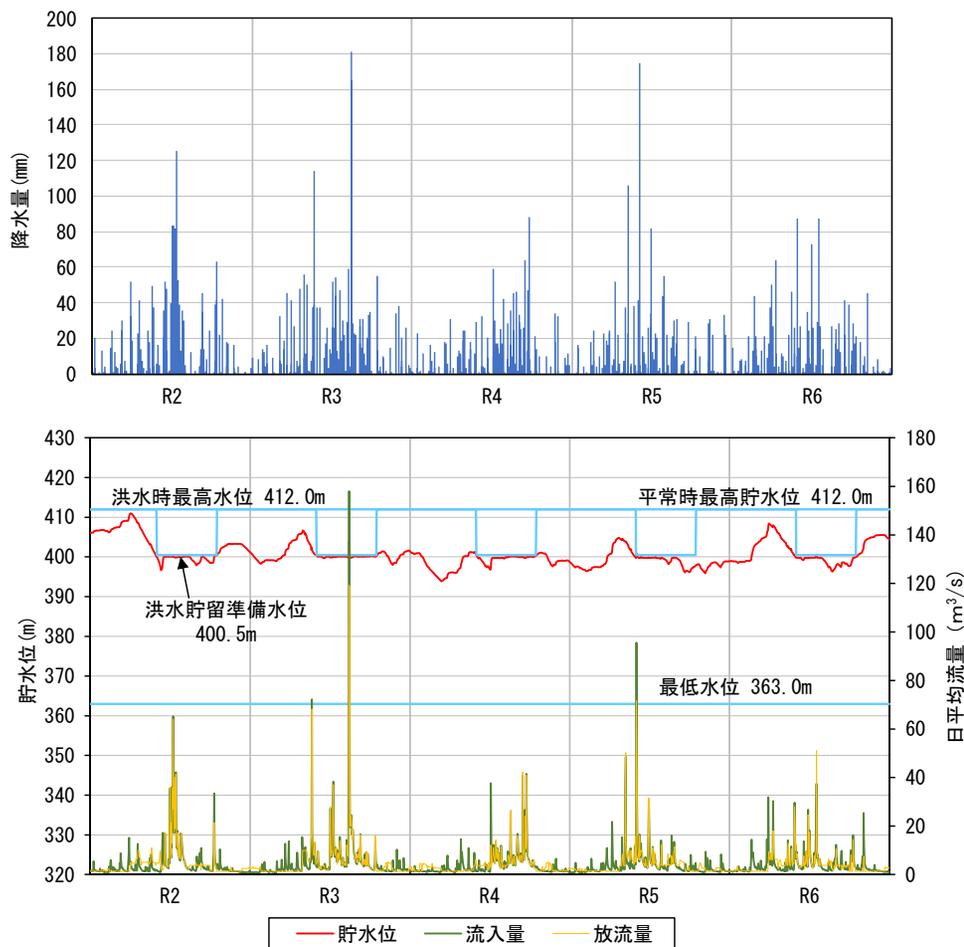
貯水池運用実績(令和2年～令和6年)



貯水位(令和2年～令和6年)

2. 貯水池運用 阿木川ダム

- 洪水貯留準備水位及び平常時最高貯水位を考慮した運用が図られている。
- 令和6年の貯水位は、2月から3月にかけての降雨量が年平均を上回った影響により上昇した後、ドローダウンのため水位低下操作を実施した。なお、7月16日は前線の影響により防災操作を実施している。

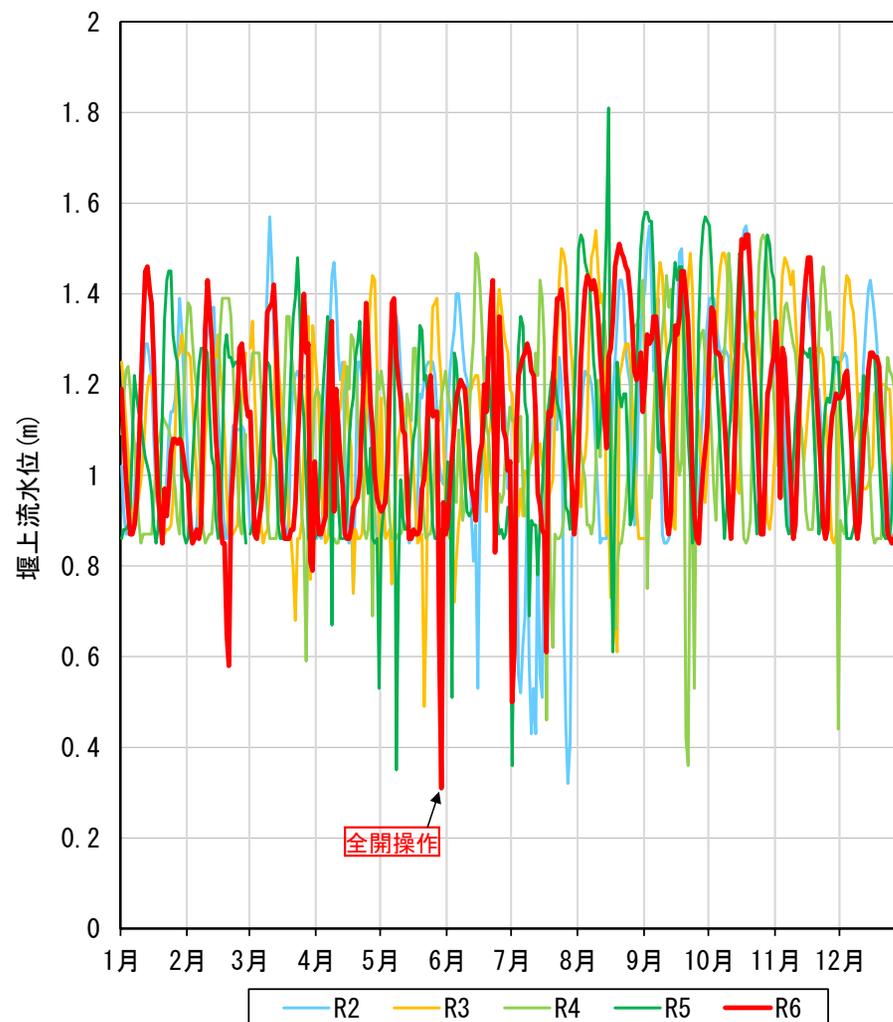
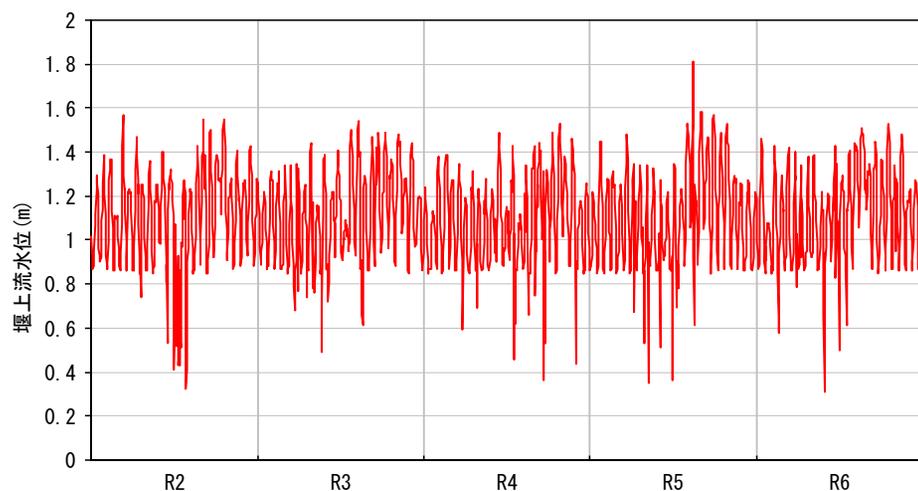
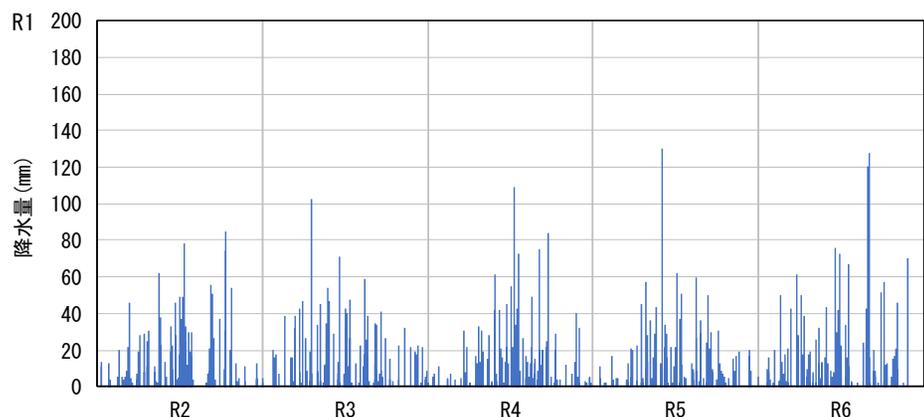


貯水池運用実績(令和2年～令和6年)

貯水位(令和2年～令和6年)

2. 貯水池運用 長良川河口堰

- 令和2年～令和6年の降水量・水位の状況は以下の通りである。
- 令和6年は、5月に堰下流水位が低い干潮時に全開操作を実施したことにより、堰下流水位が一時的に低下した。

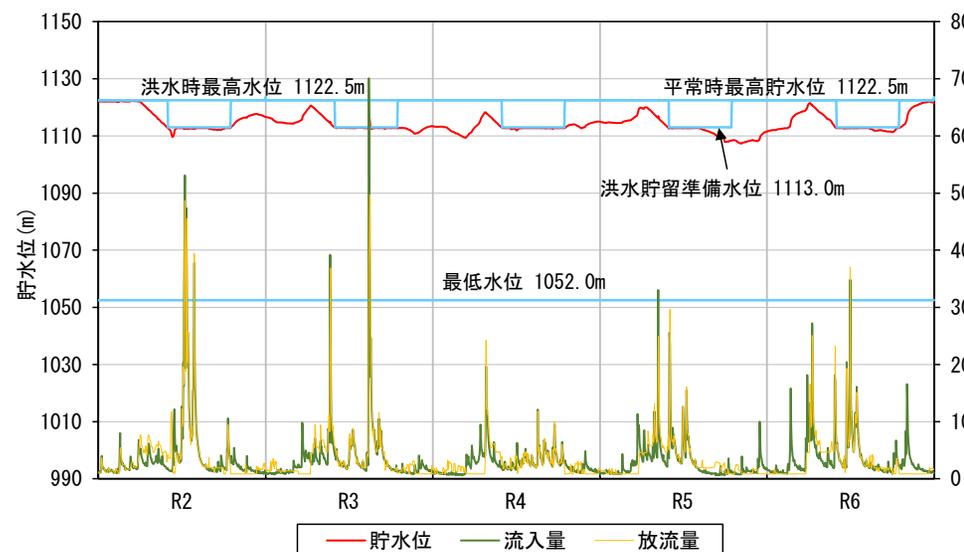
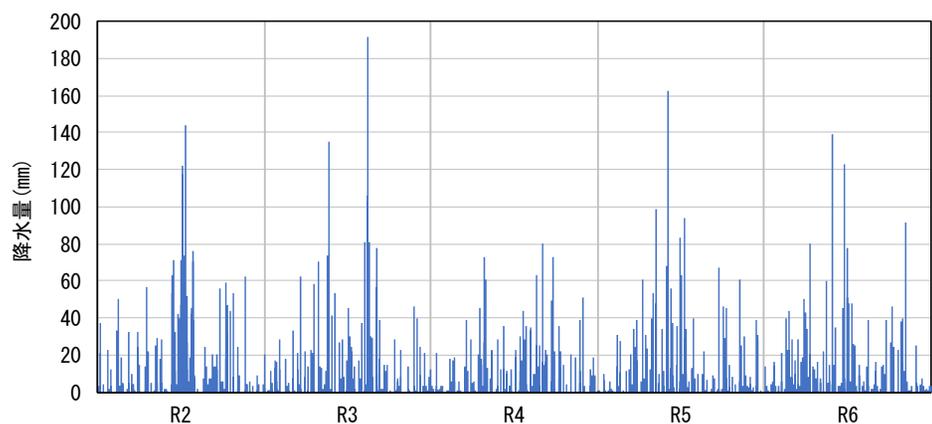


貯水池運用実績(令和2年～令和6年)

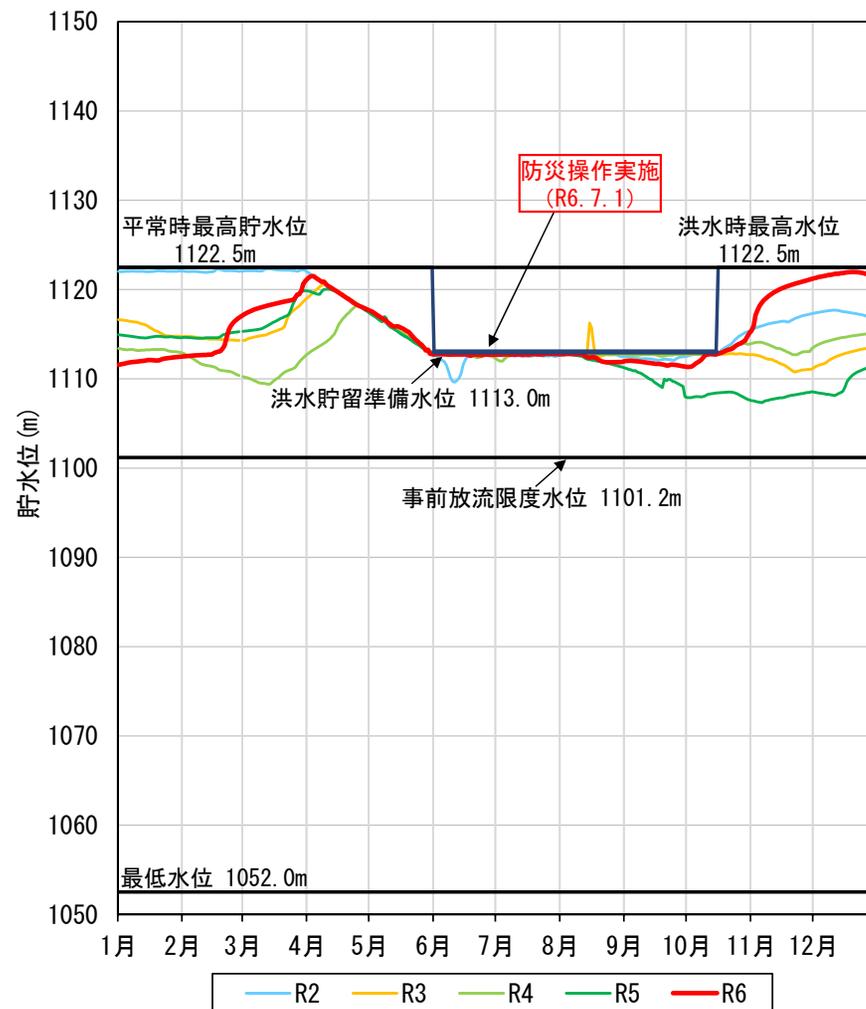
水位(令和2年～令和6年)

2. 貯水池運用 味噌川ダム

- 利水運用、洪水貯留準備水位及び平常時最高貯水位を考慮した運用が図られている。
- 令和6年の貯水位は、4月上旬にEL. 1121. 60mまで上昇し、その後洪水期へ移行するための放流を行った。洪水期終了後は平常時最高貯水位に向けての貯留を行い、12月下旬にはEL. 1121. 99mまで上昇した。



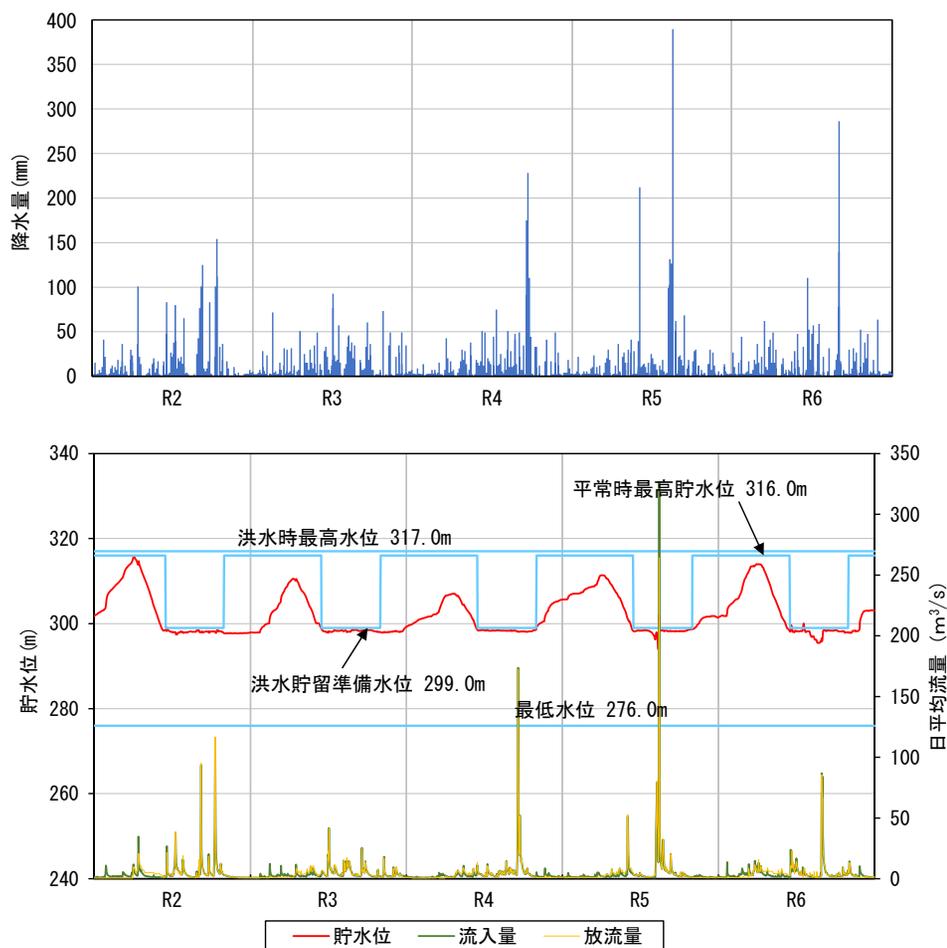
貯水池運用実績(令和2年～令和6年)



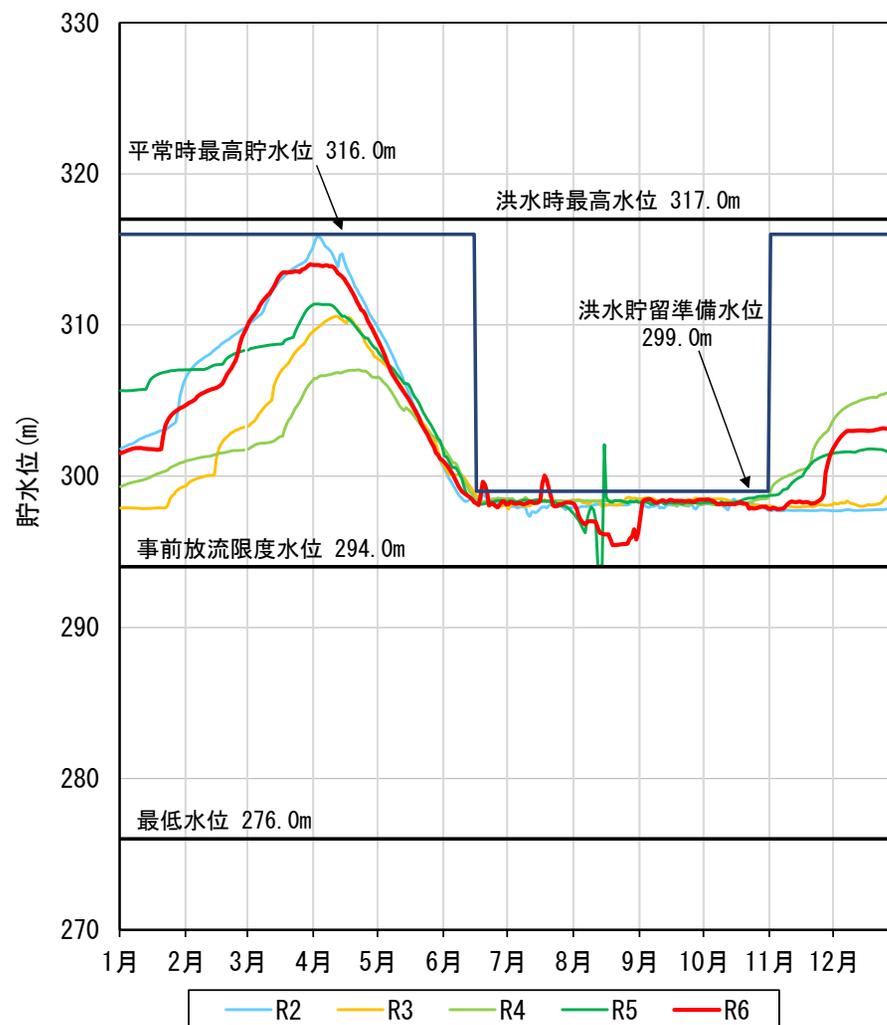
貯水位(令和2年～令和6年)

2. 貯水池運用 蓮ダム

- 発電運用、洪水貯留準備水位及び平常時最高貯水位を考慮した運用が図られている。
- 令和6年の貯水位は概ね近年と同様の傾向で推移したが、8月は下旬にかけて低下した。その後は台風第10号の接近に伴う降雨により回復している。



貯水池運用実績(令和2年～令和6年)



貯水位(令和2年～令和6年)

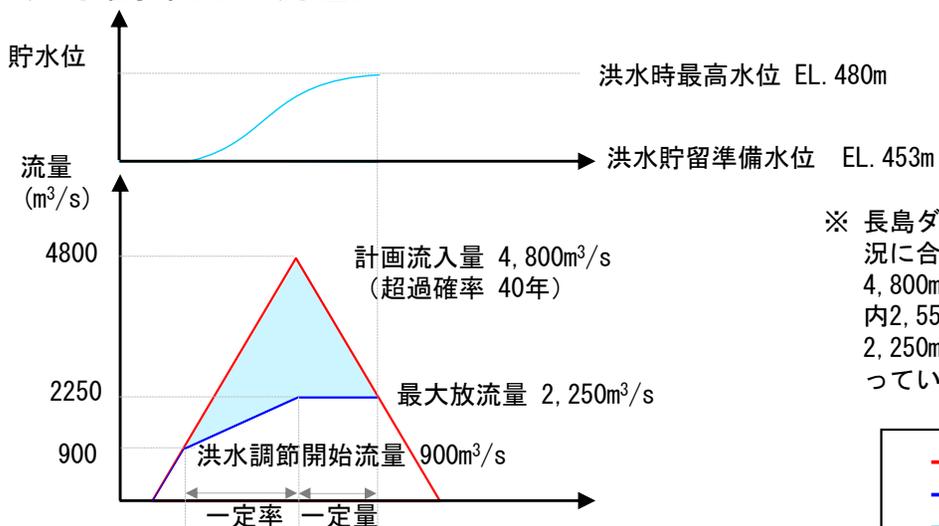
3. 防災操作

(1) 洪水調節図・流量配分図 (概念図)

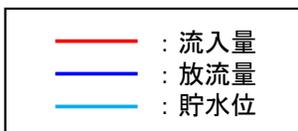
長島ダム

洪水調節図 (現運用)

昭和44年8月型洪水

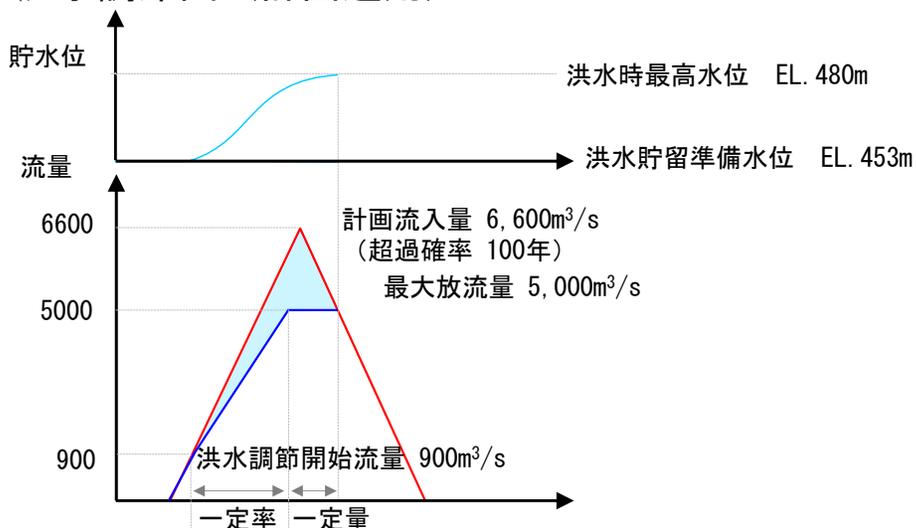


※ 長島ダムでは、現在は下流域の状況に合わせてダム地点の流入量 4,800m³/s (1/40年雨量確率) の内2,550m³/sを調節して、2,250m³/sに低減させる操作を行っている。

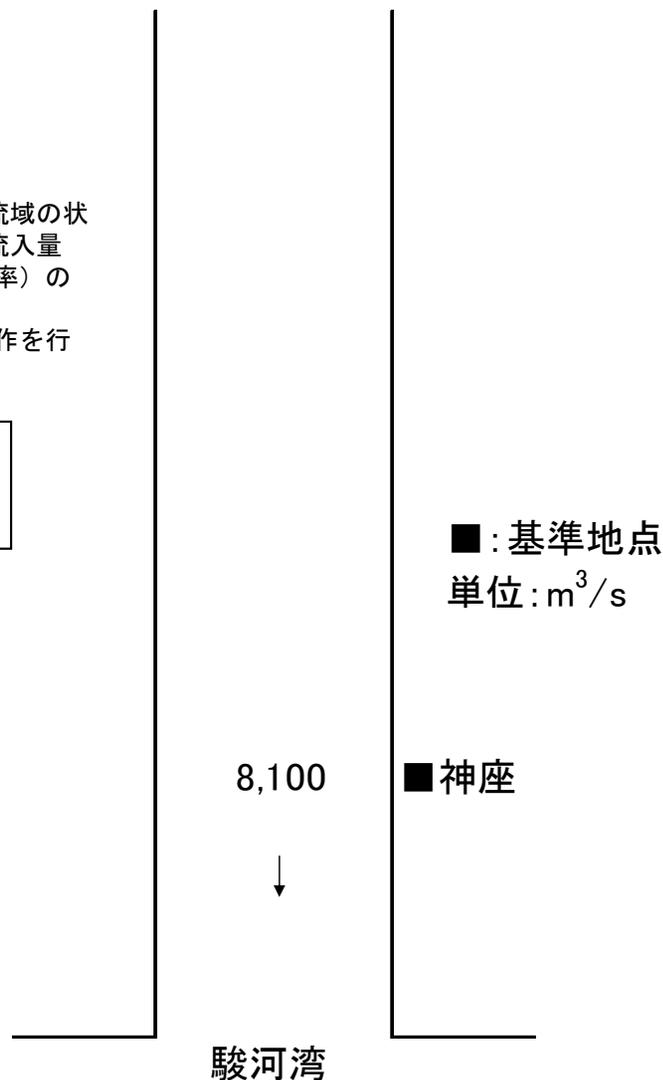


洪水調節図 (計画運用)

昭和44年8月型洪水



整備計画流量図 (大井川)



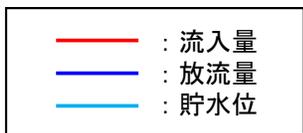
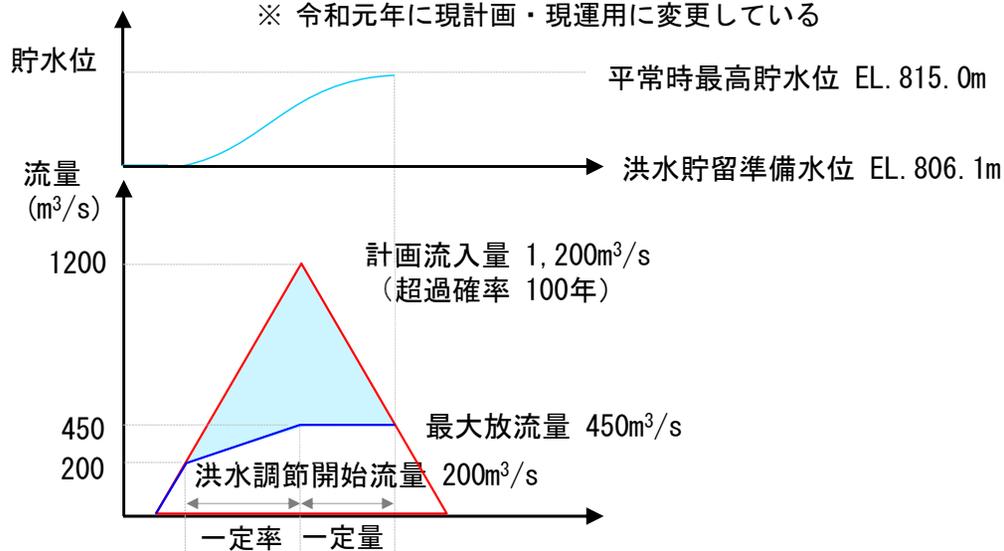
3. 防災操作

(1) 洪水調節図・流量配分図 (概念図)

美和ダム

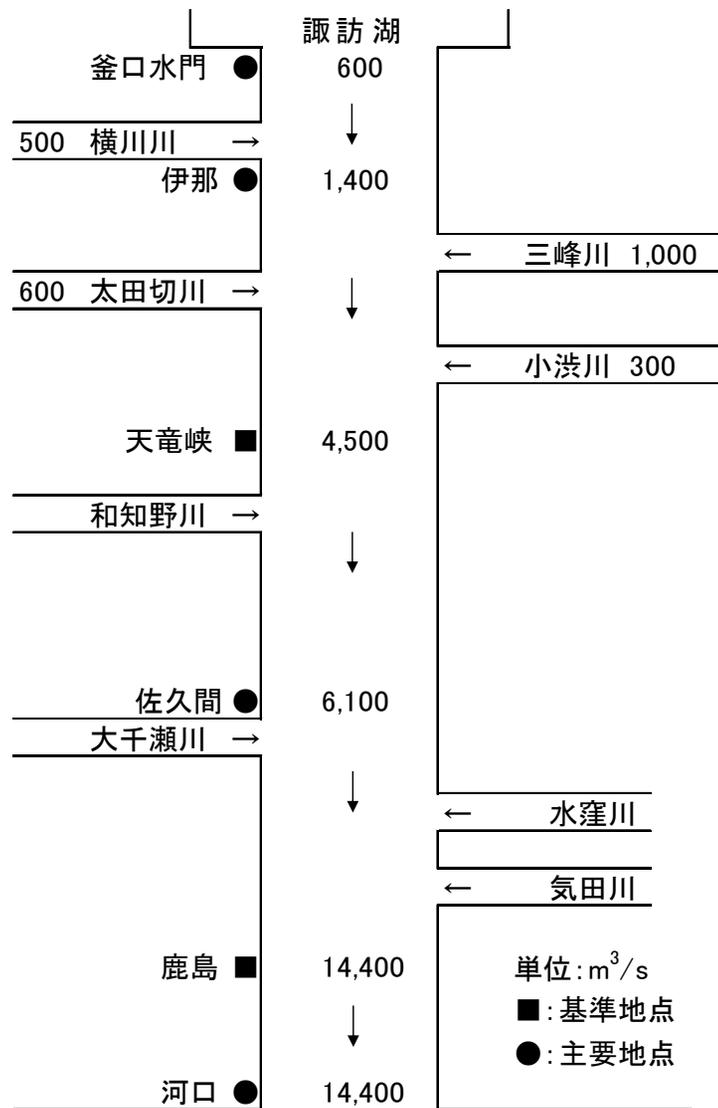
洪水調節図 (現運用・計画運用) 昭和34年8月型洪水

※ 令和元年に現計画・現運用に変更している



整備計画流量図

(天竜川)



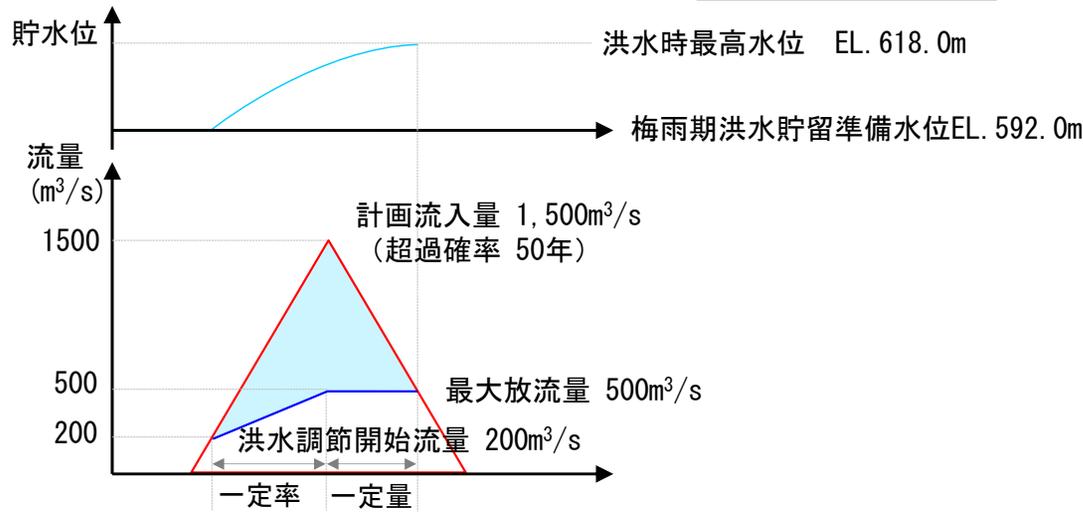
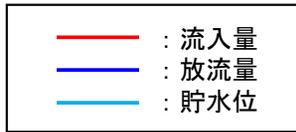
単位: m³/s
 ■: 基準地点
 ●: 主要地点

3. 防災操作 (1) 洪水調節図・流量配分図 (概念図)

小洪ダム

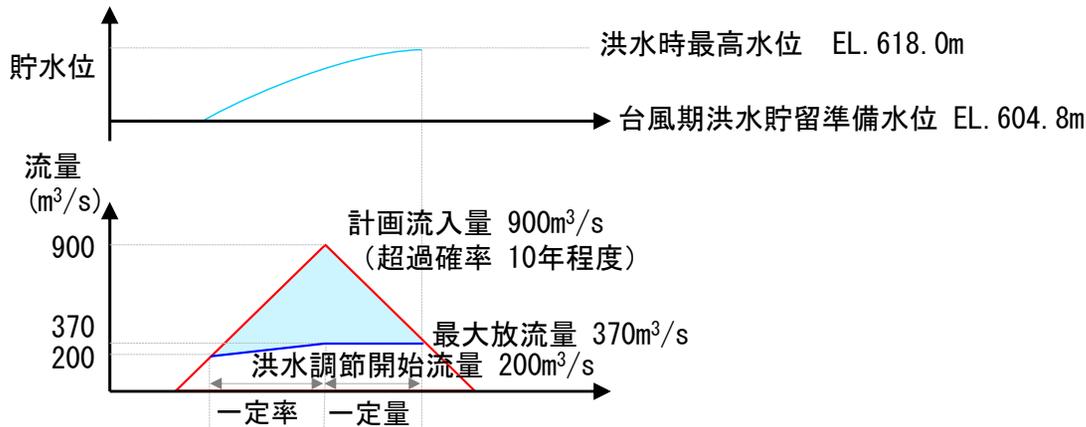
洪水調節図 (現運用・計画運用)

梅雨期: 昭和36年6月型洪水
梅雨期: 6/10~7/20



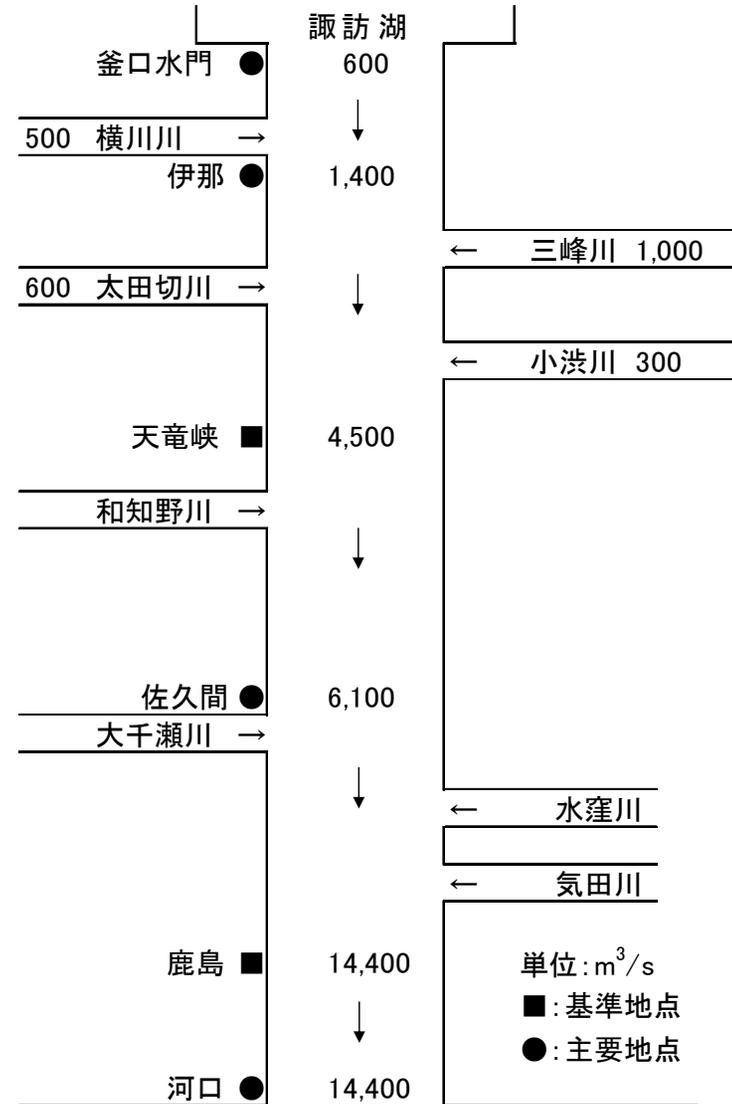
台風期: 昭和20年10月型及び昭和34年8月型洪水の組合せ

台風期: 7/21~10/5



整備計画流量図

(天竜川)



単位: m^3/s

■: 基準地点

●: 主要地点

遠州灘

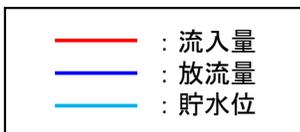
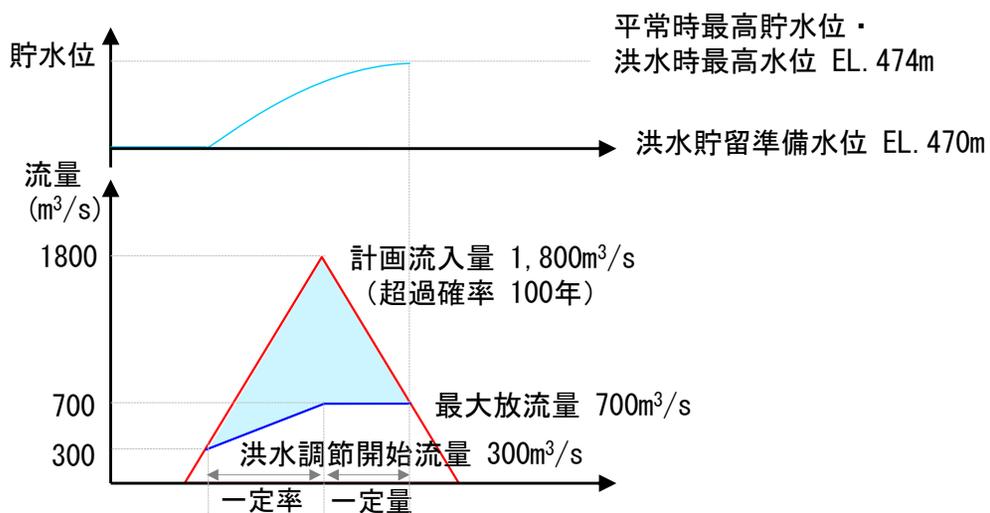
・「天竜川水系河川整備計画変更 R6.7」を基に作成

3. 防災操作

(1) 洪水調節図・流量配分図 (概念図)

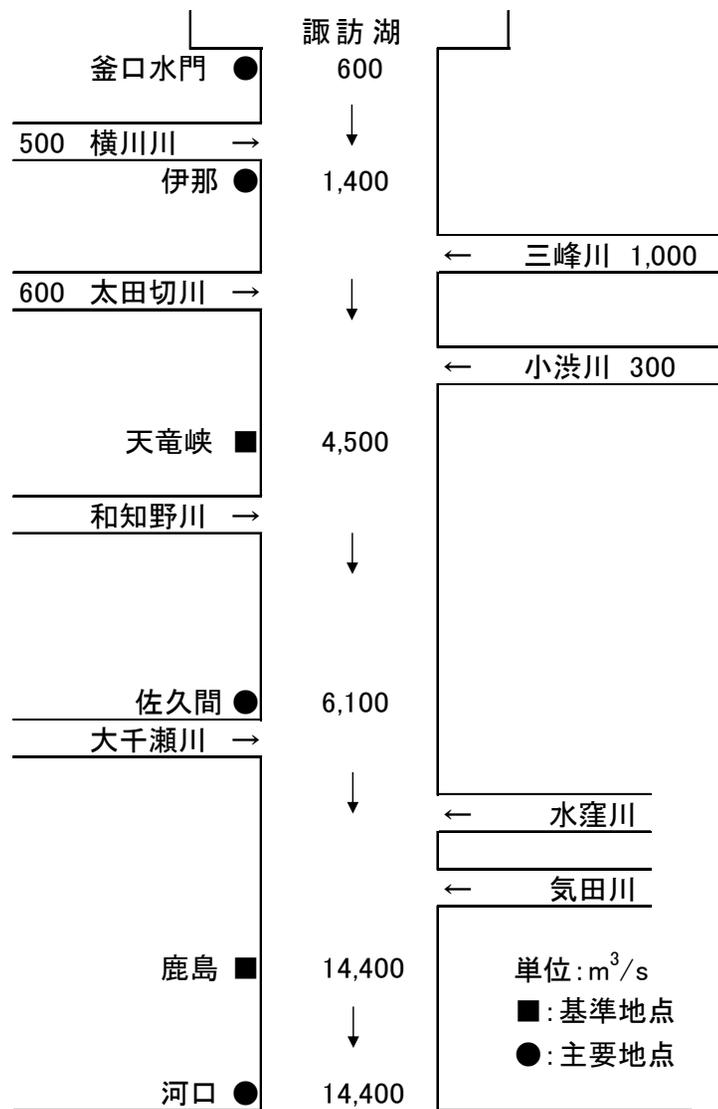
新豊根ダム

洪水調節図 (現運用・計画運用) 昭和43年8月型洪水



整備計画流量図

(天竜川)



遠州灘

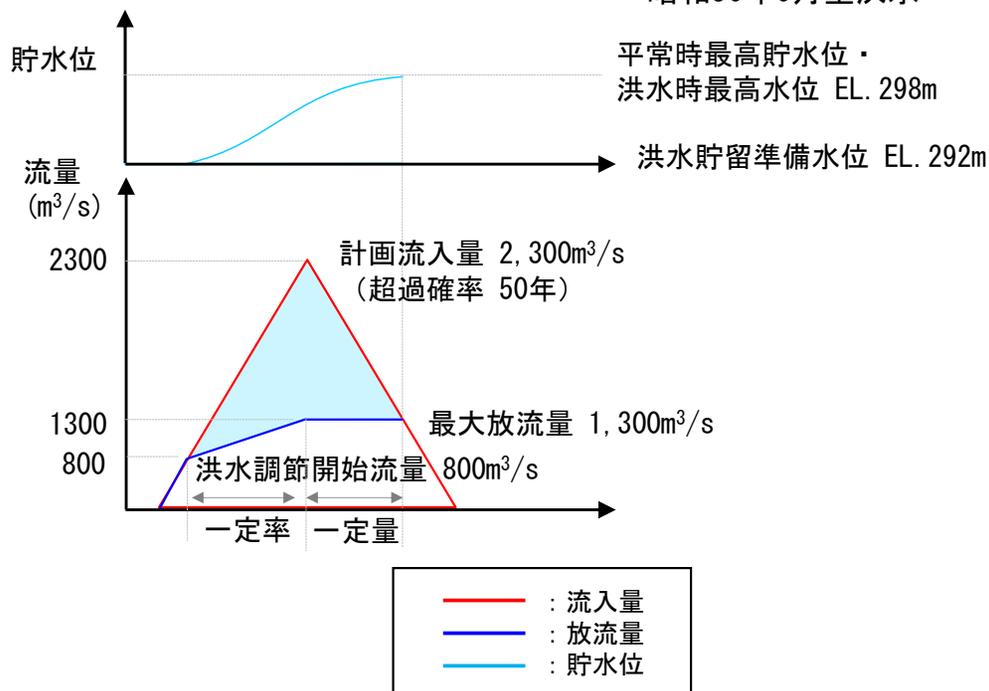
・「天竜川水系河川整備計画変更 R6.7」を基に作成

3. 防災操作

(1) 洪水調節図・流量配分図 (概念図)

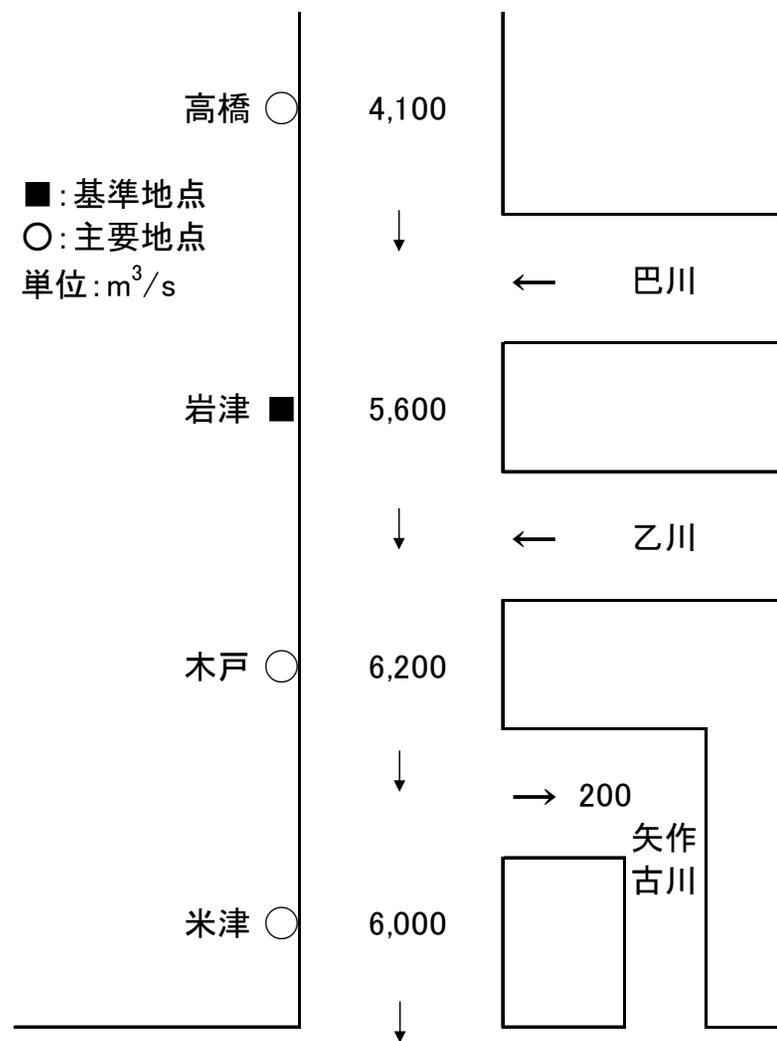
矢作ダム

洪水調節図 (現運用・計画運用) 昭和34年9月型洪水及び
昭和36年6月型洪水



整備計画流量図

(矢作川)

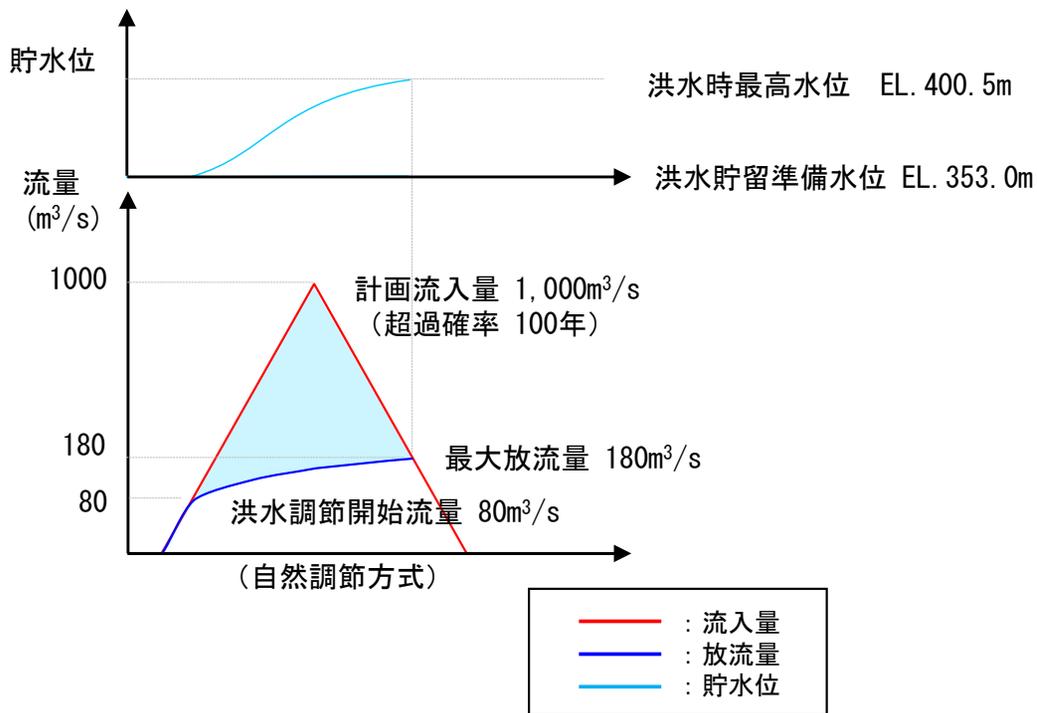


3. 防災操作

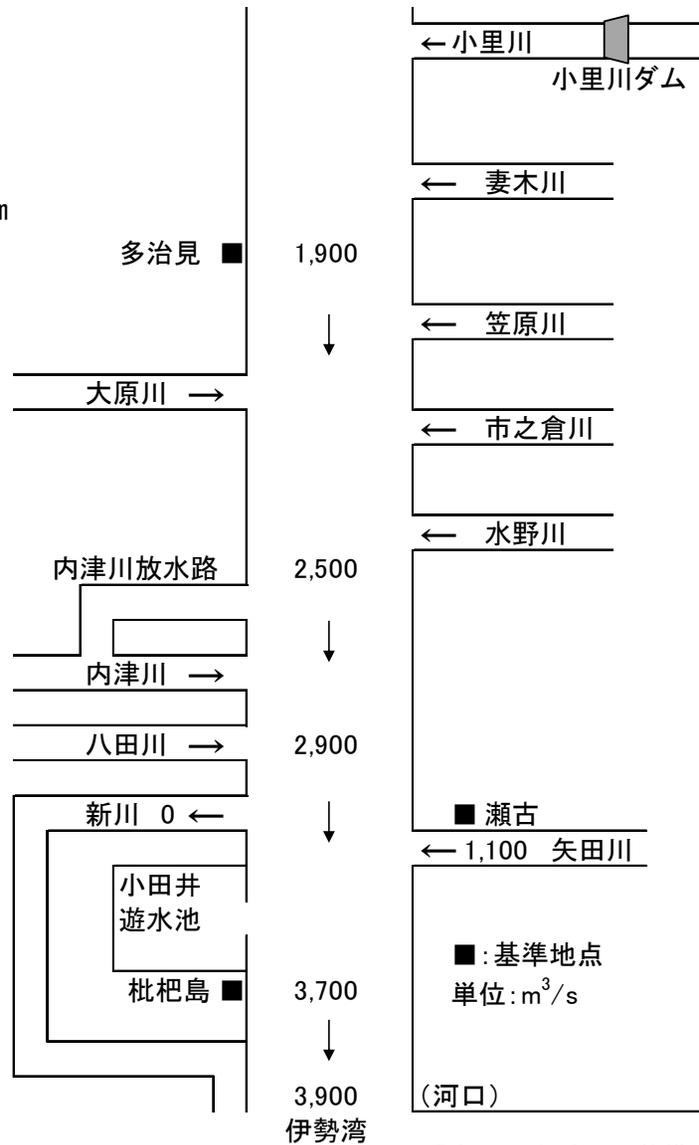
(1) 洪水調節図・流量配分図 (概念図)

小里川ダム

洪水調節図 (現運用・計画運用) 昭和58年9月型洪水



整備計画流量図 (庄内川)



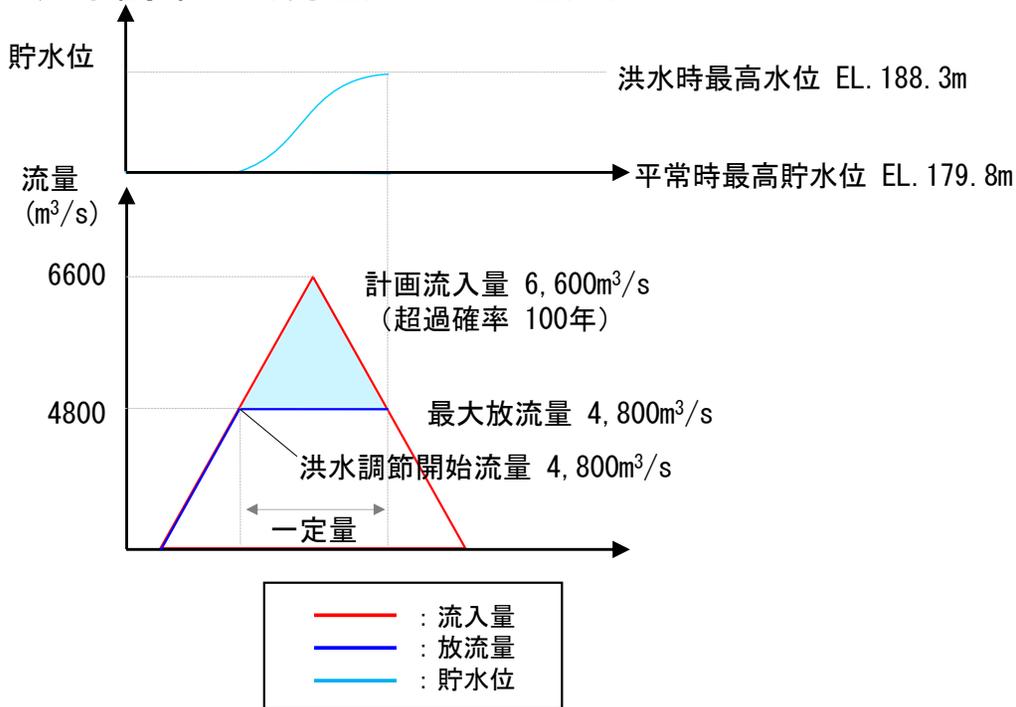
・「庄内川水系河川整備 計画H20.3」を基に作成

3. 防災操作

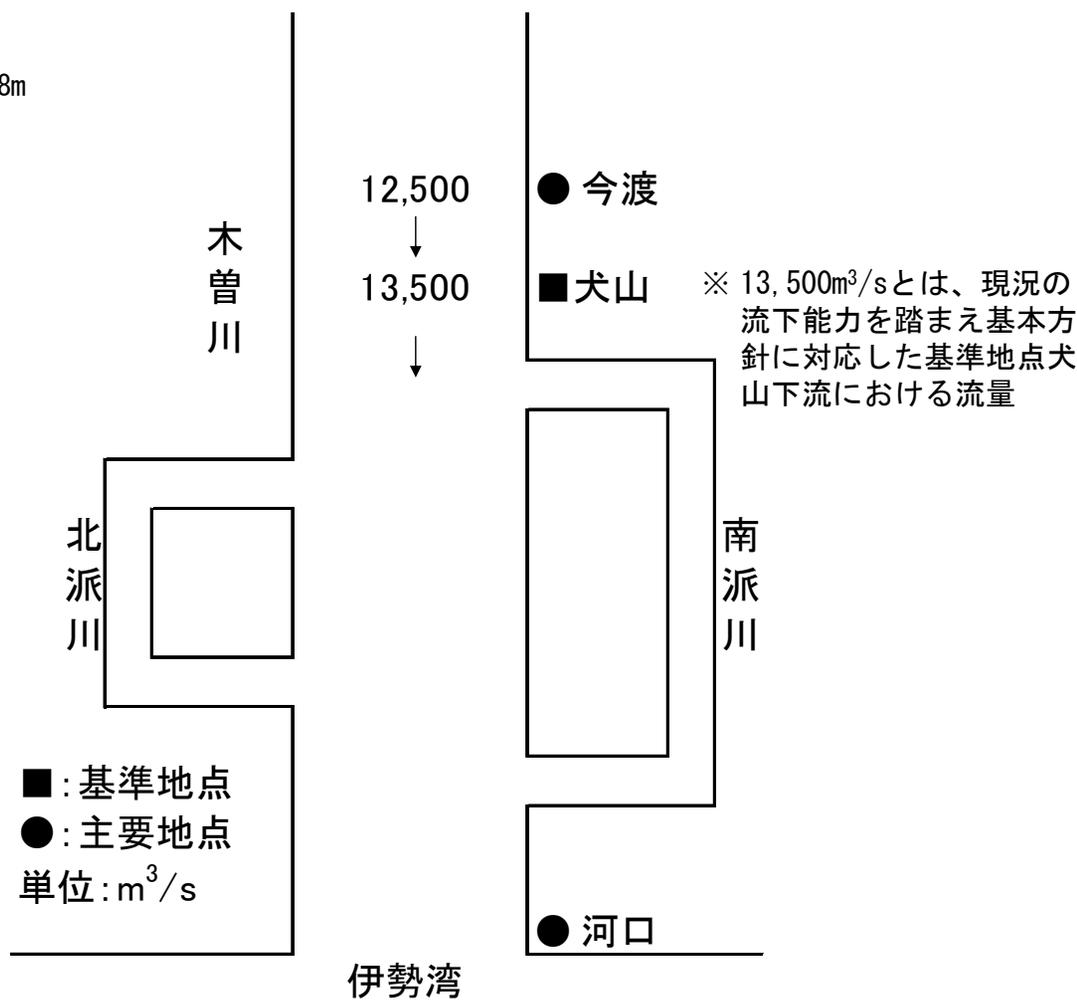
(1) 洪水調節図・流量配分図 (概念図)

丸山ダム

洪水調節図 (現運用・計画運用) 昭和13年7月洪水



整備計画流量図 (木曾川)



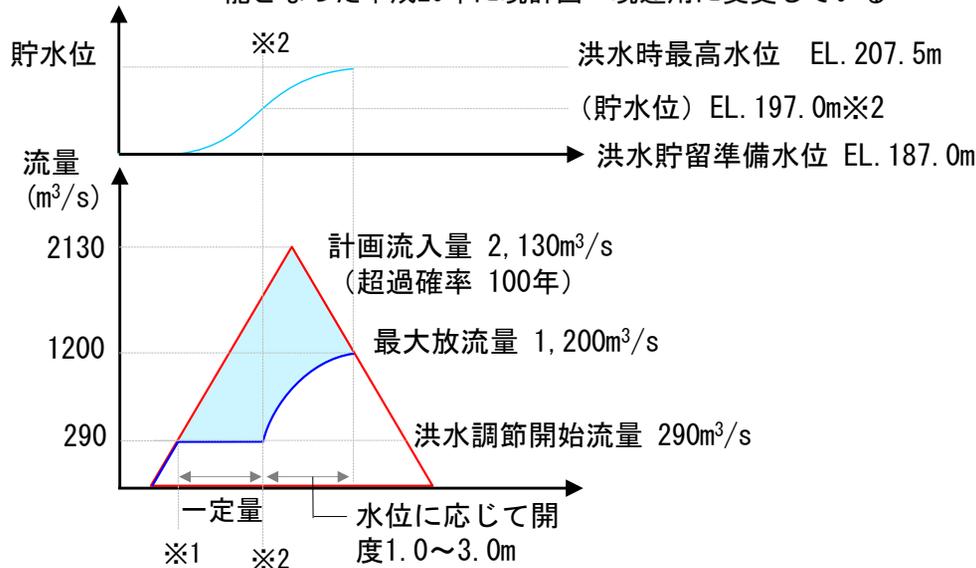
3. 防災操作

(1) 洪水調節図・流量配分図 (概念図)

横山ダム

洪水調節図 (現運用・計画運用) 昭和34年9月型洪水

徳山ダムが管理に移行し治水機能の強化及び連携操作が可能となった平成20年に現計画・現運用に変更している

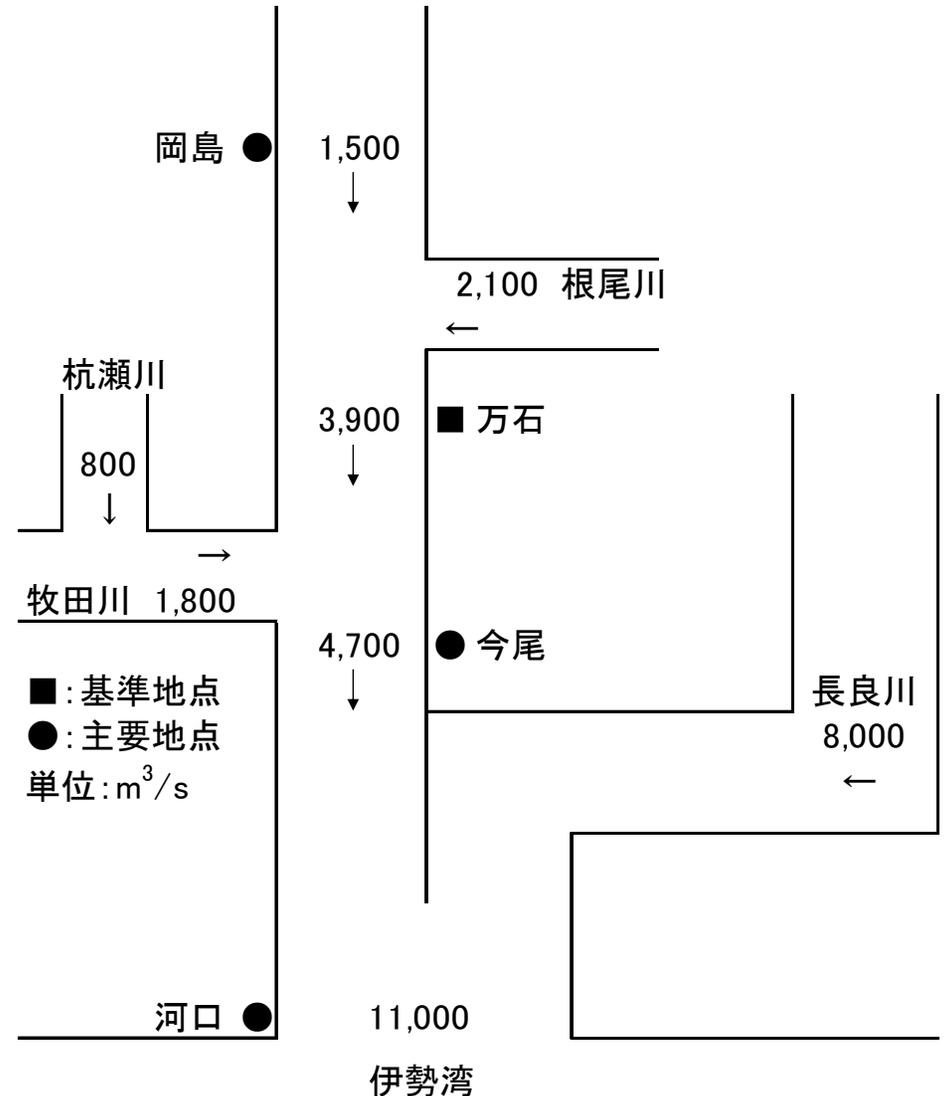


— : 流入量
— : 放流量
— : 貯水位

- ※1 流入量290m³/sで洪水調節を開始し290m³/sの一定量放流を行う。
- ※2 その後貯水位が197.0mを超えた場合、放流量を増加させ最大で1,200m³/sの放流を行う。

整備計画流量図

(揖斐川)

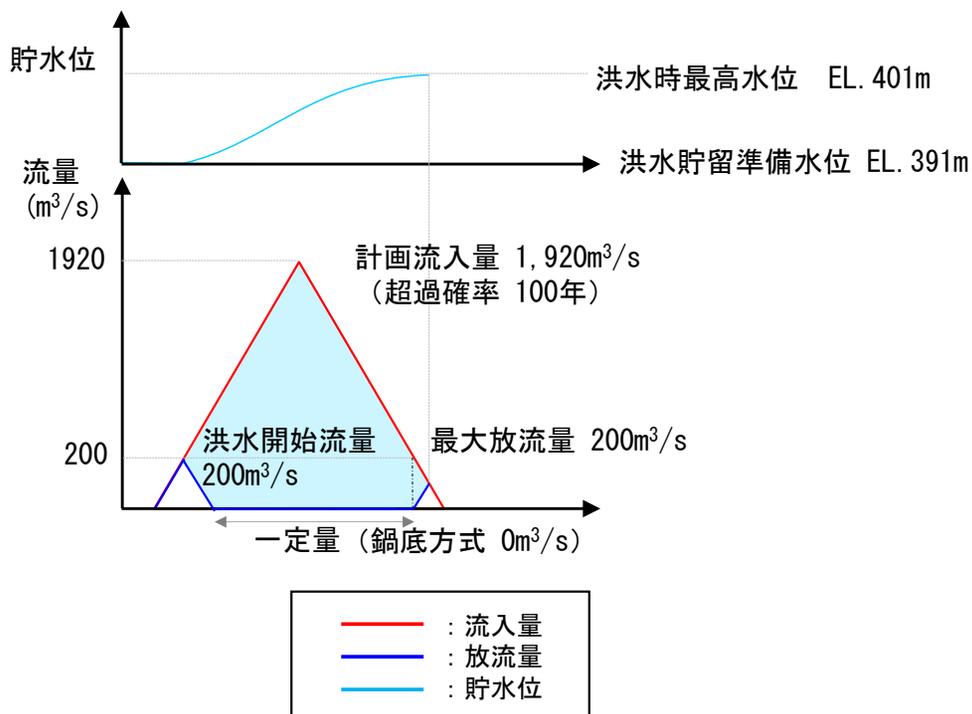


3. 防災操作

(1) 洪水調節図・流量配分図 (概念図)

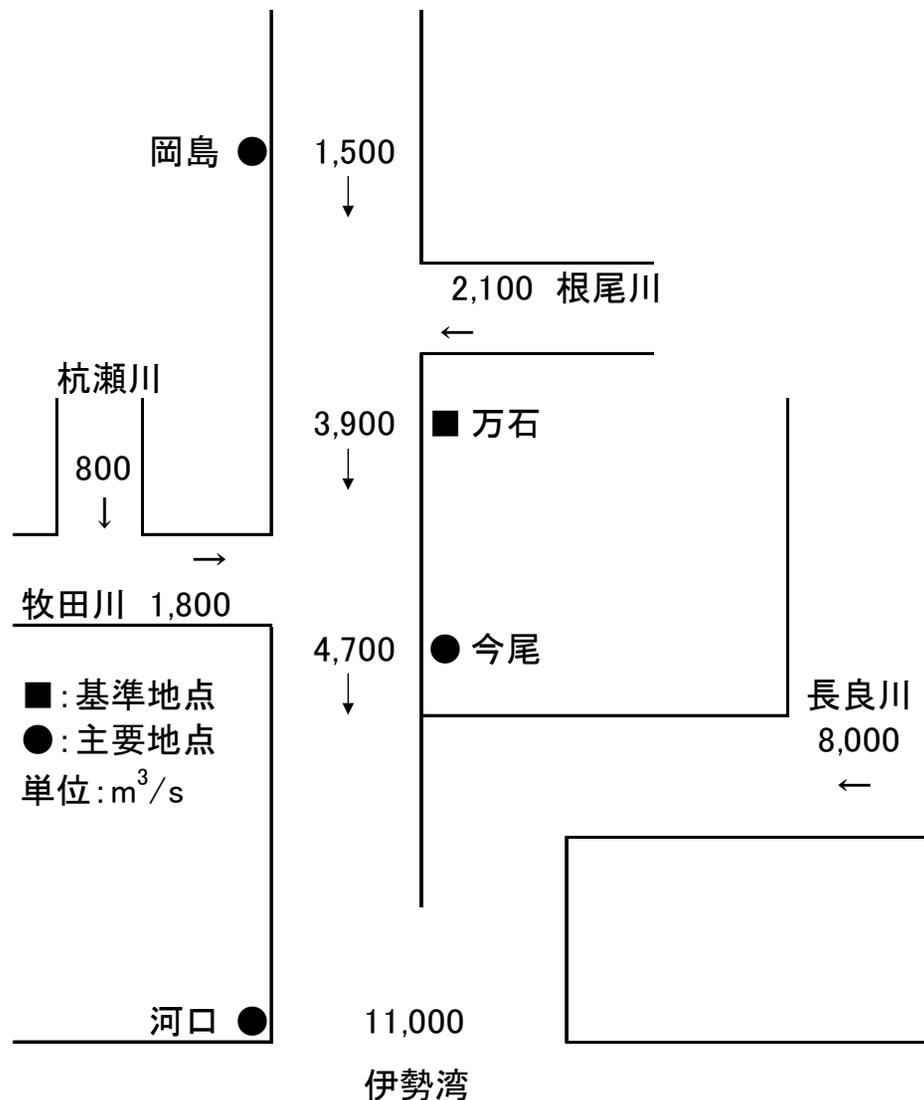
徳山ダム

洪水調節図 (現運用・計画運用) 昭和40年9月型洪水



整備計画流量図

(揖斐川)

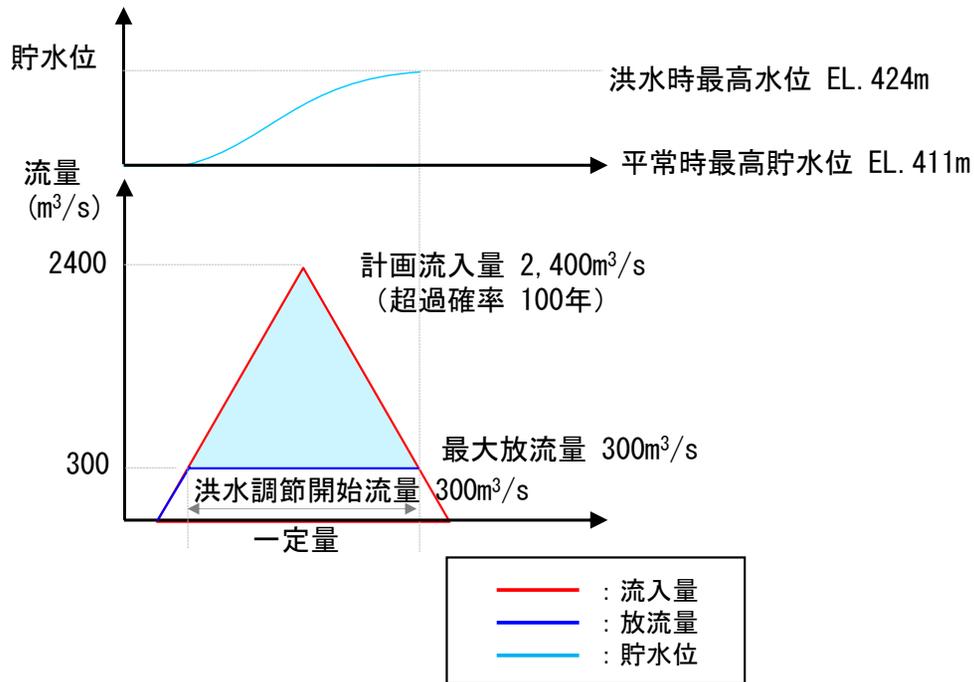


3. 防災操作

(1) 洪水調節図・流量配分図 (概念図)

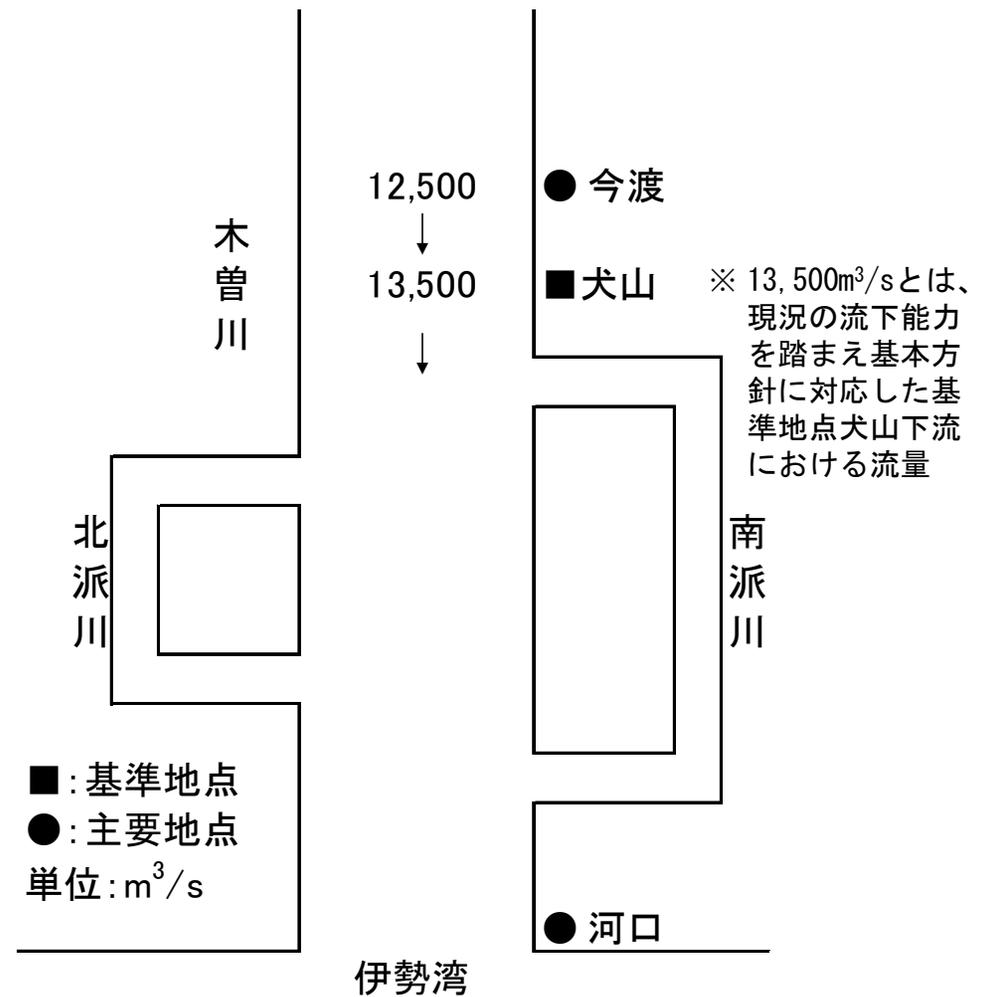
岩屋ダム

洪水調節図 (現運用・計画運用) 昭和35年8月型洪水



整備計画流量図

(木曾川)



伊勢湾

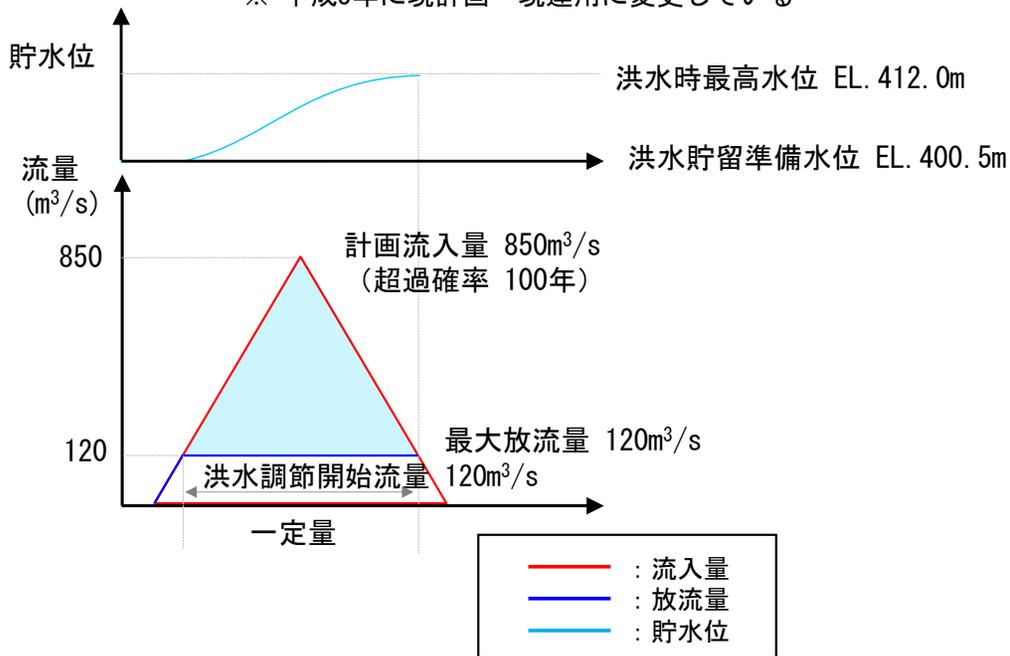
3. 防災操作

(1) 洪水調節図・流量配分図 (概念図)

阿木川ダム

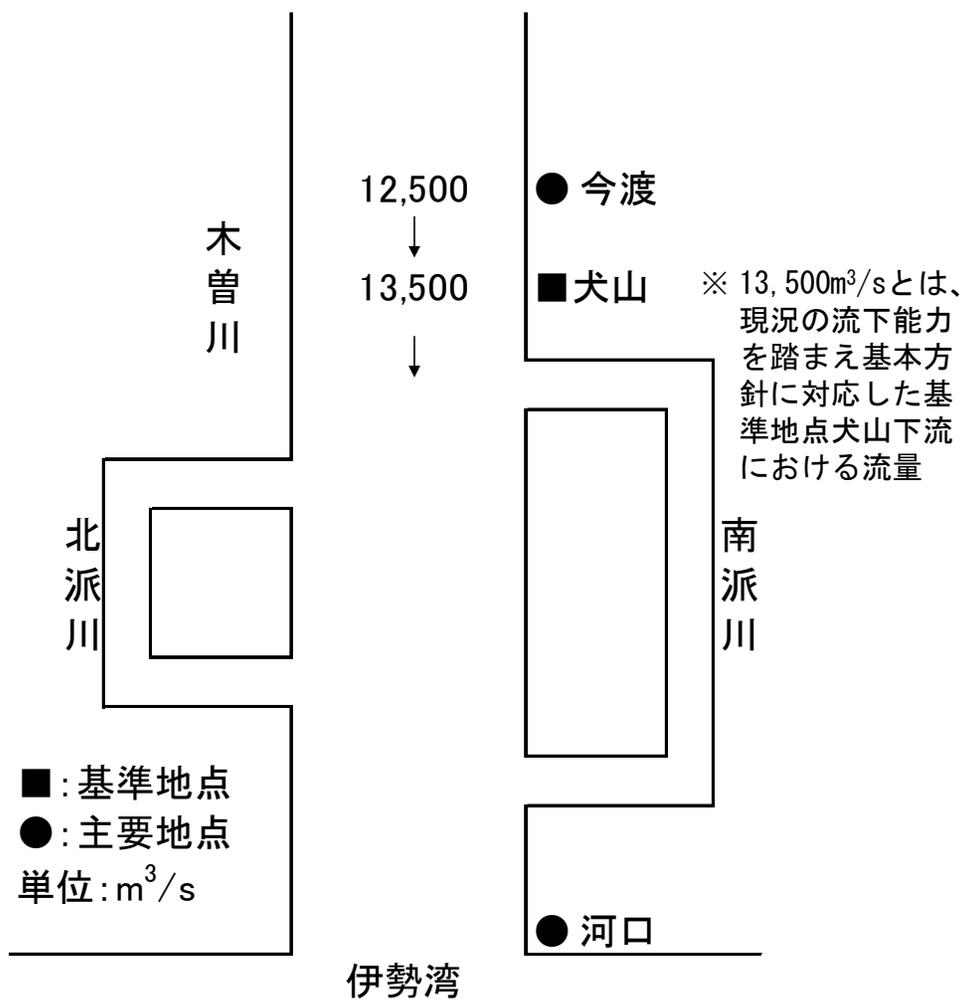
洪水調節図 (現運用・計画運用) 昭和13年7月型洪水

※ 平成3年に現計画・現運用に変更している



整備計画流量図

(木曽川)



伊勢湾

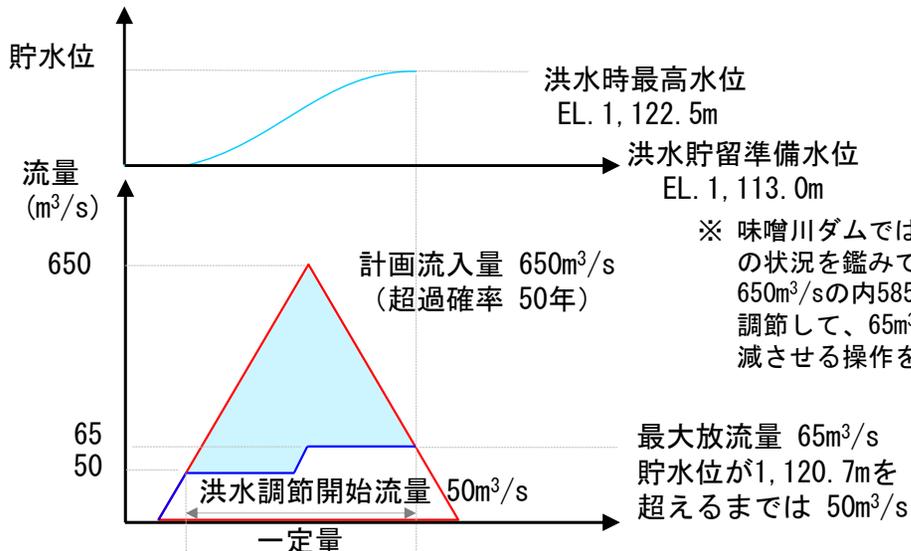
3. 防災操作

(1) 洪水調節図・流量配分図 (概念図)

味噌川ダム

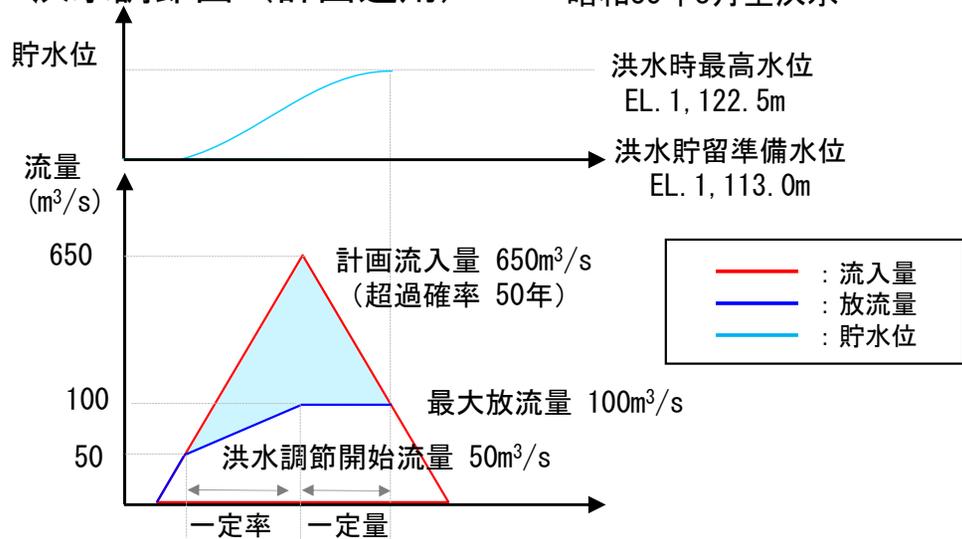
洪水調節図 (現運用)

昭和35年8月型洪水



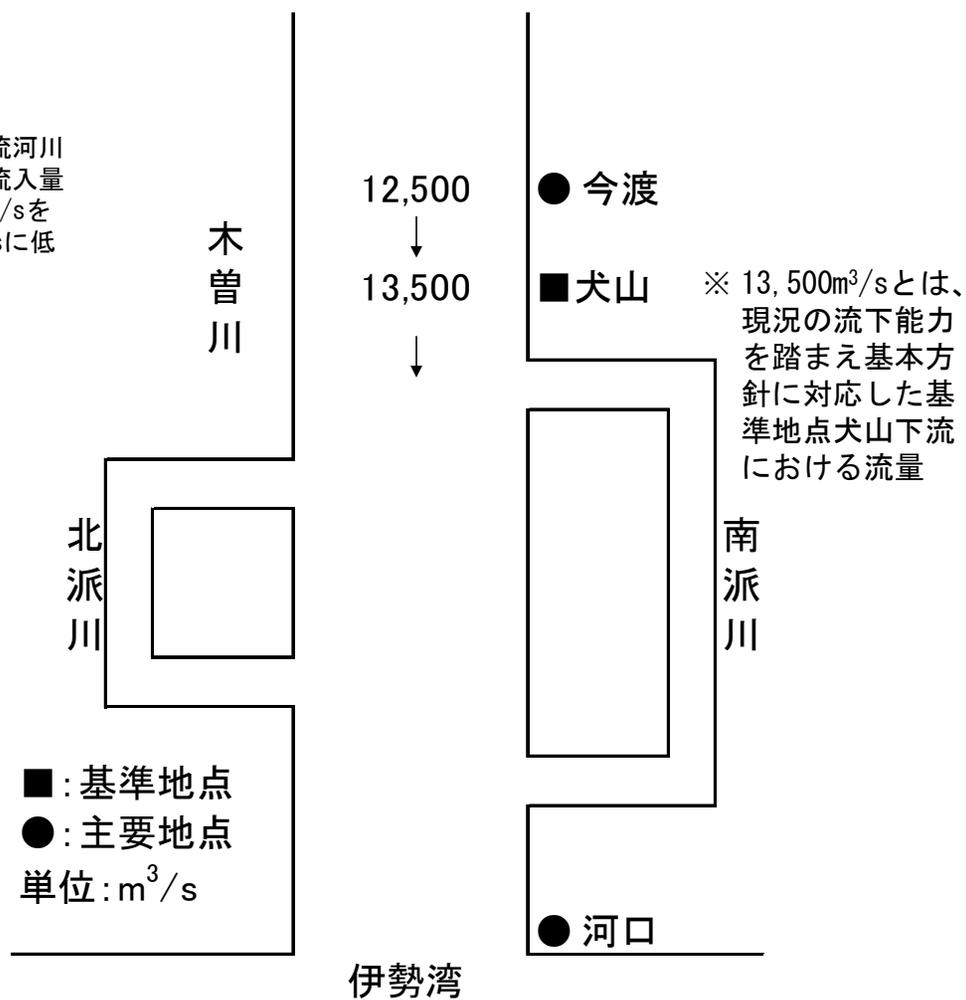
洪水調節図 (計画運用)

昭和35年8月型洪水



整備計画流量図

(木曽川)

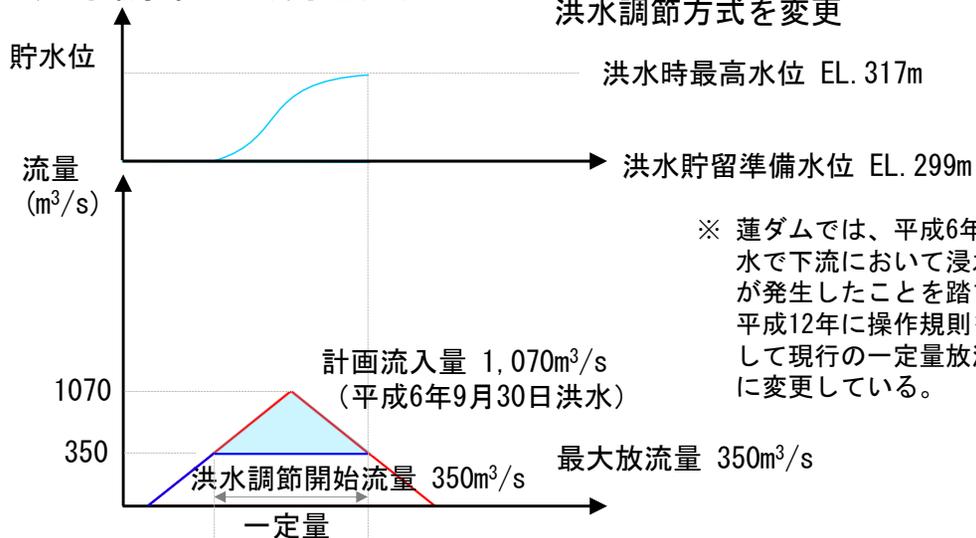


3. 防災操作

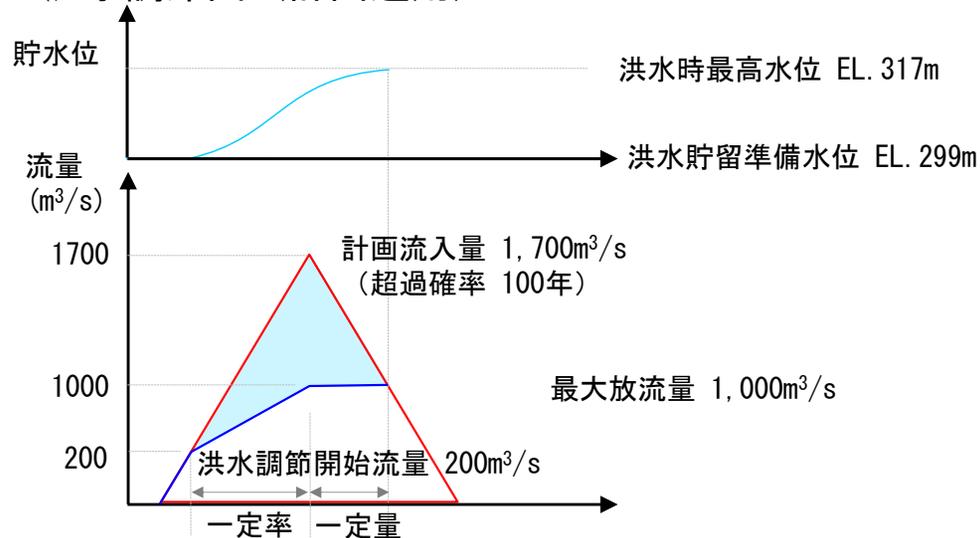
(1) 洪水調節図・流量配分図 (概念図)

蓮ダム

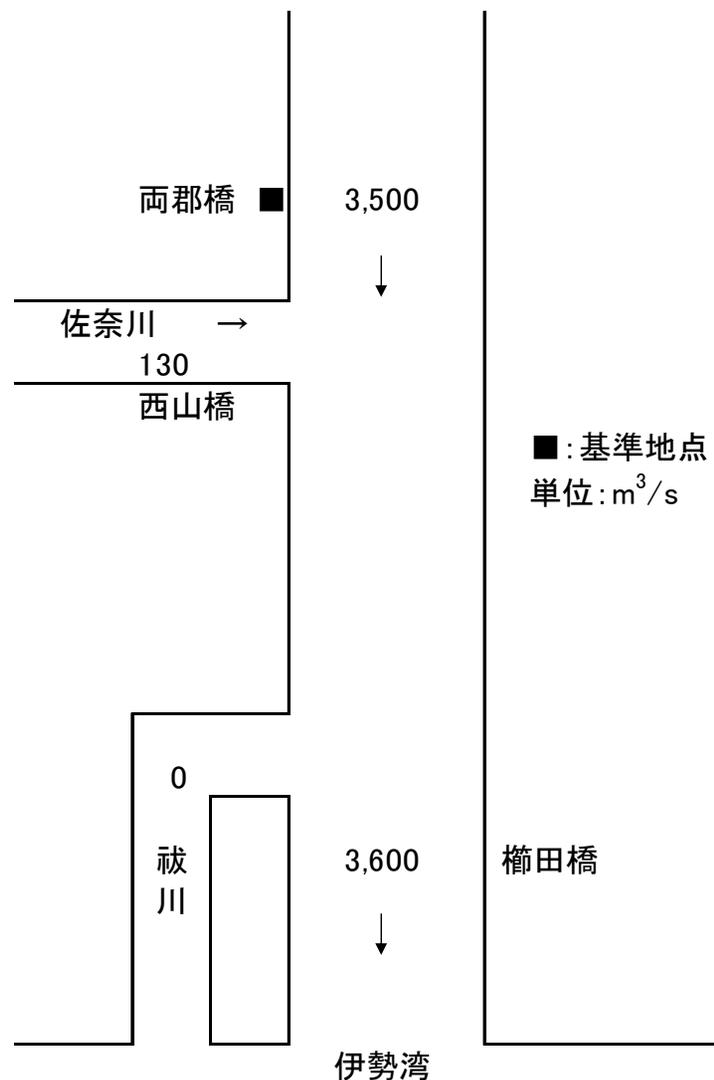
洪水調節図 (現運用)



洪水調節図 (計画運用)



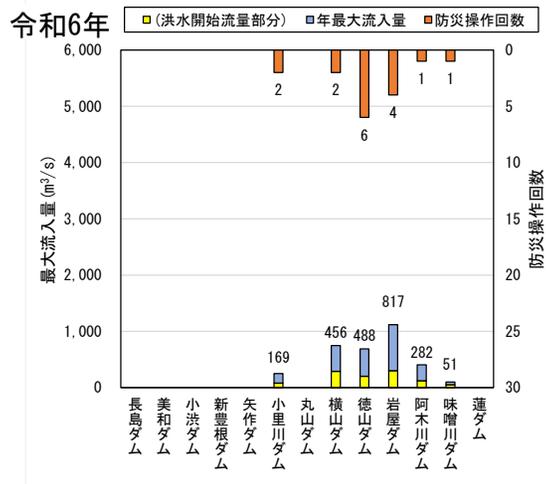
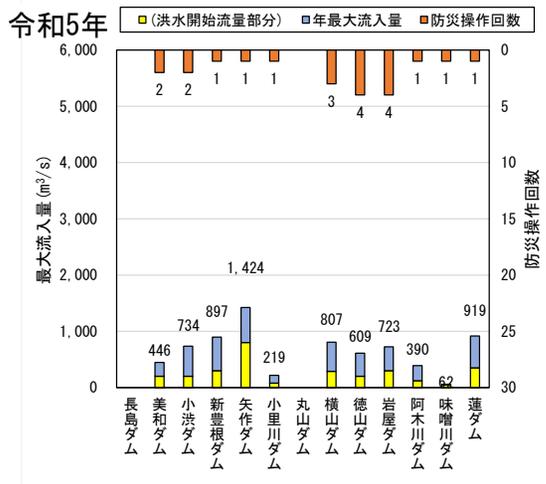
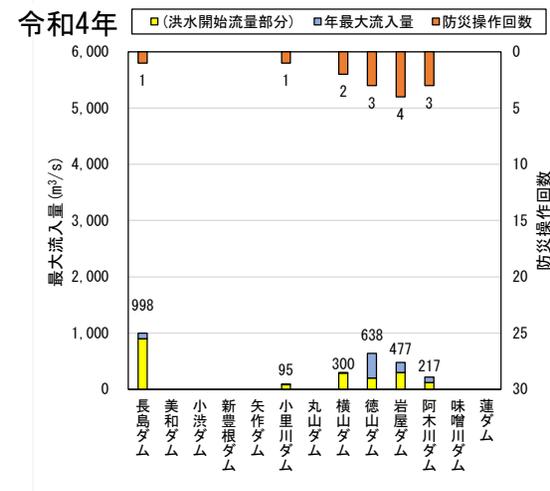
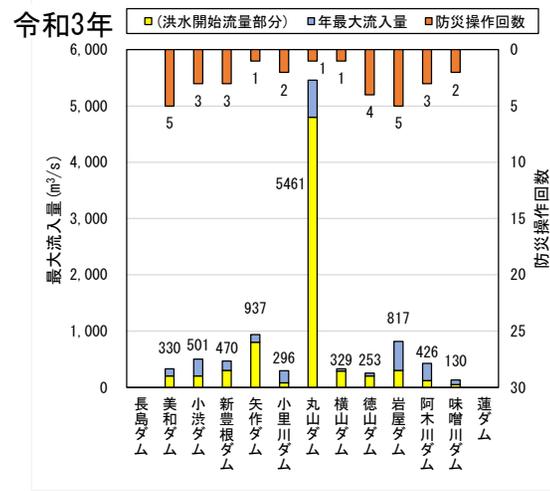
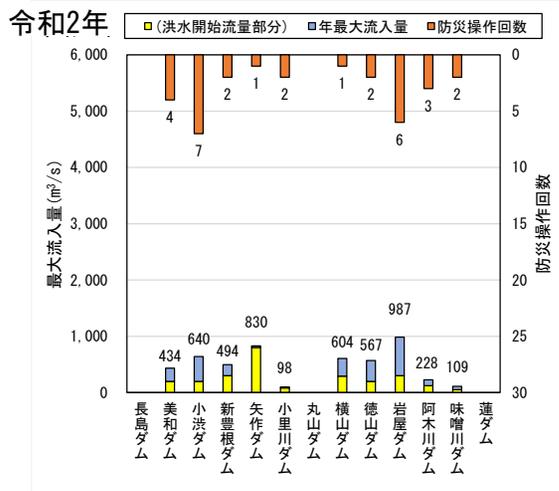
整備計画流量図 (櫛田川)



3. 防災操作

(2) 各ダムでの防災操作

- 令和6年の防災操作は、2水系・6ダムにおいて計16回（小里川ダム2回、横山ダム2回、徳山ダム6回、岩屋ダム4回、阿木川ダム1回、味噌川ダム1回）であり、近年の平均的な回数（5年間で22.2回）より少ない結果となった。
- 矢作川水系以東の水系のダム及び例年防災操作回数の少ない蓮ダムにおいては、令和6年は防災操作の実施に至らなかった。



各ダムの防災操作回数

	長島ダム	美和ダム	小洪ダム	新豊根ダム	矢作ダム	小里川ダム	丸山ダム
令和2年	0	4	7	2	1	2	0
令和3年	0	5	3	3	1	2	1
令和4年	1	0	0	0	0	1	0
令和5年	0	2	2	1	1	1	0
令和6年	0	0	0	0	0	2	0
平均	0.2	2.2	2.4	1.2	0.6	1.6	0.2
	横山ダム	徳山ダム	岩屋ダム	阿木川ダム	味噌川ダム	蓮ダム	合計
令和2年	1	2	6	3	2	0	30
令和3年	1	4	5	3	2	0	30
令和4年	2	3	4	3	0	0	14
令和5年	3	4	4	1	1	1	21
令和6年	2	6	4	1	1	0	16
平均	1.8	3.8	4.6	2.2	1.2	0.2	22.2

3. 防災操作

(2) 各ダムの防災操作

- 令和6年に防災操作を実施した主な洪水の発生要因は、前線（3月、5月、6月、7月、11月）、台風第10号（8月）である。

水系名	ダム名	防災操作 開始流量	防災操作 実施日	要因	総雨量	最大流入量 (A)	最大放流量 (B)	最大流入量 時放流量 (C)	調節量 (A-C)
		(m ³ /s)			(mm)	(m ³ /s)	(m ³ /s)	(m ³ /s)	(m ³ /s)
庄内川	小里川	80	2024/7/16	前線	144.1	168.82	63.61	49.89	118.93
			2024/8/31	台風第10号	114.7	87.71	46.36	31.74	55.97
木曾川	横山	290	2024/6/23	前線	224.0	372.19	288.11	286.65	85.54
			2024/8/31	台風第10号	281.1	456.38	287.06	264.72	191.66
	徳山	200	2024/5/28	前線	133.3	272.94	97.42	97.42	175.52
			2024/6/23	前線	222.5	348.79	160.72	0.00	348.79
			2024/6/23	(2山目)		224.75		14.92	209.83
			2024/7/1	前線	140.5	242.89	147.09	0.00	242.89
			2024/7/15	前線	71.3	212.15	123.03	98.11	114.04
			2024/8/31	台風第10号	206.6	487.54	18.17	0.00	487.54
			2024/11/2	低気圧	82.9	224.88	39.14	18.16	206.72
	岩屋	300	2024/3/29	前線	125.4	383.58	0.00	0.00	383.58
			2024/5/28	前線	260.5	816.63	291.87	163.28	653.35
			2024/7/1	前線	190.9	538.84	247.53	146.64	392.20
			2024/11/2	前線	107.1	359.41	153.38	100.14	259.27
	阿木川	120	2024/7/16	前線	94.9	282.05	110.78	22.23	259.82
味噌川	50	2024/7/1	前線	118.0	50.76	49.83	49.74	1.02	

防災操作実施日凡例

6月に実施 7月に実施 8月に実施
 (白色はその他の月に実施)

3. 防災操作

(2) 各ダムの防災操作 (小里川ダム) <44>

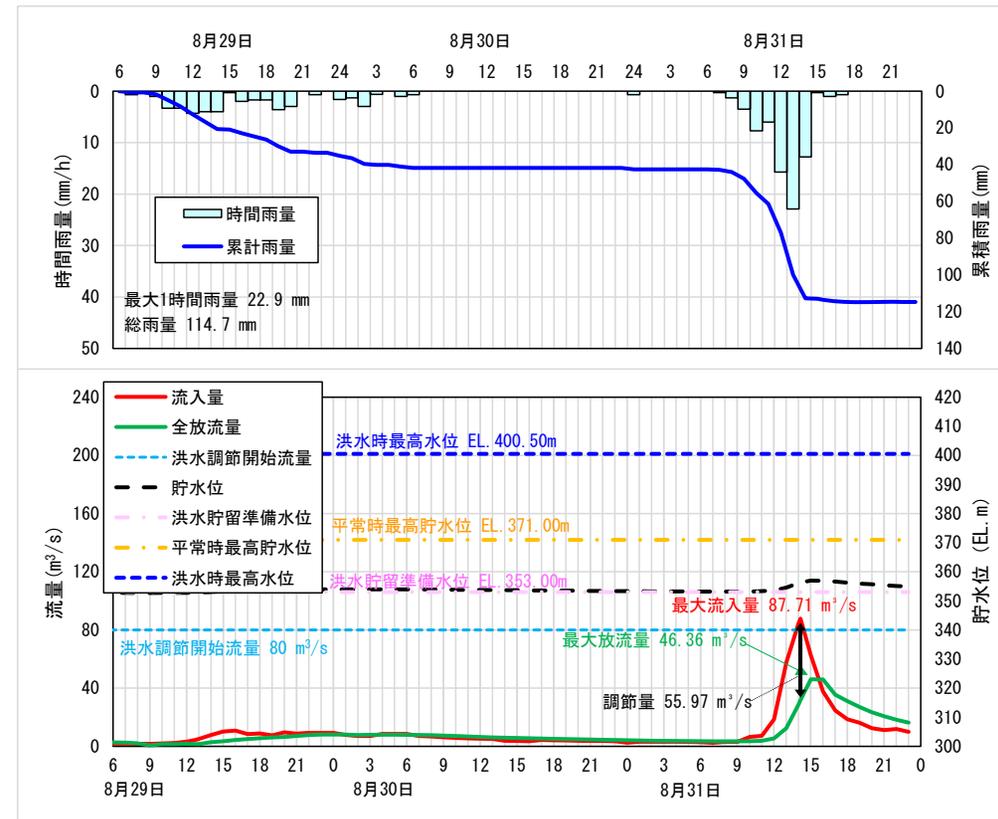
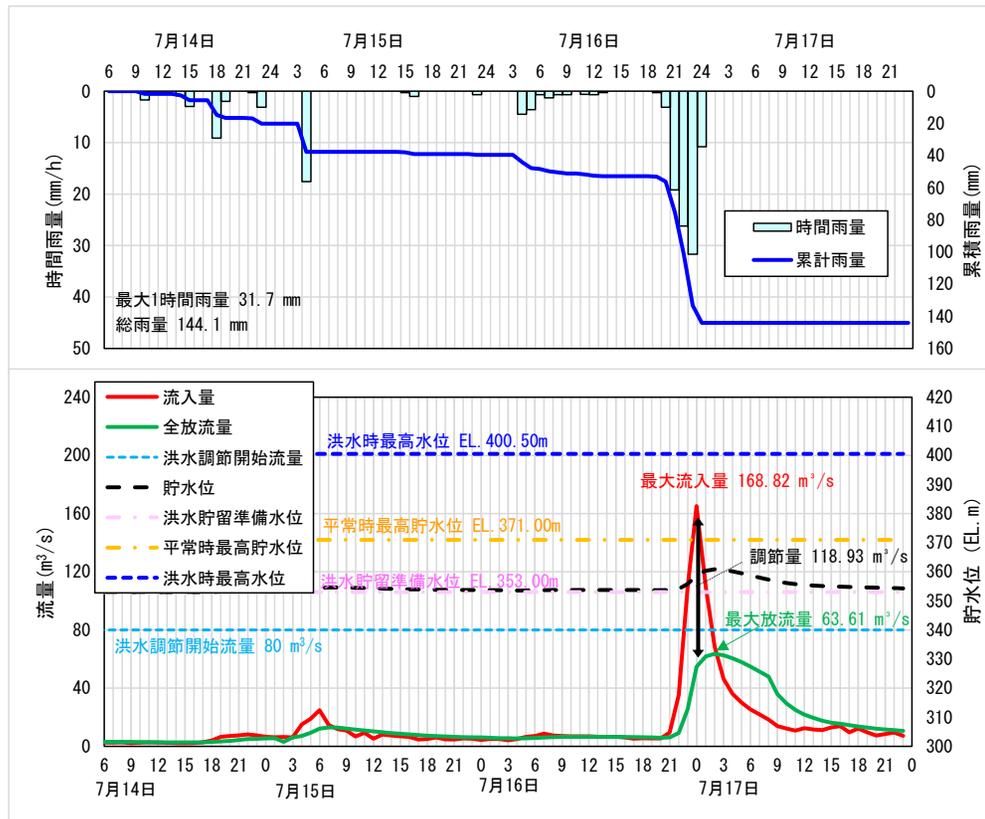
- 令和6年は2回の防災操作を行い、7月16日洪水では最大流入量 $168.82\text{m}^3/\text{s}$ に対し調節量 $118.93\text{m}^3/\text{s}$ 、8月31日洪水では最大流入量 $87.71\text{m}^3/\text{s}$ に対し調節量 $55.97\text{m}^3/\text{s}$ とする洪水調節を実施した。

【洪水の原因となった気象概要】

前線の影響により、7月14日9時から7月17日2時までの65時間で 144.1mm の降雨を観測した。

【洪水の原因となった気象概要】

台風第10号の影響により、8月29日6時から8月31日17時までの59時間で 114.7mm の降雨を観測した。



3. 防災操作

(2) 各ダムの防災操作 (横山ダム)

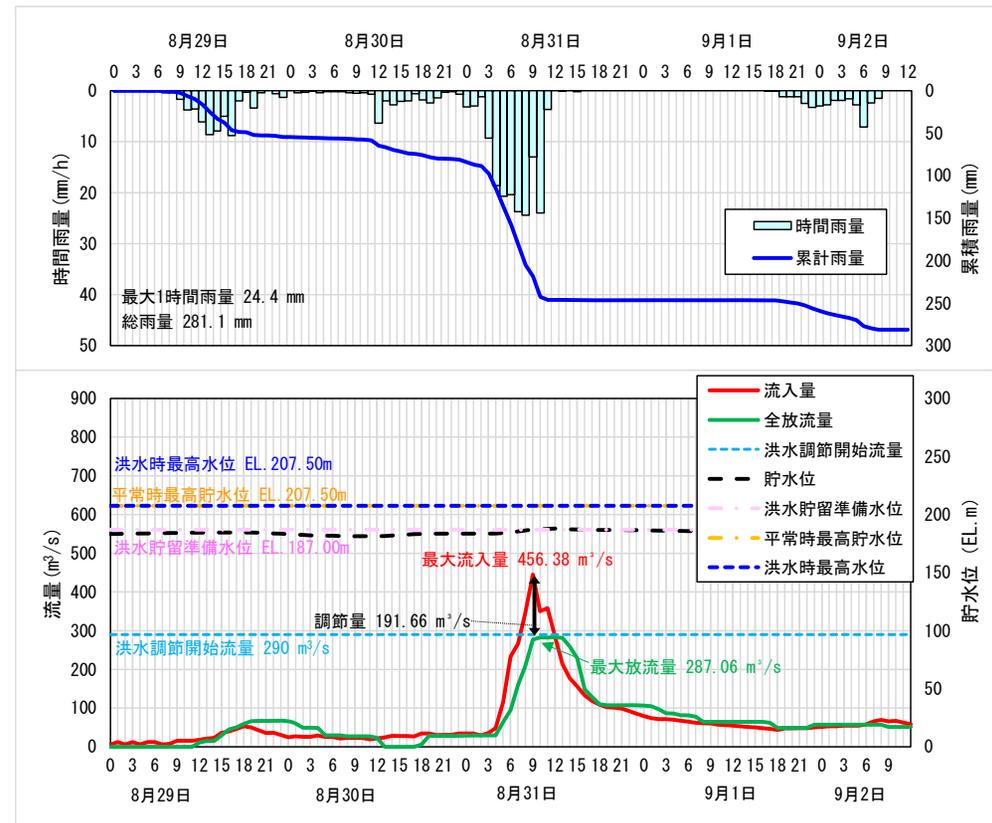
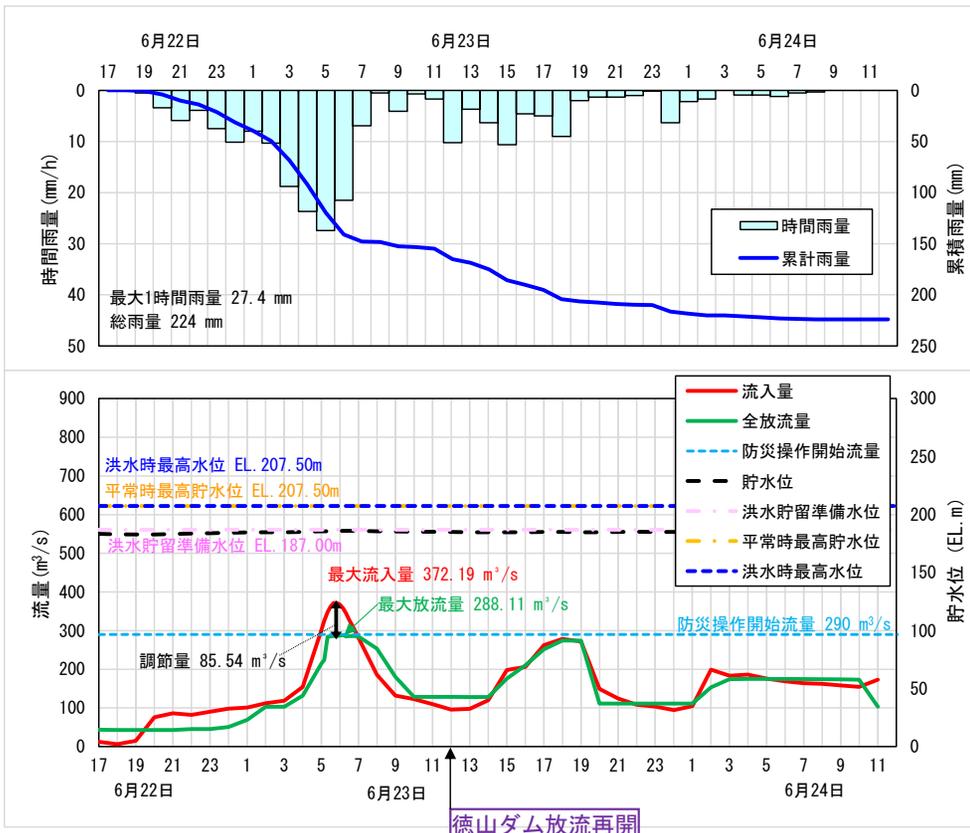
- 令和6年は2回の防災操作を行った。6月23日洪水では徳山ダムとの連携により、23日15時頃から徳山ダム放流再開に伴う流入量・放流量の上昇がみられた。8月31日洪水は当年最大の洪水であり、最大流入量 $456.38\text{m}^3/\text{s}$ に対し調節量 $191.66\text{m}^3/\text{s}$ とする洪水調節を実施している。

【洪水の原因となった気象概要】

前線の影響により、6月22日18時から6月24日11時までの42時間で、224.0mmの降雨を観測した。

【洪水の原因となった気象概要】

台風第10号の影響により、8月29日0時から9月2日12時までの108時間で、281.1mmの降雨を観測した。



3. 防災操作

(2) 各ダムでの防災操作 (徳山ダム)

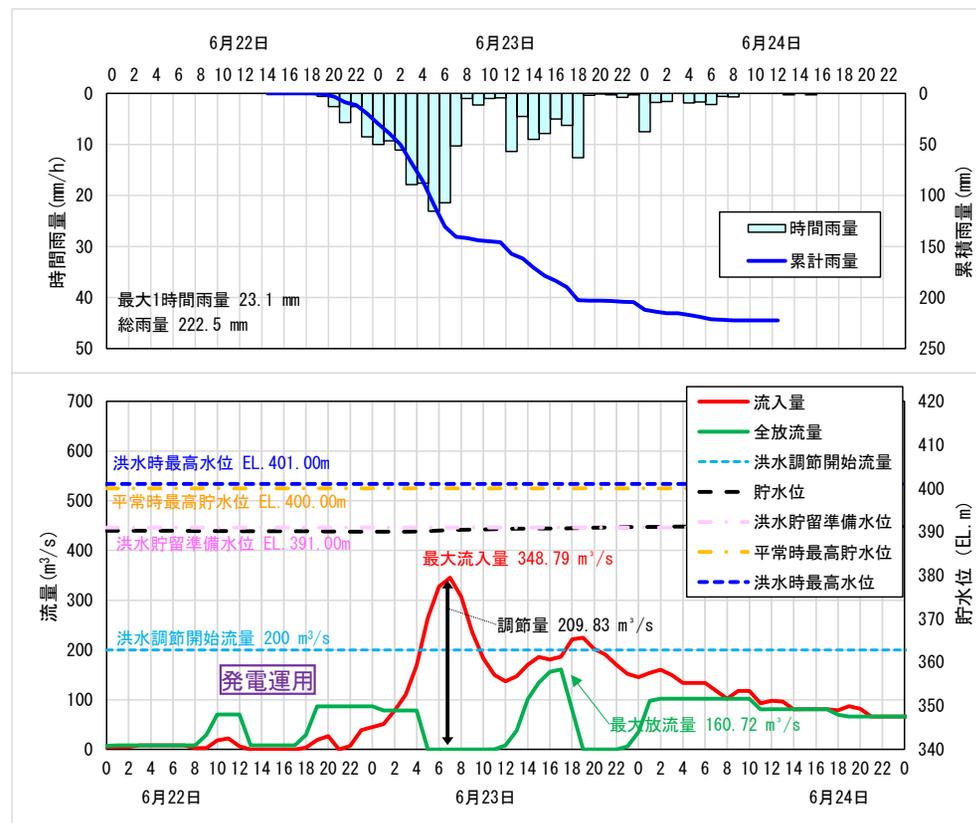
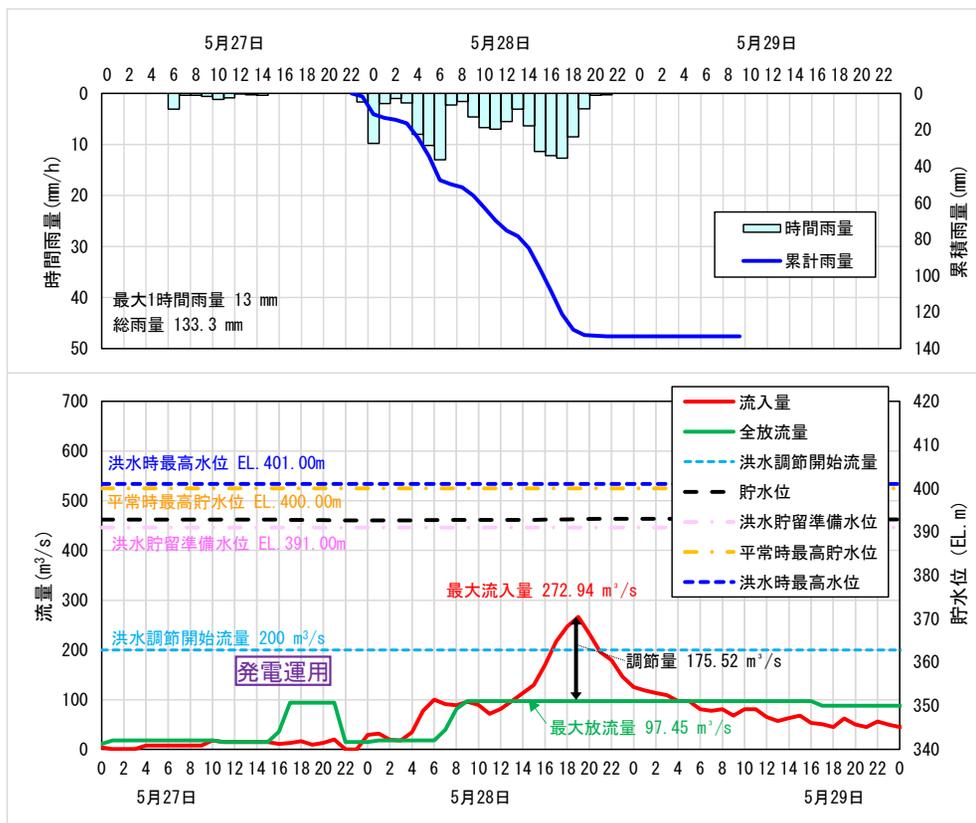
- 令和6年は6回の防災操作を行った。各出水前には必要に応じて流入量の増加に備え放流量を発電運用により増加させている。最大流入量は5月28日洪水が272.94m³/s、6月23日洪水が348.79m³/s、7月1日洪水が242.89m³/s、7月15日洪水が212.15m³/s、8月31日洪水が487.54m³/s、11月2日洪水が224.88m³/sであった。

【洪水の原因となった気象概要】

前線の影響により、5月27日23時から5月28日21時までの22時間で133.3mmの降雨を観測した。

【洪水の原因となった気象概要】

前線の影響により、6月22日19時から6月24日10時までの39時間で、222.5mmの降雨を観測した。



3. 防災操作

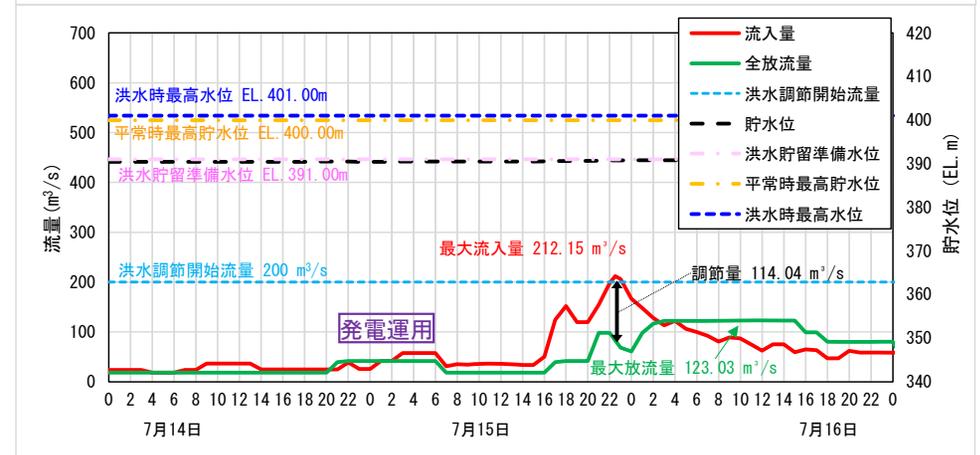
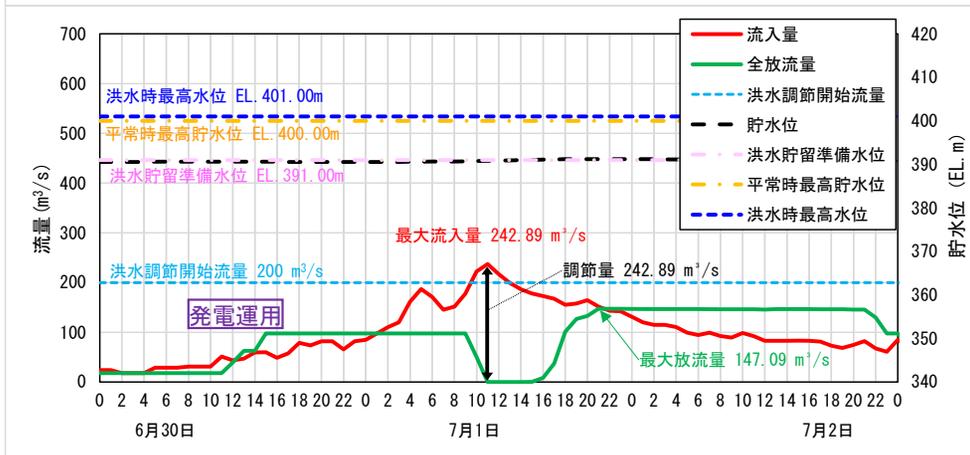
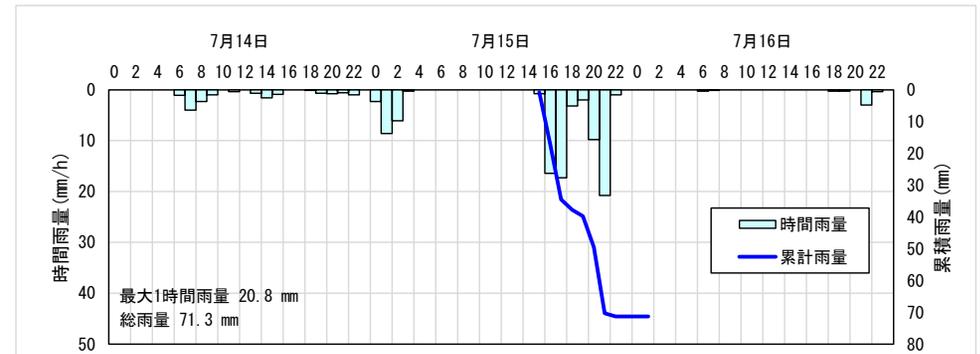
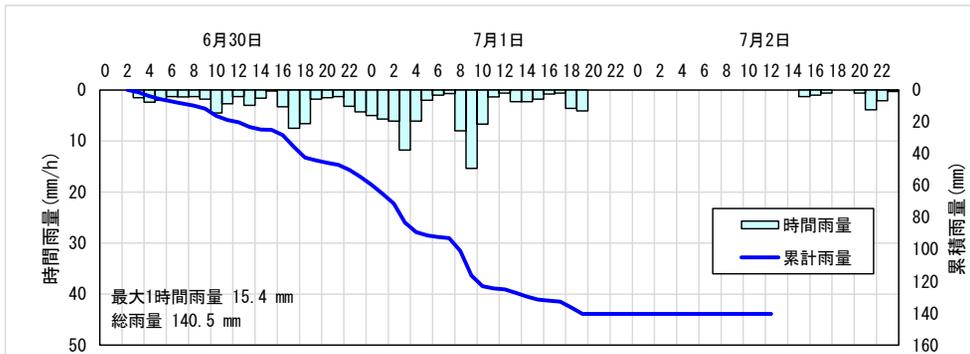
(2) 各ダムの防災操作 (徳山ダム)

【洪水の原因となった気象概要】

前線の影響により、6月30日2時から7月1日20時までの42時間で140.5mmの降雨を観測した。

【洪水の原因となった気象概要】

前線の影響により、7月15日14時から7月15日22時までの7時間で71.3mmの降雨を観測した。



3. 防災操作

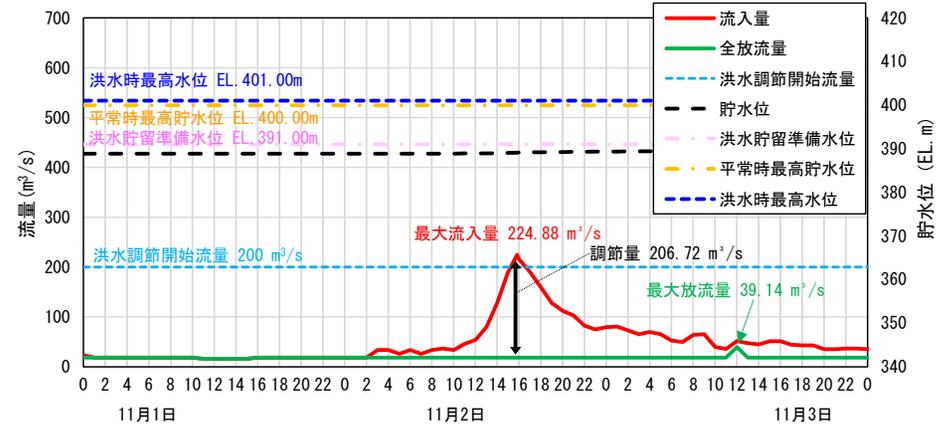
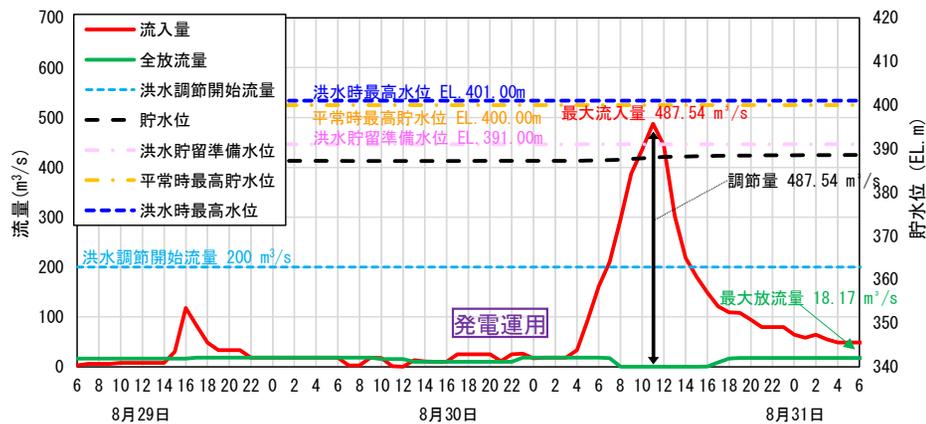
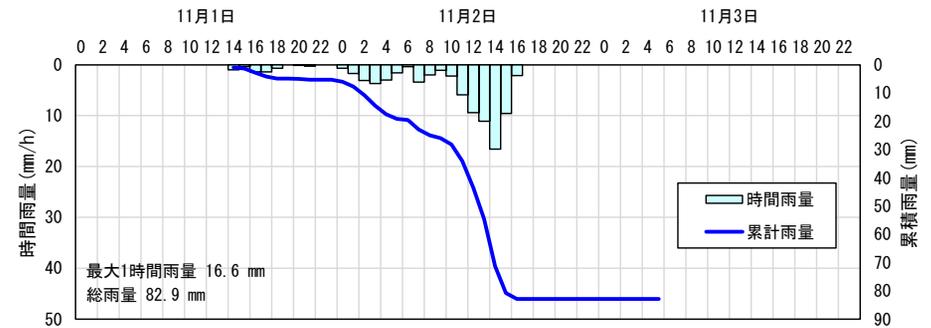
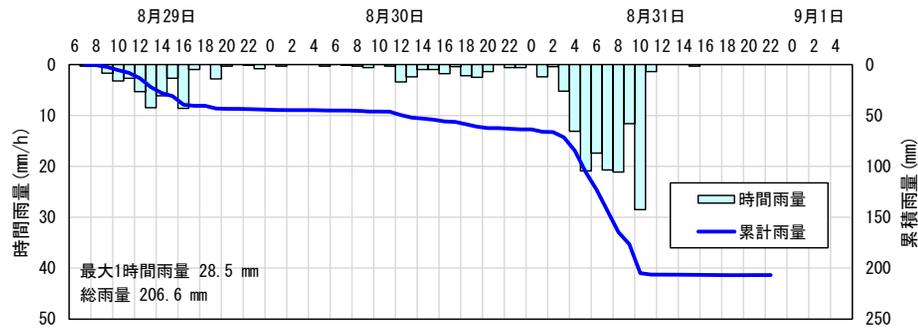
(2) 各ダムの防災操作 (徳山ダム)

【洪水の原因となった気象概要】

台風第10号の影響により、8月29日6時から8月31日15時までの57時間で206.6mmの降雨を観測した。

【洪水の原因となった気象概要】

低気圧の影響により、11月1日13時から11月2日16時までの27時間で82.9mmの降雨を観測した。



3. 防災操作

(2) 各ダムでの防災操作 (岩屋ダム)

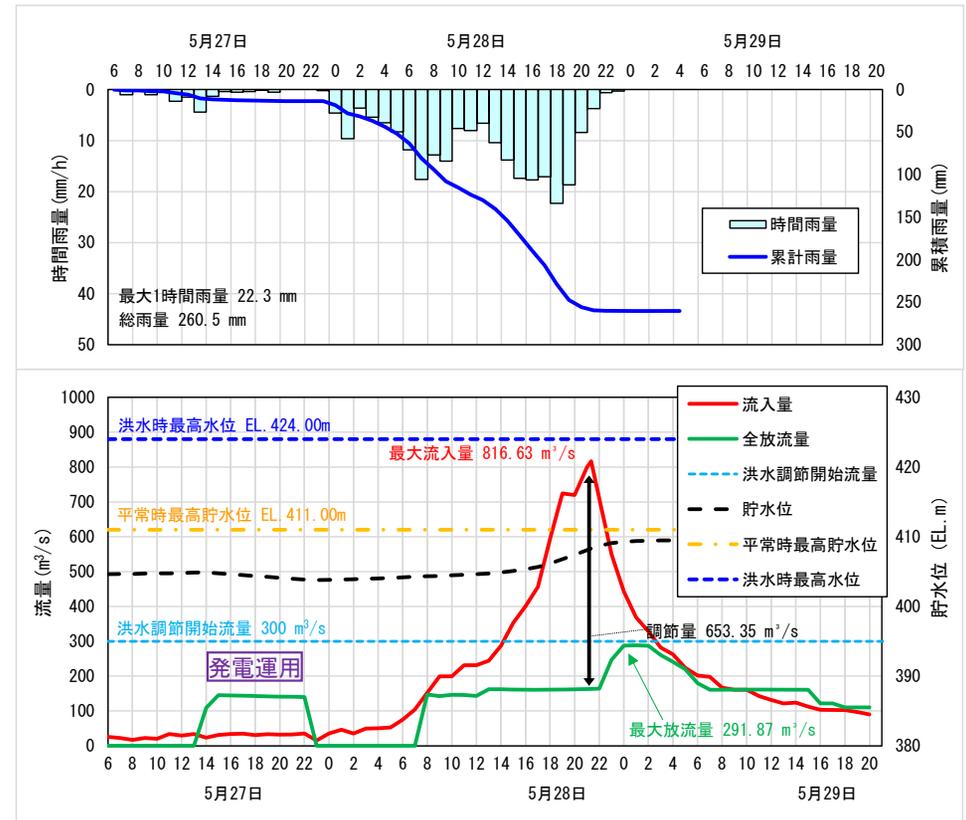
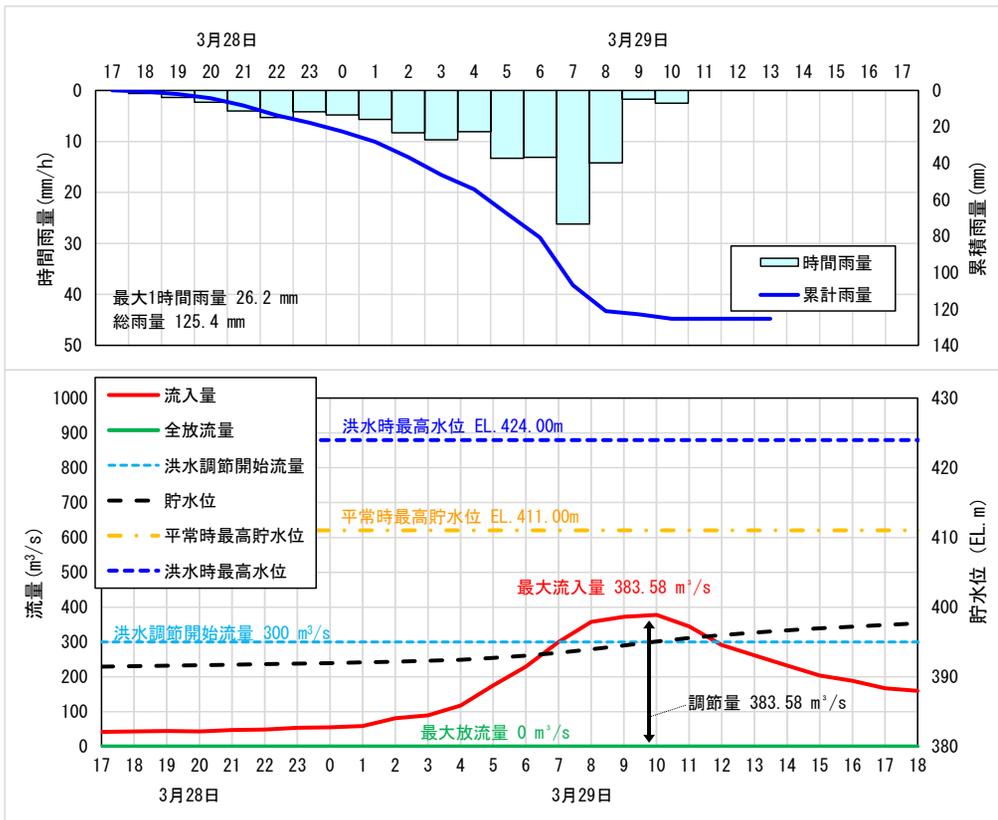
- 令和6年は4回の防災操作を行った。各出水前には必要に応じて流入量の増加に備え放流量を発電運用により増加させている。最大流入量は3月29日洪水が383.58m³/s、5月28日洪水が816.63m³/s、7月1日洪水が538.84m³/s、11月2日洪水が359.41m³/sであった。

【洪水の原因となった気象概要】

前線の影響により、3月28日17時から3月29日10時までの17時間で125.4mmの降雨を観測した。

【洪水の原因となった気象概要】

前線の影響により、5月27日6時から28日23時までの42時間で260.5mmの降雨を観測した。



3. 防災操作

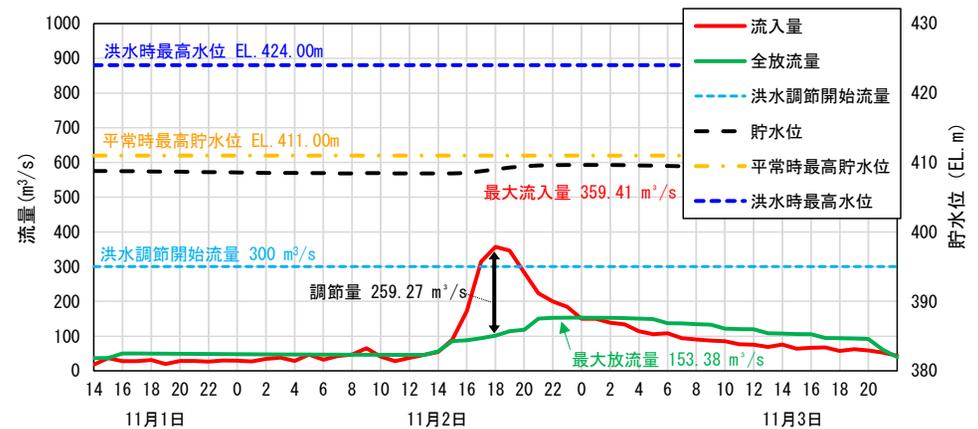
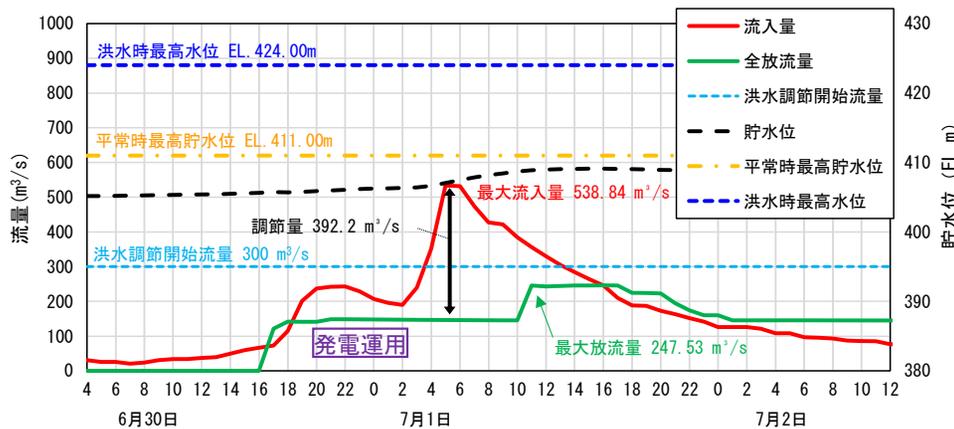
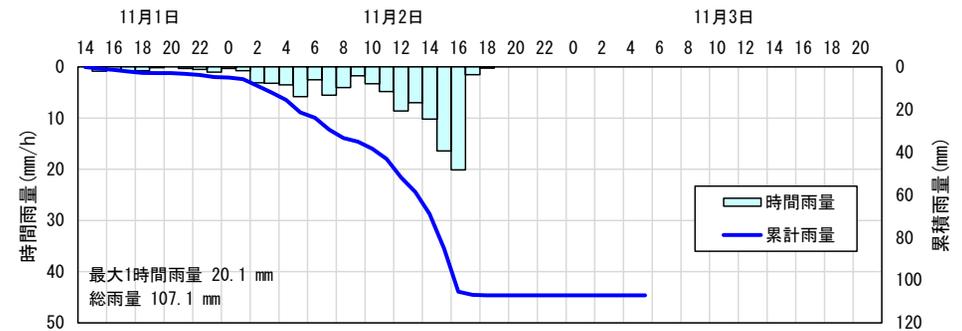
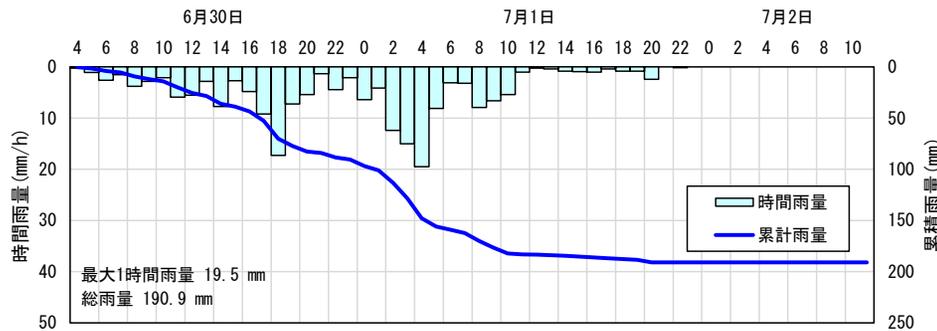
(2) 各ダムでの防災操作 (岩屋ダム)

【洪水の原因となった気象概要】

前線の影響により、6月30日3時から7月1日22時までの43時間で190.9mmの降雨を観測した。

【洪水の原因となった気象概要】

前線の影響により、11月1日14時から11月2日18時までの52時間で107.1mmの降雨を観測した。



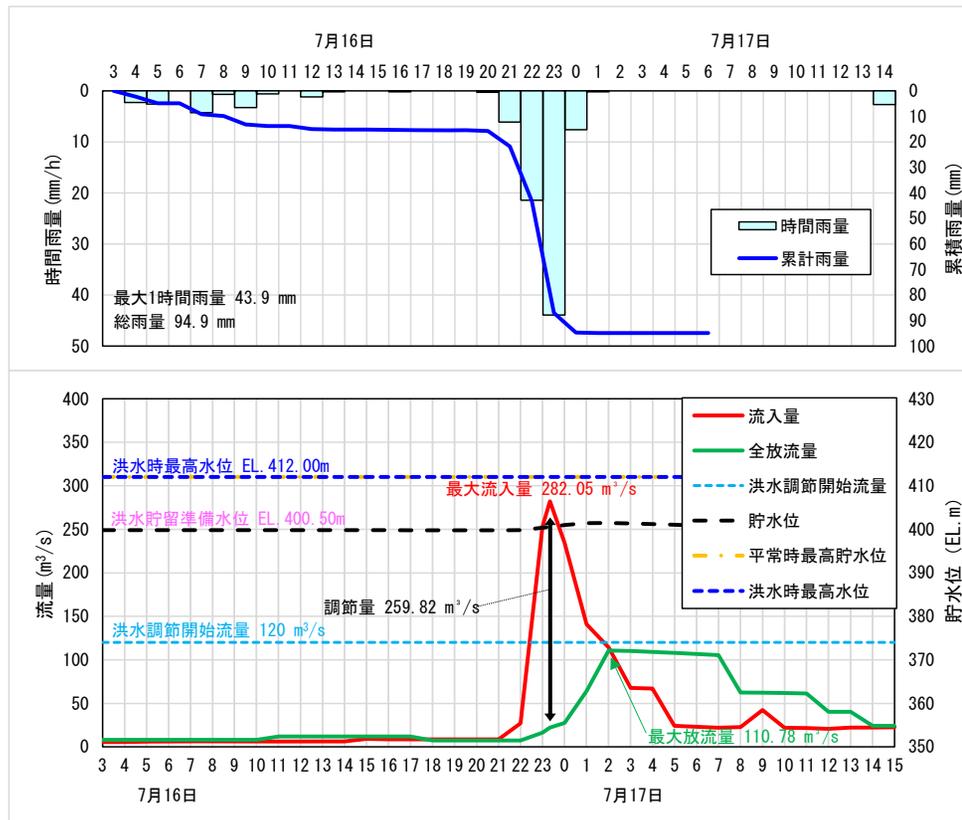
3. 防災操作

(2) 各ダムでの防災操作 (阿木川ダム) <51>

- 令和6年は1回の防災操作を行い (7月16日洪水)、最大流入量 $282.05\text{m}^3/\text{s}$ に対し調節量 $259.82\text{m}^3/\text{s}$ とする洪水調節を実施した。

【洪水の原因となった気象概要】

前線の影響により、7月16日3時から7月17日1時までの23時間で94.9mmの降雨を観測した。



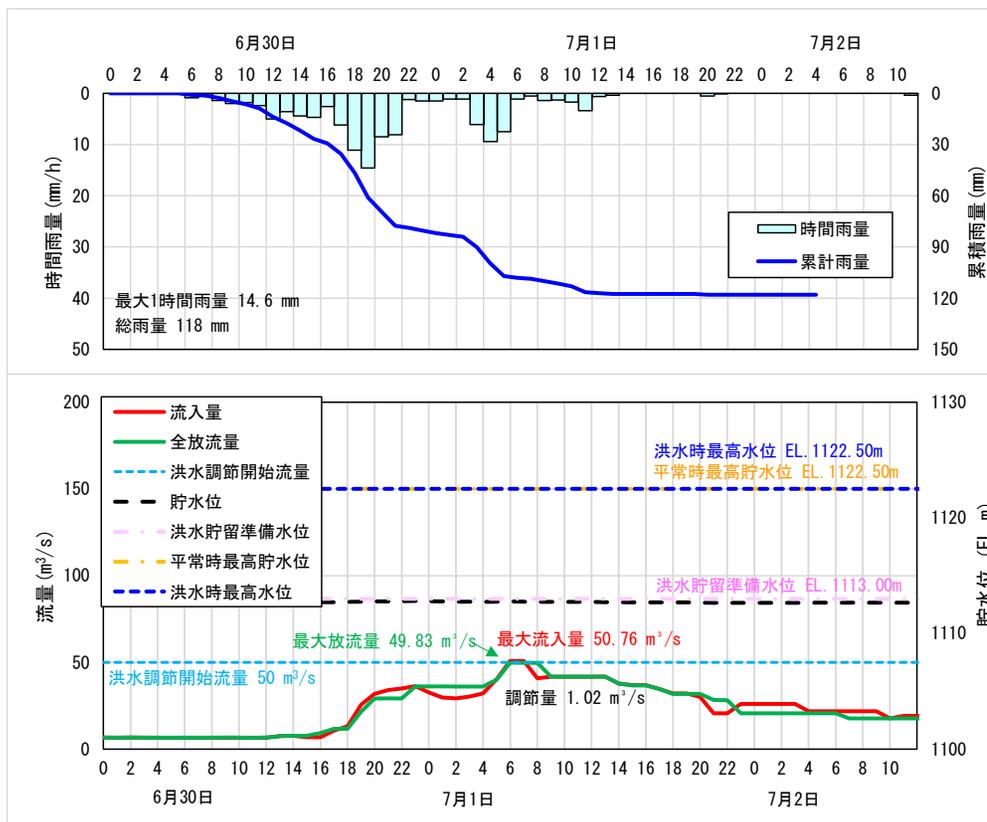
3. 防災操作

(2) 各ダムでの防災操作 (味噌川ダム) <52>

- 令和6年は1回の防災操作を行い (7月1日洪水)、最大流入量 $50.76\text{m}^3/\text{s}$ に対し調節量 $1.02\text{m}^3/\text{s}$ とする洪水調節を実施した。

【洪水の原因となった気象概要】

前線の影響により、6月30日5時から7月1日20時までの39時間で118.0mmの降雨を観測した。



3. 防災操作

(2) 各ダムの防災操作 (徳山ダム・横山ダムの連携①) <53>

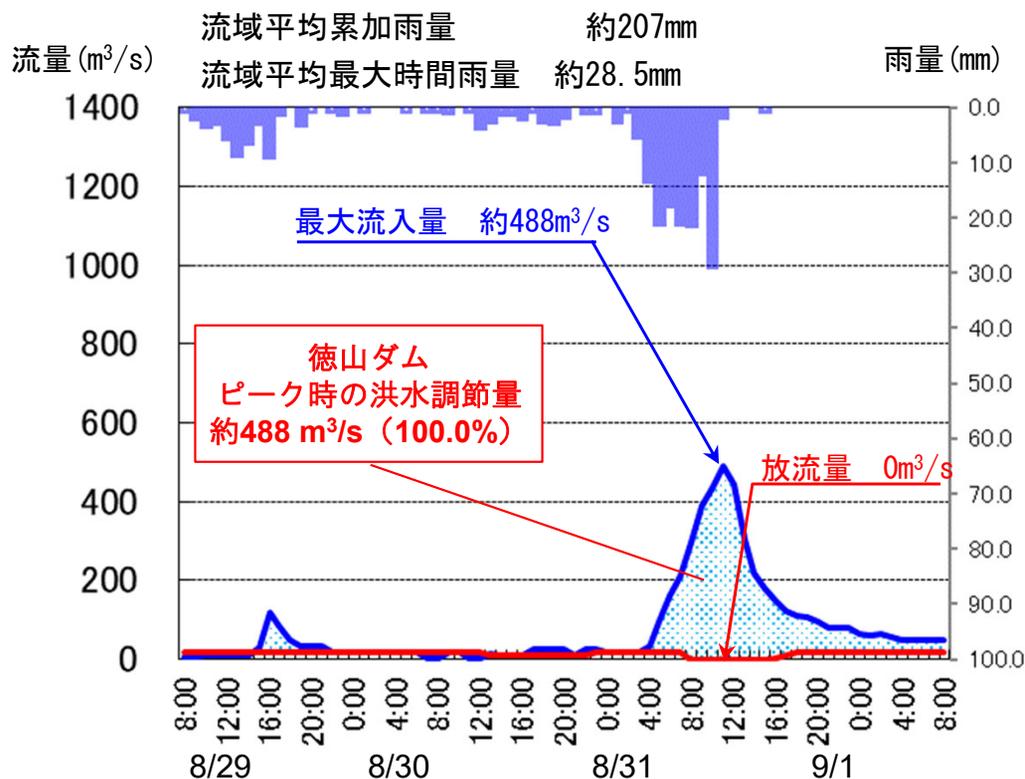
・徳山ダム・横山ダムでは、令和6年8月の台風第10号による大雨の際に連携した防災操作を実施した。徳山ダムでは最大流入量約488m³/sすべてを調節(放流量0m³/s)、横山ダムでは最大流入量約456m³/sを約192m³/s調節し、2ダムで約1,140万m³を貯留した。(バンテリンドームナゴヤ約6.7杯分)

※バンテリンドームナゴヤ1杯：約170万m³

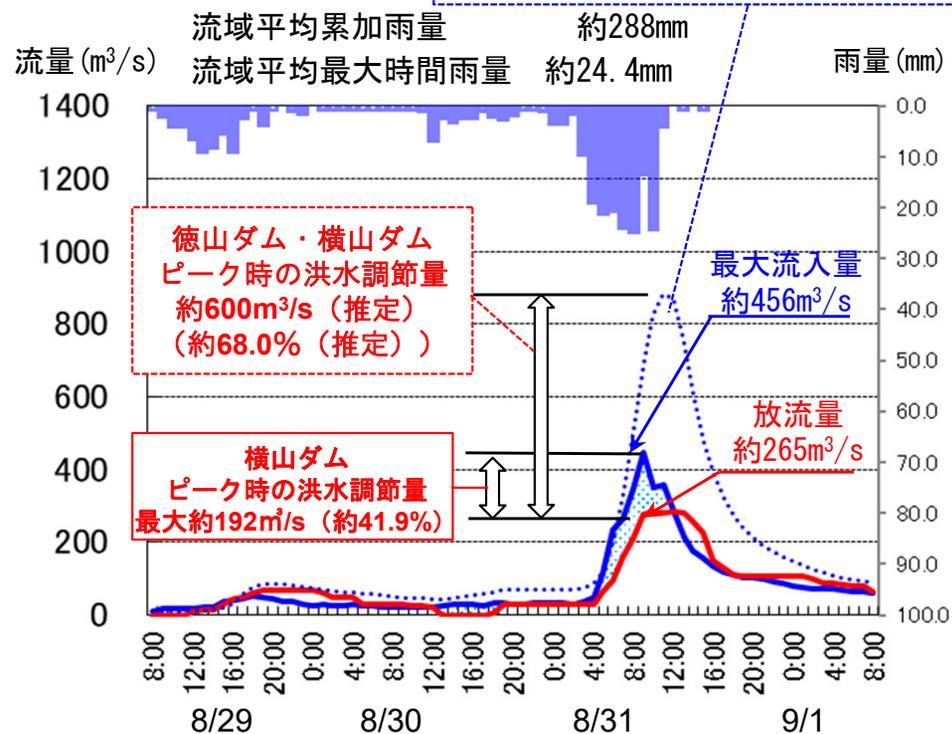
【徳山ダム・横山ダム連携による洪水調節】

ダムによる貯留
 流入量
 放流量

徳山ダム



横山ダム

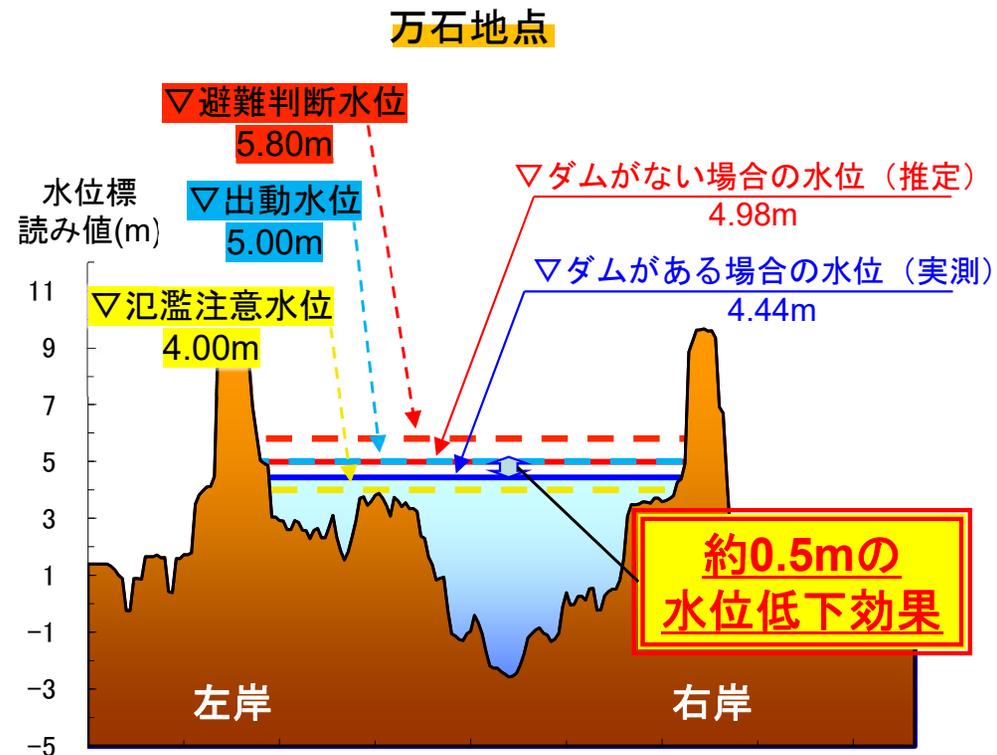
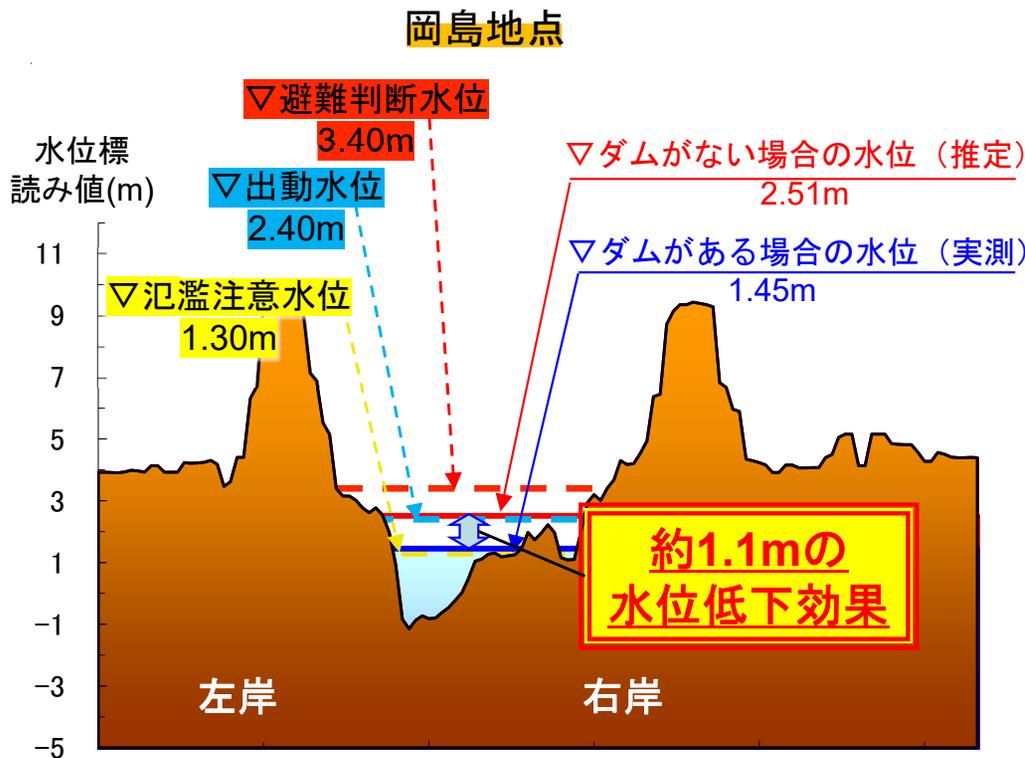


3. 防災操作

(2) 各ダムでの防災操作（徳山ダム・横山ダムの連携②） <54>

- この連携による防災操作では、2ダムがない場合と比較して、揖斐川の揖斐川町岡島地点（河口から57.3km）では約1.1mの水位低下効果、大垣市万石地点（河口から40.6km）では約0.5mの水位低下効果があったものと推定される。これにより岡島地点で水防団が河川の巡視及び状況に応じて水防対策を行う水位である出動水位の超過を回避した。

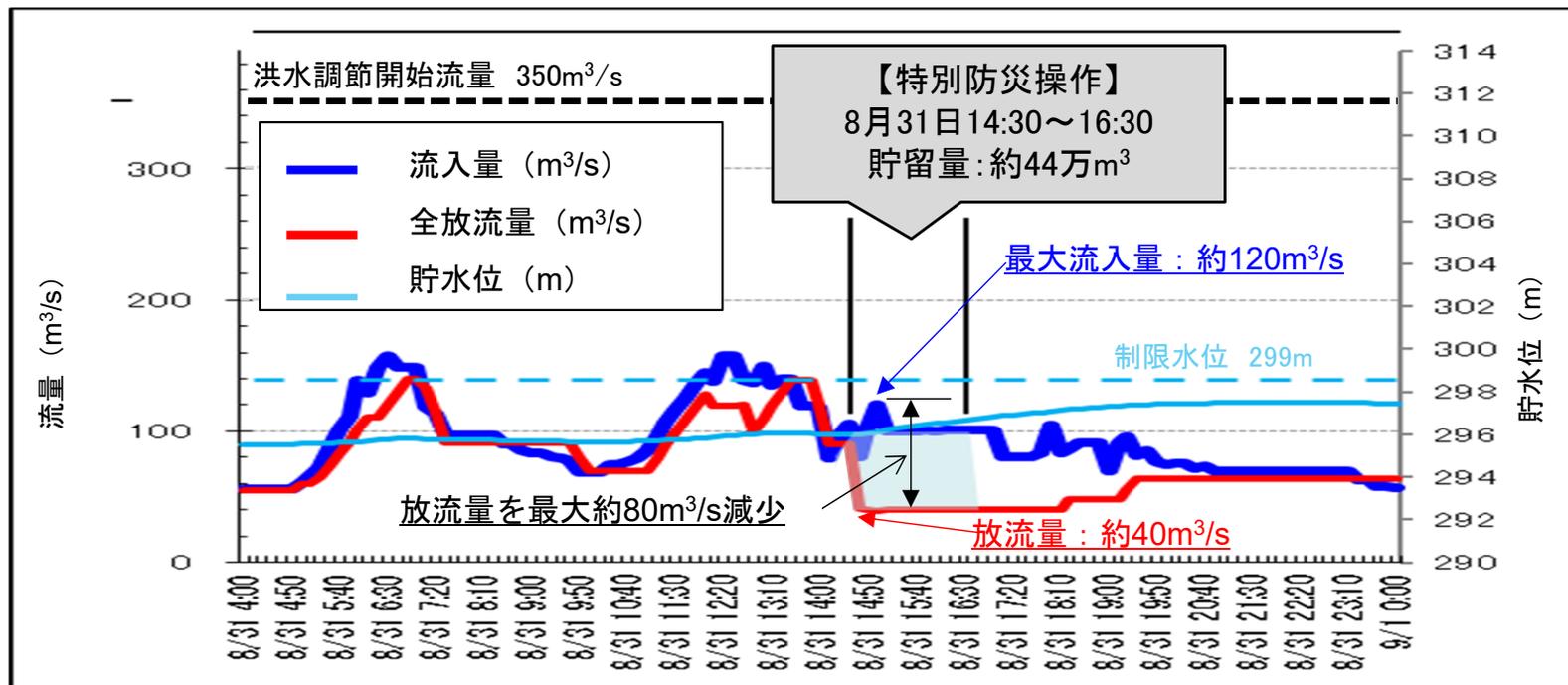
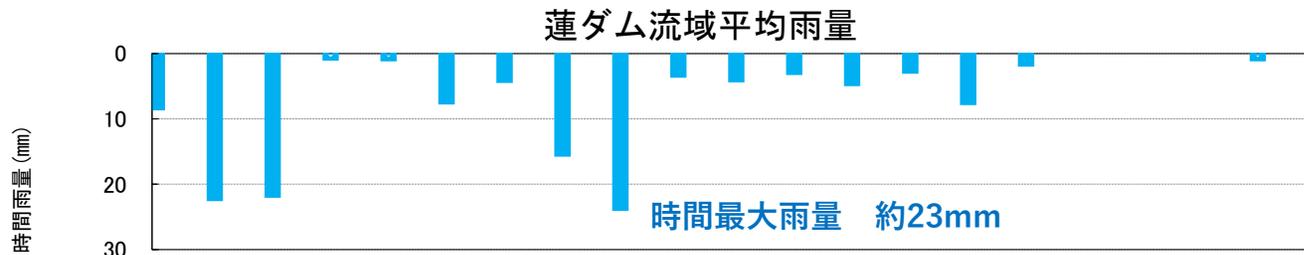
【水位低下量】



3. 防災操作

(2) 各ダムでの防災操作（蓮ダムの特別防災操作）

- 令和6年8月の台風第10号による大雨の影響により、櫛田川下流部の水位は、上流から下流まで連続して洪水危険度を把握することが可能な洪水予測技術「水害リスクライン」において、氾濫危険水位（両郡水位観測所：6.70m）を超過し、最高水位7.09m（8/31 16:30）に達する予測となった。
- 櫛田川上流に位置する蓮ダムでは、流入量が少なく防災操作を行うような状況ではなかったが、櫛田川下流の水位上昇を抑制するため、ダムからの放流量を少なくし、ダムに洪水を貯留する「特別防災操作」を実施（8/31 14:30～16:30）し、蓮ダムからの放流量を最大約80m³/s減少させた。



4. 利水

(1) 各ダムの貯水容量

利水関係 諸元一覧表（基本情報）（1）

ダム名	長島ダム	美和ダム	小渋ダム	新豊根ダム	寒狭川堰	矢作ダム	小里川ダム
水系名及び河川名	大井川水系 大井川	天竜川水系 三峰川	天竜川水系 小渋川	天竜川水系 大入川	豊川水系 豊川	矢作川水系 矢作川	庄内川水系 小里川
集水面積 (km ²)	534.3	311.1	288	136.3	300	504.5	55
総貯水容量 (万m ³)	7,800	2,995.2	5,800	5,350	8.8	8,000	1,510
有効貯水容量 (万m ³)	6,800	2,074.5	3,710	4,040	6.4	6,500	1,290
非洪水期 利水容量 (万m ³)	4,800	2,074.5	2,910	4,040	6.4	6,500	300
洪水期 利水容量 (万m ³)	2,100	1,035.3	梅雨期：320 台風期：1,750	3,430	6.4	5,000	0
利水の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・流水の正常な機能の維持 ・かんがい ・上水 ・工水 	<ul style="list-style-type: none"> ・流水の正常な機能の維持（かんがい） ・発電 	<ul style="list-style-type: none"> ・かんがい ・発電 	<ul style="list-style-type: none"> ・発電 	<ul style="list-style-type: none"> ・流水の正常な機能の維持 ・かんがい ・上水 	<ul style="list-style-type: none"> ・流水の正常な機能の維持 ・かんがい ・上水 ・工水 ・発電 	<ul style="list-style-type: none"> ・流水の正常な機能の維持 ・発電

4. 利水

(1) 各ダムの貯水容量

<57>

利水関係 諸元一覧表（基本情報）（2）

ダム名	丸山ダム	横山ダム	徳山ダム	岩屋ダム	阿木川ダム	長良川河口堰	味噌川ダム	蓮ダム
水系名及び河川名	木曽川水系 木曽川	木曽川水系 揖斐川	木曽川水系 揖斐川	木曽川水系 馬瀬川	木曽川水系 阿木川	木曽川水系 長良川	木曽川水系 木曽川	櫛田川水系 蓮川
集水面積 (km ²)	2,409	471	254.5	1,034.90	81.8	1,985	55.1	80.9
総貯水容量 (万m ³)	7,952	4,000	66,000	17,350	4,800	—	6,100	3,260
有効貯水容量 (万m ³)	3,839	3,000	38,040	10,000	4,400	—	5,500	2,940
非洪水期 利水容量 (万m ³)	1,822	3,000	38,040	10,000	4,400	—	5,500	2,840
洪水期 利水容量 (万m ³)	1,822	340	25,740	10,000	2,800	—	4,300	1,240
利水の目的	・発電	・発電	・流水の正常な 機能の維持 ・（かんがい） ・上水 ・工水 ・発電	・かんがい ・上水 ・工水 ・発電	・流水の正常な 機能の維持 ・上水 ・工水	・上水 ・工水	・流水の正常な 機能の維持 ・上水 ・工水 ・発電	・流水の正常な 機能の維持 ・上水 ・発電

4. 利水

(1) 各ダムの貯水容量

利水関係 諸元一覧表（受益地に関する情報）（1）

ダム名	長島ダム	美和ダム	小渋ダム	新豊根ダム	寒狭川堰	矢作ダム	小里川ダム
利水の目的	・流水の正常な機能の維持 ・かんがい ・上水 ・工水	・流水の正常な機能の維持（かんがい） ・発電	・かんがい ・発電	・発電	・流水の正常な機能の維持 ・かんがい ・上水	・流水の正常な機能の維持 ・かんがい ・上水 ・工水 ・発電	・流水の正常な機能の維持 ・発電
かんがい面積 (ha)	5,145	2,512	899	－	18,000	2,600	－
水道用水給水人口 (万人)	62	－	－	－	74	139	－
利水供給自治体	菊川市、御前崎市、掛川市、牧之原市、藤枝市、焼津市、島田市	伊那市	松川町、豊丘町、喬木村、飯田市	－	豊橋市、蒲郡市、豊川市、新城市、田原市、赤羽根町、渥美町、一宮町、小坂井町、音羽町、御津町	豊田市、刈谷市、知立市、高浜市、安城市、岡崎市、碧南市、西尾市、幸田町、みよし市、名古屋市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、半田市、武豊町	－
かんがい用水水利権発生量 (内)は開発水量 m^3/s	3.045 (3.045)	9.830 (9.960)	1.526 (1.810)	－	流水の正常な機能の維持として15.000 このうち1.300を不特定補給	2.480 (2.480)	－
水道用水水利権発生量 (内)は開発水量 m^3/s	2.000 (5.800)	－	－	－		4.430 (4.430)	－
工業用水水利権発生量 (内)は開発水量 m^3/s	0.063 (0.200)	－	－	－	－	6.690 (6.690)	－

※寒狭川堰のかんがい用水、水道用水は、設楽ダム共用後、豊川総合用水事業施設とあいまって効果が発現する
 ※水利権発生量、開発水量で期間等により増減があるものは最大取水量を記載

4. 利水

(1) 各ダムの貯水容量

利水関係 諸元一覧表（受益地に関する情報）（2）

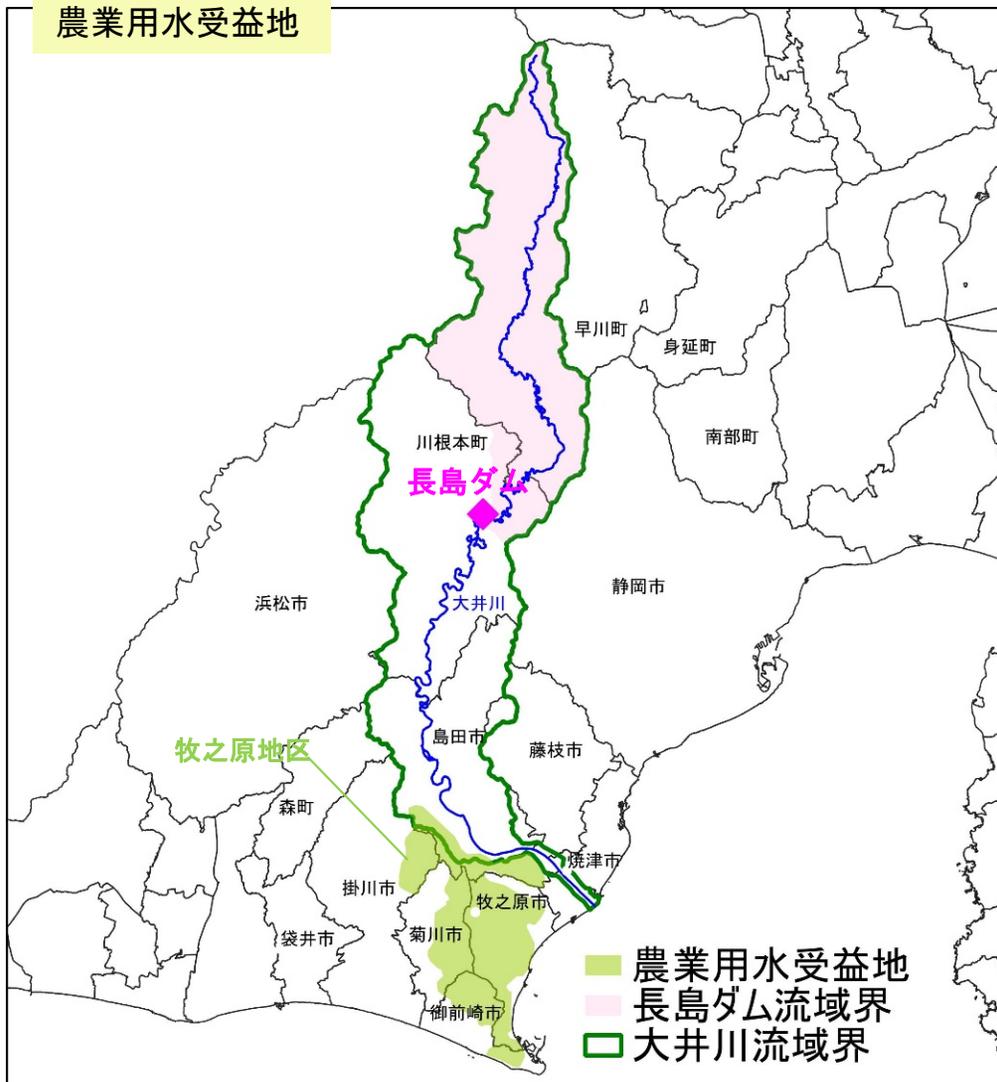
ダム名	丸山ダム	横山ダム	徳山ダム	岩屋ダム	阿木川ダム	長良川河口堰	味噌川ダム	蓮ダム
利水の目的	・発電	・発電	・流水の正常な機能の維持 ・（かんがい） ・上水 ・工水 ・発電	・かんがい ・上水 ・工水 ・発電	・流水の正常な機能の維持 ・上水 ・工水	・上水 ・工水	・流水の正常な機能の維持 ・上水 ・工水 ・発電	・流水の正常な機能の維持 ・上水 ・発電
かんがい面積 (ha)	-	-	-	3820	-	-	-	-
水道用水給水人口 (万人)	-	-	-	482	44	74	299	41
利水供給自治体	-	-	-	美濃加茂市、関市、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、可児市、御嵩町、名古屋市、春日井市、一宮市、津島市、犬山市、江南市、小牧市、稲沢市、岩倉市、愛西市、清須市、北名古屋市、弥富市、あま市、豊山町、大口町、扶桑町、蟹江町、飛鳥村、桑名市、四日市市、鈴鹿市、木曽岬町、朝日町、川越町、大治町	多治見市、中津川市、瑞浪市、恵那市、土岐市、春日井市、瀬戸市、尾張旭市、刈谷市、大府市、東海市、東浜市、日進市、長久手市、東郷市、豊明市、名古屋市、知多市、阿久比町	知多市、常滑市、半田市、東海市、東浦町、阿久比町、武豊町、美浜町、南知多市、津市、松阪市	多治見市、中津川市、瑞浪市、恵那市、土岐市、春日井市、瀬戸市、尾張旭市、刈谷市、大府市、東海市、東浜市、日進市、長久手市、東郷町、豊明市、名古屋市、清須市、北名古屋市、あま市、大治町、豊田市、みよし市、知多市、阿久比町、東浦町	伊勢市、松阪市、鳥羽市、志摩市、多気町、明和町、大台町、玉城町、度会町
かんがい用水水利権発生量 ()内は開発水量 m ³ /s	-	-	-	6,130 (6.130)	-	-	-	-
水道用水水利権発生量 ()内は開発水量 m ³ /s	-	-	0.000 (4.500)	16.600 (21.930)	1,902 (1.902)	3.592 (13.160)	3,569 (3.569)	1.741 (2.000)
工業用水水利権発生量 ()内は開発水量 m ³ /s	-	-	0.000 (2.100)	7,570 (17.630)	2.098 (2.098)	0.000 (9.340)	0.731 (0.731)	-

※水利権発生量、開発水量で期間等により増減があるものは最大取水量を記載

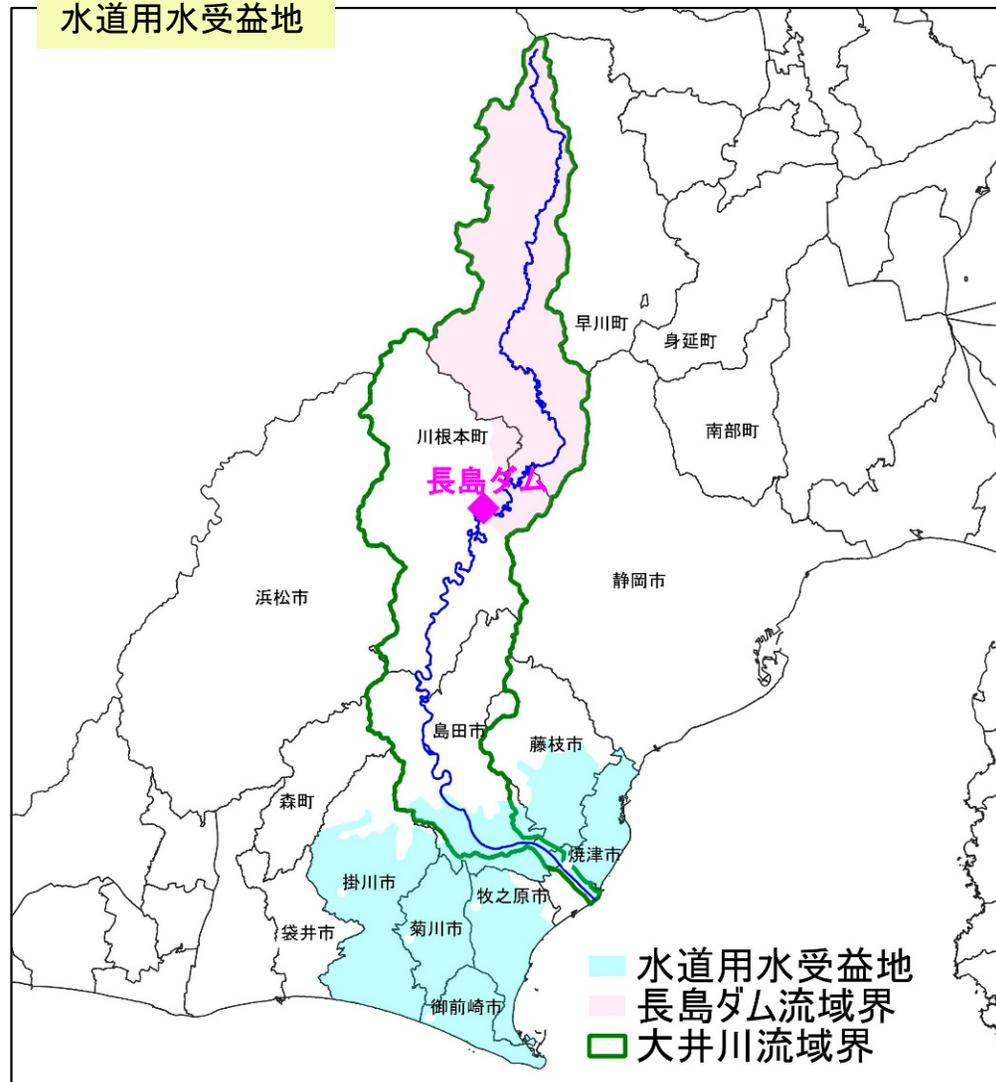
4. 利水

(2) 各ダムの供給区域

長島ダム
農業用水受益地



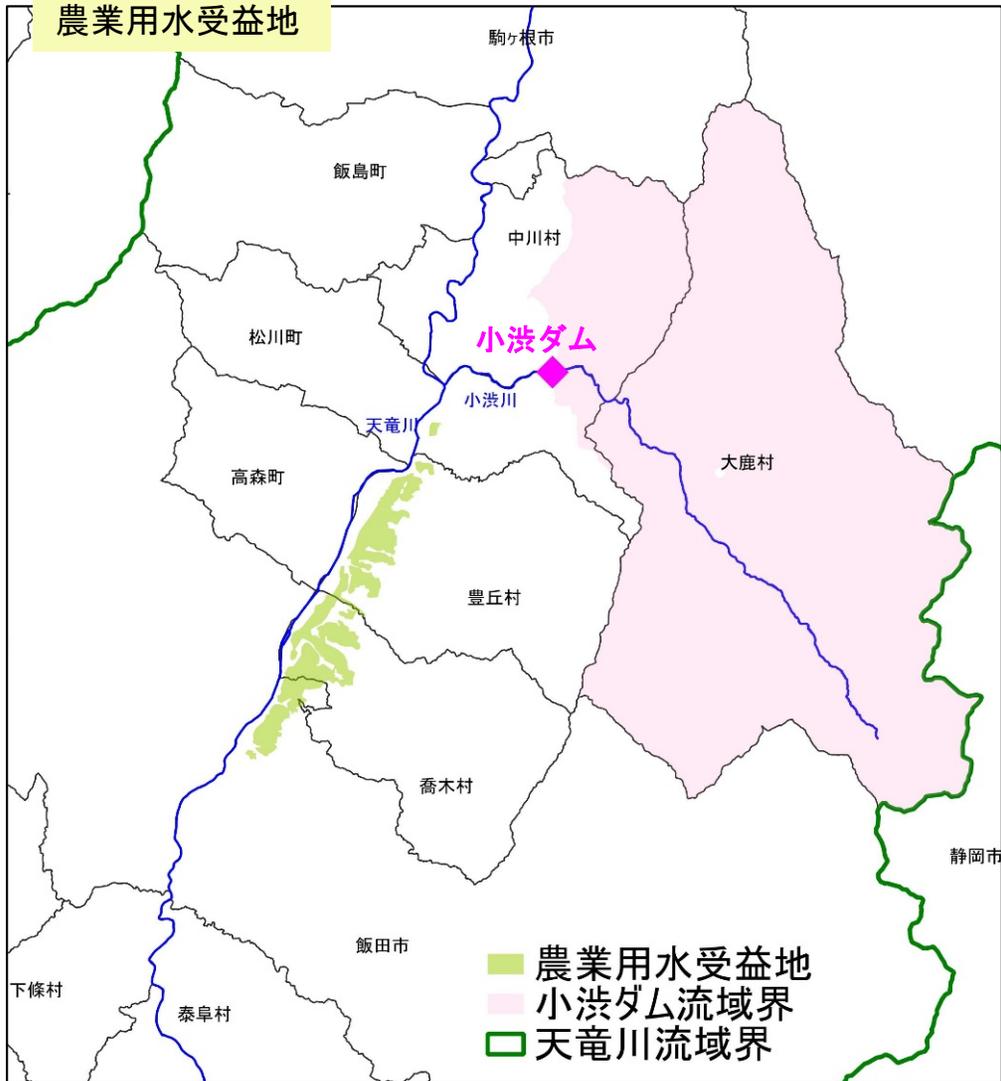
長島ダム
水道用水受益地



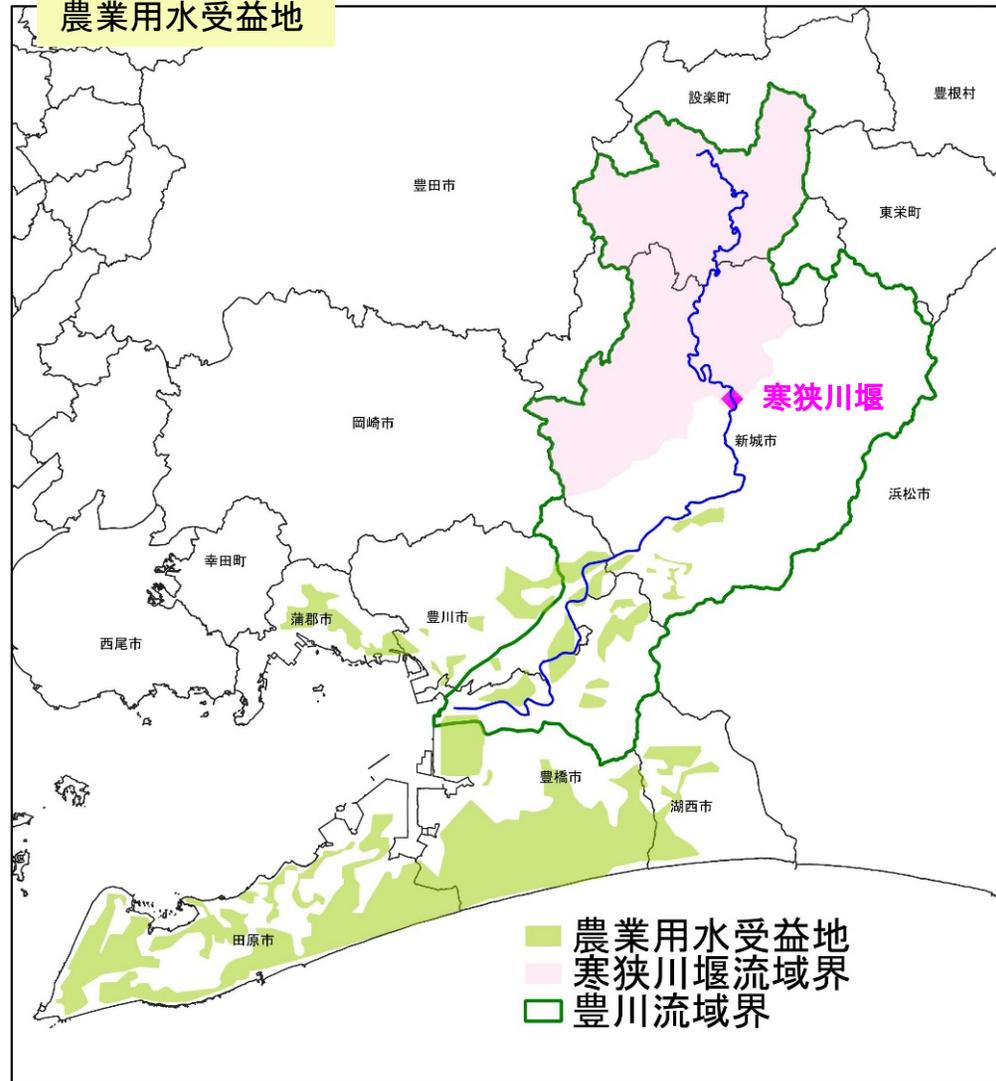
4. 利水

(2) 各ダムの供給区域

小渋ダム
農業用水受益地



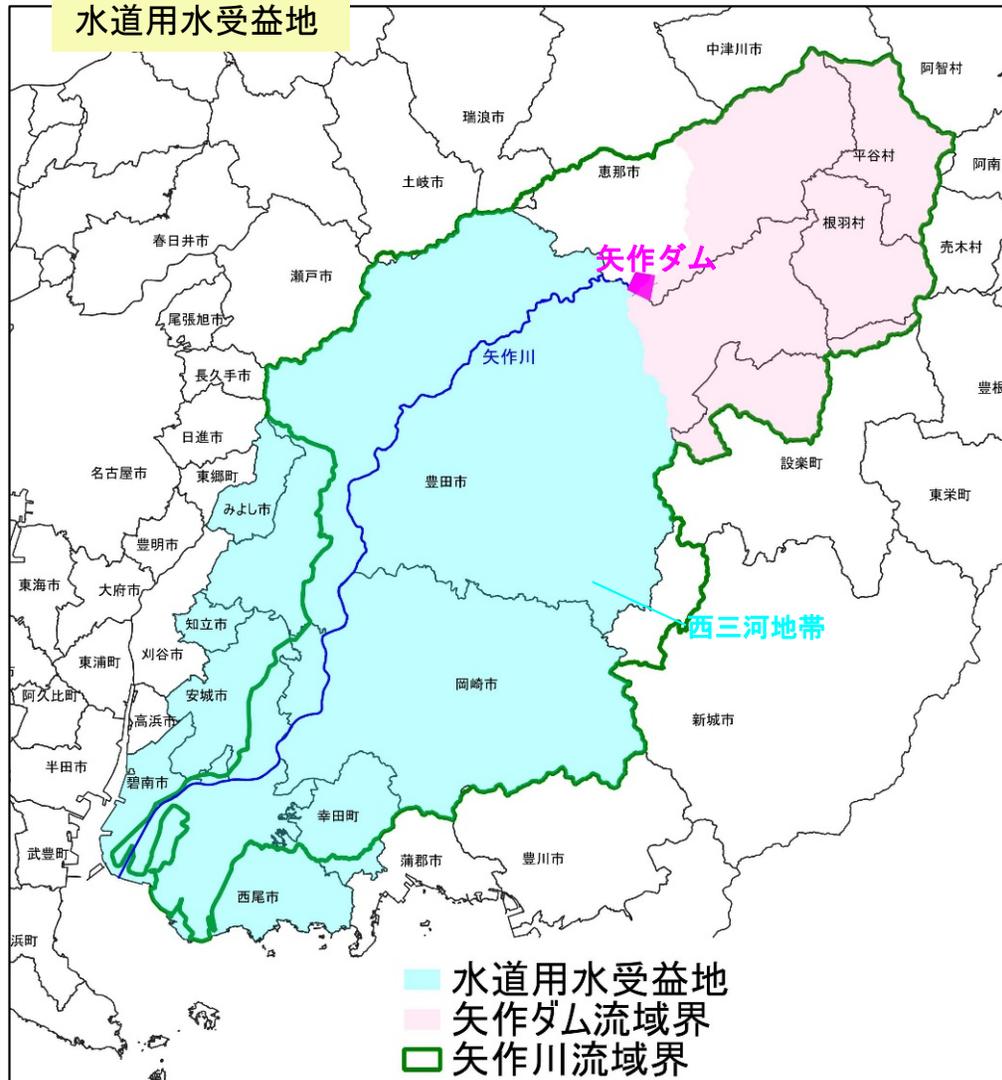
寒狭川堰
農業用水受益地



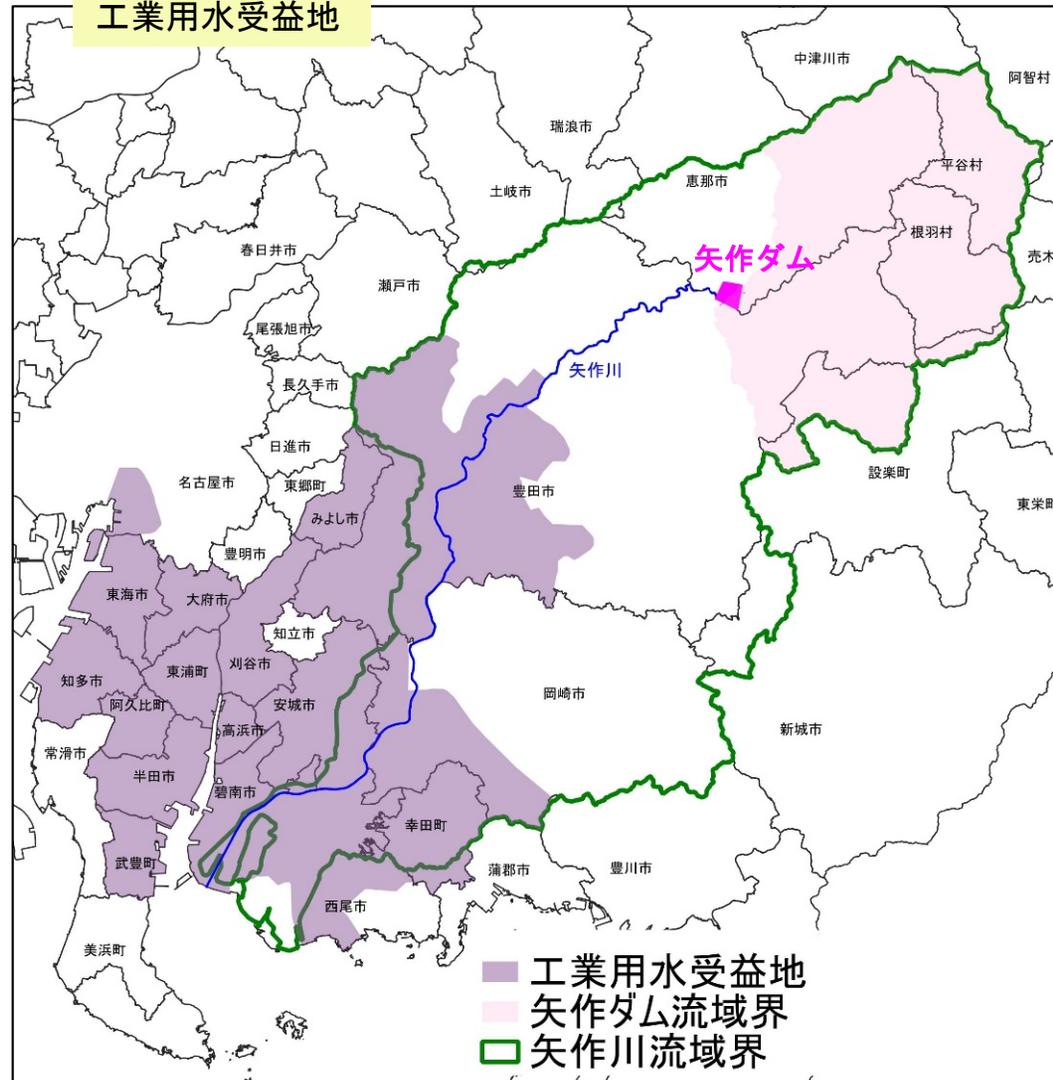
4. 利水

(2) 各ダムの供給区域

矢作ダム
水道用水受益地



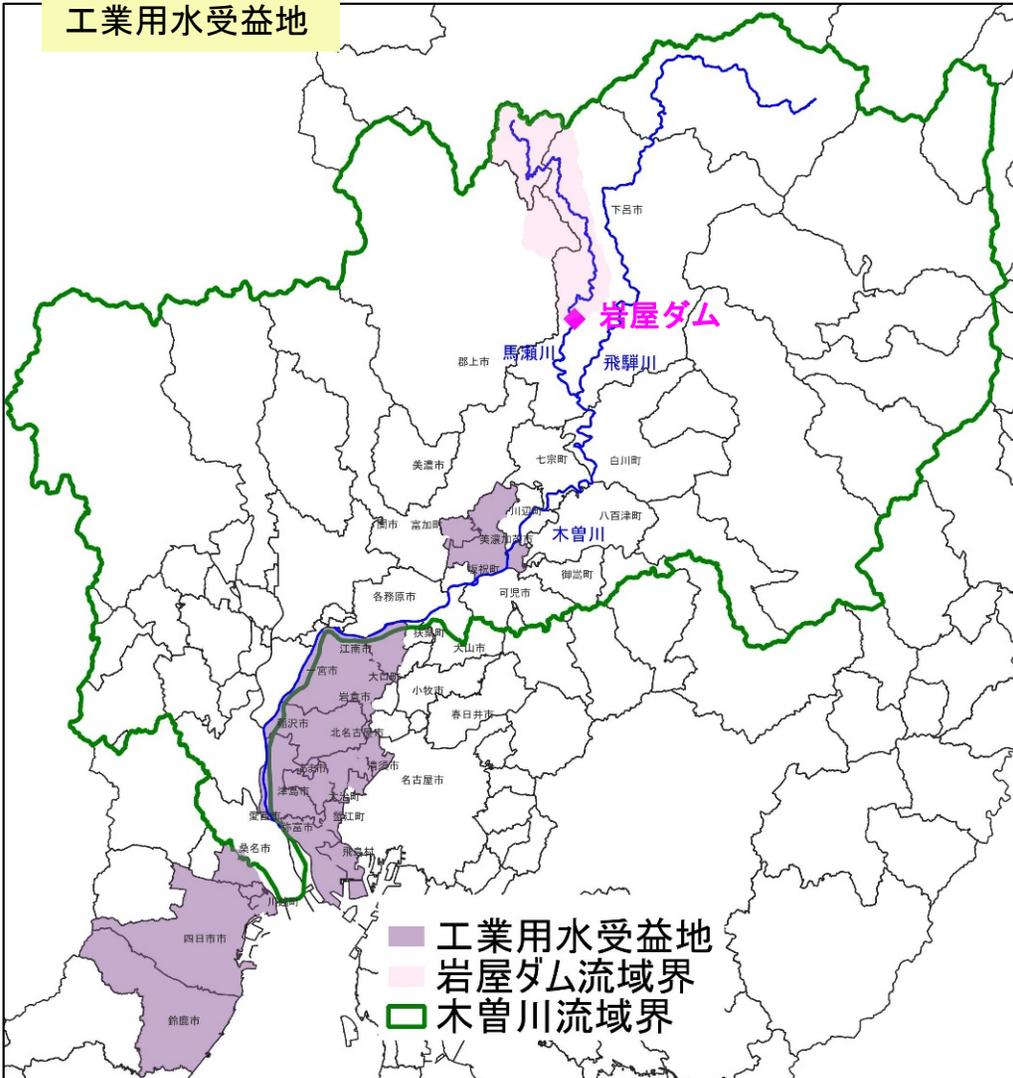
矢作ダム
工業用水受益地



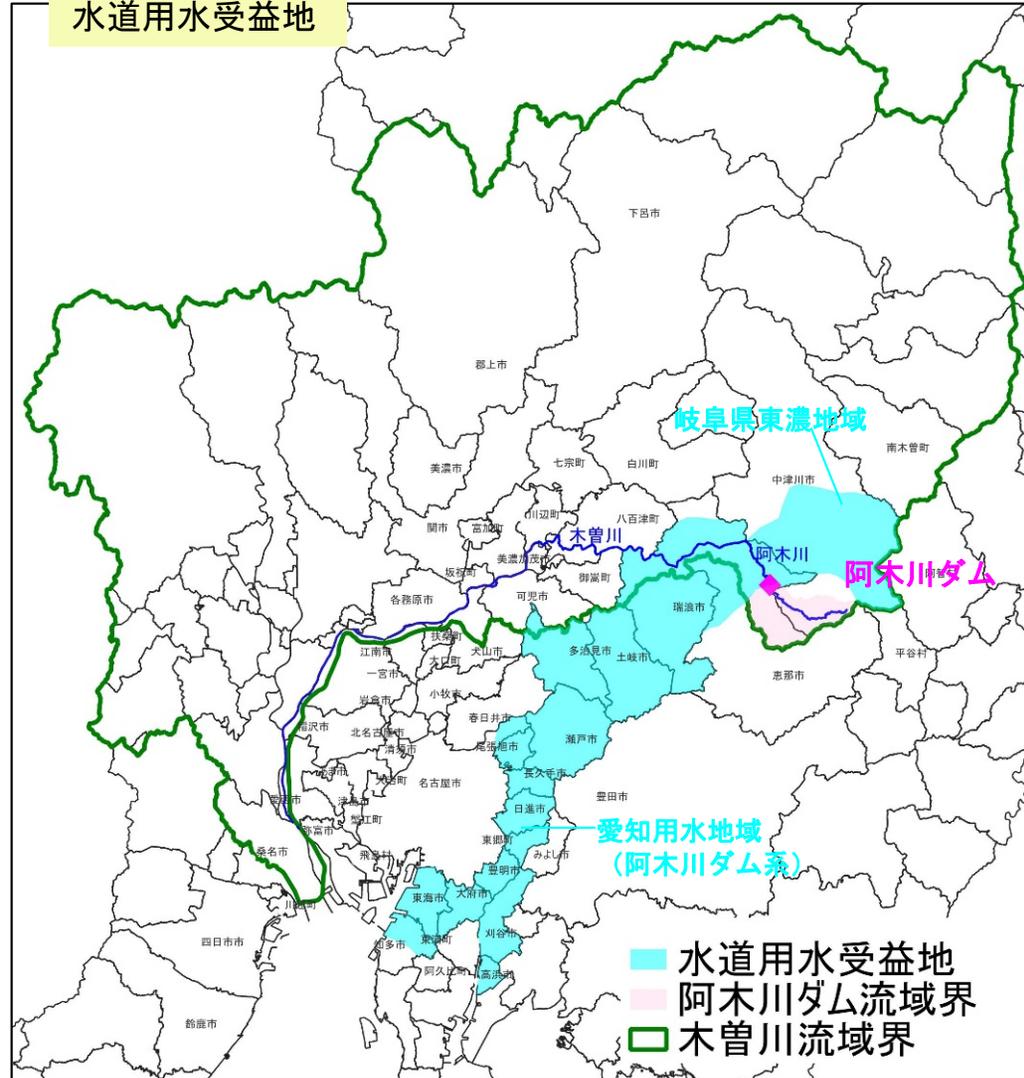
4. 利水

(2) 各ダムの供給区域

岩屋ダム
工業用水受益地



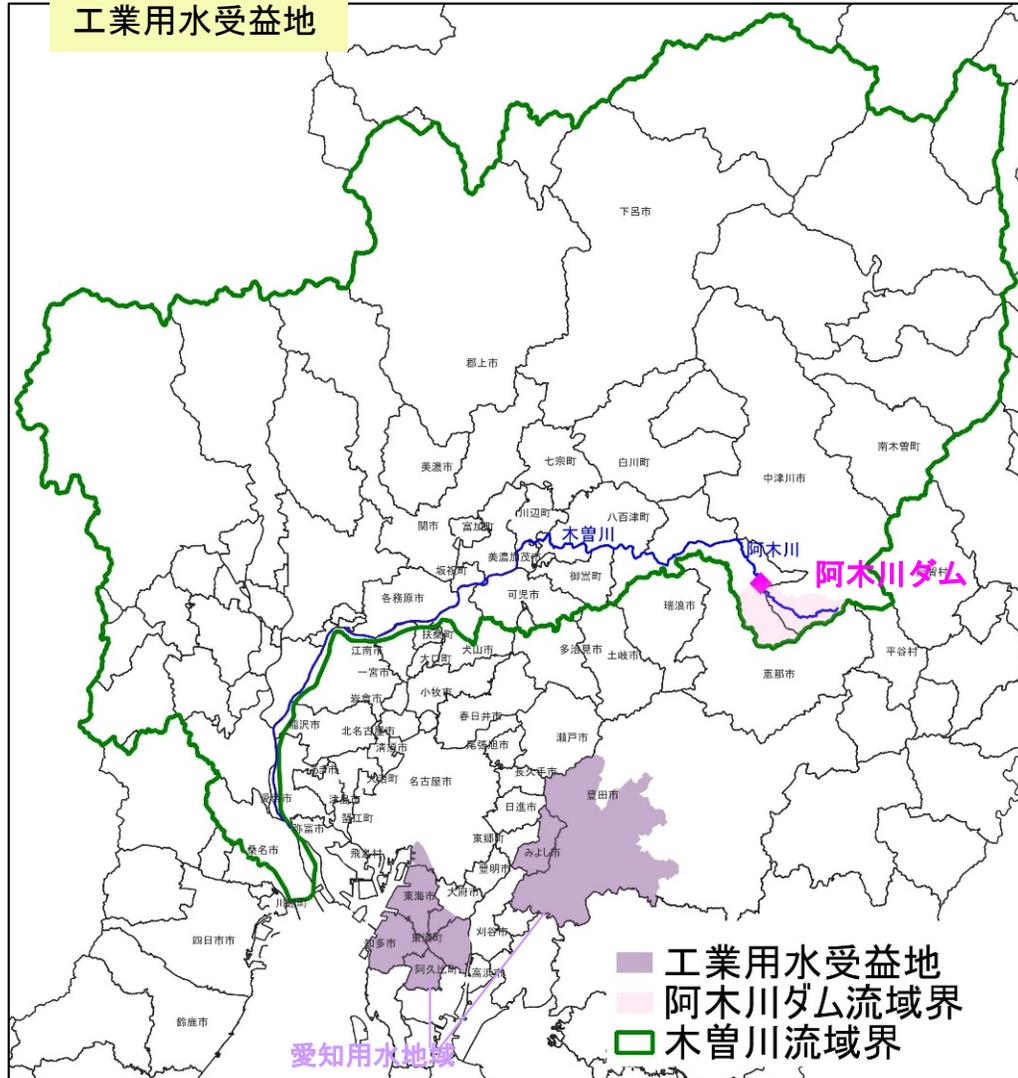
阿木川ダム
水道用水受益地



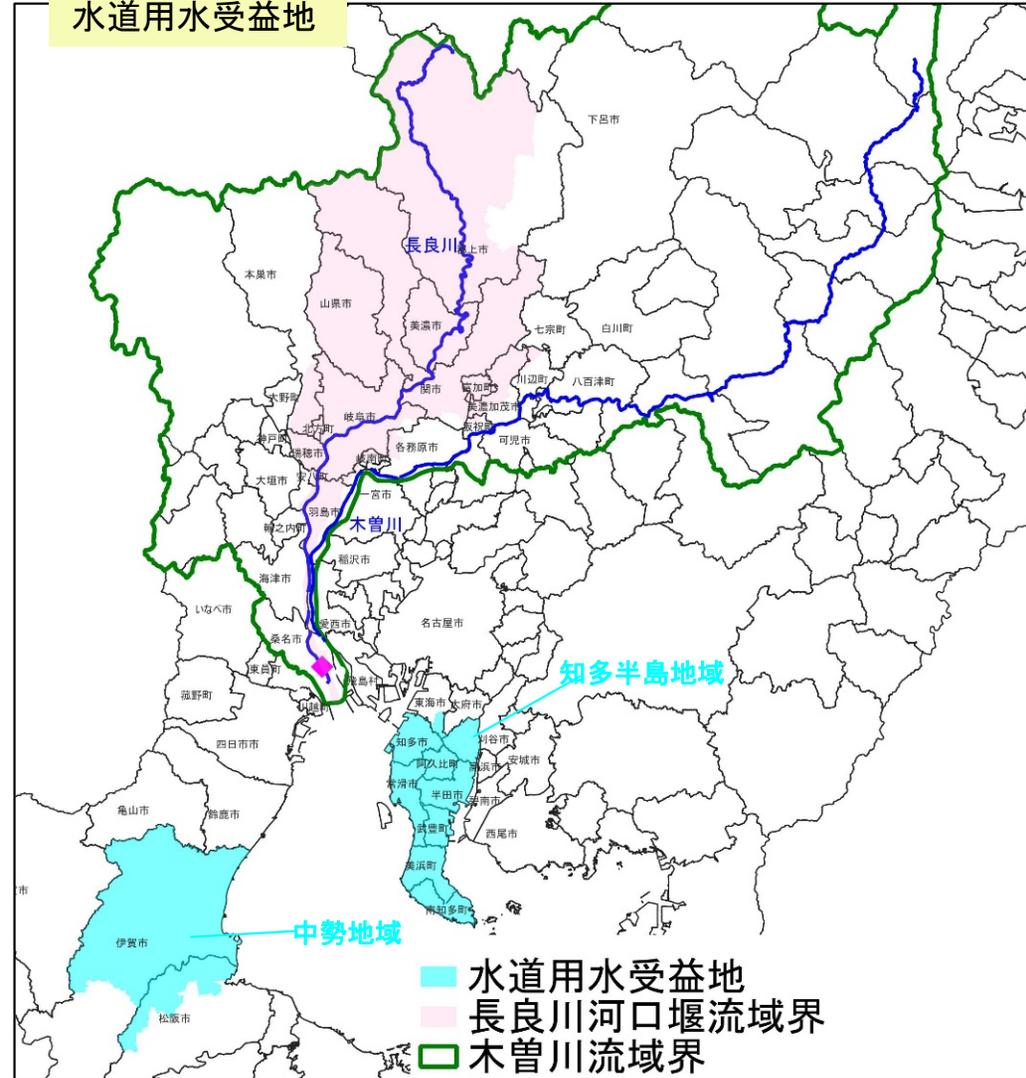
4. 利水

(2) 各ダムの供給区域

阿木川ダム
工業用水受益地



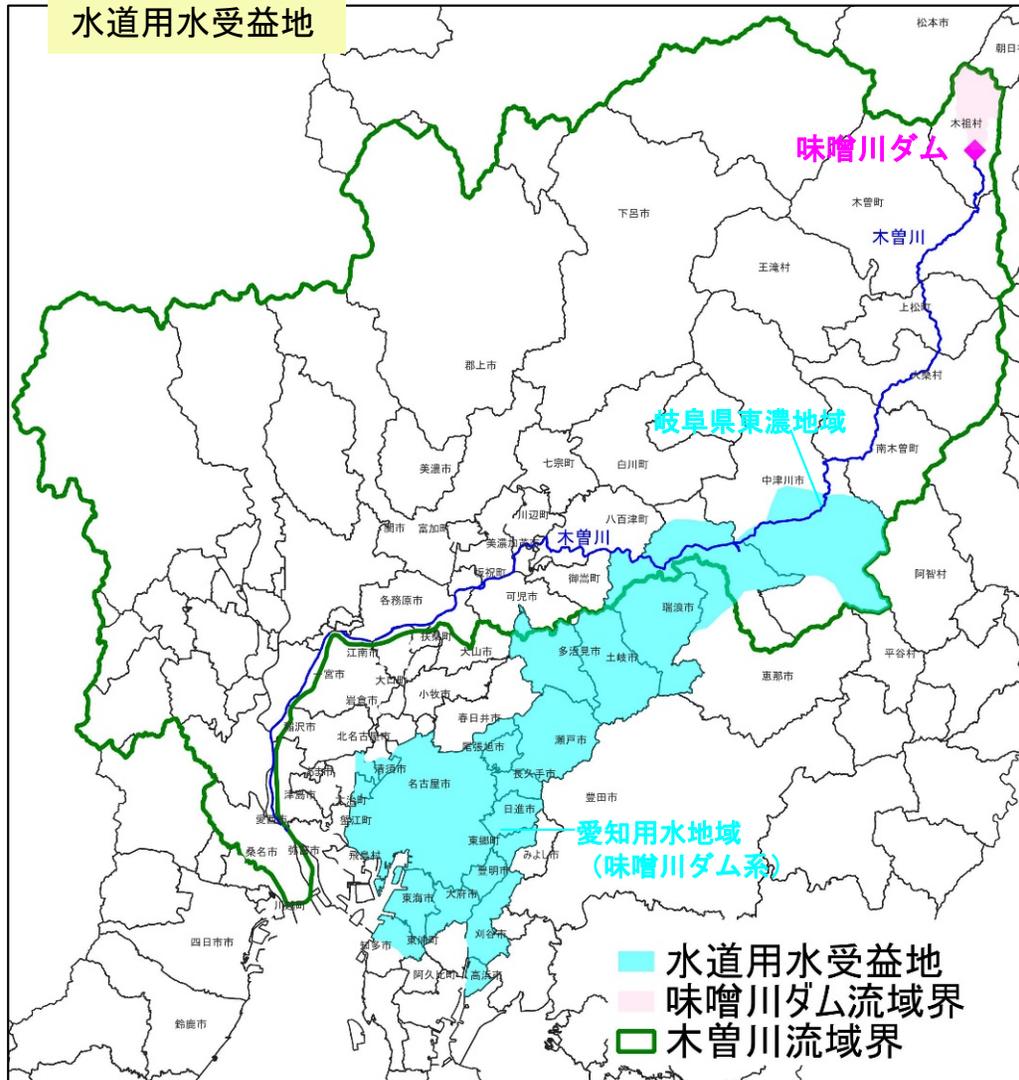
長良川河口堰
水道用水受益地



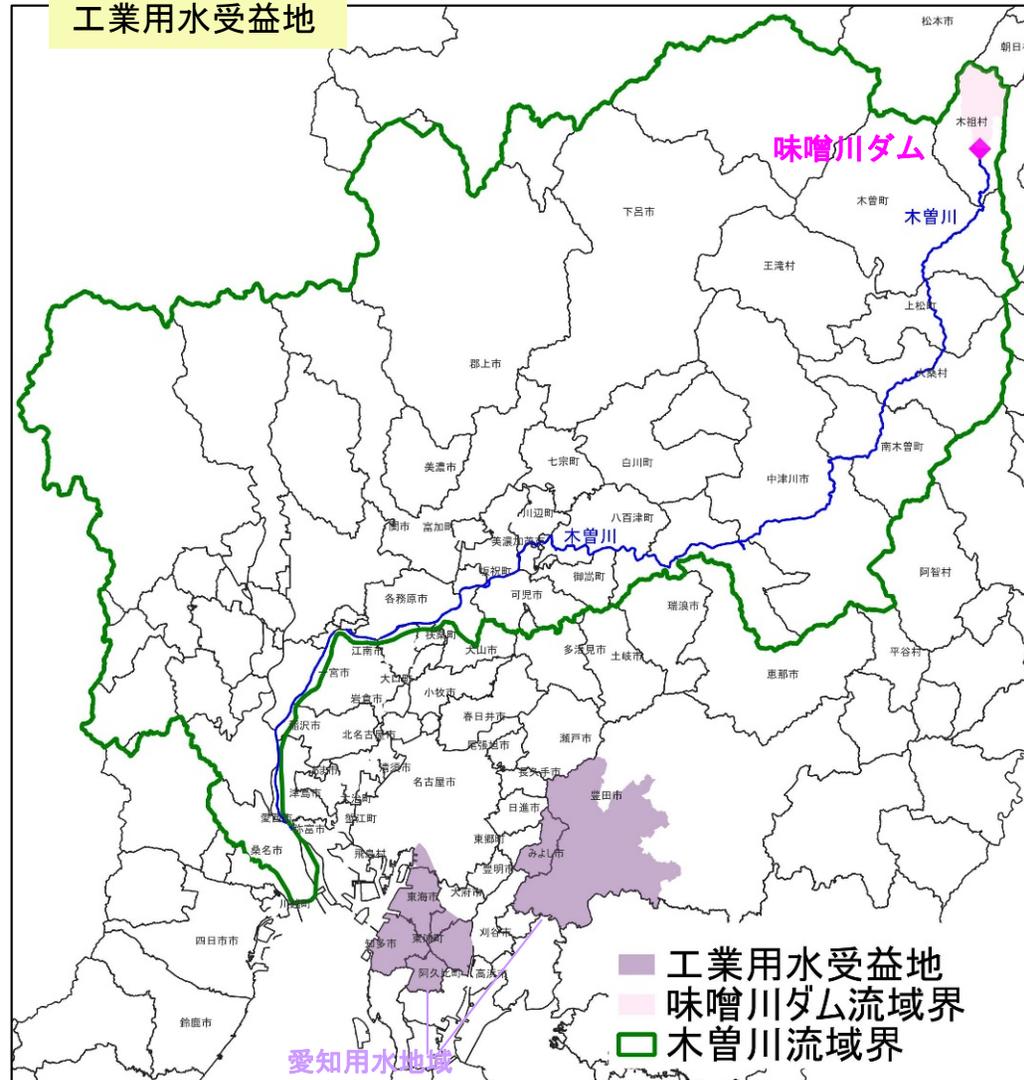
4. 利水

(2) 各ダムの供給区域

味噌川ダム
水道用水受益地



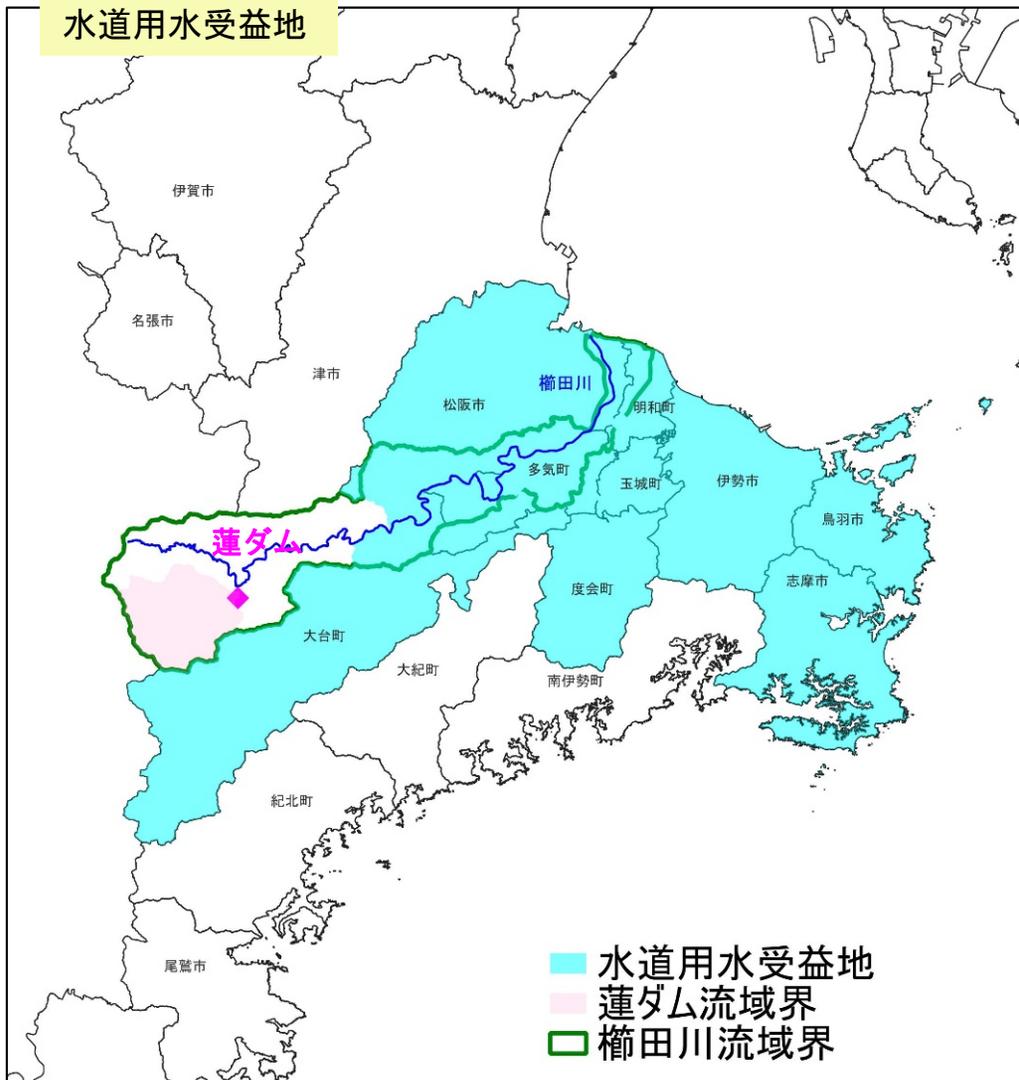
味噌川ダム
工業用水受益地



4. 利水

(2) 各ダムの供給区域

蓮ダム
水道用水受益地



※ 利水諸元や供給区域図は各ダムのフォローアップ定期報告書をもとに最新の情報を反映して作成

4. 利水

(3) 各ダムの回転率

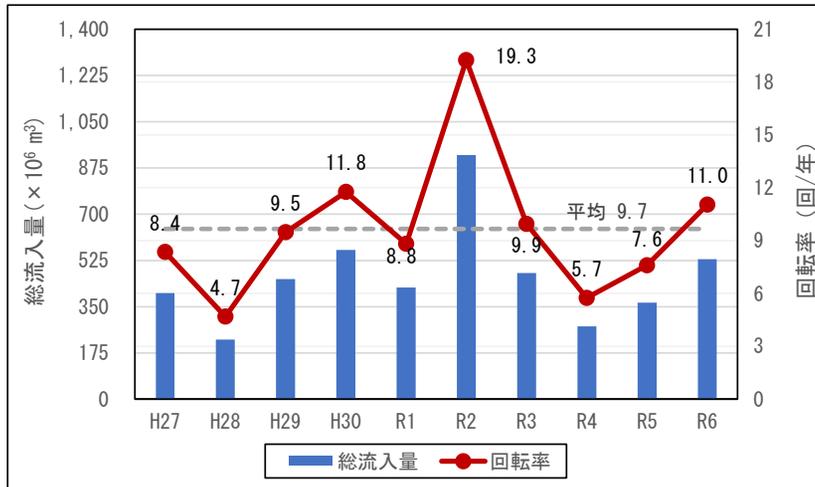
<70>

$$\text{※ 回転率 (回/年)} = \text{総流入量 (m}^3\text{)} \div \text{非洪水期利水容量 (m}^3\text{)}$$

- 令和6年の回転率*は、多くのダムでは近年の平均に近い回数であったが、小渋ダム、寒狭川堰では多く、蓮ダムは少ないといった結果もみられた。

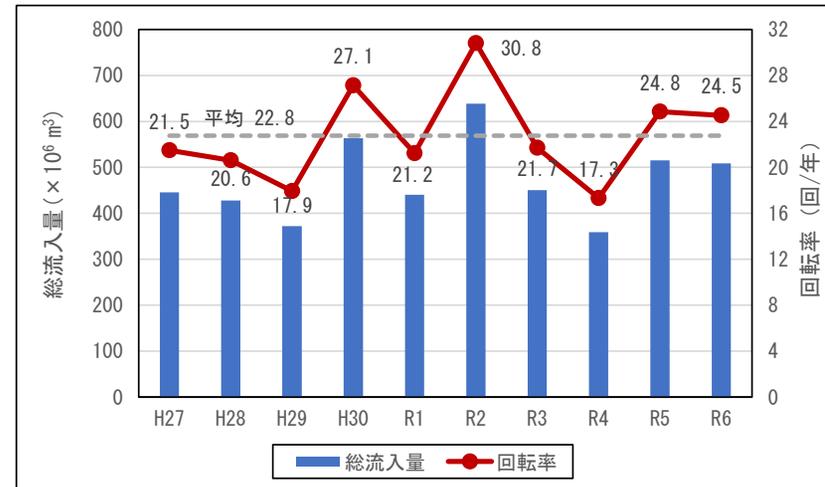
*回転率：ダム貯水池における水の入れ替わりやすさ、水の貯まりやすさを表す指標

長島ダムの令和6年の回転率：11.0回/年



長島ダムの総流入量と回転率

美和ダムの令和6年の回転率：24.5回/年



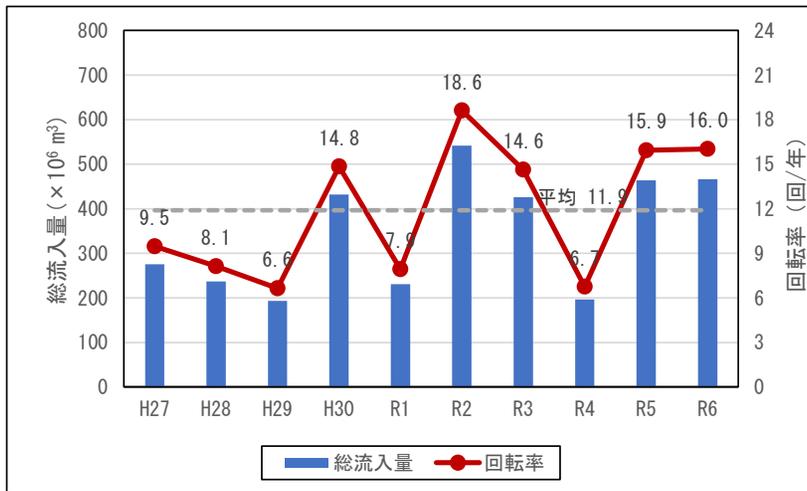
美和ダムの総流入量と回転率

4. 利水

(3) 各ダムの回転率

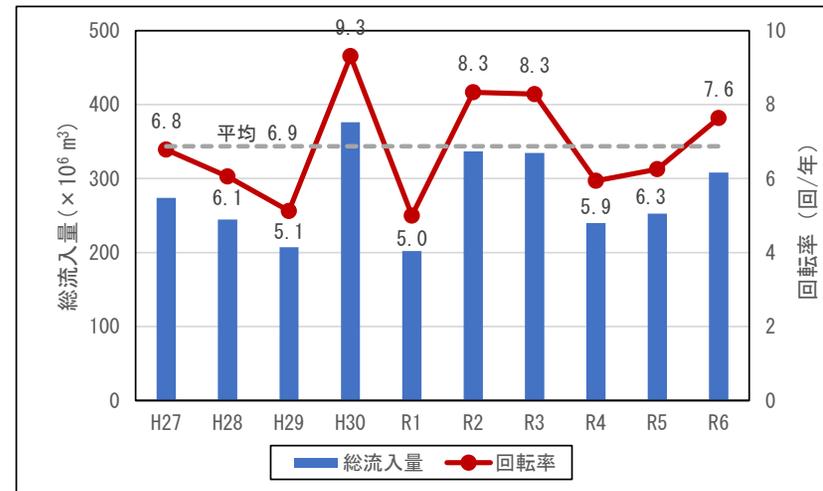
※ 回転率 (回/年) = 総流入量 (m³) ÷ 非洪水期利水容量 (m³)

小渋ダムの令和6年の回転率：16.0回/年



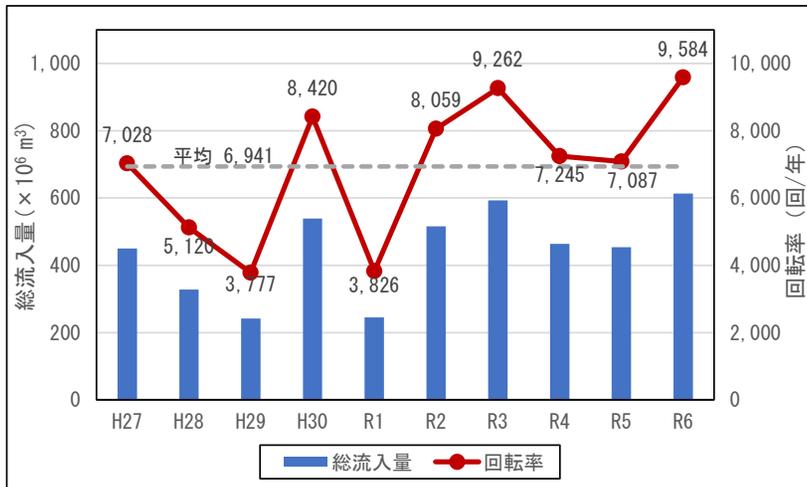
小渋ダムの総流入量と回転率

新豊根ダムの令和6年の回転率：7.6回/年



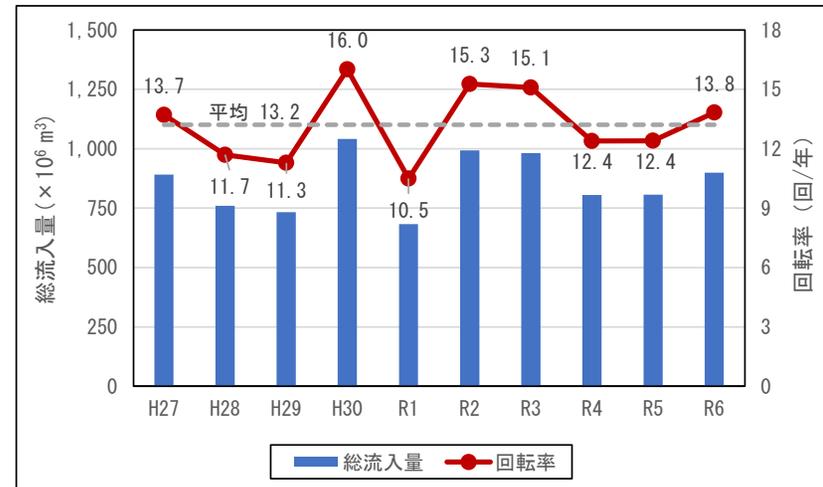
新豊根ダムの総流入量と回転率

寒狭川堰の令和6年の回転率：9,584回/年



寒狭川堰の総流入量と回転率

矢作ダムの令和6年の回転率：13.8回/年



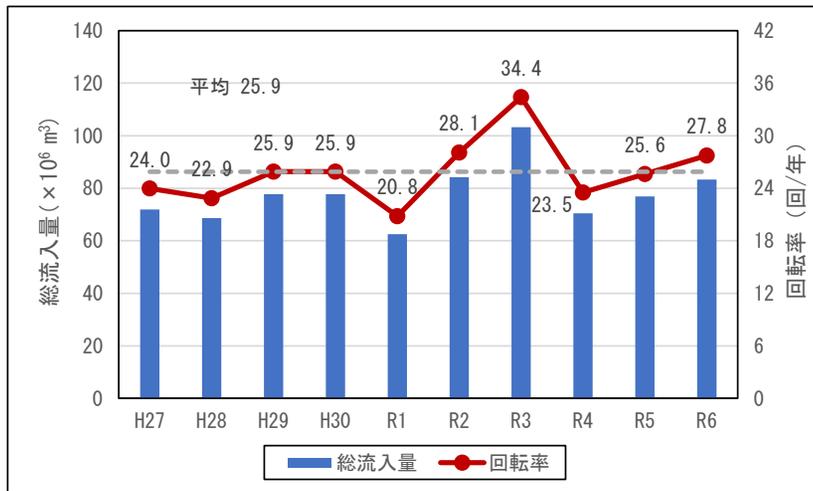
矢作ダムの総流入量と回転率

4. 利水

(3) 各ダムの回転率

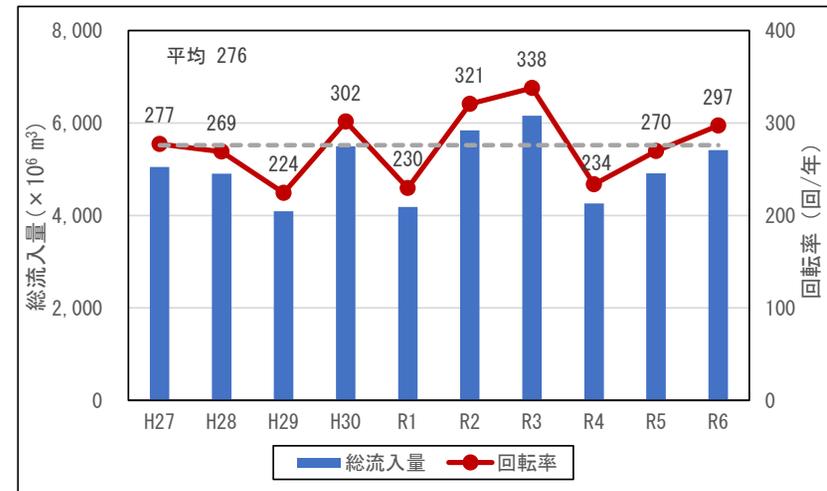
※ 回転率 (回/年) = 総流入量 (m³) ÷ 非洪水期利水容量 (m³)

小里川ダムの令和6年の回転率：27.8回/年



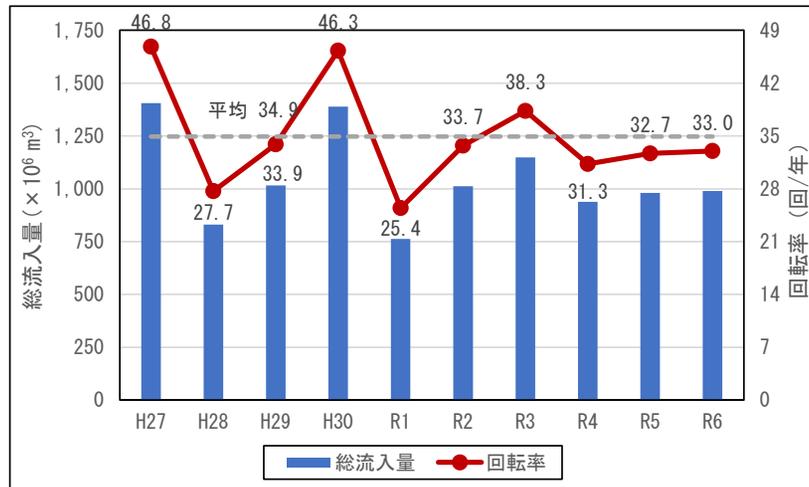
小里川ダムの総流入量と回転率

丸山ダムの令和6年の回転率：297回/年



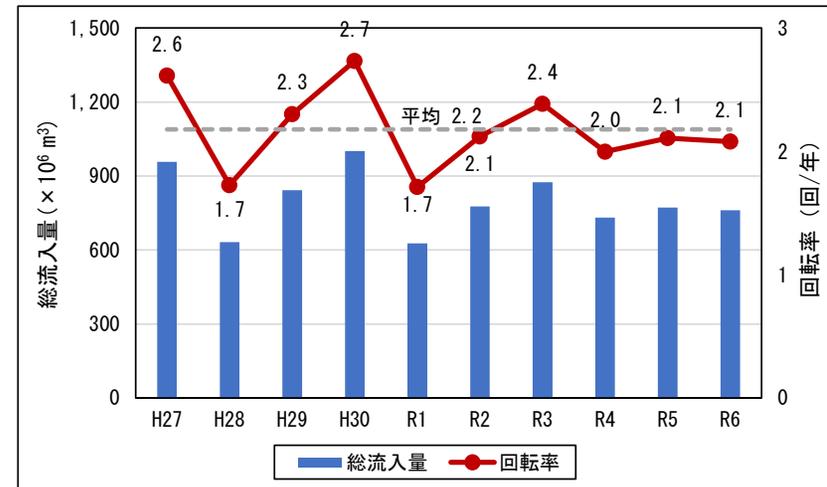
丸山ダムの総流入量と回転率

横山ダムの令和6年の回転率：33.0回/年



横山ダムの総流入量と回転率

徳山ダムの令和6年の回転率：2.1回/年



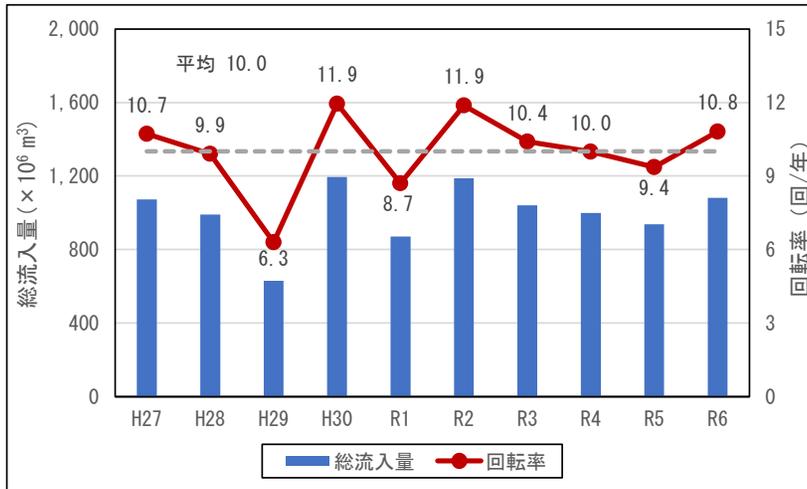
徳山ダムの総流入量と回転率

4. 利水

(3) 各ダムの回転率

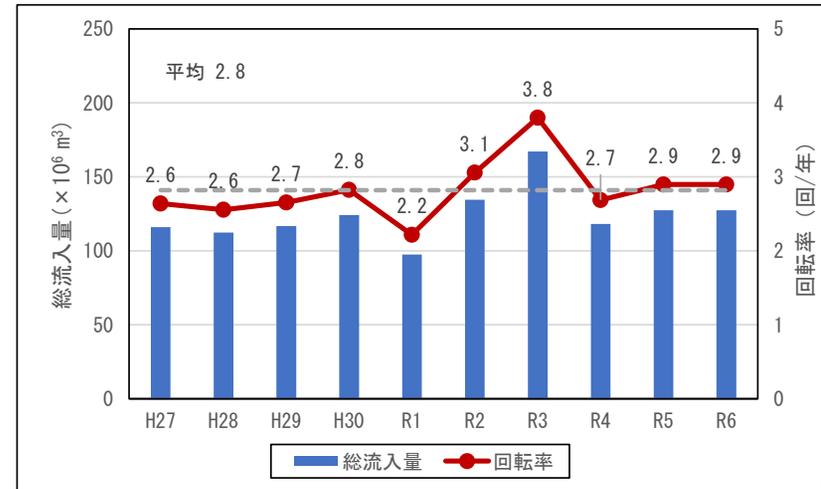
※ 回転率 (回/年) = 総流入量 (m³) ÷ 非洪水期利水容量 (m³)

岩屋ダムの令和6年の回転率：10.8回/年



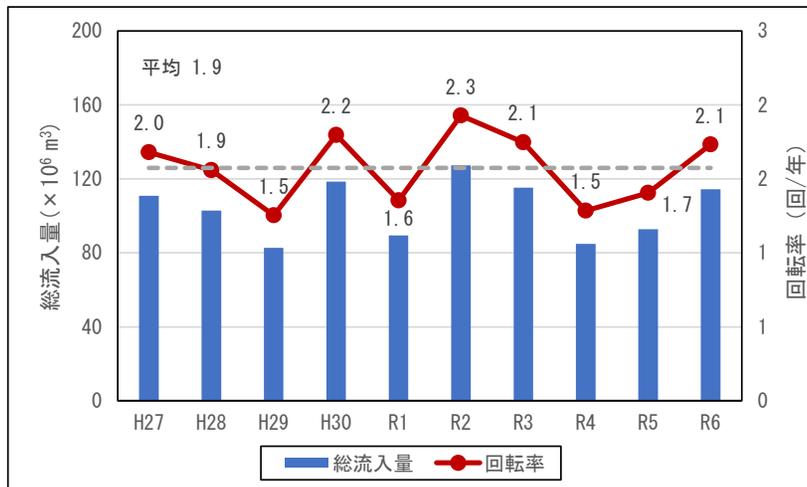
岩屋ダムの総流入量と回転率

阿木川ダムの令和6年の回転率：2.9回/年



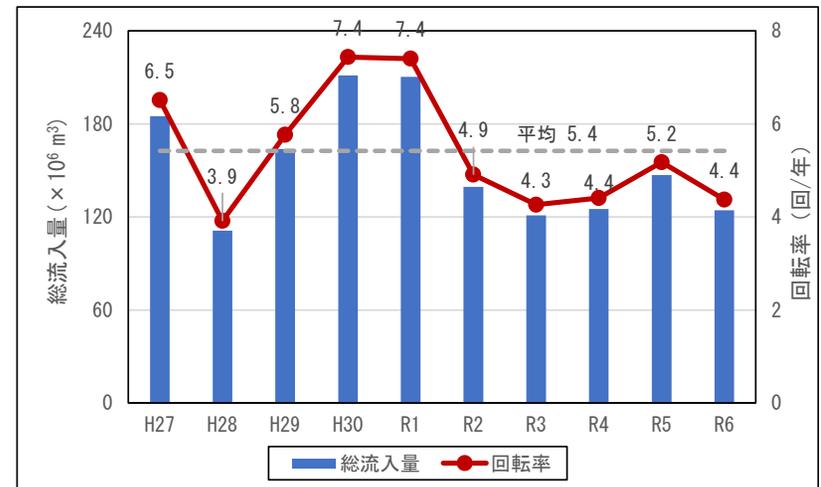
阿木川ダムの総流入量と回転率

味噌川ダムの令和6年の回転率：2.1回/年



味噌川ダムの総流入量と回転率

蓮ダムの令和6年の回転率：4.4回/年



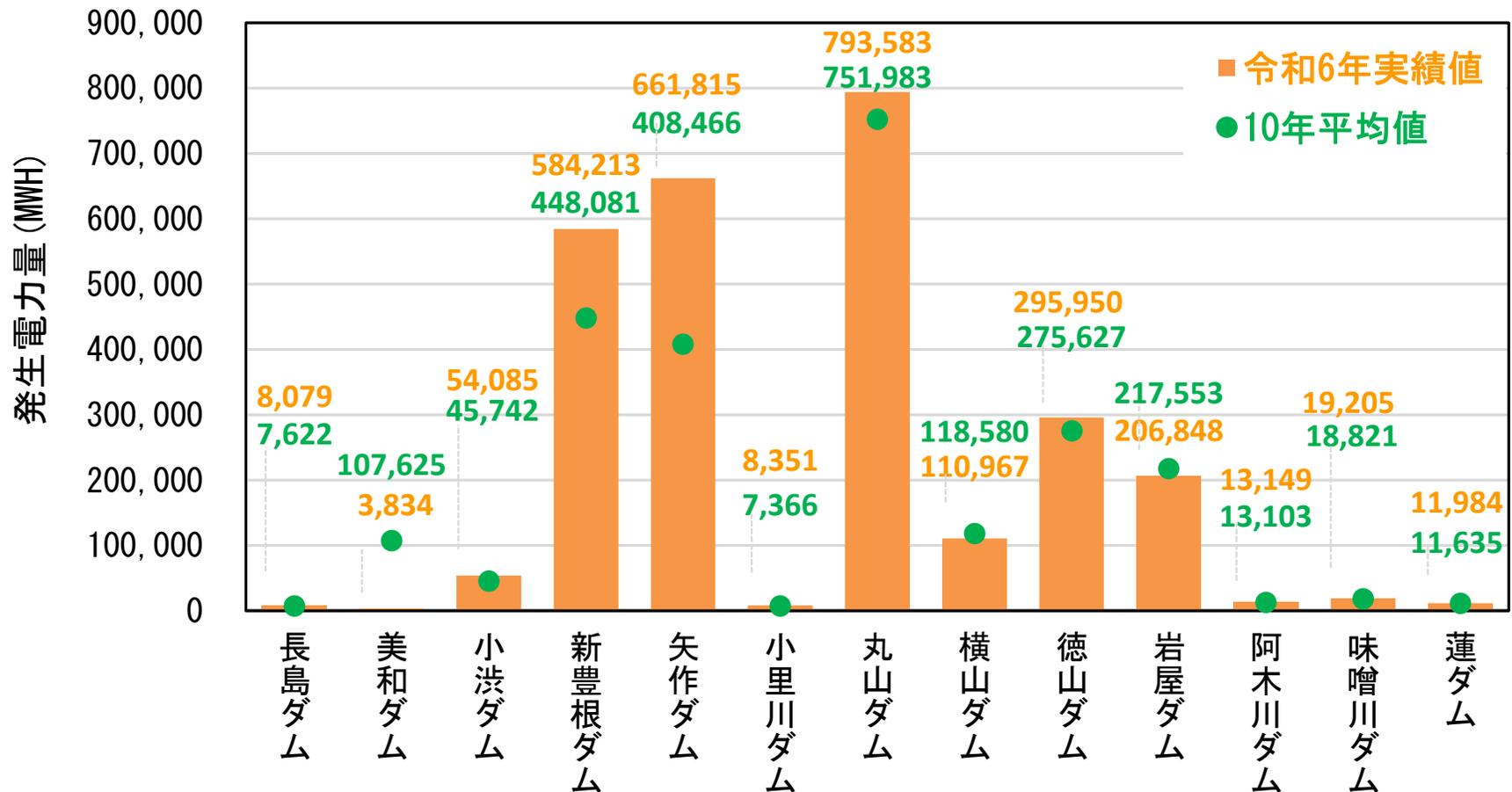
蓮ダムの総流入量と回転率

4. 利水

(4) 各ダムの発生電力量

- 令和6年の発生電力量は、10年平均値と比べて、13ダム中10ダム（長島ダム、小渋ダム、新豊根ダム、矢作ダム、小里川ダム、丸山ダム、徳山ダム、阿木川ダム、味噌川ダム、蓮ダム）では多く、3ダム（美和ダム、横山ダム、岩屋ダム）では平均を下回った。
- なお、美和ダムでは発電所の大規模改修工事のため、運転を停止していた期間がある。（令和4年11月～令和6年8月）

令和6年の発生電力量と10年平均値

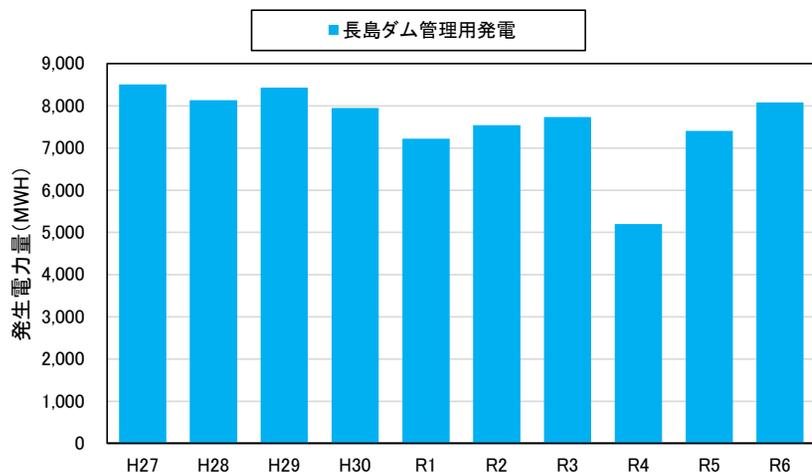


※ 10年平均値：発電所が複数あるダムはその合計による平成27～令和6年の平均値

4. 利水

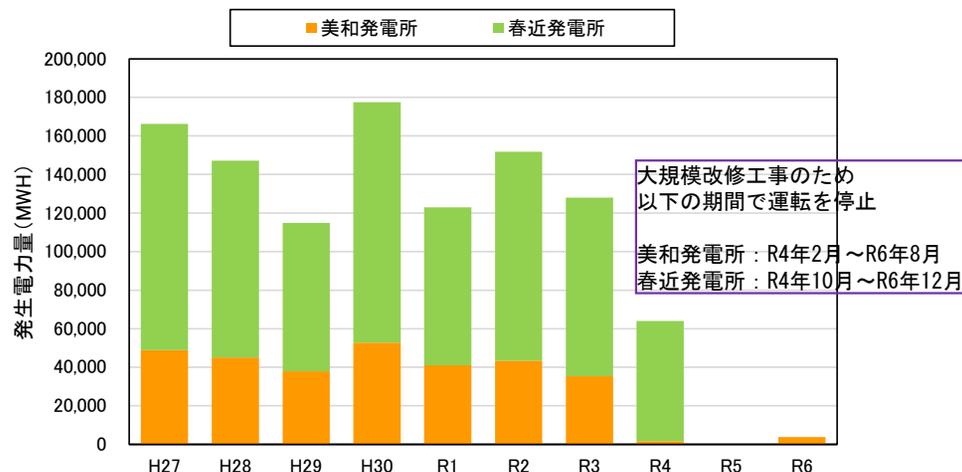
(4) 各ダムの発生電力量

【長島ダム】R6年はダム管理用に8,079MWHを発電した。



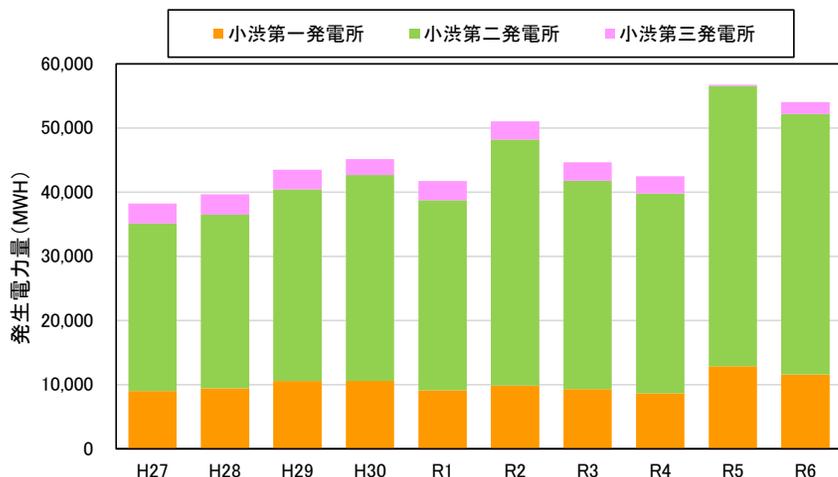
長島ダム（管理用発電）の発生電力量

【美和ダム】R6年は美和発電所において、3,834MWHを発電した。（春近発電所はR7年に試験運用開始）



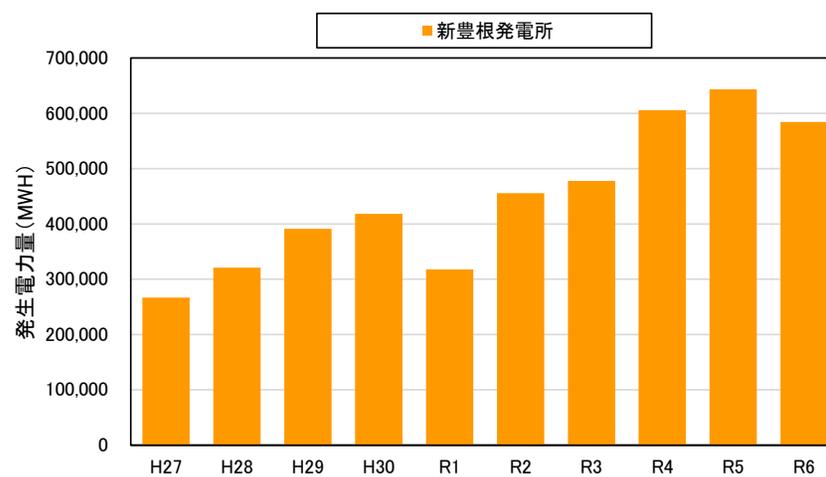
美和ダムに関連する発電所の発生電力量

【小渋ダム】R6年は小渋第一・第二・第三発電所において、54,085MWHを発電した。



小渋ダムに関連する発電所の発生電力量

【新豊根ダム】R6年は新豊根発電所において、584,213MWHを発電した。

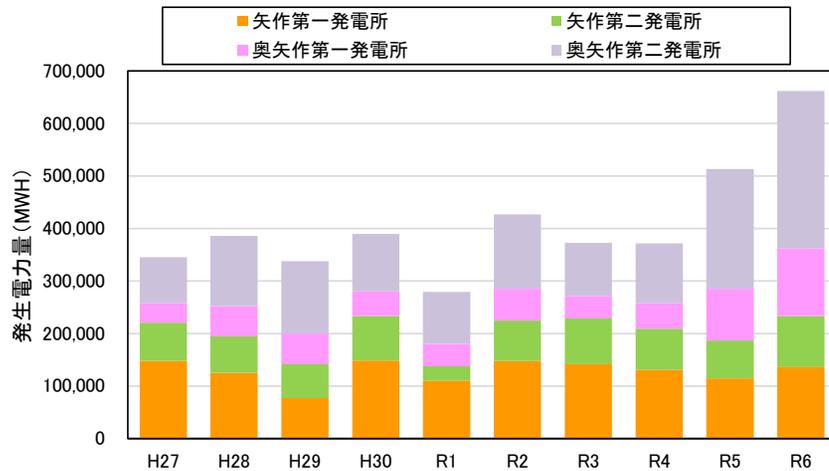


新豊根ダムに関連する発電所の発生電力量

4. 利水

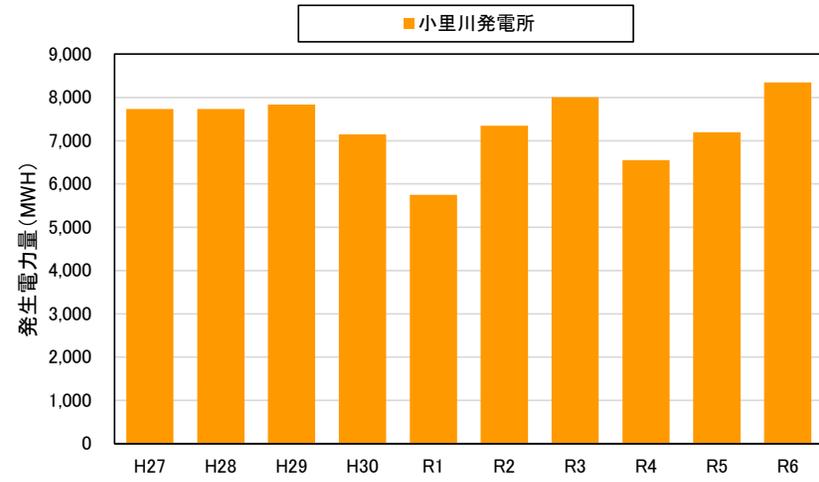
(4) 各ダムの発生電力量

【矢作ダム】R6年は矢作第一・第二発電所および奥矢作第一・第二発電所において、661,815MWHを発電した。



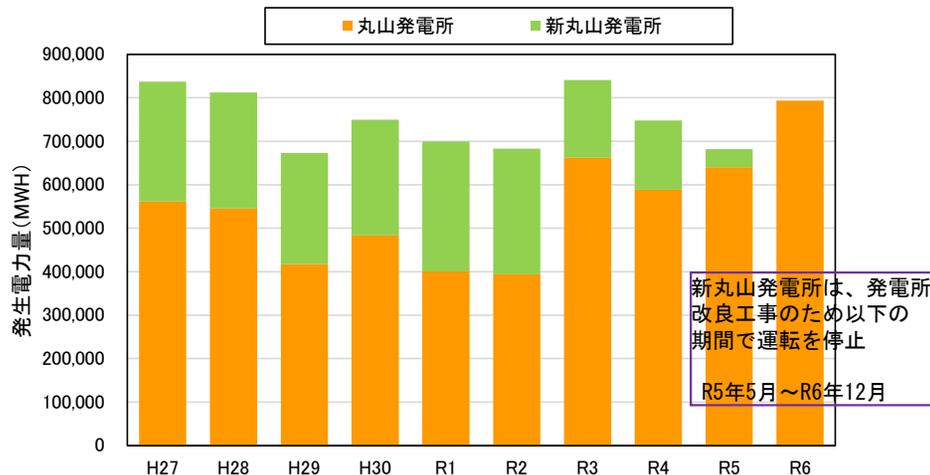
矢作ダムに関連する発電所の発生電力量

【小里川ダム】R6年は小里川発電所において、8,351MWHを発電した。



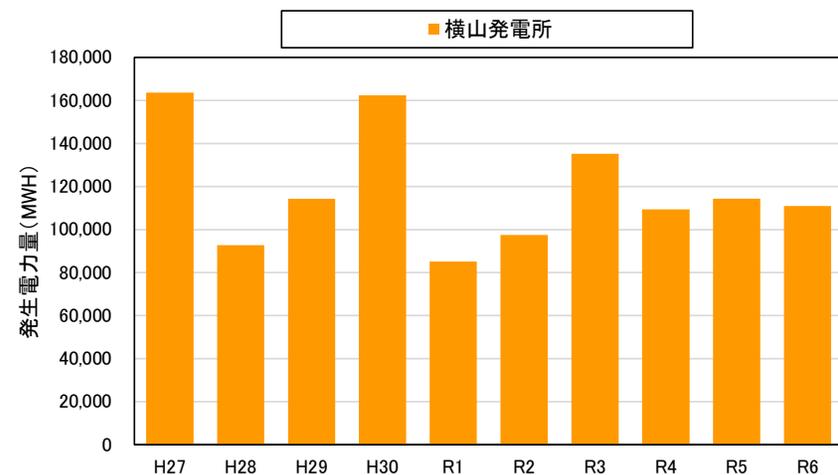
小里川ダムに関連する発電所の発生電力量

【丸山ダム】R6年は丸山発電所において、793,583MWHを発電した。



丸山ダムに関連する発電所の発生電力量

【横山ダム】R6年は横山発電所において、110,967MWHを発電した。

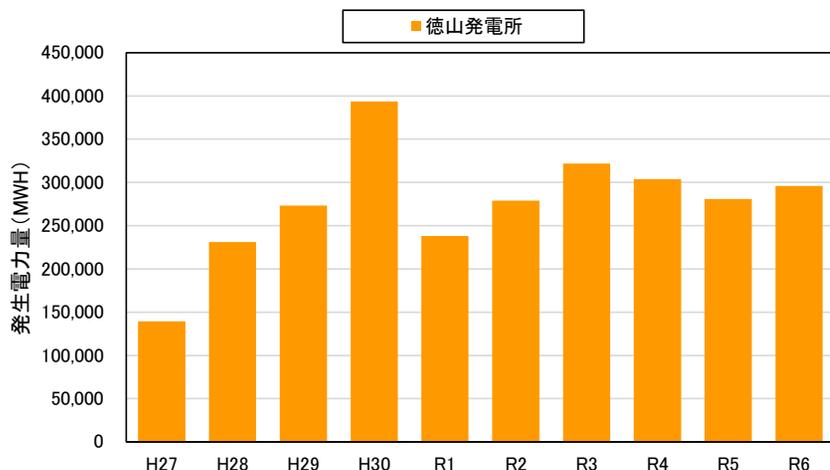


横山ダムに関連する発電所の発生電力量

4. 利水

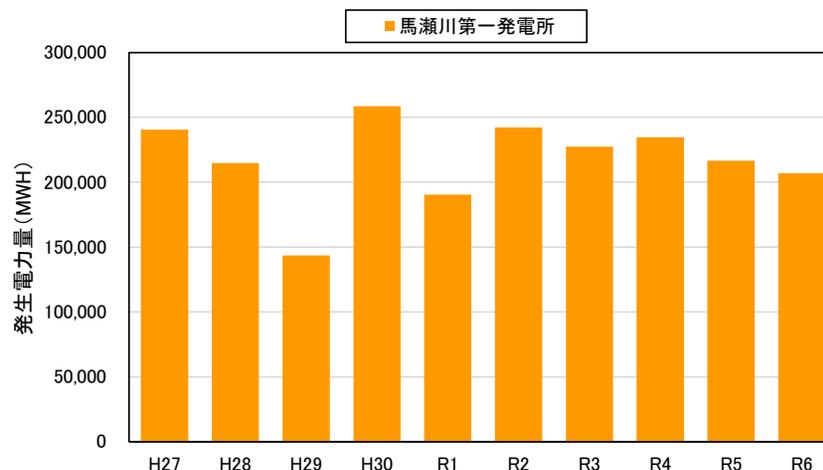
(4) 各ダムの発生電力量

【徳山ダム】R6年は徳山発電所において、295,950MWHを発電した。



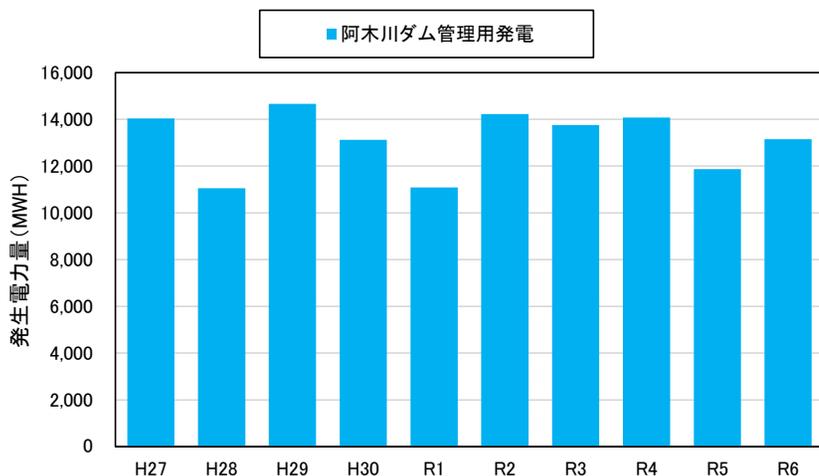
徳山ダムに関連する発電所の発生電力量

【岩屋ダム】R6年は岩屋発電所において、206,848MWHを発電した。



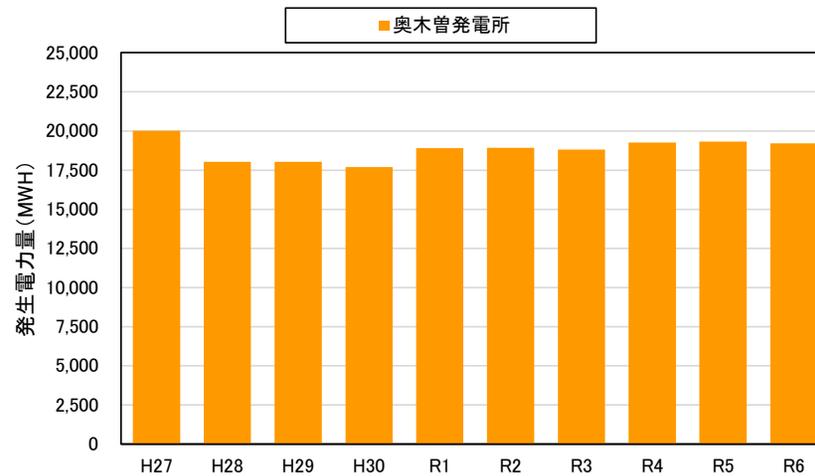
岩屋ダムに関連する発電所の発生電力量

【阿木川ダム】R6年はダム管理用に13,149MWHを発電した。



阿木川ダムに関連する発電所の発生電力量

【味噌川ダム】R6年は奥木曾発電所において、19,205MWHを発電した。

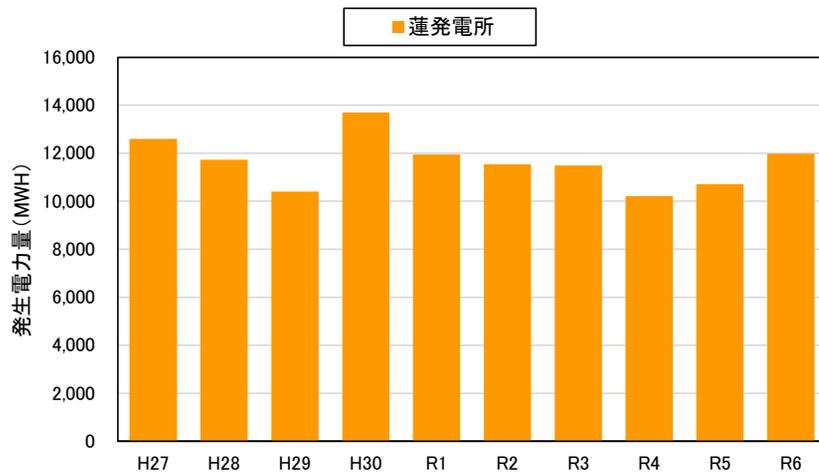


味噌川ダムに関連する発電所の発生電力量

4. 利水

(4) 各ダムの発生電力量

【蓮ダム】R6年は蓮発電所において、11,984MWHを発電した。



蓮ダムに関連する発電所の発生電力量

4. 利水

(5) ダムの運用高度化（ハイブリッドダムの取組）

- 気候変動への適応・カーボンニュートラルへの対応のため、治水機能の強化と水力発電の促進を両立させる「ハイブリッドダム」の取組を推進している。

ハイブリッドダムとは

治水機能の強化、水力発電の増強のため、気象予測も活用し、ダムの容量等の共用化など※ダムをさらに活用する取組のこと。

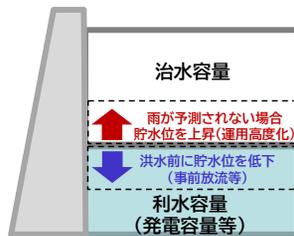
※「ダムの容量等の共用化」としては、例えば、利水容量の治水活用（事前放流等）、治水容量の利水活用（運用高度化）など。単体のダムにとどまらず、上下流や流域の複数ダムの連携した取組も含む。ダムの施設の活用や、ダムの放流水の活用（無効放流の発電へのさらなる活用など）の取組を含む。

取組内容

(1) ダムの運用の高度化

気象予測も活用し、治水容量の水力発電への活用を図る運用を実施。

- ・洪水後期放流の工夫
- ・非洪水期の弾力的運用 など



(2) 既設ダムの発電施設の新増設

既設ダムにおいて、発電設備を新設・増設し、水力発電を実施。



発電設備のイメージ

(3) ダム改造・多目的ダムの建設

堤体のかさ上げ等を行うダム改造や多目的ダムの建設により、治水機能の強化に加え、発電容量の設定などにより水力発電を実施。

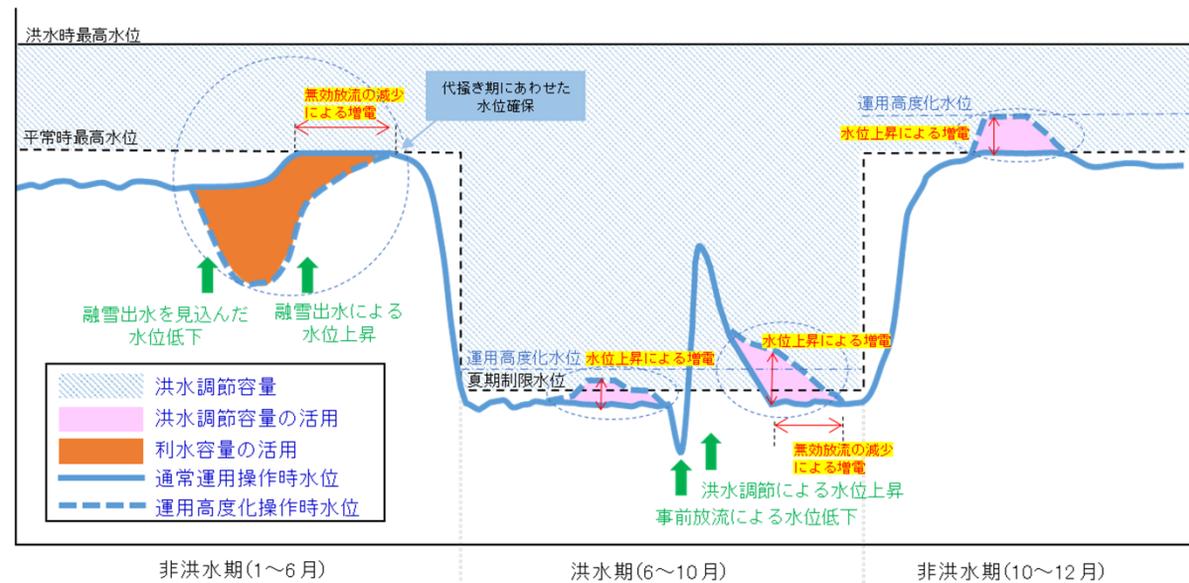


ダムのかさ上げによる治水機能の強化と水力発電の増強

ダムの運用の高度化の取組

- 国土交通省及び水資源機構が管理するダムにおいて、既存ダムの有効貯水容量を最大限に活用して再生可能エネルギーの創出に資することを目的に、運用の高度化の取組を進めている。

ダムの運用の高度化イメージ



治水 ダム改造、多目的ダム建設の推進により、治水機能を強化するとともに水力発電の促進を目指す

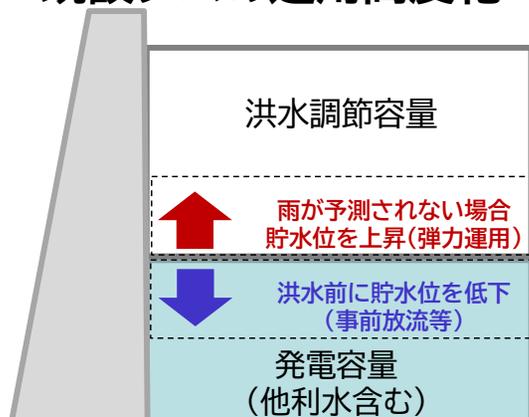
発電 R6にダム運用高度化の本格実施、発電施設の新設・増設を行う事業の事業化を目指し、カーボンニュートラルに貢献

4. 利水

(5) ダムの運用高度化（中部地方ダムにおける取組）

- 令和4年度に横山ダム、令和5年度に矢作ダムで試行を開始し、令和6年度から、さらに水資源機構が管理する2ダムで試行を開始した。（計4ダム）
- 令和6年度は、横山ダム、徳山ダムで6月23日～26日にかけて試行実施した。
- 令和7年度は、矢作ダムで7月17日～20日にかけて試行実施した。

<既設ダムの運用高度化>



- 洪水後には、緩やかな水位低下により、ダムに貯留した水を最大限活用して増電
- 洪水が発生しない時期には、一定の高さまで水位を上げることにより増電
- 今後も、降雨予測の精度向上に合わせ、さらなる運用高度化を推進

<令和6年度の試行ダム>

運用高度化実施ダム	水系	河川名	所在地	ダム管理者	放流形式	試行開始
横山ダム	木曽川	揖斐川	岐阜県	中部地方整備局	ゲート式	令和4年度
矢作ダム	矢作川	矢作川	愛知県 岐阜県	中部地方整備局	ゲート式	令和5年度
味噌川ダム	木曽川	木曽川	長野県	水資源機構	ゲート式	令和6年度
徳山ダム	木曽川	揖斐川	岐阜県	水資源機構	ゲート式	令和6年度

 令和6年度に実施したダム

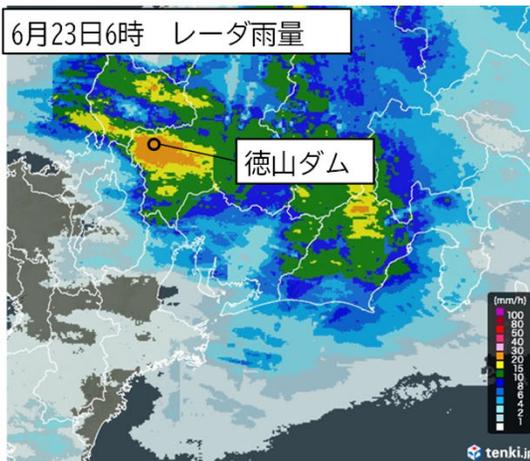
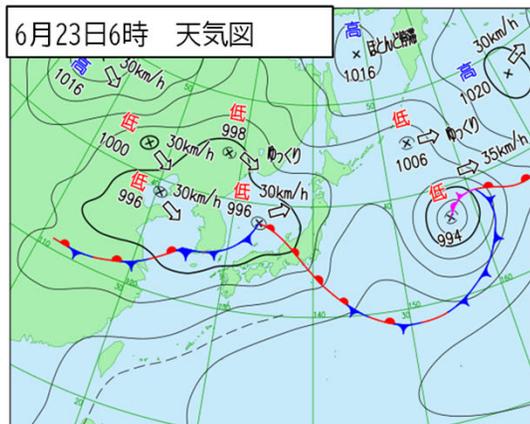
 令和7年度に実施したダム

4. 利水

(5) ダムの運用高度化（徳山・横山ダムの放流活用操作①）

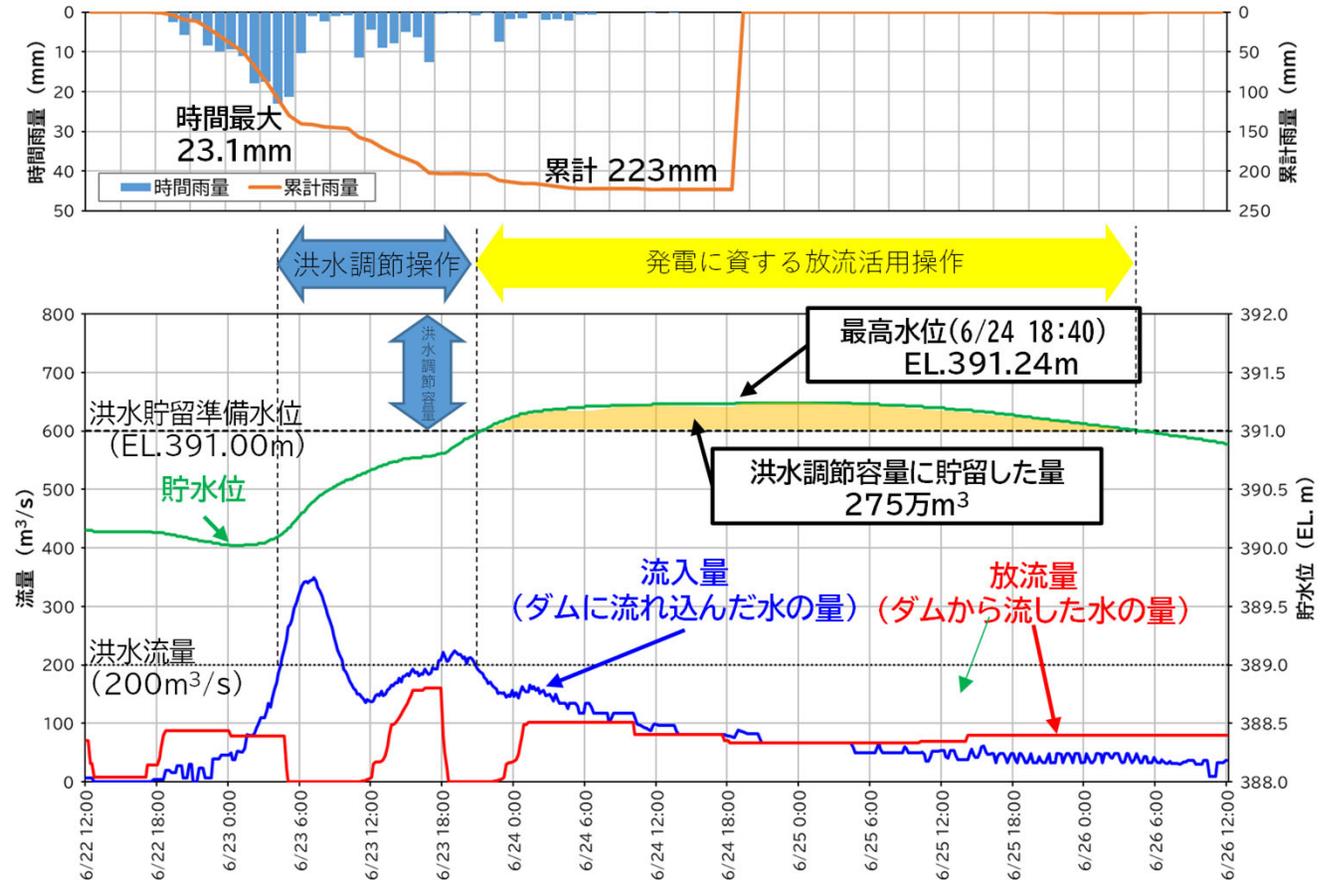
<81>

- 令和6年6月下旬の梅雨前線の活動により、九州北部から北陸を中心にライン状の活発な雨雲がかかり激しい雨となった。徳山ダム流域では6月22日の18時頃から雨が降り始め、流域平均総雨量は223mmを観測した。
- この降雨の影響で、揖斐川の流量が増加し、2度にわたり防災操作を実施し、合計約710万 m^3 （バンテリンドームナゴヤ約4杯分）の水を徳山ダムに貯留した。
- その後、次の洪水に備えて貯水位を洪水貯留準備水位以下に低下させるのが従来のダム操作であるが、最新の気象予測技術を活用しその後の降雨の状況を踏まえ、洪水調節準備水位以上に貯留した275万 m^3 （バンテリンドームナゴヤ約1.6杯分）の水を水力発電所により放流する取組を徳山ダムで初めて実施した。



●徳山ダムにおける発電に資する放流活用操作

※バンテリンドームナゴヤ1杯：約170万 m^3



4. 利水

(5) ダムの運用高度化（徳山・横山ダムの放流活用操作②）

- 今回の一連の操作により、徳山ダムと横山ダムにおける合計の増電量は約1,581MWhと試算される。
 - これは、一般家庭約6,080戸が1ヶ月に消費する電力量に相当する。
- ※一般家庭の1ヶ月の消費電力量を260kWhとして試算したもの



発電に資する放流活用操作の試行日時※1	活用した量 (万m ³)	増電量 (MWh)	対象ダム※2	備考
R4. 8. 7 0時～ R4. 8. 8 8時	約250	約350	横山ダム	洪水後の貯留水を活用
R4. 9. 20 23時～ R4. 9. 22 1時	約120	約160	横山ダム	洪水とならない出水を活用
R5. 7. 1 22時～ R5. 7. 2 21時	約7.6	約8.8	横山ダム	洪水とならない出水を活用
R5. 8. 17 17時～ R5. 8. 19 21時	約197	約230	横山ダム	洪水後の貯留水を活用
R6. 6. 24 10時～ R6. 6. 26 5時	約275	約1,581	徳山ダム 横山ダム	洪水後の貯留水を活用

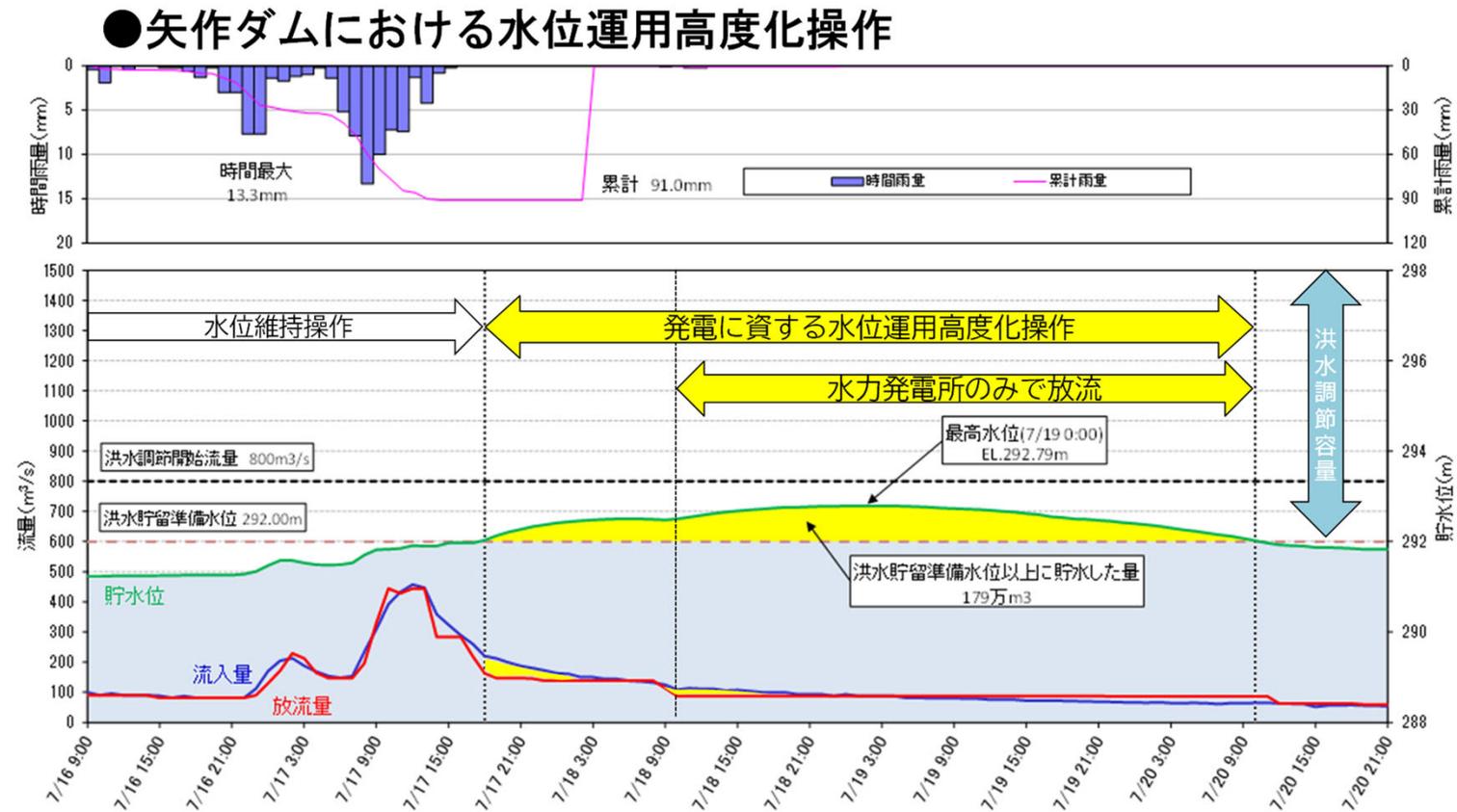
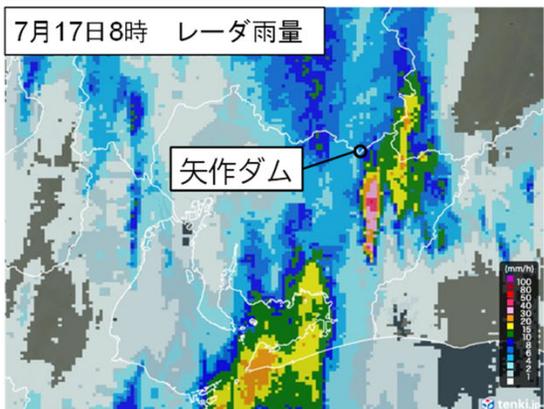
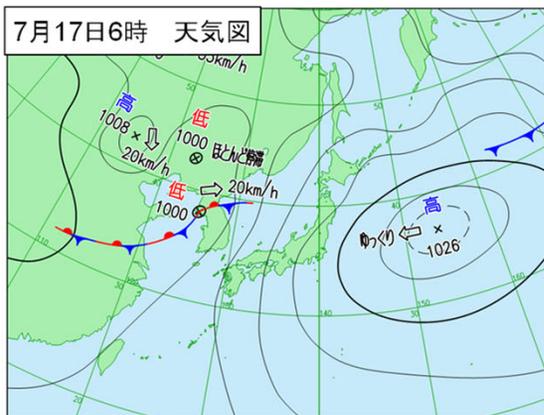
※1 開始時刻は発電に資する放流活用操作のためゲート放流を停止した時刻、終了時刻は発電活用操作により洪水貯留準備水位以下に水位が低下した時刻を記載。

※2 横山ダムにおいては令和4年の出水期から発電に資する放流活用操作に取り組んでいる。

4. 利水

(5) ダムの運用高度化（矢作ダムの水位運用高度化操作①）

- 令和7年7月中旬の南からの暖かく湿った空気の影響により、東日本と西日本の太平洋側で大気の状態が非常に不安定となり大雨となった。矢作ダム流域では、7月16日9時頃から雨が降り始め、流域平均総雨量は91mmを観測した。
- この降雨の影響により、矢作ダムでは防災操作の実施には至らなかったものの、貯水位が洪水貯留準備水位を超過しないよう、7月17日18時までは水位維持操作（流入量＝放流量）を実施した。
- 本来のダム操作は、次の出水に備え、貯水位が洪水貯留準備水位以下となるよう水位維持操作を継続するが、最新の気象予測技術を活用し、その後の降雨の状況を踏まえ、洪水貯留準備水位以上に貯留することで179万m³の水を水力発電所により放流する取組を矢作ダムで初めて実施した。



4. 利水

(5) ダムの運用高度化（矢作ダムの水位運用高度化操作②）

- 今回、一連の操作の試行により、矢作ダムから取水する中部電力の矢作第一水力発電所における増電量は、約321MWhと試算される。
- これは、一般家庭約1,240戸が1ヶ月に消費する電力量に相当する。

※一般家庭の1ヶ月の消費電力量を260kWhとして試算したもの



発電に資する水位 運用高度化操作の 試行日時※1	運用高度 化実施量 (万m ³)	増電量 (MWh)	備考
R7. 7. 17 18時～ R7. 7. 20 10時	約179	約321	洪水とならない出水を活用

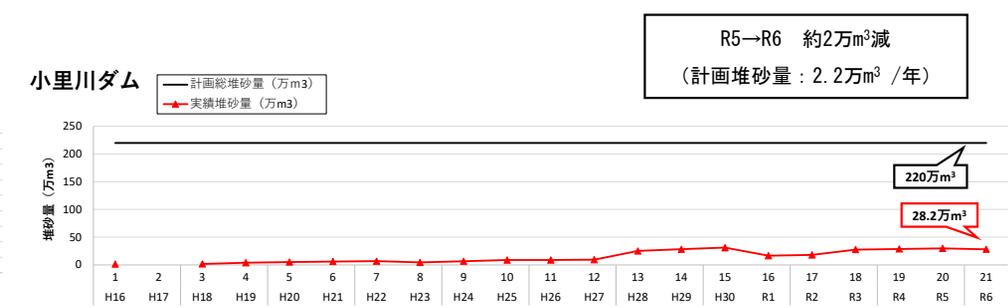
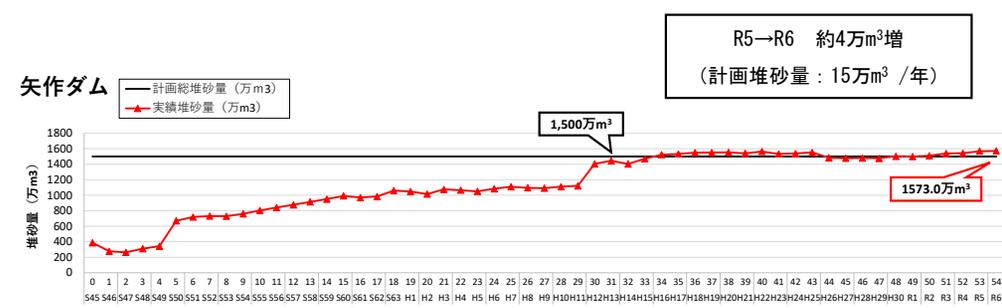
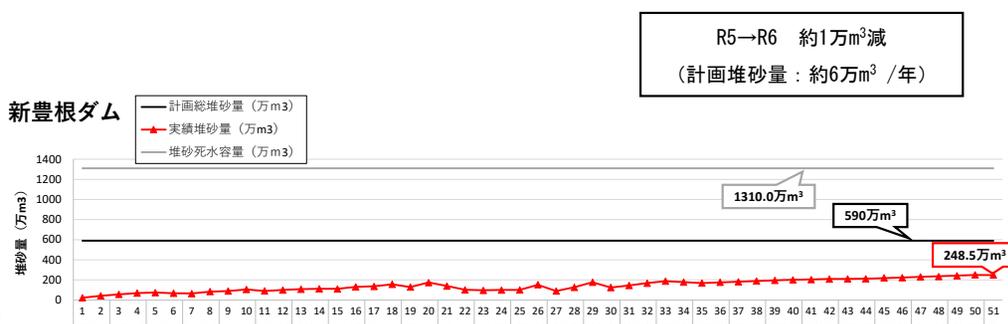
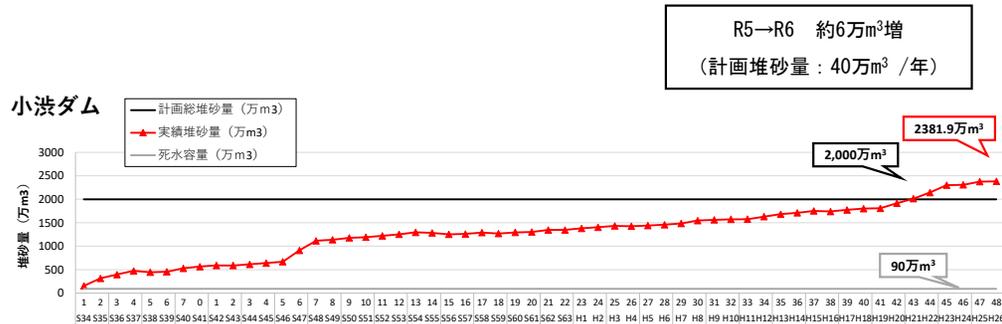
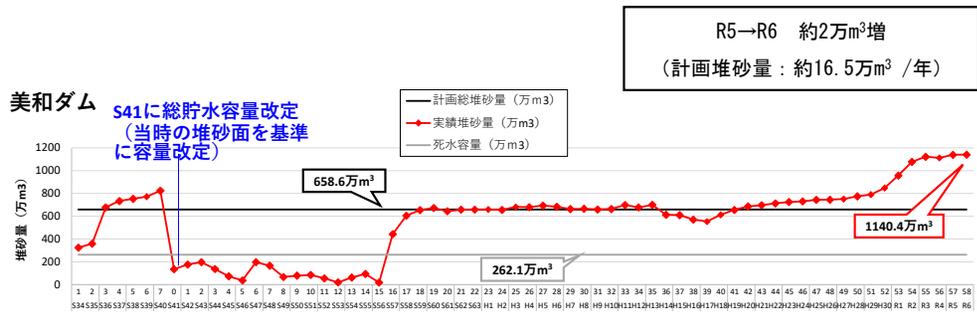
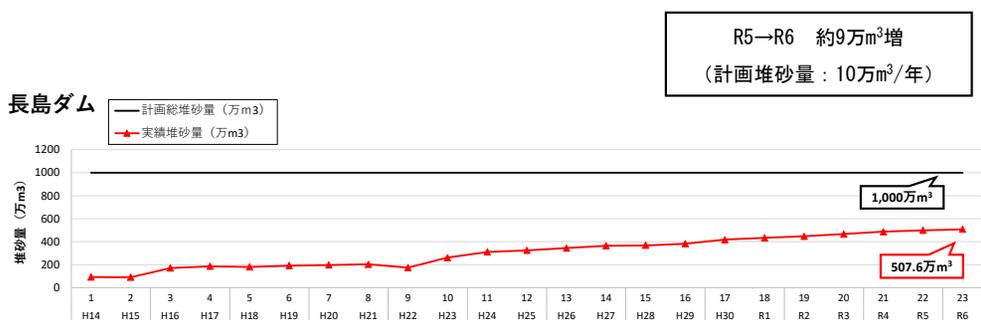
※1 開始時刻は発電に資する水位運用高度化操作の試行のためゲート放流を停止した時刻、終了時刻は発電に資する水位運用高度化操作の試行により洪水貯留準備水位以下に水位が低下した時刻を記載。

※2 矢作ダムにおいては令和5年の出水期から発電に資する水位運用高度化操作の試行に取り組んでいる。

5. 堆砂

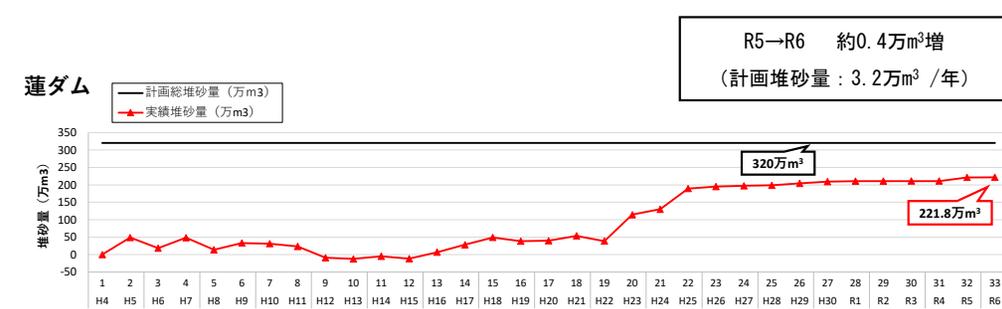
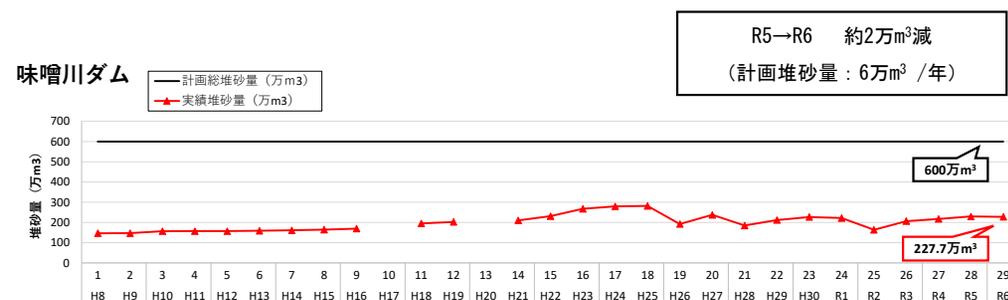
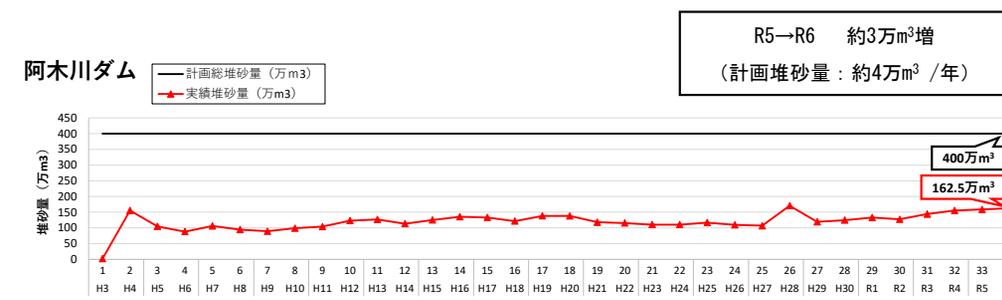
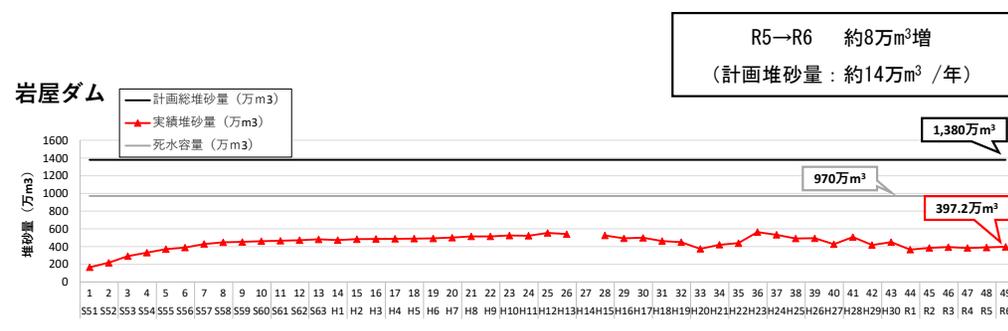
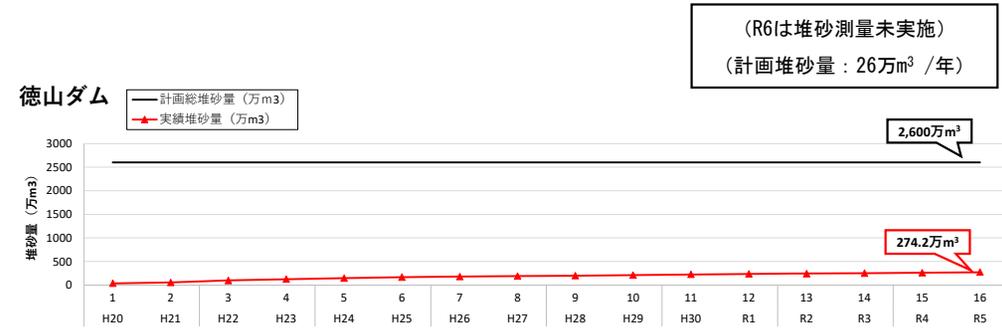
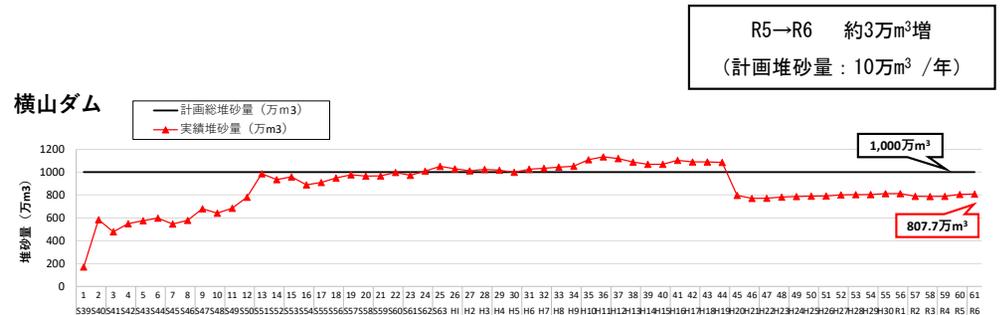
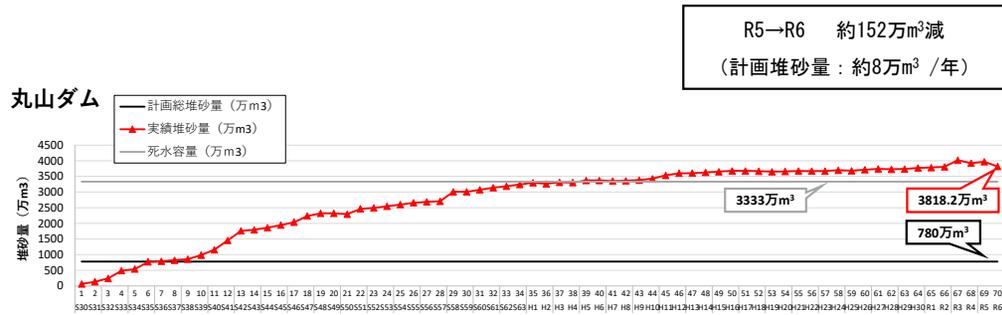
(1) 堆砂状況 各ダムの経年堆砂状況

- 令和5年～令和6年にかけての堆砂量は、大きく増加したダムはなく、測量した全てのダムで年間の計画堆砂量以下という結果になった。
- 総堆砂量では、美和ダム、小渋ダム、矢作ダム、丸山ダムで計画堆砂量を上回っている。



5. 堆砂

(1) 堆砂状況 各ダムの経年堆砂状況



5. 堆砂

(2) 堆砂対策（対策実施ダム）

令和6年の堆砂対策の状況

(単位：千m³)

- 長島ダム：土砂掘削 25.0
- 美和ダム：砂利採取 58.6、土砂掘削 50.3
バイパス排砂 69.7
- 小渋ダム：砂利採取 70.2、土砂掘削 68.6
バイパス排砂 607.7
- 新豊根ダム：実施なし
- 寒狭川堰：実施なし
- 矢作ダム：砂利採取 7.8、土砂掘削 35.2
- 小里川ダム：実施なし
- 丸山ダム：実施なし
- 横山ダム：土砂掘削 13.2
- 徳山ダム：実施なし
- 岩屋ダム：砂利採取 3.8
- 阿木川ダム：実施なし
- 長良川河口堰：実施なし
- 味噌川ダム：土砂掘削 1.0
- 蓮ダム：砂利採取 6.6



砂利採取の様子（蓮ダム）

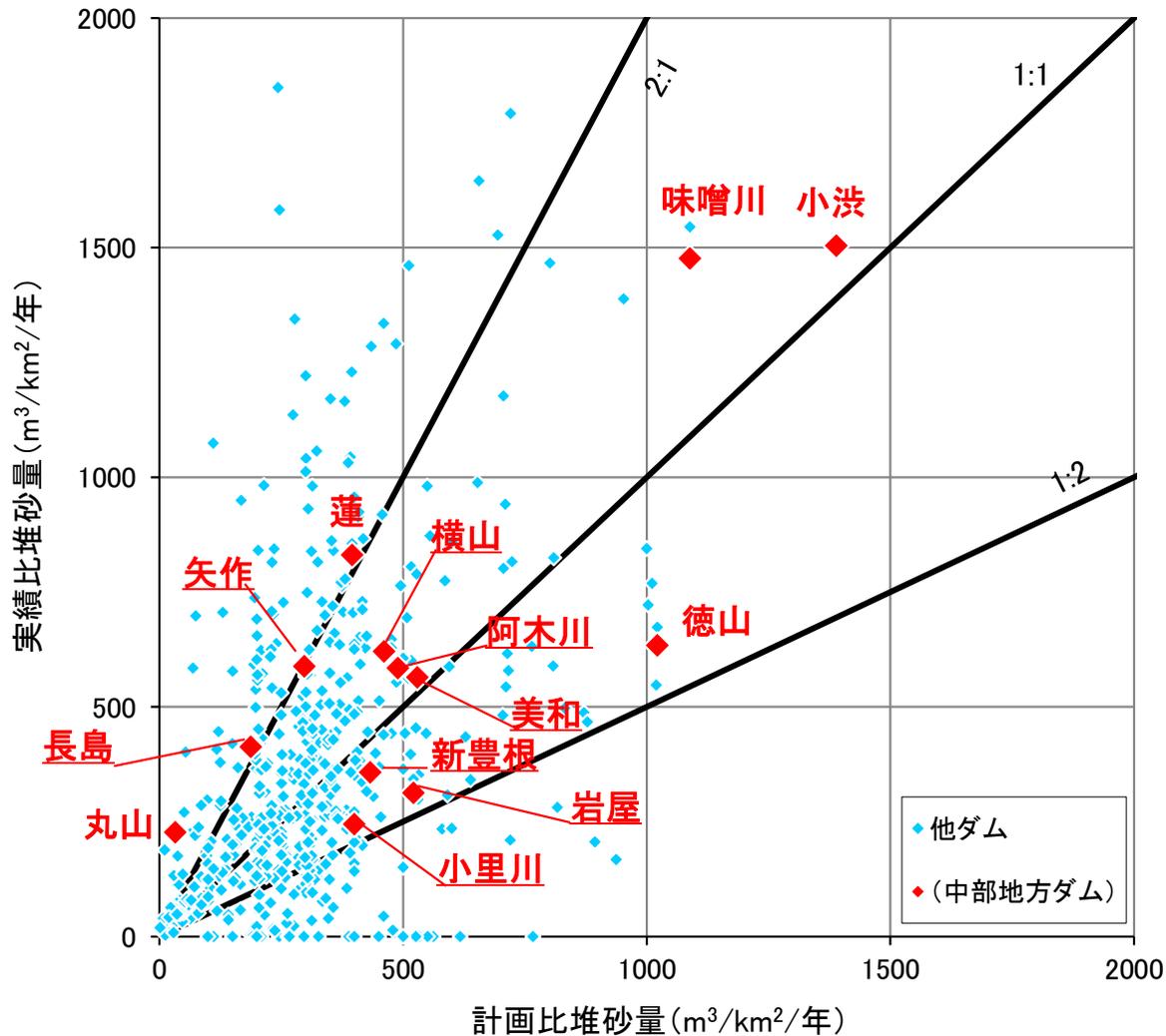


土砂バイパストンネル概要図・施設役割（小渋ダム）

5. 堆砂

(3) 参考：全国ダムの堆砂状況との比較 <88>

計画比堆砂量に対する実績比堆砂量



計画比堆砂量=計画堆砂容量(m³)/流域面積(km²)/計画年数

実績比堆砂量= 堆砂実績(m³) /流域面積(km²) /経過年数

データ出典：全国のダムの堆砂状況(国土交通省ウェブサイト)

https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/river/mizukokudo04_tk_000002.html

5. 堆砂

(4) 堰堤改良事業（長島ダムでのダムリフレッシュ事業②）

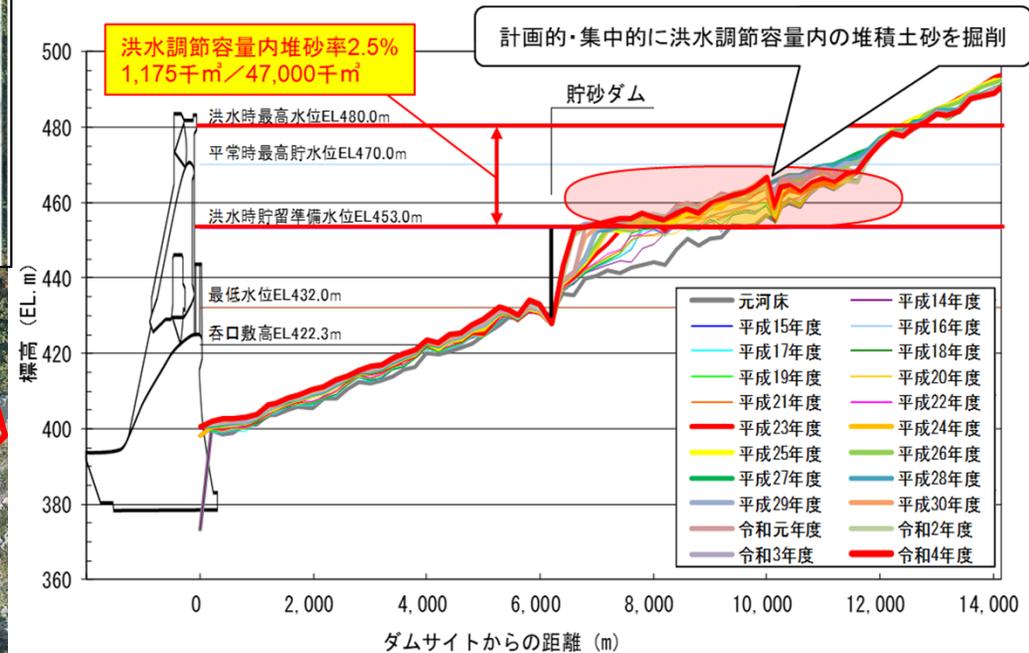
- 長島ダムは、洪水調節容量内の堆砂が進行しており、洪水調節機能に支障を及ぼす恐れがある。
- そのため、ダム貯水池機能（洪水調節容量）を回復するための堆砂対策（堆砂除去）を計画的・集中的に実施する堰堤改良事業（ダムリフレッシュ事業）に着手する。

<長島ダム貯水池 対策箇所図>



<堆砂状況>

長島ダムは、洪水調節容量内の堆砂が令和4年度時点で1,175千 m^3 （洪水調整容量内堆砂率2.5%）と進行しており、洪水調節機能に支障を及ぼす恐れがあるため、堆砂対策が喫緊の課題となっている。



5. 堆砂

(4) 堰堤改良事業（小渋ダムの土砂バイパストンネル）

- 小渋ダムの土砂バイパストンネルは、ダム貯水池への土砂流入を減少させ堆砂の進行を抑制すること、及びダム下流へ土砂を供給することによりダム下流河道の環境を改善することを目的として、平成28年度に完成し、試験運用を経て令和6年度より本運用を開始している。
- 小渋ダム流域には中央構造線が縦断しており、脆弱な地質であることから、大量の土砂が生産され流入するため、土砂バイパストンネルの効率的・安定的な土砂排砂機能の確保が課題となっている。
- そのため、小渋ダムでは、中長期的なダム貯水池機能維持のための土砂バイパストンネルにおける分派機能の向上対策、トンネル施設延命化のための貯砂堰における大粒径土砂捕捉対策を実施する堰堤改良事業に着手している。

<対策内容>

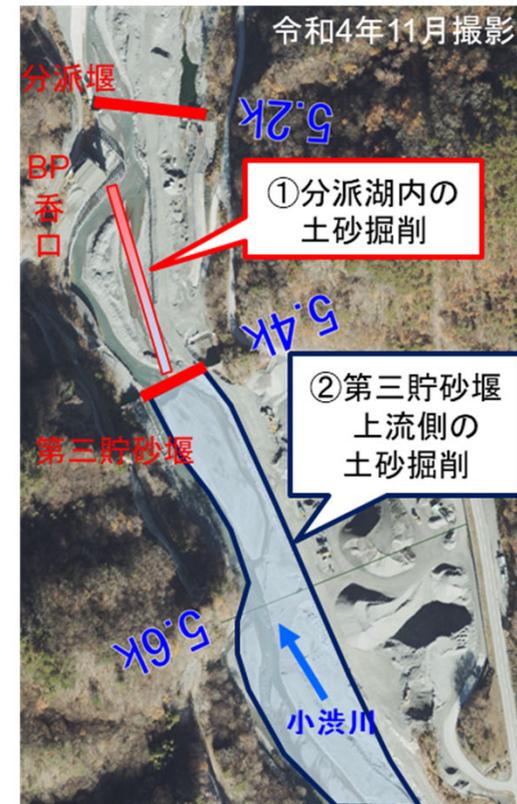
- ①：分派機能向上のための土砂掘削
- ②：大粒径土砂を捕捉するため第三貯砂堰の上流側の土砂掘削
- ③：大粒径土砂を捕捉するため第三貯砂堰の鋼製スリット化を実施



【第三貯砂堰の改良概要】



【土砂掘削の概要】



6. 水質 (1) 水質の現況

- 環境基準が設定されている項目は、令和6年において概ね基準値を満たしていたが、表層SS、BOD、表層大腸菌数で基準値を超過するダムが確認された。

ダム名	類型指定	貯水池の水質									
		表層pH	表層DO (mg/L)	表層SS (mg/L)	BOD表層 (mg/L)	COD表層 (mg/L)	T-N表層 (mg/L)	T-P表層 (mg/L)	表層大腸菌数 (CFU/100mL)	表層クロロフィルa (μg/L)	
長島ダム	河川AA	最大値	8.0	10.6	5.0	1.6	2.3	0.280	0.045	19	8.0
		平均値	7.7	9.7	2.1	0.7	1.4	0.159	0.013	15	2.5
		最小値	7.5	8.7	1.0	<0.5	0.6	0.070	0.005	<1	1.0
	基準値	6.5~8.5	7.5mg/L以上	25mg/L以下	1mg/L以下	-	-	-	-	20CFU/100mL以下	-
美和ダム	河川A	最大値	8.6	11.2	8.0	1.0	1.9	0.440	0.025	34	3.0
		平均値	8.3	9.5	3.4	0.8	1.5	0.312	0.013	12	1.4
		最小値	8.0	8.5	1.0	0.5	0.7	0.200	0.005	1	1.0
	基準値	6.5~8.5	7.5mg/L以上	25mg/L以下	2mg/L以下	-	-	-	-	300CFU/100mL以下	-
小渋ダム	河川AA	最大値	8.8	12.0	153.0	2.7	3.5	0.460	0.091	65	29.0
		平均値	8.2	10.0	26.0	1.3	2.3	0.297	0.028	15	4.3
		最小値	7.7	8.2	1.0	0.5	0.5	0.200	0.007	1	1.0
	基準値	6.5~8.5	7.5mg/L以上	25mg/L以下	1mg/L以下	-	-	-	-	20CFU/100mL以下	-
新豊根ダム	-	最大値	8.2	11.3	6.0	1.4	2.1	0.700	0.018	91	4.0
		平均値	7.8	9.6	1.9	0.7	1.7	0.483	0.014	19	2.1
		最小値	7.5	7.1	1.0	0.5	1.3	0.200	0.010	<1	1.0
	基準値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
寒狭川堰	河川AA	最大値	7.9	13.8	2.0	0.5	2.0	0.410	0.015	95	1.0
		平均値	7.6	10.7	1.1	0.5	1.6	0.313	0.009	83	1.0
		最小値	7.5	8.3	1.0	0.5	1.0	0.250	0.006	1	1.0
	基準値	6.5~8.5	7.5mg/L以上	25mg/L以下	1mg/L以下	-	-	-	-	20CFU/100mL以下	-
矢作ダム	河川AA	最大値	9.0	12.7	4.0	2.6	5.2	0.480	0.021	1800	9.0
		平均値	7.6	10.0	1.9	1.7	2.7	0.291	0.012	367	4.6
		最小値	6.8	8.5	1.0	<0.5	1.6	0.210	0.007	<1	2.0
	基準値	6.5~8.5	7.5mg/L以上	25mg/L以下	1mg/L以下	-	-	-	-	20CFU/100mL以下	-
小里川ダム	河川B	最大値	8.8	12.2	9.0	3.3	5.3	0.720	0.069	240	14.0
		平均値	7.5	9.0	3.3	1.8	4.3	0.520	0.049	54	5.3
		最小値	7.1	5.5	1.0	<0.5	3.1	0.040	0.027	3	1.0
	基準値	6.5~8.5	5mg/L以上	25mg/L以下	3mg/L以下	-	-	-	-	1,000CFU/100mL以下	-
丸山ダム	河川A	最大値	7.3	12.6	24.0	1.2	3.4	0.390	0.033	300	4.0
		平均値	7.2	10.5	6.3	0.7	2.0	0.287	0.017	88	1.3
		最小値	7.1	8.3	1.0	0.5	0.6	0.160	0.010	1	1.0
	基準値	6.5~8.5	7.5mg/L以上	25mg/L以下	2mg/L以下	-	-	-	-	300CFU/100mL以下	-

: 基準値を満たしている項目
 : 基準値を超過している項目

※新豊根ダムは環境基準が指定されていない。
 ※数値は、貯水池内基準点の表層における年平均値を示す。ただし、BOD・CODは年75%値を示す。
 表層大腸菌数は年90%値を示す。

6. 水質

(1) 水質の現況

- ・横山ダム、徳山ダム、岩屋ダム、阿木川ダム、長良川河口堰、味噌川ダム、蓮ダムでは環境基準が設定されている項目は、令和6年において基準値を満たしていた。

ダム名	類型指定	貯水池の水質									
		表層pH	表層DO (mg/L)	表層SS (mg/L)	BOD表層 (mg/L)	COD表層 (mg/L)	T-N表層 (mg/L)	T-P表層 (mg/L)	表層大腸菌数 (CFU/100mL)	表層クロロフィルa (μg/L)	
横山ダム	河川AA 湖沼AⅢ	最大値	9.3	13.2	2.0	2.6	2.9	0.450	0.023	15	15.0
		平均値	7.7	10.8	1.2	1.2	1.8	0.340	0.013	12	5.7
		最小値	7.4	8.3	1.0	0.5	1.0	0.270	0.009	1	1.0
	基準値	6.5~8.5	7.5mg/L以上	5mg/L以下	-	3mg/L以下	-	0.03mg/L以下	300CFU/100mL以下	-	
徳山ダム	河川AA	最大値	8.7	12.0	1.0	1.1	2.6	0.390	0.006	4	6.0
		平均値	7.7	9.9	1.0	1.0	1.8	0.297	0.004	1	2.9
		最小値	7.2	8.7	1.0	0.3	0.6	0.190	0.003	1	0.5
	基準値	6.5~8.5	7.5mg/L以上	25mg/L以下	-	-	-	-	300CFU/100mL以下	-	
岩屋ダム	河川AA	最大値	7.5	11.8	2.1	0.9	1.7	0.265	0.014	6	2.6
		平均値	7.3	10.1	0.6	0.6	1.5	0.177	0.007	1	1.2
		最小値	7.0	8.3	0.0	0.5	1.1	0.094	0.001	<1	0.3
	基準値	6.5~8.5	7.5mg/L以上	25mg/L以下	1mg/L以下	-	-	-	20CFU/100mL以下	-	
阿木川ダム	河川A	最大値	7.4	12.0	8.0	1.4	3.6	0.690	0.052	67	11
		平均値	7.2	10.0	2.0	1.0	3.1	0.420	0.018	15	4.0
		最小値	6.9	8.5	1.0	0.5	1.9	0.240	0.008	<1	1.0
	基準値	6.5~8.5	7.5mg/L以上	25mg/L以下	2mg/L以下	-	-	-	300CFU/100mL以下	-	
長良川河口堰	河川A	最大値	9.0	12.0	5.0	3.5	2.7	1.020	0.102	150	60.0
		平均値	7.5	9.9	1.9	0.8	1.6	0.700	0.052	34	5.8
		最小値	7.2	7.9	1.0	0.5	0.8	0.480	0.020	1	0.0
	基準値	6.5~8.5	7.5mg/L以上	25mg/L以下	2mg/L以下	-	-	-	300CFU/100mL以下	-	
味噌川ダム	湖沼AⅡ	最大値	7.7	11.4	2.0	1.1	1.5	0.200	0.012	1800	3.0
		平均値	7.4	9.6	0.2	0.9	1.3	0.147	0.006	12	1.0
		最小値	7.2	7.9	0.0	<0.5	1.0	0.090	0.000	<1	0.0
	基準値	6.5~8.5	7.5mg/L以上	5mg/L以下	-	3mg/L以下	-	0.01mg/L以下	300CFU/100mL以下	-	
蓮ダム	-	最大値	9.5	12.1	3.0	1.3	4.1	0.240	0.012	8	14.0
		平均値	8.1	10.3	2.0	1.1	2.5	0.200	0.009	7	5.6
		最小値	7.4	8.7	1.0	<0.5	1.2	0.120	0.006	<1	1.0
	基準値	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

:基準値を満たしている項目
 :基準値を超過している項目

* 蓮ダムは環境基準が指定されていない。

※数値は、貯水池内基準点の表層における年平均値を示す。ただし、BOD・CODは年75%値を示す。
表層大腸菌数は年90%値を示す。

6. 水質

(2) 水質変化現象

- ・令和6年では、阿木川ダムでアオコが発生したが、苦情や魚の斃死等の富栄養化に係る障害は生じていない。また、阿木川ダムでは低層DO低下現象がみられた。

ダム名	水質対策施設	水質障害				
		冷温水現象	濁水長期化現象	低層DO低下現象	富栄養化現象	その他
長島ダム	選択取水設備 曝気装置	—	—	—	—	—
美和ダム	水質保全対策は行っていない。	—	—	—	—	—
小渋ダム	水質保全対策は行っていない。	—	—	—	—	—
新豊根ダム	水質保全対策は行っていない。	—	—	—	—	—
寒狭川堰	水質保全対策は行っていない。	—	—	—	—	—
矢作ダム	選択取水設備 濁水対策フェンス	—	—	—	—	—
小里川ダム	小里川バイパス設備 猿爪川バイパス設備 猿爪川浄化設備 表層循環設備 選択取水設備	—	—	—	7月～9月にクリプト藻綱 Cryptophyceaeによる変色現象が発生※ ¹	—
丸山ダム	水質保全対策は行っていない。	—	—	—	—	—
横山ダム	濁水防止フェンス 選択取水設備	—	—	—	—	—
徳山ダム	選択取水設備	—	—	—	—	—
岩屋ダム	選択取水設備	—	—	—	—	—
阿木川ダム	選択取水設備、貯留ダム、パイプライン、 表層曝気装置、深層曝気装置、曝気循環設備	—	—	—※ ²	アオコ発生※ ¹ (7/22～10/10)	—
長良川河口堰	フラッシュ操作 表層水送水型DO 対策船	—	—	—	—	—
味噌川ダム	表層取水設備	—	—	—	—	—
蓮ダム	選択取水設備 流入水制御フェンス	—	—	—	—	—

※¹苦情や魚の斃死等の富栄養化に関わる障害は生じていない。

※²深層曝気装置稼働

6. 水質 (3) 水質保全対策の実施状況 (長良川河口堰)

- ・長良川河口堰では、平成12年度より堰上流の底層の溶存酸素(DO)改善を目的に、4~9月に下段ゲートを開けて水をゲートの下から一時的に増大させて流すアンダーフラッシュ操作を実施している。
- ・令和6年度から、水質悪化の更なる予防保全措置として、アユの遡上・降下に影響が少ない7月、8月のアンダーフラッシュ操作を水質条件に関わらず実施することで、実施回数を増やす取り組みを行っている。

【アンダーフラッシュ操作の実施条件】

◎水温躍層による底層DOの低下が生じやすい4~9月に適用する

◆ 操作の基本： 塩水を遡上させない条件のもとで実施

(上下流水位差を20cm以上確保し、次回の満潮までに堰上流の水位回復が可能であること)

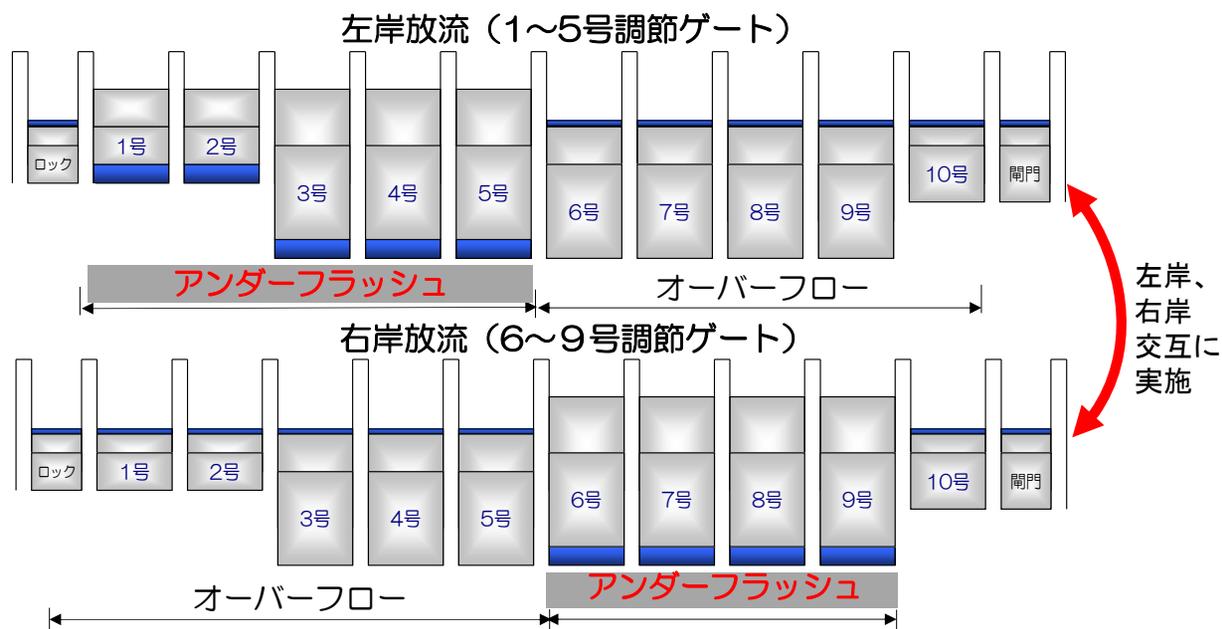
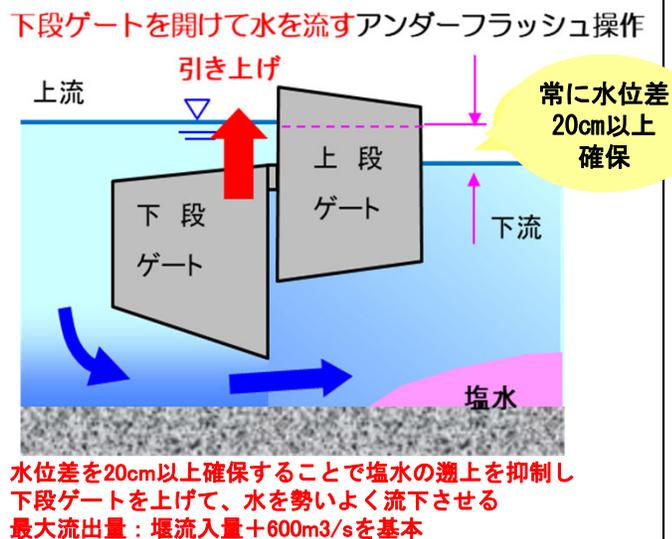
◆ 開始基準： 伊勢大橋地点の底層DO値7.5mg/L未満【環境基準A類型7.5mg/L】

堰流入量200m³/s未満 (なお、7、8月は堰流入量のみを開始基準にできる。)

◆ 最大流出量： 堰流入量+600m³/s、操作時間： 30分間を基本(堰上流の水面利用に配慮し、水位低下量20cm以内より決定)

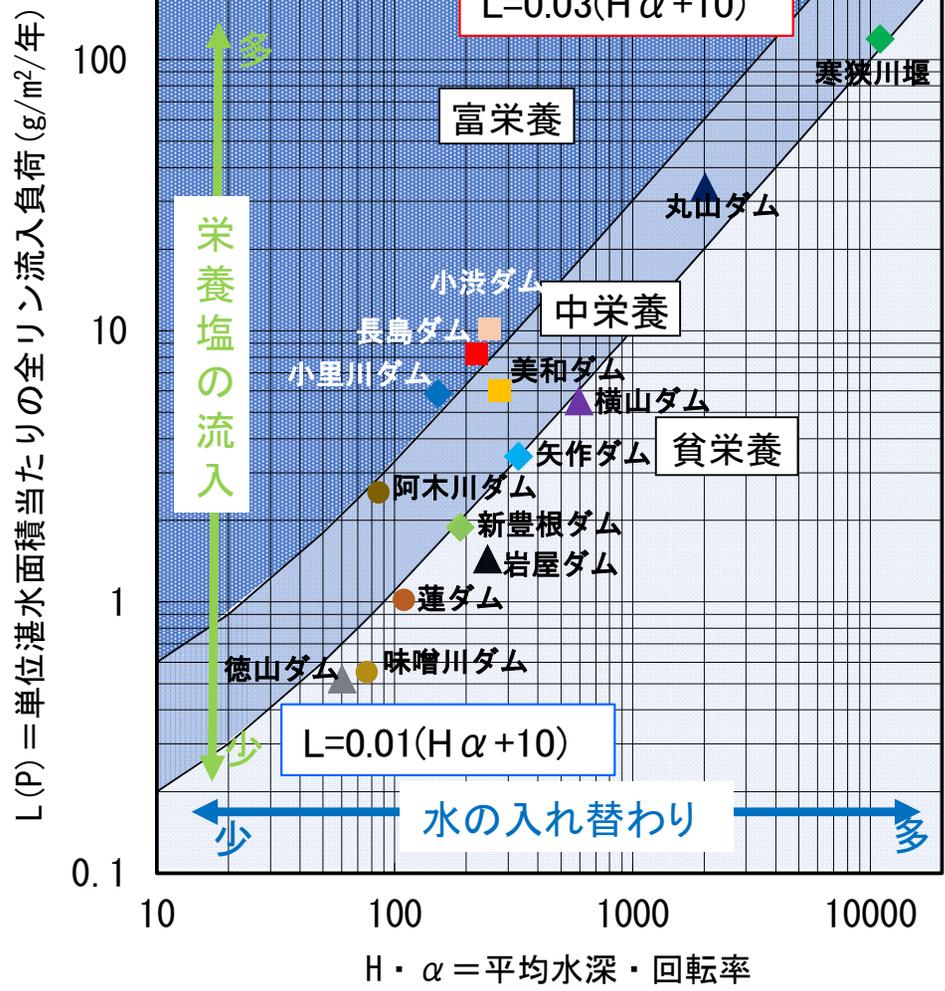
◆ フラッシュ放流ゲート： 《左岸放流：1~5号ゲート》《右岸放流：6~9号ゲート》を繰り返し実施

調節ゲートの操作



6. 水質 (4) ボーレンバイダーモデルによる比較

- ・令和2年度～6年度までの水質調査結果を用い、各ダムについてボーレンバイダーモデルを用いた富栄養化に関する評価を行った。
- ・下図の結果から、長島ダム・小渋ダム・小里川ダムでは富栄養、美和ダム・矢作ダム・丸山ダム・阿木川ダム・寒狭川堰では中栄養、新豊根ダム・横山ダム・徳山ダム・岩屋ダム・味噌川ダム・蓮ダムでは貧栄養という結果となった。

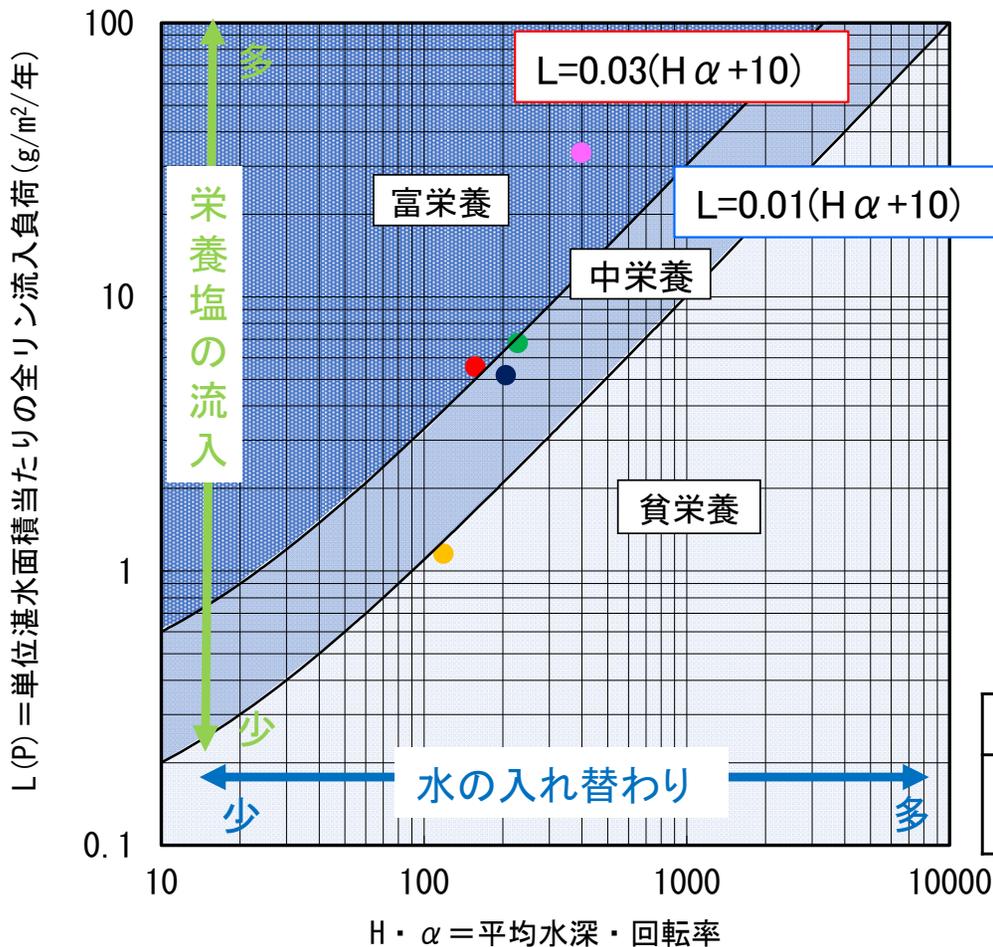


- 長島ダム
- 美和ダム
- 小渋ダム
- ◆ 新豊根ダム
- ◆ 寒狭川堰
- ◆ 矢作ダム
- ◆ 小里川ダム
- ▲ 丸山ダム
- ▲ 横山ダム
- ▲ 徳山ダム
- ▲ 岩屋ダム
- 阿木川ダム
- 味噌川ダム
- 蓮ダム

* ボーレンバイダーモデル:
 自然湖沼やダム貯水池の富栄養化現象発生を予測する手法の一種、横軸に平均水深と年回転率の積を、縦軸に年間リン流入負荷量を取り、実湖沼の富栄養化データから、経験的に富栄養化現象発生の有無を推定する。
 $L=0.01(10+H \cdot \alpha)$ より下方に図示される範囲は富栄養化現象の発生が極めて低く、 $L=0.03(10+H \cdot \alpha)$ より上法に図示される範囲は発生の可能性が高いとされている。

6. 水質 (4) ボーレンバイダーモデルによる比較 (長島ダム) <97>

- 令和2年度～6年度までの水質調査結果を用い、ボーレンバイダーモデルを用いた富栄養化に関する評価を行った。長島ダムでは令和3年度～4年度は中栄養及び貧栄養という評価であったが、令和6年度は令和3年度同様に中栄養という評価となった。
- 令和2年度は降雨に伴う流入量の増加が確認され、令和5年度は貯水池内のSSが5、6月に一時的に環境基準値を上回る値を出すなど、ダム上流から流入する濁りの影響を受け、一時的にリンの流入負荷量が増加した可能性が考えられた。実際に水質障害は確認されていない。



- R2
- R3
- R4
- R5
- R6

* ボーレンバイダーモデル:
 自然湖沼やダム貯水池の富栄養化現象発生を予測する手法の一種、横軸に平均水深と年回転率の積を、縦軸に年間リン流入負荷量を取り、実湖沼の富栄養化データから、経験的に富栄養化現象発生の有無を推定する。
 $L = 0.01(10 + H \cdot \alpha)$ より下方に図示される範囲は富栄養化現象の発生が極めて低く、 $L = 0.03(10 + H \cdot \alpha)$ より上方に図示される範囲は発生の可能性が高いとされている。

至近5ケ年のモデル作成のためのデータ(長島ダム)

項目	単位	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
年間総流入量	m ³ /年	923,531,328	477,421,000	275,719,000	365,012,000	530,112,000
総貯水容量	m ³	78,000,000	78,000,000	78,000,000	78,000,000	78,000,000
湛水面積	m ²	2,330,000	2,330,000	2,330,000	2,330,000	2,330,000
流入河川のT-P	mg/l	0.085	0.025	0.010	0.036	0.030
単位面積のリン流入負荷量	g/m ² /年	33.6	5.2	1.2	5.6	6.8
回転率α	/年	11.8	6.1	3.5	4.7	6.8
平均水深H	m	33.5	33.5	33.5	33.5	33.5
H・α	m/年	396.4	204.9	118.3	156.7	227.5

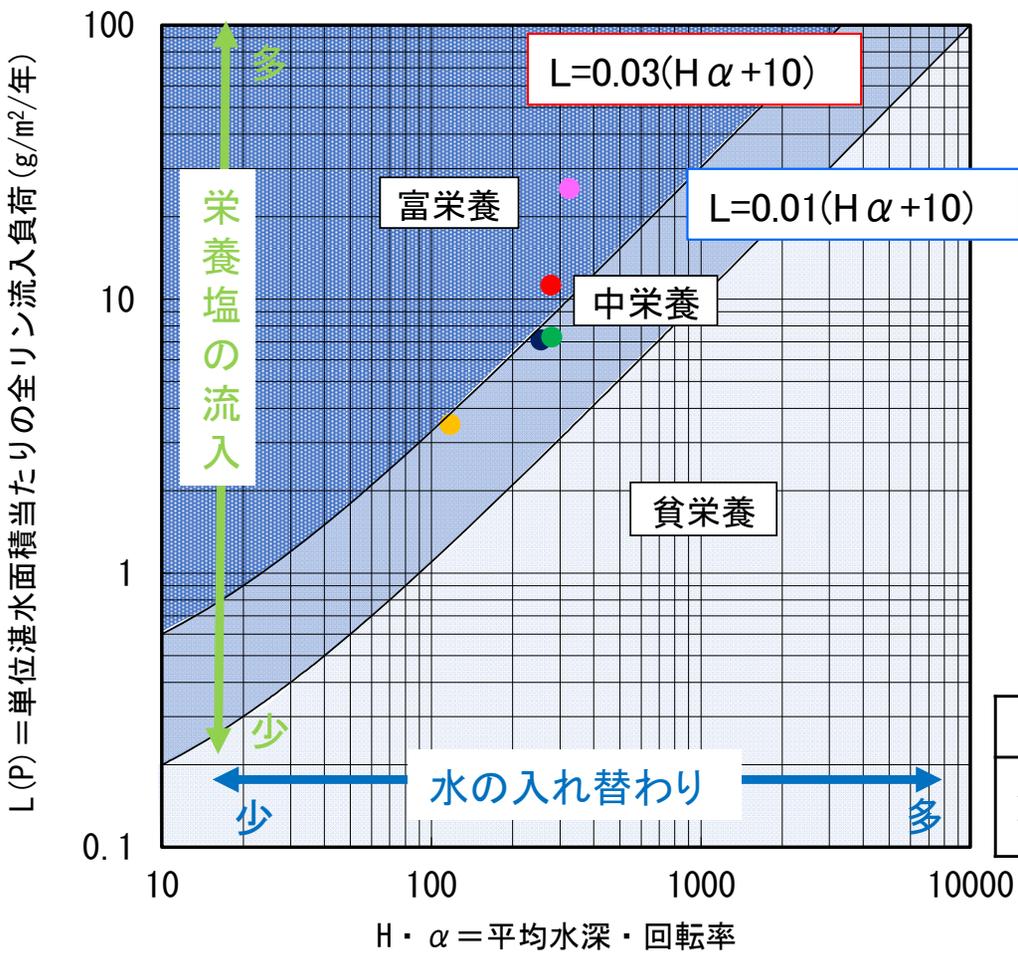
※: 流入河川のT-Pは本川リン濃度、支川リン濃度の加重平均により算出

至近5ケ年の水質障害の発生状況

項目	R2	R3	R4	R5	R6
水質障害の発生状況	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし

6. 水質 (4) ボーレンバイダーモデルによる比較 (小渋ダム) <98>

- ・令和2年度～6年度までの水質調査結果を用い、ボーレンバイダーモデルを用いた富栄養化に関する評価を行った。小渋ダムでは令和2年度及び令和5年度は富栄養という評価であったが、令和6年度は、令和3年度～令和4年度同様に中栄養という評価となった。
- ・令和2年度及び令和5年度は降雨に伴う流入量の増加が確認され、ダム上流から流入する濁りの影響を受け、流入河川のリン濃度の一時的な増加が生じた可能性が考えられた。実際に水質障害は確認されていない。



- R2
- R3
- R4
- R5
- R6

* ボーレンバイダーモデル:
 自然湖沼やダム貯水池の富栄養化現象発生を予測する手法の一種、横軸に平均水深と年回転率の積を、縦軸に年間リン流入負荷量を取り、実湖沼の富栄養化データから、経験的に富栄養化現象発生の有無を推定する。
 $L = 0.01(10 + H \cdot \alpha)$ より下方に図示される範囲は富栄養化現象の発生が極めて低く、 $L = 0.03(10 + H \cdot \alpha)$ より上法に図示される範囲は発生の可能性が高いとされている。

至近5ヶ年のモデル作成のためのデータ(小渋ダム)

項目	単位	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
年間総流入量	m³/年	541527000	424579000	196342000	463829000	466486000
総貯水容量	m³	58,000,000	58,000,000	58,000,000	58,000,000	58,000,000
湛水面積	m²	1,670,000	1,670,000	1,670,000	1,670,000	1,670,000
流入河川のT-P	mg/l	0.087	0.031	0.033	0.045	0.029
単位面積のリン流入負荷量	g/m²/年	25.3	7.1	3.5	11.2	7.3
回転率 α	/年	9.3	7.3	3.4	8.0	8.0
平均水深H	m	34.7	34.7	34.7	34.7	34.7
H · α	m/年	324.3	255.0	117.6	277.7	279.3

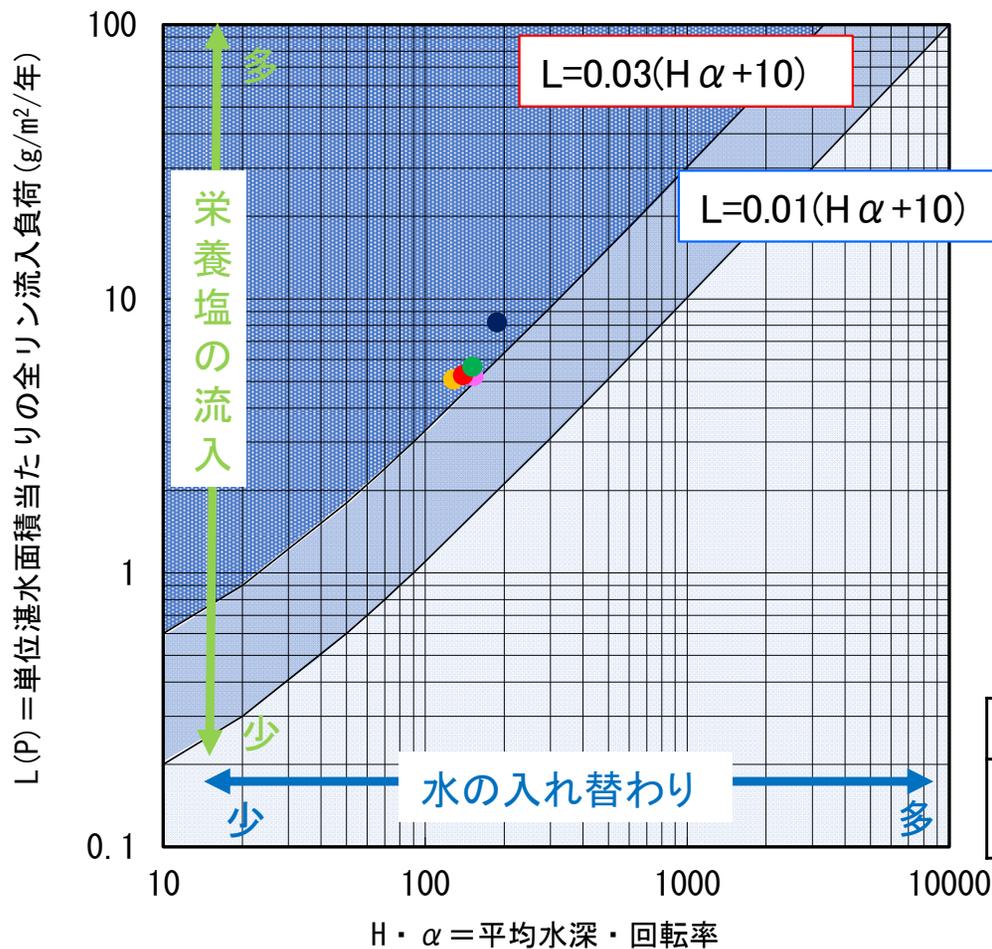
※: 流入河川のT-Pは本川リン濃度、支川リン濃度の加重平均により算出

至近5ヶ年の水質障害の発生状況

項目	R2	R3	R4	R5	R6
水質障害の発生状況	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし

6. 水質 (4) ボーレンバイダーモデルによる比較 (小里川ダム)^{<99>}

- ・令和2年度～6年度までの水質調査結果を用い、ボーレンバイダーモデルを用いた富栄養化に関する評価を行った。小里川ダムでは令和2年度～5年度まで富栄養化という評価であり、令和6年度も同様の評価となった。
- ・近5ヶ年ではいずれの年も富栄養という評価であり、複数年で変色現象も確認されていたことから、継続して水質保全対策を行う必要があると考えられた。



- R2
- R3
- R4
- R5
- R6

* ボーレンバイダーモデル:
 自然湖沼やダム貯水池の富栄養化現象発生を予測する手法の一種、横軸に平均水深と年回転率の積を、縦軸に年間リン流入負荷量を取り、実湖沼の富栄養化データから、経験的に富栄養化現象発生の有無を推定する。
 $L=0.01(10+H \cdot \alpha)$ より下方に図示される範囲は富栄養化現象の発生が極めて低く、 $L=0.03(10+H \cdot \alpha)$ より上法に図示される範囲は発生の可能性が高いとされている。

至近5ヶ年のモデル作成のためのデータ(小里川ダム)

項目	単位	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
年間総流入量	m ³ /年	84,250,000	103,280,000	70,518,000	76,849,000	83,257,000
総貯水容量	m ³	15,100,000	15,100,000	15,100,000	15,100,000	15,100,000
湛水面積	m ²	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000
流入河川のT-P	mg/l	0.034	0.044	0.040	0.038	0.038
単位面積のリン流入負荷量	g/m ² /年	5.2	8.2	5.1	5.3	5.6
回転率α	/年	5.6	6.8	4.7	5.1	5.5
平均水深H	m	27.5	27.5	27.5	27.5	27.5
H・α	m/年	153.2	187.8	128.2	139.7	151.4

※: 流入河川のT-Pは本川リン濃度、支川リン濃度の加重平均により算出

至近5ヶ年の水質障害の発生状況

項目	R2	R3	R4	R5	R6
水質障害の発生状況	変色現象	変色現象	変色現象	変色現象	変色現象

7. 生物

(1) 調査実施状況

- ・令和6年度の河川水辺の国勢調査、フォローアップ調査等については、下記のように実施した。
- 魚類：長島ダム、寒狭川堰、丸山ダム、横山ダム、徳山ダム、岩屋ダム、阿木川ダム、長良川河口堰、味噌川ダム
- 底生動物：長島ダム、寒狭川堰 動植物プランクトン：寒狭川堰、丸山ダム※2
- 植物：矢作ダム 環境基図：矢作ダム、蓮ダム

ダム名	長島	美和	小渋 ※1	新豊根	寒狭 川堰	矢作	小里川	丸山	横山	徳山	岩屋	阿木川	長良川 河口堰	味噌川	蓮
項目															
魚類	H16, H18, H21, H26, R02, R06,	H05, H10, H14, H19, H24, H29, R04,	H04, H05, H10, H14, H15, H19, H24, H29, R04,	H05, H06, H07, H10, H11, H15, H16, H19, H24, H29, R04,	H15 以降 毎年	H03, H05, H10, H13, H15, H21, H26, R02,	H18, H24, H29, R04,	H07, H10, H15, H20, H26, H30, R06,	H02, H05, H08, H13, H20, H26, H30, R06,	H24, H26, H30, R06,	H03, H05, H08, H13, H20, H26, H30, R06,	H03, H05, H08, H13, H20, H26, H30, R06,	H12, H16, H20, H26, H30, R06,	H12, H17, H20, H26, H30, R06,	H04, H08, H14, H18, H23, H28, R03,
底生動物	H16, H21, H26, R02, R06,	H05, H06, H08, H09, H09, H14, H19, H19, H24, H29, R04,	H05, H06, H10, H14, H15, H19, H24, H29, R04,	H06, H10, H11, H15, H16, H19, H24, H29, R04,	H15 以降 毎年	H05, H06, H07, H10, H14, H15, H22, H27, R01,	H18, H24, H29, R04,	H07, H10, H15, H21, H27, R01,	H04, H06, H07, H10, H15, H21, H27, R01,	H27, R01,	H07, H12, H17, H21, H27, R01,	H07, H12, H17, H21, H27, R01,	H12, H16, H21, H27, R01,	H12, H17, H21, H27, R01,	H06, H08, H14, H18, H24, H29, R04,

※1小渋ダムは令和6年度の河川水辺の国勢調査の実施はないが、土砂環境バイパス調査を別途実施。

※2河川水辺の国勢調査での整理結果を掲載。水質調査結果での実施結果は省く形とした。

7. 生物

(1) 調査実施状況

河川水辺の国勢調査【ダム湖版】等の生物調査の実施状況 (2/3)

ダム名 項目	長島	美和	小渋 (※1)	新豊根	寒狭 川堰	矢作	小里川	丸山	横山	徳山	岩屋	阿木川	長良川 河口堰	味噌川	蓮
動植物 プランクトン	H16, H18, H21, H26, H28以降 毎年, ※2	H05, H06, H11, H17, H22, H27以降 毎年, ※2	H05, H06, H11, H15, H22, H27以降 毎年, ※2	H06, H11, H17, H22, H27, R2以降 毎年, ※2	H15 以降 毎年, ※2	H05, H06, H11, H14, H19, H28以降 毎年, ※2	H12 以降 毎年, ※2	H06, H11, H16, H21, H28以降 毎年, ※2	H04, H05, H06, H10, H13, H21, H27, H29, H30, R01, R02,	H18 以降 毎年, ※2	H07, H12, H17, H21, H27以降 毎年, ※2	H07, H12, H17, H21, H27以降 毎年, ※2	H12 以降 毎年, ※2	H12, H17, H21, H27以降 毎年, ※2	H06, H11, H17, H22, H29以降 毎年, ※2
植物	H18, H30,	H05, H06, H08, H09, H13, H14, H18, H28,	H04, H06, H07, H09, H16, H18, H28,	H05, H06, H10, H14, H15, H18, H19, H28,	(実施していない)	H06, H09, H10, H13, H14, H15, H25, R05, R06,	H18, H22, R02,	H07, H09, H14, H23, R03,	H06, H09, H14, H23, R03,	H25, R03,	H05, H10, H15, H23, R03,	H05, H10, H15, H23, R03,	H14, H23, R03,	H13, H23, R03,	H05, H09, H15, H25, R05,
環境基図	H18, H25, H30, R05,	H05, H08, H14, H18, H23, H28, R03,	H04, H06, H07, H09, H16, H18, H23, H28, R03,	H05, H14, H18, H23, H28, R03,	(実施していない)	H06, H09, H13, H20, H25, H30, R06,	H18, H22, H27, R02,	H07, H09, H14, H19, H24, H29, R04,	H09, H14, H19, H24, H29, R04,	H29, R04,	H05, H15, H19, H24, H29, R04,	H10, H15, H19, H24, H29, R04,	H14, H19, H24, H29, R04,	H13, H19, H24, H29, R04,	H05, H09, H15, H21, H26, R01, R06,

※1小渋ダムは令和6年度の河川水辺の国勢調査の実施はないが、土砂環境バイパス調査を別途実施。

※2水質監査業務(定期水質調査)で実施。令和6年度の丸山ダムは河川水辺の国勢調査の実施結果として整理。

7. 生物

(1) 調査実施状況

河川水辺の国勢調査【ダム湖版】等の生物調査の実施状況 (3/3)

ダム名 項目	長島	美和	小渋 (※1)	新豊根	寒狭 川堰	矢作	小里川	丸山	横山	徳山	岩屋	阿木川	長良川 河口堰	味噌川	蓮
鳥類	H17, H18, H29,	H05, H08, H09, H13, H14, H27,	H04, H05, H06, H07, H09, H10, H14, H27,	H05, H06, H07, H09, H10, H14, H15, H16, H27,	(実施していない)	H05, H06, H09, H10, H13, H14, H23, R03,	H16, H20, H25, R05,	H07, H09, H14, H22, R02,	H06, H09, H14, H22,	H23, R02,	H06, H11, H16, H22, R02,	H06, H11, H16, H22, R02,	H12, H17, H22, R02,	H11, H16, H22, R02,	H05, H10, H13, H20, H30,
両生類・ 爬虫類・ 哺乳類	H17, H18, H28, R03,	H05, H06, H08, H09, H13, H21, R01,	H04, H05, H06, H07, H10, H13, H21, R01,	H06, H10, H11, H15, H16, H21, R01,	(実施していない)	H05, H06, H10, H16, H18, H28,	H16, H21, R01,	H07, H10, H15, H25, R05,	H06, H07, H10, H15, H25, R05,	H25, R05,	H06, H11, H16, H25, R05,	H06, H11, H16, H25, R05,	H15, H25, R04,	H15, H25, R05,	H05, H10, H16, H19, H29,
陸上昆虫类等	H17, H22, R03, R04,	H05, H08, H09, H16, H20, H30,	H05, H06, H07, H09, H10, H13, H20, H30,	H05, H06, H09, H10, H14, H15, H20, H21, H30,	(実施していない)	H06, H09, H10, H13, H14, H25, R04,	H17, H19, H29,	H07, H09, H14, H18, H28,	H06, H08, H13, H18, H28,	H23, H28,	H05, H09, H14, H18, H28,	H05, H09, H14, H18, H28,	H13, H18, H28,	H14, H18, H28,	H06, H10, H16, H22, R02,

※1小渋ダムは令和6年度の河川水辺の国勢調査の実施はないが、土砂環境バイパス調査を別途実施

7. 生物

(2) 重要種・外来種の選定基準

<103>

【重要種】

- 文化財保護法：「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)等
特天：特別天然記念物、天：天然記念物、県天：県天然記念物
- 種の保存法：「絶滅のおそれのある野生生物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)
国内：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
- 環境省RL：「環境省報道発表資料 第4次レッドリストの公表について」(環境省 平成25年2月)
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、VU：絶滅危惧II類、
NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：地域個体群
- 県RDB：各県で制定しているレッドデータブックに記載の種
EX+EW：絶滅、A：絶滅危惧I類、B：絶滅危惧II類、C：準絶滅危惧、D：希少、N：注意、
NE：未評価 (※県RDBのカテゴリ分類は県ごとに異なるため、一般的な分類を記載)

【外来種】

- 特定外来生物：「特定外来生物による生態系に係わる被害の防止に関する法律(平成16年法律第78号)
- 生態系防止被害：生態系被害防止外来種のうち、国外由来の外来種：「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」(環境省 平成27年3月)
 - 定着：定着予防外来種 (国内に未定着のもの。定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、導入の予防や水際での監視、野外への逸出・定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種)
 - 総合：総合対策外来種 (国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害のおそれがあるため、国、地方公共団体、国民など各主体がそれぞれの役割において、防除(野外での取り除き、分布拡大の防止等)、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な外来種)
 - 産業：産業管理外来種 (産業又は公益的役割において重要であり、現状では生態系等への影響がより小さく、同等程度の社会的経済的効果が得られるというような代替性がないため、利用において逸出等の防止のための適切な管理に重点を置いた対策が必要な外来種)
- 外来種ハンドブック(日本生態学会 2002年)
 - 国外：国外由来の外来種、国内：国内由来の外来種
- その他文献

7. 生物

(3) 調査結果の概要

- ・長島ダム、阿木川ダム、味噌川ダム、丸山ダム、岩屋ダム、徳山ダム、横山ダムでは魚類を対象項目として、河川水辺の国勢調査を実施した。
- ・特定外来生物として、ブルーギル、オオクチバス、コクチバス、レピソステウス科が確認された。

魚類

ダム名	調査結果	調査日
長島ダム	<ul style="list-style-type: none"> ○確認種：4目7科16種 ○重要種：4種（ニシマドジョウ、アカザ、サツキマス、サツキマス(アマゴ)、カワヨシノボリ) ○外来種：8種（コイ(飼育型)、コイ(改良品種型)、ゲンゴロウブナ、カワムツ、カマツカ、ワカサギ、アユ、ニッコウイワナ、ビワヨシノボリ) 	春季：R6/6/10～6/13 夏季：R6/7/29～8/2 秋季：R6/11/14～11/15、 12/1～12/3
阿木川ダム	<ul style="list-style-type: none"> ○確認種：6目11科28種 ○重要種：6種（ニホンウナギ、ドジョウ、アジメドジョウ、アカザ、サツキマス(アマゴ)、ミナミメダカ) ○外来種：9種（コイ(飼育型)、コイ(改良品種型)、ニゴロブナ、イチモンジタナゴ、ハス、ドジョウ(中国大陸系統)、<u>ブルーギル</u>、<u>オオクチバス</u>、<u>コクチバス</u>、カムルチー) 	夏季：R6/7/3～7/9 秋季：R6/10/7～10/13
味噌川ダム	<ul style="list-style-type: none"> ○確認種：5目6科12種 ○重要種：3種（スナヤツメ類、アジメドジョウ、アカザ) ○外来種：6種（オイカワ、モツゴ、ドジョウ(中国大陸系統)、ヤマトイワナ、ニッコウイワナ、サツキマス、サツキマス(アマゴ)) 	春季：R6/6/4～6/7 秋季：R6/10/1～10/4
丸山ダム	<ul style="list-style-type: none"> ○確認種：6目12科33種 ○重要種：9種（スナヤツメ南方種、ニホンウナギ、ゼゼラ、イトモロコ、ドジョウ、アジメドジョウ、アカザ、サツキマス(アマゴ)、ドンコ) ○外来種：7種（コイ(飼育型)、コイ(改良品種型)、ゲンゴロウブナ、ズナガニゴイ、<u>ブルーギル</u>、<u>オオクチバス</u>、<u>コクチバス</u>) 	春季：R6/6/5～8/7 夏季：R6/8/13～8/15

※外来種（下線太字）は特定外来生物

7. 生物

(3) 調査結果の概要

<105>

- ・長島ダムでは底生動物を対象項目として、河川水辺の国勢調査を実施した。
- ・長島ダムの底生動物調査では特定外来生物は確認されなかった。

魚類

ダム名	調査結果	調査日
岩屋ダム	<ul style="list-style-type: none"> ○確認種：5目12科27種 ○重要種：6種（スナヤツメ南方種、アジメドジョウ、アカザ、アメマス類(ニッコウイワナ)、サツキマス(アマゴ)、カジカ) ○外来種：4種（ハス、ギギ、<u>オオクチバス</u>、<u>コクチバス</u>） 	初夏：R6/6/19～6/21 秋季：R6/9/24～9/26
徳山ダム	<ul style="list-style-type: none"> ○確認種：5目9科17種 ○重要種：4種（アジメドジョウ、アカザ、アマゴ(サツキマス)、カジカ) ○外来種：4種（<u>レピソステウス科</u>、ワカサギ、ニッコウイワナ、ロングイヤーサンフィッシュ） 	夏季：R6/6/16～6/20 秋季：R6/9/12～9/20
横山ダム	<ul style="list-style-type: none"> ○確認種：6目12科29種 ○重要種：7種（スナヤツメ類、ニホンウナギ、ゼゼラ、アジメドジョウ、アカザ、サツキマス(アマゴ)、カジカ) ○外来種：6種（コイ(型不明)、ニゴロブナ、オオガタスジシマドジョウ、ギギ、ワカサギ、ニッコウイワナ) 	春季：R6/6/11～6/15 夏季：R6/9/9～9/12

底生動物

ダム名	調査結果	調査日
長島ダム	<ul style="list-style-type: none"> ○確認種：6門8綱21目91科252種 ○重要種：5種（モノアラガイ、ヒラマキミズマイマイ、クルマヒラマキガイ、ハネビロエゾトンボ、ヘイケボタル) ○外来種：3種（<u>アメリカナミウズムシ</u>、<u>サカマキガイ</u>、<u>オオマリコケムシ</u>） 	夏季：R6/7/29～8/2 冬季：R6/12/10～12/13 早春季：R7/2/5～2/8

※外来種（下線太字）は特定外来生物

7. 生物

(3) 調査結果の概要

- ・丸山ダムでは動植物プランクトン、矢作ダムでは植物を対象項目として、河川水辺の国勢調査を実施した。
- ・矢作ダムの植物調査では、特定外来生物として、アレチウリ、オオキンケイギクが確認された。

動植物プランクトン

ダム名	調査結果	調査日
丸山ダム	○確認種数：植物プランクトン 18科49種、動物プランクトン 11科18種	植物プランクトン： R6/1～R6/12の毎月1回 動物プランクトン： R6/5/8、R6/8/7、 R6/11/6

※河川水辺の国勢調査での整理結果を掲載。水質調査結果での実施結果は省く形とした。

植物

ダム名	調査結果	調査日
矢作ダム	○確認種数：56目137科781種 ○重要種：30種（ヤシャゼンマイ、オクタマシダ、コタニワタリ、サクライカグマ、クラガリシダ、ギンラン、ツチアケビ、マツラン等） ○外来種：94種（コンテリクラマゴケ、ポポー、ナガイモ、シンテッポウユリ、ニワゼキショウ、ヒガンバナ、 <u>アレチウリ</u> 、 <u>オオキンケイギク</u> 等）	春季：R6/5/22～5/24 秋季：R6/9/30～10/2

※外来種（下線太字）は特定外来生物

7. 生物

(3) 調査結果の概要

<107>

- ・ 矢作ダム、蓮ダムでは環境基図を対象項目として、河川水辺の国勢調査を実施した。
- ・ 特定外来生物の群落は確認されなかった。

環境基図

ダム名	調査結果	調査日
矢作ダム	○群落及び土地利用区分：74区分（面積最大：植林地(スギ・ヒノキ)） ○重要種：28種（ヌマカゼクサ、ミズマツバ、ハナノキ、サツキ等） ○外来種群落：10群落（オオオナモミ群落、ヒメムカシヨモギーオオアレチノギク群落、メリケンムグラ群落、セイタカアワダチソウ群落、メリケンカルカヤ群落、イタチハギ群落、トウコマツナギ群落、モウソウチク植林、シンジュ群落、ハリエンジュ群落）	陸域：R6/9/30～10/4、 10/31 水域：R6/9/30～10/4、 10/31
蓮ダム	○群落及び土地利用区分：53区分（面積最大：植林地(スギ・ヒノキ)） ○重要種：9種（イワヒバ、サツキ、コバノミツバツツジ、イワタバコ等） ○外来種群落：6群落（セイヨウフウチョウソウ群落、ベニバナボロギク群落、ダンドロボロギク群落、メリケンカルカヤ群落、イタチハギ群落、モウソウチク植林）	陸域：R6/9/17～9/20 水域：R6/9/17～9/20

7. 生物

(3) 調査結果の概要

- ・フォローアップ調査はダムフォローアップ制度の一環として実施したものである。
- ・寒狭川堰では魚類、底生動物、付着藻類、動植物プランクトンを対象項目としてフォローアップ調査を実施した。特定外来生物としてオオクチバス、カワヒバリガイ、アメリカザリガニが確認された。

フォローアップ調査

ダム名	調査結果	調査日
寒狭川堰	<p>【魚類】</p> <p>○確認種数：7目12科32種</p> <p>○重要種：10種（スナヤツメ北方種、スナヤツメ類、ニホンウナギ、カワヒガイ、イトモロコ、ニシシマドジョウ、ネコギギ、アカザ、ミナミメダカ、ウツセミカジカ(淡水性両側回遊型)、ボウズハゼ)</p> <p>○外来種：6種（コイ(改良品種型)、イチモンジタナゴ、ビワヒガイ、ギギ、ドジョウ(中国大陸系統)、<u>オオクチバス</u>)</p> <p>【底生動物】</p> <p>○確認種数：8綱25目92科288種</p> <p>○重要種：10種（ヒラマキミズマイマイ、キイロヤマトンボ、オオアメンボ、オヨギカタビロアメンボ、ナベブタムシ、コブニンギョウトビケラ、キボシケシゲンゴロウ、コオナガミズスマシ、ケスジドロムシ、ミズバチ)</p> <p>○外来種：6種（サカマキガイ、<u>カワヒバリガイ</u>、フロリダマミズヨコエビ、カワリヌマエビ属、<u>アメリカザリガニ</u>、トガリアメンボ)</p> <p>【付着藻類】</p> <p>○確認種数：3綱9目14科82種</p> <p>○重要種：(該当種なし)</p> <p>○外来種：1種 (<i>Gomphoneis minuta</i>)</p> <p>【植物プランクトン】</p> <p>○確認種数：7門8綱12目30科85種</p> <p>【動物プランクトン】</p> <p>○確認種数：6門12綱19目35科61種</p>	<p>春季：R6/6/4~6/6、 6/13~6/14</p> <p>夏季：R6/8/5~8/8</p> <p>秋季：R6/10/15~10/16、 11/11~11/13</p> <p>冬季：R7/1/7~1/10</p>

※外来種（下線太字）は特定外来生物及び条件付特定外来生物

7. 生物

(3) 調査結果の概要

- ・フォローアップ調査はダムフォローアップ制度の一環として実施したものである。
- ・長良川河口堰では魚類を対象項目としてフォローアップ調査を実施した。特定外来生物としてカダヤシ、ブルーギル、オオクチバスが確認された。

フォローアップ調査

ダム名	調査結果	調査日
長良川河口堰	<p>【魚類】</p> <p>○確認種数：12目25科57種</p> <p>○重要種：14種（ゲンゴロウブナ、ワタカ、ゼゼラ、スゴモロコ類、ミナミメダカ、スズキ、ヒモハゼ、マハゼ、ボウズハゼ、ショウキハゼ、チチブ、トウカイヨシノボリ、シマヒレヨシノボリ、エドハゼ）</p> <p>○外来種：12種（コイ(型不明)、ゲンゴロウブナ、カネヒラ、タイリクバラタナゴ、ワタカ、スゴモロコ類、ギギ、ナマズ、アユ、<u>カダヤシ</u>、<u>ブルーギル</u>、<u>オオクチバス</u>)</p>	夏季：R6/7/22～7/24、 7/29～8/2

※外来種（下線太字）は特定外来生物

※植物プランクトン調査結果については、水質調査結果での整理となるため省く形とした。

7. 生物 (4) 環境保全対策の実施状況

- ・岐阜県河川内でのコクチバス完全駆除の達成に向け、県や漁協、市町村、河川管理者、ダム管理者など関係者が一丸となって取り組むことを目的に「岐阜県コクチバス駆除総合対策」を策定した。
- ・令和6年度は丸山ダム、岩屋ダムでコクチバス駆除を実施した。

岐阜県コクチバス駆除総合対策（完全駆除作戦）概要版

現状と課題

- H29年木曾川水系、R1年揖斐川水系、R5年5月長良川本川で生息を確認
- 鮎に壊滅的な被害を与えるため、生息が広がらない段階で徹底的な駆除が必要

完全駆除目標

- 長良川：R7年度、木曾川・揖斐川：R8年度（岩屋ダム：低密度管理へ移行：R8年度）



駆除対策（完全駆除作戦）

(1) 生息実態の正確な把握

漁協等における取組み

- ①漁協組合員や遊漁者からの生息情報等を県に集約

ため池（市町村等）、ダム等における取組み

- ⑤県内の全てのため池・ダム湖での目視調査 **新**

県、県漁連等における取組み

- ②環境DNA分析によるモニタリング（監視）
- ③ドローンや魚探を活用した生息調査 **新**
- ④生息情報と駆除作業結果をデータベース化して生態研究 **新**

(2) 流域が一丸となって、全ての生息場所での駆除の実施

漁協等における取組み

- ①漁協組合員による鮎の網漁などでの混獲駆除
- ②遊漁者等からの買取
- ③春の繁殖候補地のバトロールと親魚の駆除 **新**
- ④繁殖地での稚仔魚の駆除 **新**
- ⑤越冬地での刺し網による集中駆除 **新**
- ⑥釣り大会の開催 **新**

県、県漁連等における取組み

- ⑦捕獲したコクチバスのリリース禁止
- ⑧溪流等では背負い式電気ショッカーによる駆除
- ⑨小河川用電気ショッカーボートによる駆除 **新**
- ⑩中河川用電気ショッカーボートによる駆除 **新**
- ⑪大河川用電気ショッカーボートによる駆除 **新**
- ⑫電気ショッカー（ボート含む）の貸出 **新**

ため池（市町村等）、ダム等における取組み

- ⑬生息確認されたため池での水抜きによる駆除
- ⑭県内の全ため池で定期的な水抜きの検討 **新**
- ⑮生息確認されたダム湖での駆除

(3) 多くの目で監視することによる密放流の防止

漁協、河川、ため池（市町村等）、ダム等における取組み

- ①生息地持出や密放流の監視体制の強化 **新**
（コクチバス密放流等対応マニュアル作成）

県、県漁連等における取組み

- ②密放流・リリース禁止の広報・啓発
- ③釣具店等への密放流・リリース禁止の啓発の要請 **新**

ため池（市町村等）、ダム等における取組み

- ④密放流の供給源での監視カメラ設置の検討 **新**
- ⑤県内の全ダムでの監視カメラ設置の検討 **新**
- ⑥県内の全ため池での釣り禁止の検討 **新**



溪流用背負い式
電気ショッカー



小河川用ボート
（ライトバンに積載可能）



中河川（ため池）用
ボート
（組立式、浅場で作業可）



大河川（ダム湖）用
ボート
（大型で速度が速い）

実施体制

- (1) 県農政部にコクチバス駆除対策チームを編成 **新**
- (2) 県コクチバス駆除対策推進協議会を設置、流域コクチバス駆除チームを編成 **新**
- (3) 県漁連に駆除作業専門チームを設置 **新**
- (4) 隣県との連携体制の構築 **新**

※ **新** は新規事業：今後の予算編成の過程で検討

7. 生物

(4) 環境保全対策の実施状況 丸山ダム^{<111>}

特定外来生物に関する対応

(オオクチバス、コクチバス、ブルーギル)

- 岐阜県では、「岐阜県コクチバス駆除総合対策」(右図)を令和5年12月に策定して、関係者が一丸となった取り組みを実施中である。
- 丸山ダムでは、現在、ダム湖面の利用を禁止しており、特定外来種の放流を防ぐとともに、ポスター掲示による注意喚起などを実施している。
- 今後、密放流の監視体制等を強化するため、関係機関との情報共有や通報体制の構築、漁業関係者との共同巡視のほか、新丸山ダム工事事務所(新丸工事関係者)へ周知するなど、多くの目で監視を行うよう調整を進める。



特定外来生物に関する対応 (アレチウリ、オオキンケイギク)

【アレチウリ】

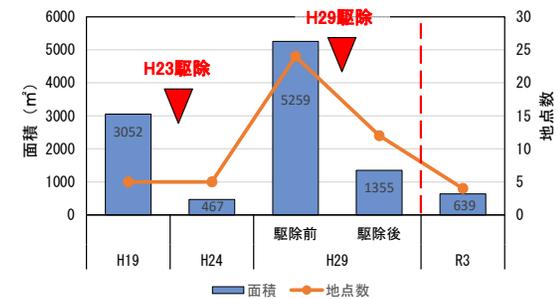
- 平成23年の駆除後に再拡大が見られた。
- 再拡大後の平成29年の駆除により大きく減少し、その後の拡大は認められない。

【オオキンケイギク】

- 平成29年の確認の後の駆除により減少した。
- その後、令和3年に確認面積は減少しているものの、確認地点数は増加している。



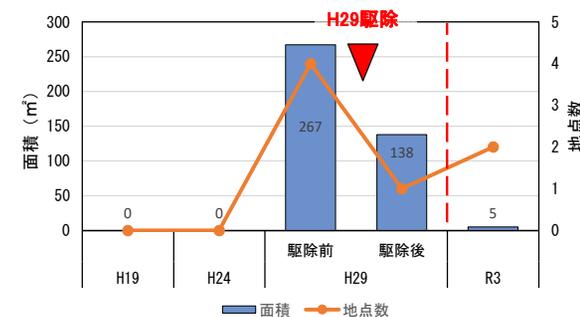
アレチウリの駆除※



アレチウリの確認面積・確認地点の推移



オオキンケイギクの駆除※



オオキンケイギクの確認面積・確認地点の推移

※ダム管理者からの受託業者が実施

7. 生物

(4) 環境保全対策の実施状況 岩屋ダム^{<112>}

特定外来生物への取り組み (1)

【特定外来種(魚類)捕獲調査の実施】

- ・岩屋ダムでは、令和5年度以降、コクチバス、オオクチバスを対象とした捕獲調査を実施している。

【コクチバス・オオクチバスの捕獲・駆除の実施】

- ・令和5年10月、令和6年6～10月に刺網による捕獲調査を行い、コクチバスは計51尾、オオクチバスは計3尾を捕獲し、駆除を行った。
- ・令和6年度の河川水辺の国勢調査でも、コクチバス14個体が確認されており、引き続き、コクチバスほか国外外来種の生息状況の確認及び対策の実施を継続していく。



捕獲区域



刺網による捕獲状況

コクチバス捕獲状況

年度	捕獲日	全長(mm)	重量(g)	総重量(g)	捕獲数(尾)
R5	10月4日	220～360	145～600	2,025	7
	10月5日	130～460	22～1380	7,047	17
	10月31日	240～310	197～396	1,214	4
R6	6月11日	165～360	40～524	789	3
	6月12日	410～430	924～1,070	1,994	2
	7月19日	185～280	77～249	326	2
	8月26日	120～310	25～446	1,474	6
	9月11日	130～270	36～280	780	5
	10月9日	290～410	355～983	2,455	5
計					51尾

オオクチバス捕獲状況

年度	捕獲日	全長(mm)	重量(g)	総重量(g)	捕獲数(尾)
R5	10月4日	155～165	50～55	105	2
	10月31日	155	46	46	1
計					3尾



令和5年10月4日捕獲



令和6年6月12日捕獲

【岐阜県が実施するコクチバス駆除への協力】

- ・令和5年(2023年)に長良川本川で特定外来生物のコクチバスが発見されて以降、岐阜県は「岐阜県コクチバス駆除総合対策(完全駆除作戦)」を策定している。また、岩屋ダムでの目標は、「令和8年度に低密度管理に移行」と設定された。
- ・令和5年12月に、岐阜県コクチバス駆除対策推進協議会が設立され、岩屋ダムも構成員となった。協議会では、ダム管理者による駆除に取り組むこととしており、岩屋ダムでは捕獲調査を実施するとともに、岐阜県が実施する岩屋ダム貯水池でのコクチバス駆除に協力を行っている。
- ・岩屋ダムの駆除活動としては、刺網を用いた捕獲調査、人工産卵床を使つての繁殖抑制、岐阜県水産研究所と稚魚を捕獲する光集魚トラップの設置試験等が実施されている。
- ・馬瀬川下流漁業協同組合では遊漁者等からのコクチバスの買取事業を実施している。



買取り所を設置し、遊漁者からの買取りを実施(馬瀬川下流漁協)

(写真出典：令和6年度岐阜県コクチバス駆除対策推進協議会説明資料)

7. 生物

(4) 環境保全対策の実施状況 岩屋ダム^{<113>}

特定外来生物への取り組み (2)

【人工産卵床によるコクチバスの駆除】

- ・令和6年度には、人工産卵床によるコクチバスの駆除対策も実施している。
- ・4月下旬より設置を開始し、5月及び6月に引き上げ、多くの卵が付着していることを確認。その後産卵床の干し上げを行った。
- ・また浅瀬の産卵床を撒き起こし、産卵された河床材を採取、駆除を実施した。



人工産卵床



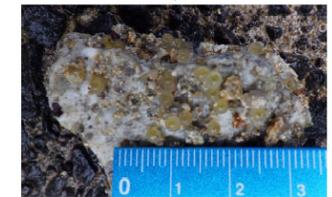
人工産卵床の設置



人工産卵床に産み付けられた卵



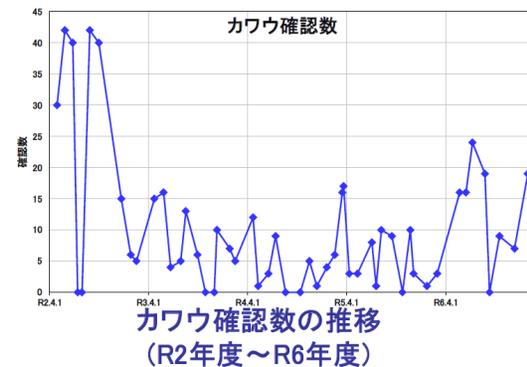
コクチバス産卵床の撒き起こし



浅瀬の河床材に産み付けられた卵

カワウの生息・営巣状況の監視

- ・岩屋ダム貯水池では、馬瀬大橋付近で確認されていた、ねぐら・集団営巣地ともに放棄されたが、馬瀬川大橋上流の馬瀬川でねぐらや営巣地が移動した。
- ・また、移動したねぐら・営巣地は令和3年以降使用された形跡がなく、カワウはダム湖から別の場所に移動した可能性が高いと考えられる。
- ・今後もカワウの個体数を確認するとともに、再営巣や新たなねぐら・営巣地の形成の有無について観測を継続する。

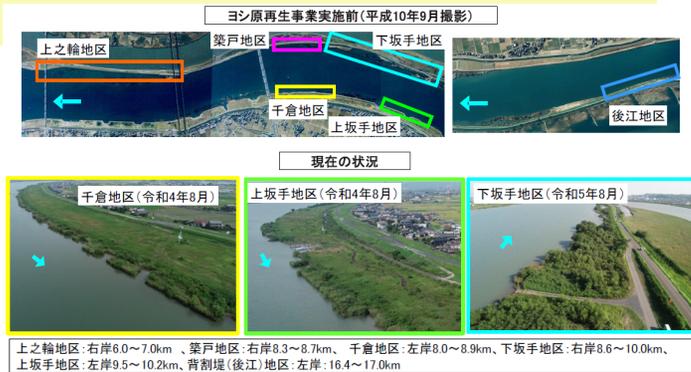


7. 生物

(4) 環境保全対策の実施状況 長良川河口堰

ヨシ原再生事業

ヨシ原再生の目的: 平成10年度より、洪水対策のためのしゅんせつや高水敷・低水護岸整備等で減少したヨシ原再生に取り組んでいる。



- 護岸前面に盛土、土のう、捨石、粗朶沈床、消波工(木柵)等によりヨシ等の抽水植物が生育可能な植生基盤を造成した。
- ヨシ原は造成後概ね順調な生育がみられたが、ヤナギ類等の侵入が確認されており、上之輪地区ではヨシ原が減少傾向にある。

地点	短期		中長期	経年変化
	施工後1年目	3年目	8年目~	
	【平成15年】 	【平成17年】 	【令和3年(施工後19年目)】 	<ul style="list-style-type: none"> 平成10~14年度に施工。 短期2年からヨシの被度が減少し、ヤナギ類の侵入がみられる。 短期2年以降、オオヨシキリやカヤネズミが継続して確認されている。 ヨシの被度等は、R3でH28と同等程度であり、場の形成状況に変化がない。
	【平成21年】 	【平成23年】 	【令和3年(施工後13年目)】 	<ul style="list-style-type: none"> 平成20年度に施工。 ヨシの被度は、中長期で増加がみられる。 ヤナギ類や外来種が侵入している。 短期3年以降、継続してオオヨシキリやカヤネズミが確認されている。 ヨシの被度等は、R3でH28と同等程度であり、場の形成状況に変化がない。

- 千倉地区ではヨシの生育は良好であり、被度・密度も高い状態であるが、下坂手地区では被度が減少する傾向がみられている。
- オオヨシキリは継続して確認されている。

地点	短期		中長期	経年変化
	施工後1年目	3年目	8年目~	
	【平成22年】 	【平成24年】 	【令和4年(施工後13年目)】 	<ul style="list-style-type: none"> 平成20~21年度に施工。 被度、密度は高く、ヨシ原が形成されている。 オオヨシキリは継続して確認されているが、カヤネズミは中長期では確認されていない。
	【平成16年】 	【平成18年】 	【令和5年(施工後20年目)】 	<ul style="list-style-type: none"> 平成15年度、平成21年度に施工。 ヨシの被度は、15年目(平成30年)以降減少がみられる。 カヤネズミやオオヨシキリは継続して確認されている。

- ヤナギ類などの侵入が確認されており、上坂手地区では、ヨシ原の被度が減少している。
- 短期調査ではオオヨシキリが確認されている。

地点	短期		中長期	経年変化
	施工後1年目	2~3年目	8年目~	
	【平成22年】 	【平成24年(施工後3年目)】 	【令和4年(施工後13年目)】 	<ul style="list-style-type: none"> 平成20年度に施工。 短期と比較し、ヨシの被度は減少がみられている。 短期に一度カヤネズミ、オオヨシキリが確認されて以降、中長期では確認されていない。
	【平成30年】 	【令和2年(施工後3年目)】 	-	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度、平成29年度に施工。 造成直後からヨシの被度が増加しており、再生箇所の大半でヨシの単一群落が形成されている。 短期2.3年調査で、オオヨシキリの飛翔が確認された。

8. 水源地域動態 (1) ダム湖利用状況

ダム湖利用状況①

ダム名	利用形態	令和6年度(最新の調査結果)の利用状況
長島ダム	スポーツ 釣り ボート 散策 野外活動 施設利用 その他	年間利用者数は8.5万人と推計され、利用形態別の利用状況は、「散策」が最も多く63.0%、次いで「野外活動」が16.6%であった。 利用場所は湖畔の利用が最も多く、60.6%であった。
美和ダム	スポーツ 釣り ボート 散策 野外活動 施設利用 その他	年間利用者数は1.9万人と推計され、利用形態別の利用状況は、「スポーツ」が最も多く58.9%、次いで「散策」が26.5%であった。 利用場所は湖畔の利用が最も多く、70.0%であった。
小渋ダム	スポーツ 釣り ボート 散策 野外活動 施設利用 その他	年間利用者数は1.5万人と推計され、利用形態別の利用状況は、「施設利用」が最も多く48.4%、次いで「散策」が21.3%であった。 利用場所は湖畔の利用が最も多く、63.8%であった。
新豊根ダム	スポーツ 釣り ボート 散策 野外活動 施設利用 その他	年間利用者数は8.9千人と推計され、利用形態別の利用状況は、「散策」が最も多く72.7%、次いで「スポーツ」が9.7%であった。 利用場所は湖畔の利用が最も多く、79.4%であった。
寒狭川堰	該当なし	該当なし
矢作ダム	令和7年度実施予定	令和7年度実施予定
小里川ダム	スポーツ 釣り ボート 散策 野外活動 施設利用 その他	年間利用者数は9.8万人と推計され、利用形態別の利用状況は、「散策」が最も多く80.0%、次いで「施設利用」が16.5%であった。 利用場所はダムの利用が最も多く、97.1%であった。
丸山ダム	スポーツ 釣り ボート 散策 野外活動 施設利用 その他	年間利用者数は5.6万人と推計され、利用形態別の利用状況は、「その他」が最も多く45.7%、次いで「散策」が41.5%であった。 利用場所は湖畔の利用が最も多く、43.8%であった。

8. 水源地域動態 (1) ダム湖利用状況

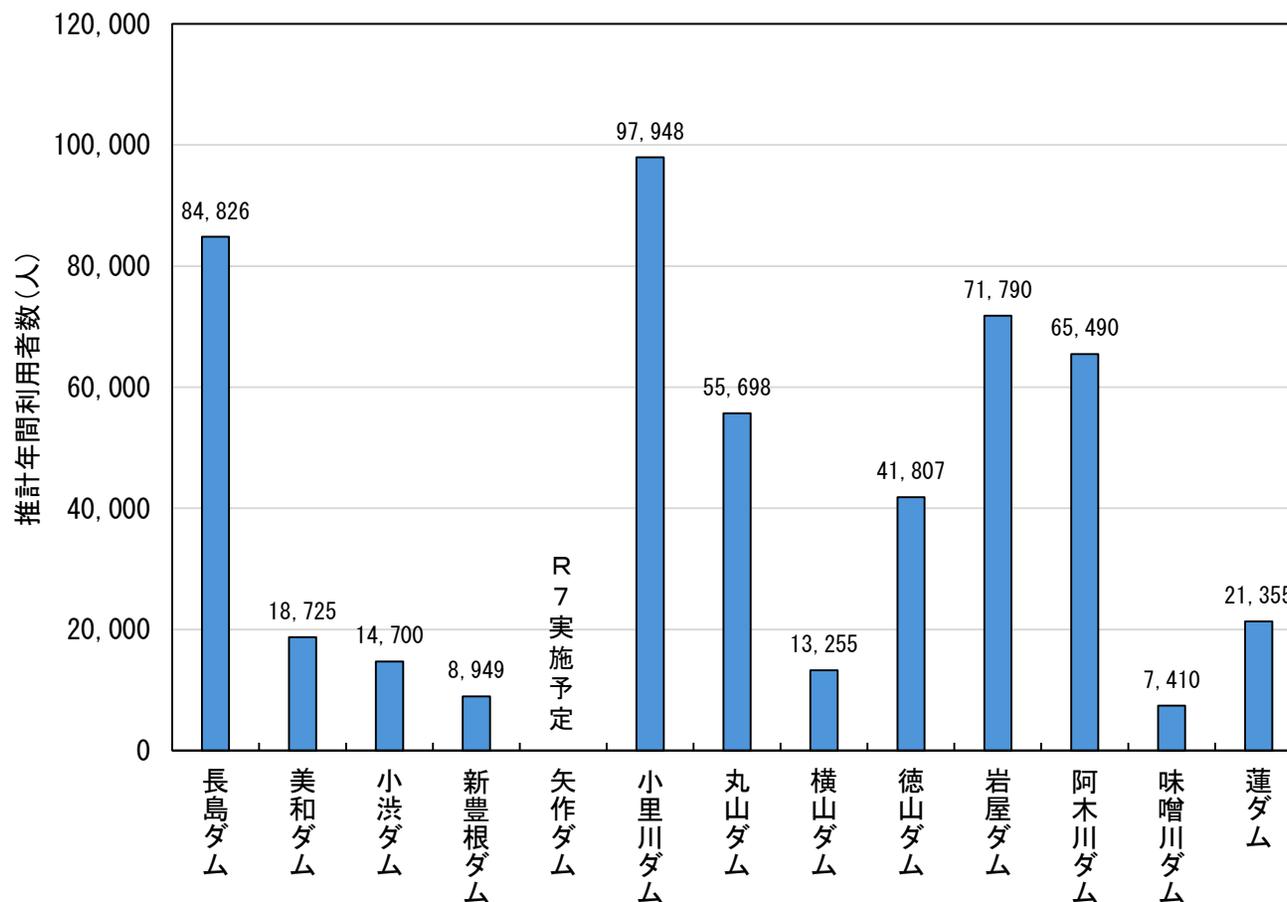
ダム湖利用状況②

ダム名	利用形態	令和6年度(最新の調査結果)の利用状況
横山ダム	スポーツ 釣り ボート 散策 野外活動 施設利用 その他	年間利用者数は1.3万人と推計され、利用形態別の利用状況は、「散策」が最も多く62.0%、次いで「野外活動」が17.1%であった。 利用場所は湖畔の利用が最も多く、83.7%であった。
徳山ダム	スポーツ 釣り ボート 散策 野外活動 施設利用 その他	年間利用者数は4.2万人と推計され、利用形態別の利用状況は、「散策」が最も多く76.1%、次いで「施設利用」が15.1%であった。 利用場所は湖畔の利用が最も多く、53.1%であった。
岩屋ダム	スポーツ 釣り ボート 散策 野外活動 施設利用 その他	年間利用者数は7.2万人と推計され、利用形態別の利用状況は、「散策」が最も多く50.4%、次いで「野外活動」が14.0%であった。 利用場所は湖畔の利用が最も多く、74.0%であった。
阿木川ダム	スポーツ 釣り ボート 散策 野外活動 施設利用 その他	年間利用者数は6.5万人と推計され、利用形態別の利用状況は、「散策」が最も多く31.1%、次いで「施設利用」が31.1%であった。 利用場所は湖畔の利用が最も多く、77.9%であった。
長良川河口堰	該当なし	該当なし
味噌川ダム	スポーツ 釣り ボート 散策 野外活動 施設利用 その他	年間利用者数は0.7万人と推計され、利用形態別の利用状況は、「散策」が最も多く37.0%、次いで「スポーツ」が35.1%であった。 利用場所は湖畔の利用が最も多く、53.5%であった。
蓮ダム	スポーツ 釣り ボート 散策 野外活動 施設利用 その他	年間利用者数は2.1万人と推計され、利用形態別の利用状況は、「散策」が最も多く39.6%、次いで「野外活動」が27.6%であった。 利用場所は湖畔の利用が最も多く、60.5%であった。

8. 水源地域動態 (1) ダム湖利用状況

- ・ダム湖での利用実態調査に関して、最新年度の結果を記載。
- ・令和6年度は小里川ダムの利用者数が最も多い結果となった。

ダム湖利用状況③



推計年間利用者数 (令和6年度)

※最新調査年度の令和6年度の河川水辺の国勢調査(ダム湖利用実態調査)を使用

8. 水源地域動態

(2) 水源地域ビジョン

水源地域ビジョンの策定と令和6年度の推進状況等①

ダム名	策定年度	策定・推進のキーワード	令和6年度の主なイベント実施状況
長島ダム	平成16年3月	◎取り組みの方向性: 流域の交流・連携の促進 水源地域のネットワーク強化	<ul style="list-style-type: none"> ・長島ダム見学アー ・湖面巡視体験 ・アドベンチャーウォーク、展示会 ・管理所X(旧Twitter)、管理所Instagramによる情報発信 ・YouTubeによる長島ダムの紹介
美和ダム	平成15年度	<ol style="list-style-type: none"> ① 南アルプスの山々、三峰川、美和湖・高遠湖の自然環境を保全し、活用します。 ② 山村文化を地域内で育て楽しむとともに、他地域の人々との交流を促進します。 ③ 暮らしや生業を活性化し、いきいきとした水源地域とします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美和ダム体感DAY ・秋のダム見学ツアー ・管理事務所X(旧Twitter)による情報発信
小渋ダム	平成17年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小渋川流域住民、関係行政機関の連携(流域内の協働と連携) 2. 小渋川の水を軸とした地域間交流の促進(流域外との交流促進) 3. 小渋川流域の産業の振興と育成(第一次産業を基盤とした産業振興) 4. 自然環境・文化環境の活用(自然・歴史文化とのふれあい) 5. 地域との連携を促進するための環境整備(地域の魅力の基盤となる自然環境の保全と整備/地域の総合的な情報発信) 	<ul style="list-style-type: none"> ・森と湖に親しむ旬間イベント 小渋ダム解放DAY ・「紅葉&ダム絶景の秋」秋のダム見学ツアー ・ダム堤体の夜間特別解放 ・小渋ダムライトアップ ・管理事務所X(旧Twitter)による情報発信
新豊根ダム	平成18年3月	◎ビジョンの基本方針 「情報」 「自然環境」 「人材育成」 「観光交流」	<ul style="list-style-type: none"> ・一日ダム大学 ・ダム一般公開(森と湖に親しむ旬間) ・第16回2024 とよね・みどり湖ハーフマラソン
寒狭川堰	該当無し	該当無し	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の実施なし

8. 水源地域動態

(2) 水源地域ビジョン

水源地域ビジョンの策定と令和6年度の推進状況等②

ダム名	策定年度	策定・推進のキーワード	令和6年度の主なイベント実施状況
矢作ダム	平成17年度	<p>◎基本理念五ヶ条</p> <ul style="list-style-type: none"> 一. わごころの交流を楽しみ、矢作ダム水源地域の活性化を図る。 一. 地域の歴史文化と伝統を誇りとする。 一. 豊かな森林資源と清流・矢作川を誇りとする。 一. 人を慈しみ、自然を慈しむ、やすらぎの郷を誇りとする。 一. 山の幸、水の幸に恵まれたふるさとを誇りとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・矢作ダム放流見学会 & ダムナイト
小里川ダム	平成15年度	<p>◎ビジョンの推進手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ダム事業の影響・効果に関する情報を提供し、 ②それを踏まえた地域振興方策を地域住民自らが考える為の支援を行い、 ③多くの地域住民の参加の下、地域の将来像を描き ④下流域住民の協力を得て実効性のある取組みを具現化させることにより、 ⑤地域振興への地域住民の主体的な行動を喚起し、 ⑥様々な地域振興に向けた動きを可能な限り支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダム見学会 ・夏休み体験イベント ・湖周ウォーキング
丸山ダム	平成18年度	<p>◎ビジョンの実現方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. まちのにぎわいづくり 2. 川・ダムを活かした魅力づくり 3. 交流ネットワークづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダム見学ツアー ・日本酒の貯蔵を令和3年12月から開始、「丸山ダム貯蔵酒」の開発
横山ダム	平成15年度	<p>◎ビジョンのテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 緑豊かな自然に学ぶ奥いび(自然資源の活用を軸に展開) ② 揖斐川の流れる育む奥いび(揖斐川を軸に上下流交流について展開) ③ 地場産業と歴史文化が創る魅力の奥いび(地域性を軸に振興策について展開) 	<ul style="list-style-type: none"> ・森と湖に親しむ旬間(横山ダム内自由散策、横山発電所内見学、ダムカード配布、建設当時のビデオ放映) ・60周年(横山ダム内自由散策、端っこ見学ツアー、横山発電所内見学、ダムカード配布) ・ダム見学

8. 水源地域動態

(2) 水源地域ビジョン

<120>

水源地域ビジョンの策定と令和6年度の推進状況等③

ダム名	策定年度	策定・推進のキーワード	令和6年度の主なイベント実施状況
徳山ダム	平成18年度	<ul style="list-style-type: none"> ★揖斐の防人・中部の水瓶としての上流域環境を、みんなで守り育てる ★自然の叡智や風土など水源地域そのものを「水と森の自然博物館」として、学び、やすらぐ ★流域ぐるみで協働し、流域文化の創造と展開を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダム見学 ・苗木のホームステイ、実のなる木を植える植樹活動
岩屋ダム	平成14年度 (平成15年3月)	岩屋ダムの活用 観光機能の強化 環境の保全 地域参加・交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・施設見学会、環境体験学習会(岩屋ダム公開点検放流、東仙峡金山湖カヤックツアー等)
阿木川ダム	平成16年度	I 地域環境の保全と向上 II 地域観光の活性化 III 阿木川ダムの有効利用 IV 地域産業の振興 V 地域や阿木川ダムのPR推進	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境保全事業(釣り糸・針回収) ・オータムフェスティバルIN阿木川ダム(堤体内見学会、地元物産ブース展開) ・メモリアルマーチ(阿木川湖周辺のハイキング)
長良川河口堰	該当無し	該当無し	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の実施なし
味噌川ダム	平成13年度	◎ ビジョンの基本方針 『～先ずは～ 地域を知り、地域に誇りを持つ。』 『～次に～ 地域資源を活かし、地域経済の活性化を図ろう。』	<ul style="list-style-type: none"> ・マラソン大会、自転車ロードレース大会、上下流交流・施設見学等(6件)、陸上競技練習
蓮ダム	平成15年3月	◎ ビジョンの取り組み ・ダム周辺のハード整備・ソフト対策 ・水を軸とした地域間交流 ・地場産業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイキング、花見のイベント(春の山あるき～シロヤシオ咲く三峰山を歩こう～) ・自然体験交流会(炭焼窯見学、ダム見学等) ・ダムの仕組みや役割を紹介するイベント(もりみず旬間in蓮2024～1日ダム探検～) ・水の作文コンクール国土交通大臣賞受賞者が一日管理所長を体験(国土交通大臣賞受賞の中学生が1日ダム管理所長に！) ・蓮ダム公式YouTubeチャンネルにて、「蓮ダム堤体の設備」を公開。

8. 水源地域動態 (2) 水源地域ビジョン

主なイベントの実施状況 (令和6年度)



秋のダム見学ツアー(小渋ダム)



夏休み体験イベント(小里川ダム)



一日ダム大学(新豊根ダム)



ダム堤体内見学(横山ダム)



美和ダム体感DAY(美和ダム)



もりみず旬間in蓮2024~1日ダム探検~(蓮ダム)

8. 水源地域動態

(2) 水源地域ビジョン^{<122>}

ダムカード



長島ダム



美和ダム



小渋ダム



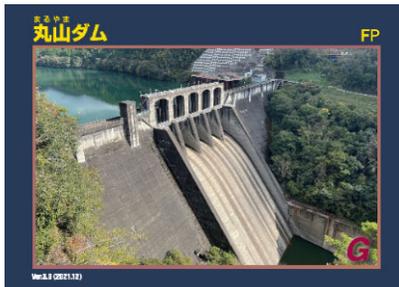
新豊根ダム



寒狭川堰



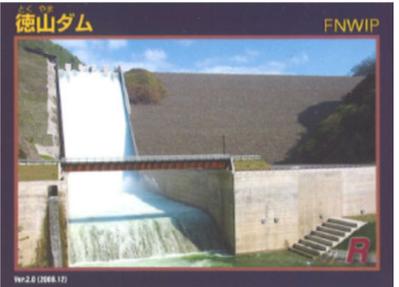
小里川ダム



丸山ダム



横山ダム



徳山ダム



岩屋ダム



矢作ダム



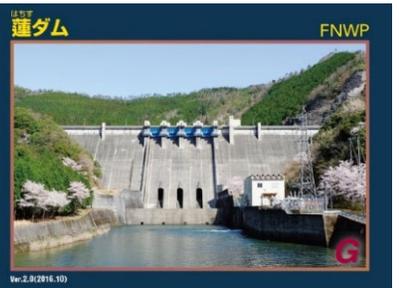
阿木川ダム



長良川河口堰



味噌川ダム

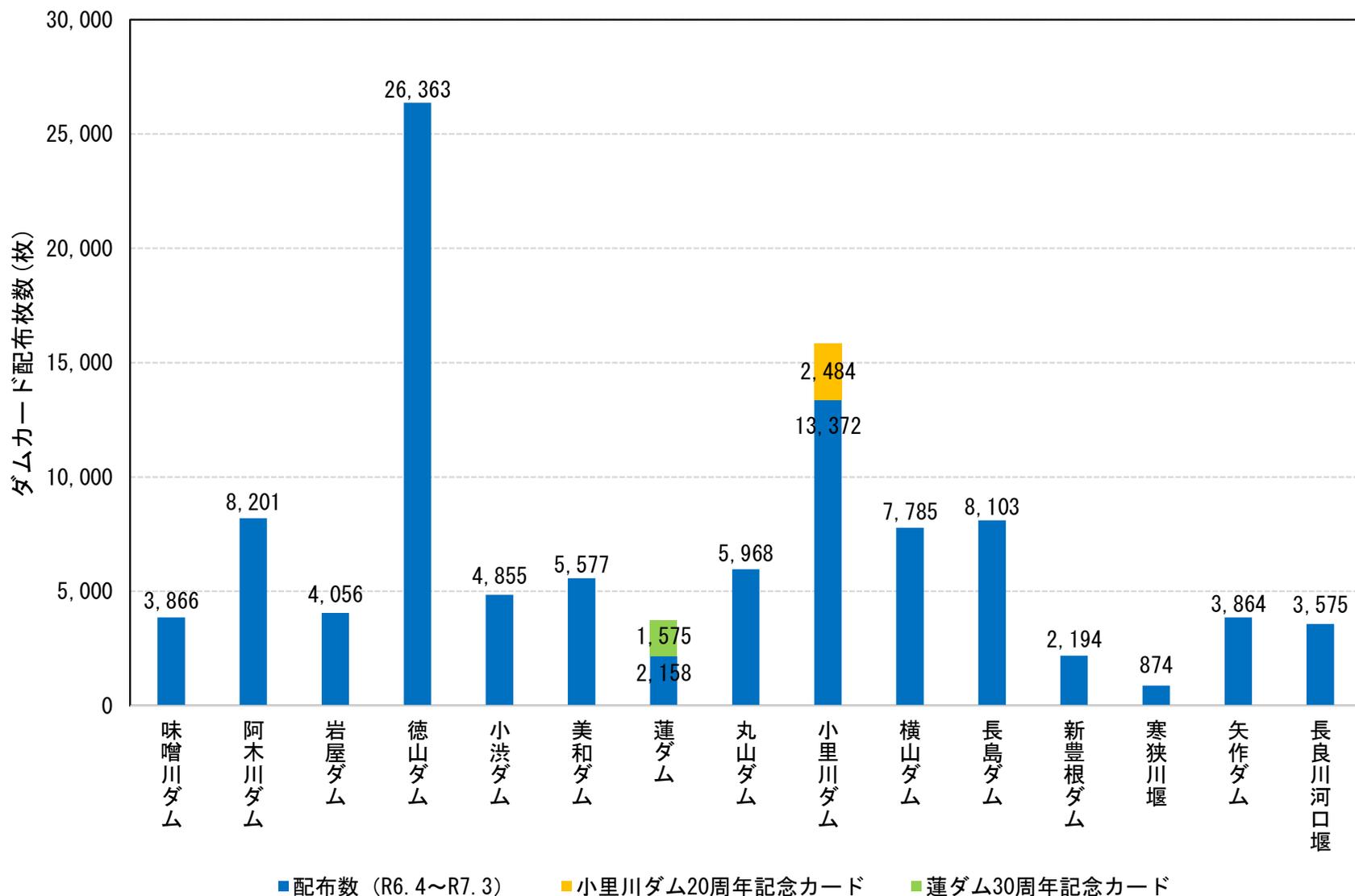


蓮ダム

※ダムカード：ダムの写真や形式等の情報が記載され、ダム管理所で無料配布されている、縦6.3cm×横8.8cmのカード

8. 水源地域動態

(2) 水源地域ビジョン



ダムカード配布枚数 (令和6年度)

8. 水源地域動態

(2) 水源地域ビジョン

- 国土交通省中部地方整備局と独立行政法人水資源機構中部支社で管理するダムが連携し、流域治水の要である治水ダム等の役割について、広く一般の方々への理解を深める取り組みの一環として、御朱印を模した「ダム印」の配布を令和6年4月1日より開始した。

ダム印(表)



ダム印(裏)

1級河川本曾川の支流である阿木川に建設された水資源機構が管理するダムで、洪水調節・河川環境維持・新規利水の供給を目的とした多目的のダムです。平成3年4月に管理を開始した阿木川ダムは、30余年にわたりダム下流にある恵那市街地の安全・安心を支えています。

所在地	岐阜県恵那市市野野	堤高・堤頂高	101.5m・262m
河川名	本曾川(水系阿木川)	総貯水容量	4,800万m ³
型式	ロックフィルダム	管理者	水資源機構
ゲート	ボックスゲート4型式フランチート×2門 扉吊り式ラジアルゲート×2門 開閉式高圧フリットゲート×1門	本体竣工	1981年
		完成年	1990年



8. 水源地域動態

(2) 水源地域ビジョン

<125>

・ダム貯蔵酒とダム・水源地域PRイベントが矢作ダム、小里川ダム、丸山ダム、阿木川ダムで10月12日及び10月13日に開催された。

日時：令和6年10月12日（土）11：00～18：00

令和6年10月13日（日）11：00～17：00

場所：Hisaya-odori Parkテレビトーヒロバ

【主催】ダム貯蔵酒サミット実行委員会

【後援】中津川市、瑞浪市、恵那市、八百津町、名古屋国税局

【協力】国土交通省中部地方整備局・矢作ダム管理所・木曾川水系ダム統合管理事務所丸山ダム管理支所

新丸山ダム工事事務所・庄内川河川事務所小里川ダム管理支所

独立行政法人水資源機構阿木川ダム管理所



【矢作ダム】
総貯水容量80,000,000m³
放物線アーチ式コンクリートダム
【貯蔵蔵元】 浦野、関谷醸造
豊田酒造、中垣酒造



【小里川ダム】
総貯水容量15,100,000m³
重力式コンクリートダム
【貯蔵蔵元】 中島醸造、若葉



【丸山ダム】
総貯水容量79,520,000m³
直線重力式コンクリートダム
災害からみんなの暮らしを守るため
「新丸山ダム」に生まれ変わります。
【貯蔵蔵元】 花盛酒造、蔵本やまだ



【阿木川ダム】
総貯水容量48,000,000m³
中央土質しゃ水壁型ロックフィルダム
【貯蔵蔵元】 岩村醸造、恵那醸造、
大橋酒造、はざま酒造、山内酒造

